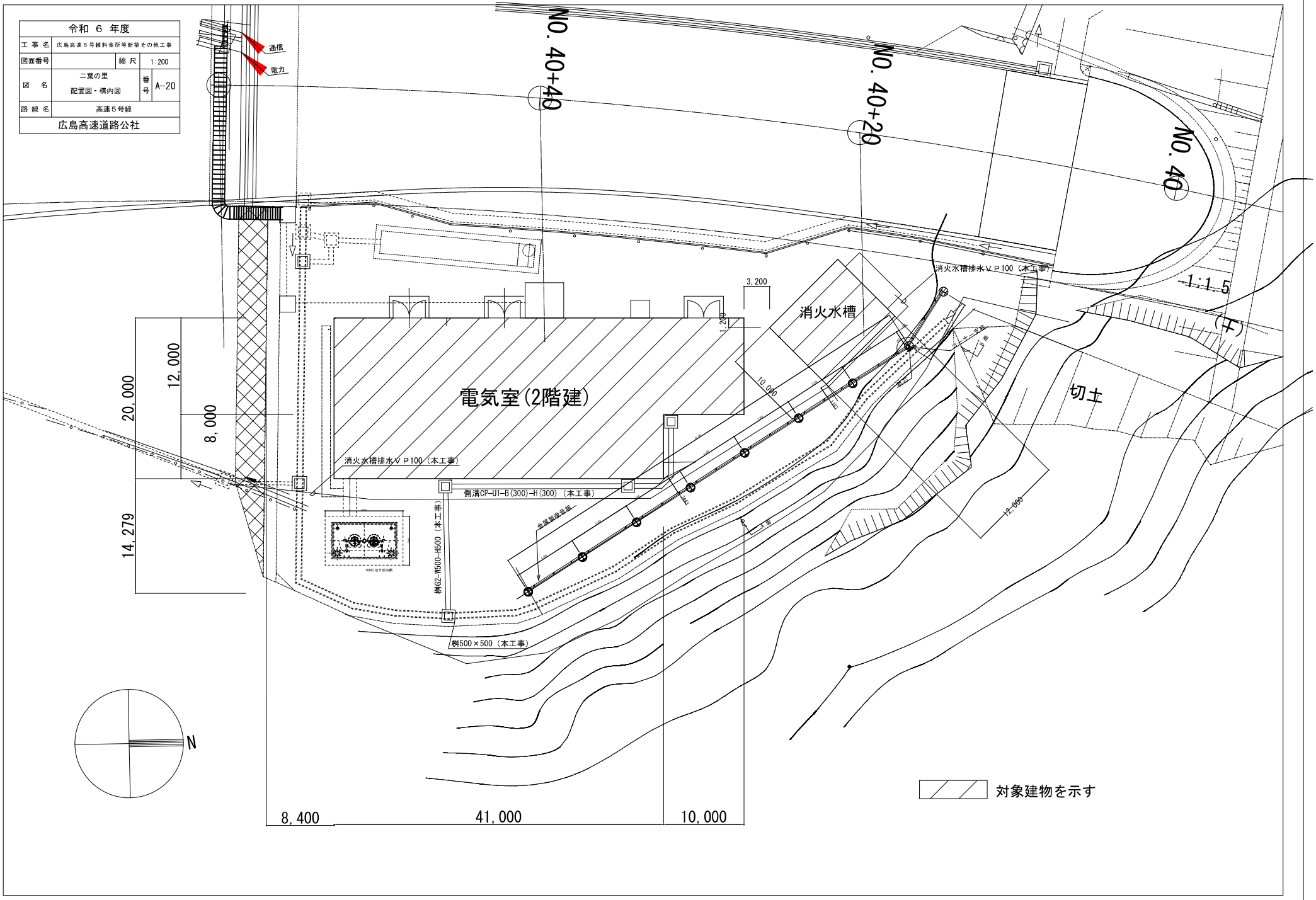
令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1:200
図 名	二葉の里 配置図・構内図	番号	A-20
路 線 名	高速５号線		
広島高速道路公社			



NO.9回答

令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1:100、1:200
図 名	二葉の里電気室 仕上表・平面図・求積図	番号	A-21
路 線 名	高速５号線		
広島高速道路公社			

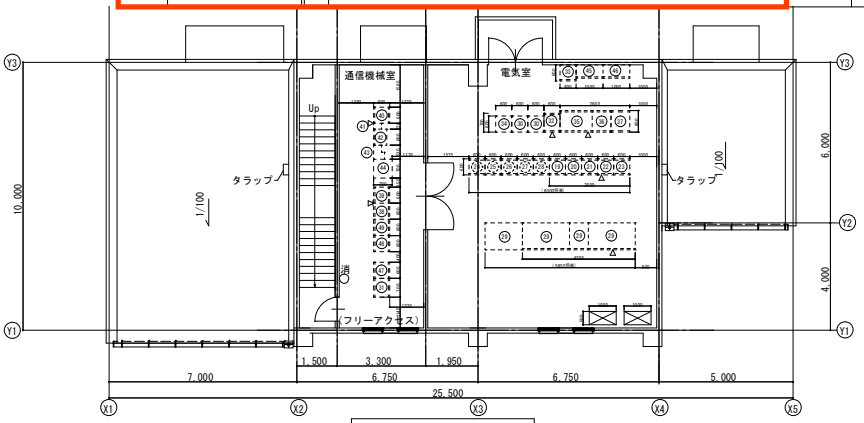
外部仕上表（電気室）

屋 根	コンクリート直均し（水勾配1/100付）の上、屋根保護防水密着断熱工法（AI-1）（断熱材：押出法ポリスチレン保温板3種bスキン層付t=25） 押えコンクリート（溶接金網6φ×100×100敷込み）t=80直均し 成形伸縮目地材W=25
外壁	コンクリート打放し（B種）の上、複層塗材RE（耐候形1種）水性反応硬化形アクリルシリコン樹脂エナメル
根廻り	コンクリート打放し（B種）
建 具	搬入口：鋼製扉（SOP塗装 性能等級：気密性A-3 水密性W-1）
土間（搬入口部）	コンクリート直均し仕上

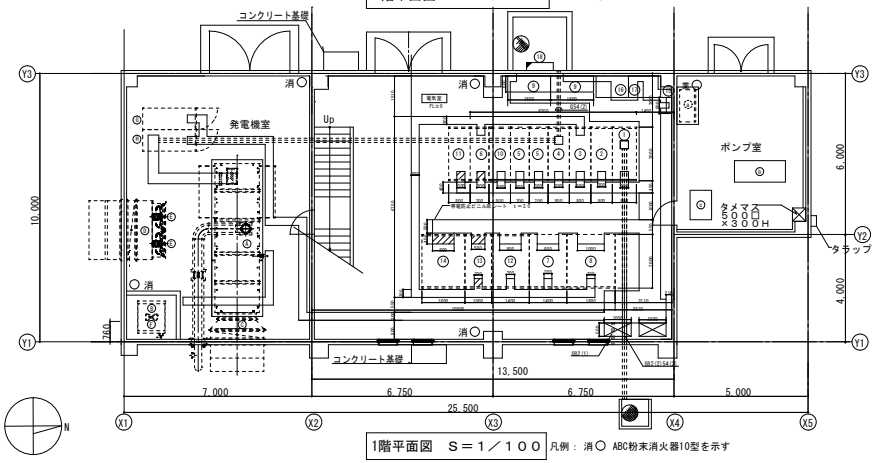
雑	・タラップ：ステンレス製タラップφ22 W=400 （既製品、H.H部） ・屋上点検用タラップ：ステンレス製 W=400（既製品）
	・竪樋：呼称100φカラ-VP（有塗装品） 2ヶ所・鋳鉄製ルーフドレイン：呼称100φ用2ヶ所・オーバーフロー管カラ-VP60φ（有塗装品）
	・ハンドホール：鋳鉄製マンホール蓋600φ簡易密閉型（歩行用）鎖付き
	・コンクリート基礎 ：1300×700×150H

内部仕上表

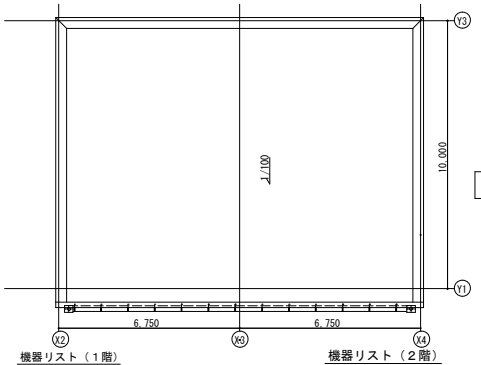
階数	室 名		床	床高(FL)	巾 木	内 壁	外部に面する内壁	天 井	天井高	備 考
1階	電気室	下地	嵩上げコンクリート直均し下地 t＝300（溶接金網6φ×100×100敷込み）	SL+300	――	――	――	――	直 天	・配線用ピット（W=300）
		仕上	帯電防止ビニル床シート t＝2.0		ﾋﾞﾆﾙ巾木 H75	コンクリート打放し EP-G	コンクリート打放し EP-G	コンクリート打放し EP-G		
1階	発電機室	下地	嵩上げコンクリート直均し下地 t＝300（溶接金網6φ×100×100敷込み）	SL+300	――	――	――	――	直 天	・配線用ピット（W=300） ・発電機用基礎（FL+100） ・防油堤(FL+500)
		仕上	合成樹脂塗床仕上（エポキシ樹脂防塵塗装）		――	グラスウールt50ガラスクロスフトン張り	グラスウールt50ガラスクロスフトン張り	グラスウールt50ガラスクロスフトン張り		
1階	ポンプ室	下地	コンクリート直均し下地	±0	――	――	――	――	直 天	
		仕上	合成樹脂塗床仕上（エポキシ樹脂防塵塗装）		――	コンクリート打放し EP-G	コンクリート打放し EP-G	コンクリート打放し EP-G		
2階	電気室	下地	フリーアクセスフロアH=300下地	SL+300	――		――	――	直 天	・配線用ピット（W=300）
		仕上	帯電防止ビニル床ﾀｲﾙ t＝5.0		ﾋﾞﾆﾙ巾木 H75	コンクリート打放し EP-G	コンクリート打放し EP-G	コンクリート打放し EP-G		
2階	通信機械室	下地	フリーアクセスフロアH=300下地	SL+300	――		――	――	直 天	・配線用ピット（W=300）
		仕上	帯電防止ビニル床ﾀｲﾙ t＝5.0		ﾋﾞﾆﾙ巾木 H75	コンクリート打放し EP-G	コンクリート打放し EP-G	コンクリート打放し EP-G		



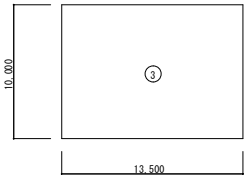
2階平面図 S＝1／100 凡例： 消○ ABC粉末消火器10型を示す



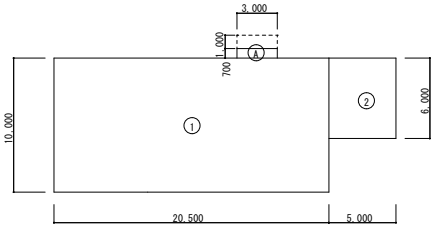
1階平面図 S＝1／100 凡例： 消○ ABC粉末消火器10型を示す



屋根伏図 S＝1／100



2階求積図 S＝1／200



1階求積図 S＝1／200

機器リスト（1階）

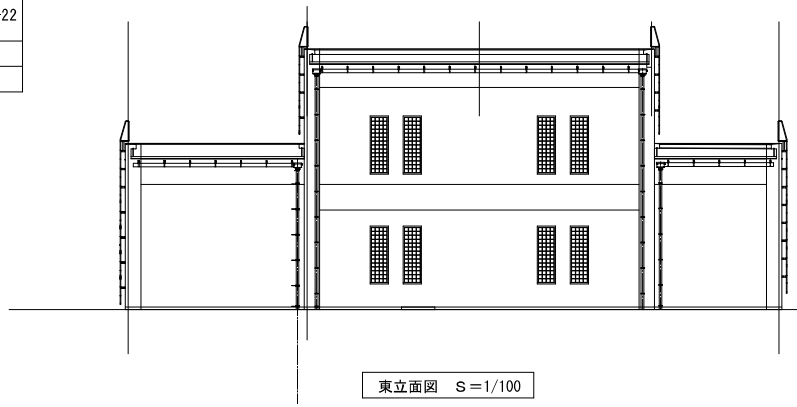
番号	名 称		
1	引込盤		
2	受電盤		
3	照明変圧器一次盤		
4	発電機連絡盤		
5	コンデンサ盤（1），（2）		
6	コンデンサ盤（3）		将 来
7	照明変圧器盤	150kVA	
8	所内変圧器盤	30kVA	
9	保守切換盤		
10	変圧器一次盤		
11	変圧器一次盤		将 来
12	動力変圧器盤	75kVA	
13	照明変圧器盤	30kVA	将 来
14	所内変圧器盤		将 来
15	接地端子盤		
16	保守用変圧器盤200V系	75kVA	
17	保守用変圧器盤100V系	50kVA	
18	保守用接続箱		
A	ディーゼル発電装置 368KVA以上 60Hz 6600V		超低騒音型
B	燃料小出槽		950L
C	排気消音器		
D	給気消音器		
E	給気ファン		
F	燃料移送ポンプ		
G	自動始動盤		
H	発電機盤		
a	消火ポンプ制御盤		
b	消火ポンプ		
c	自動給水装置		

機器リスト（2階）

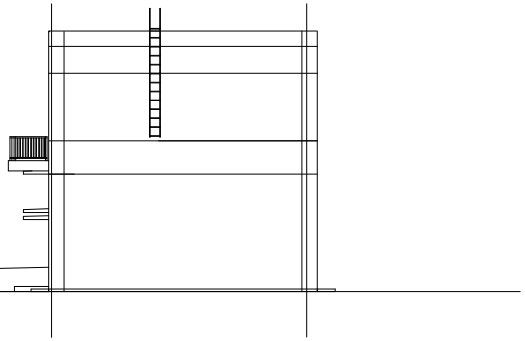
番号	名 称		備 考
19	照明制御盤		
20	照明コントロールセンタ（1）		
21	照明コントロールセンタ（2）		
22	照明コントロールセンタ（3）		
23	照明コントロールセンタ（4）		
24	照明制御盤		将 来
25	照明コントロールセンタ（1）		将 来
26	照明コントロールセンタ（2）		将 来
27	照明コントロールセンタ（3）		将 来
28	照明コントロールセンタ（4）		将 来
29	無停電電源装置	20kVA	将 来：30kVA
30	換気コントロールセンタ		将 来
31	監視制御盤（情報板）		
32	計測盤		
33	洪水警報計測盤		
34	排煙用換気制御盤		将 来
35	防災受信盤		
36	遠制子局		
37	遠制子局		将 来
38	AM送受信架		将 来
39	FM送受信架		将 来
40	警察用無線架		
41	消防用無線架(260MHz帯)		
42	共用器架		
43	管理用無線架		
44	直流電源装置（管理用無線用）		
45	MDF		
46	MDF		
47	通信機器収容架		
48	拡声放送架		
49	拡声放送架		

1階床面積	①	20.5×10＝205	
	②	5.0×6.0＝30	
	①+②	205+30＝235	235.00m2
2階床面積	③	13.5×10＝135	
			135.00m2
延床面積			370.00m2
建築面積	Ⓐ	3.5×0.7＝2.45	
	①+②+Ⓐ	205+30+2.45＝237.45	237.45m2

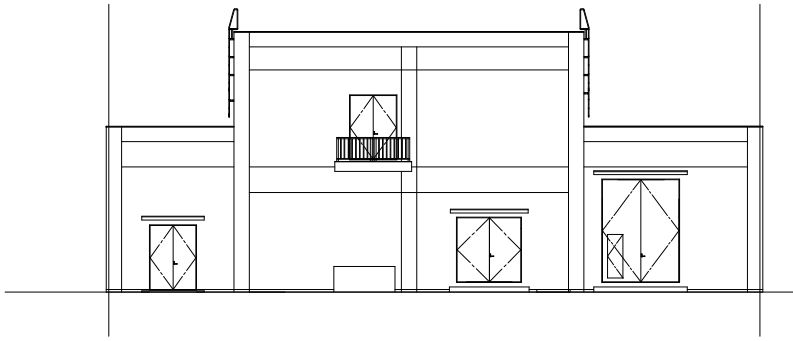
令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	1:100
図名	二葉の里電気室 立面図・断面図	番号	A-22
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			



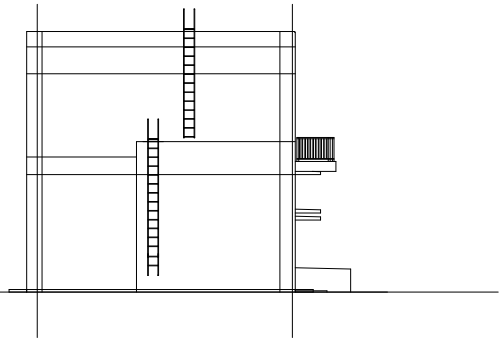
東立面図　S＝1/100



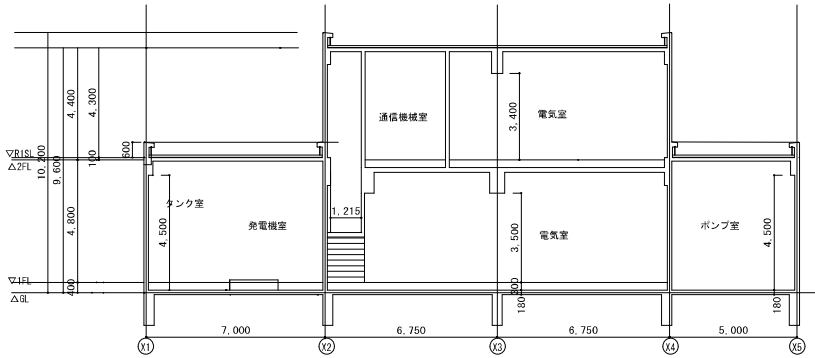
南立面図　S＝1/100



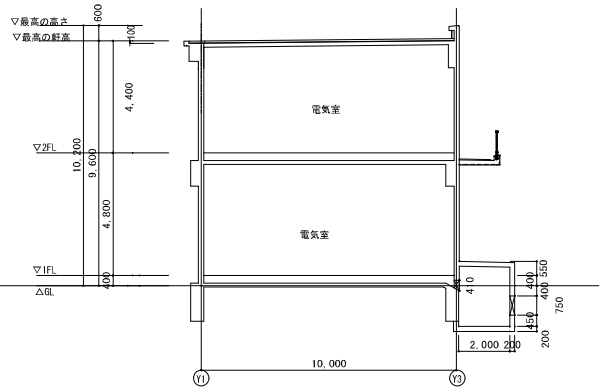
西立面図　S＝1/100



北立面図　S＝1/100



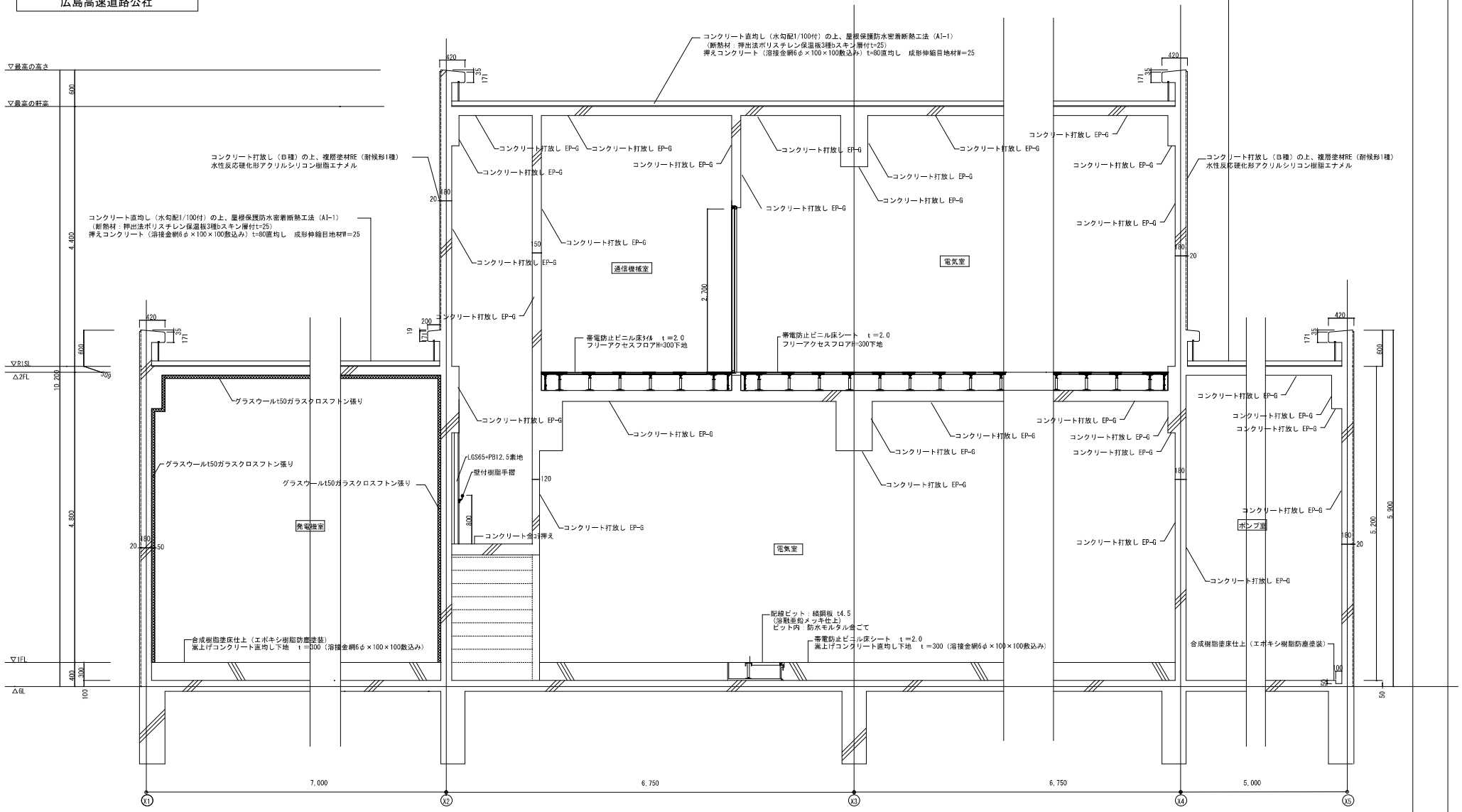
Ａ－Ａ断面図　S＝1/100



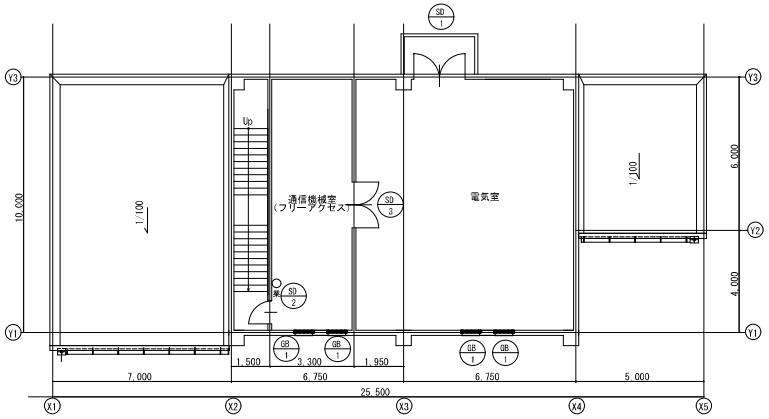
Ｂ－Ｂ断面図　S＝1/100

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	1:30
図名	二葉の里電気室 矩計図	番号	A-23
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

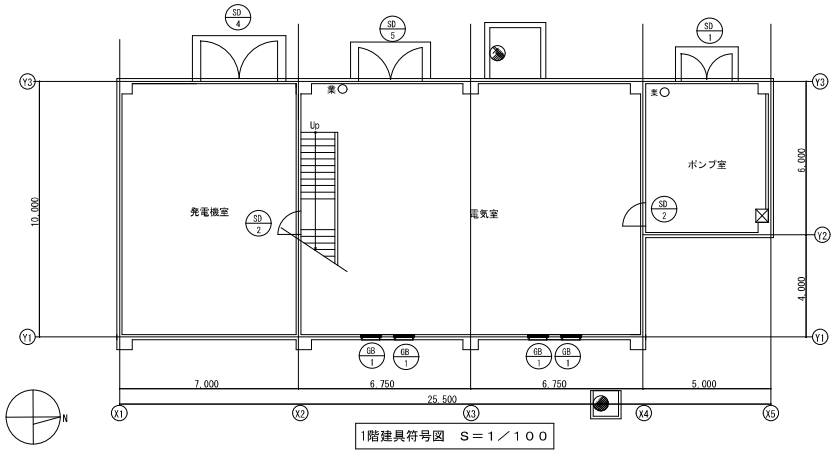
矩計図 S=1/30



令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	1:100
図名	二葉の里電気室 建具符号図・建具表	番号	A-24
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			



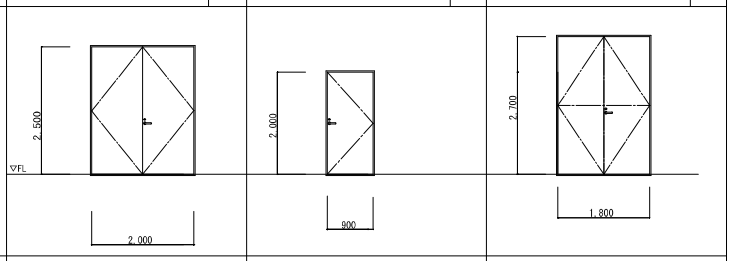
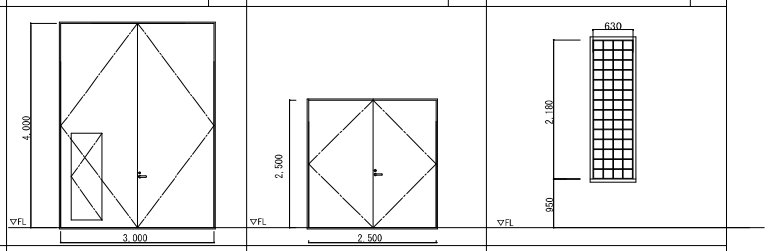
2階建具符号図　S＝1／100



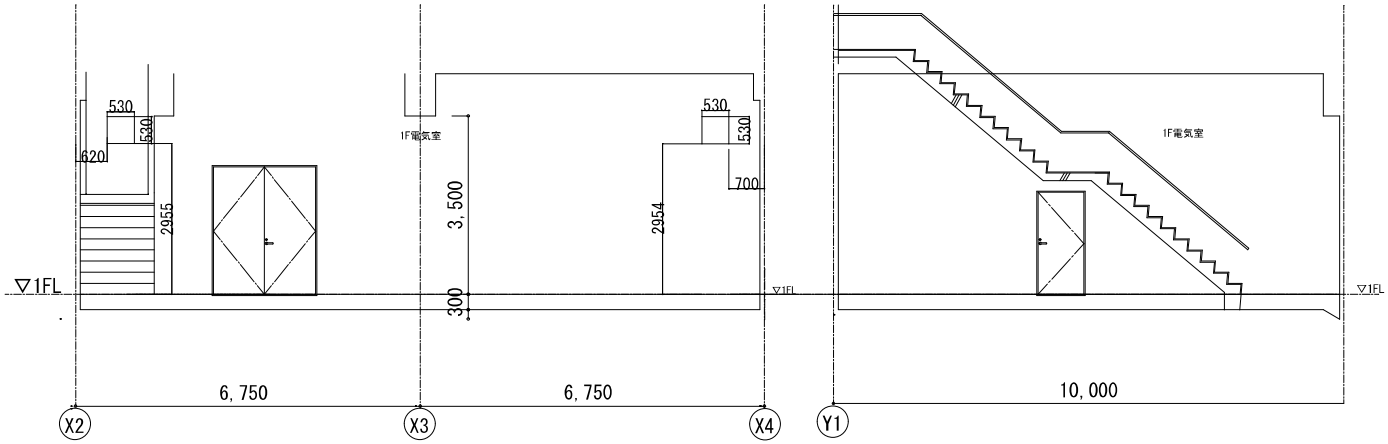
1階建具符号図　S＝1／100

建具表

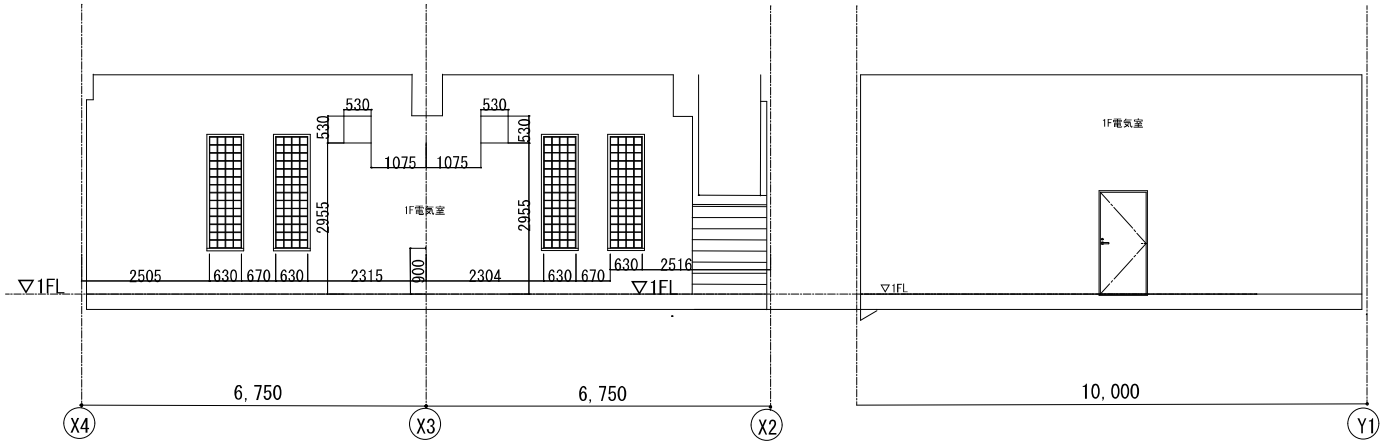
S=1/50

符号名称	SD 1 両開きフラッシュドア		SD 2 片開きフラッシュドア		SD 3 片開きフラッシュドア	
位置個数	電気室・通信機械室	3	電気室・通信機械室	3	電気室・通信機械室	1
形状寸法						
材質	扉:スチール t=1.6　枠:スチール t=2.3		扉:スチールt=1.6　枠:スチール t=2.3		扉:スチールt=1.6　枠:スチール t=2.3	
仕上	SOP塗装		SOP塗装		SOP塗装	
金物	シリンダー本締り錠・レバーハンドル・丁番・戸当り(ﾌｯｸ付) フランス落し・ドアチェック		シリンダー本締り錠・レバーハンドル・丁番 戸当り(ﾌｯｸ付)・ドアチェック		シリンダー本締り錠・レバーハンドル・丁番 戸当り(ﾌｯｸ付)・ドアチェック	
硝子						
見込	枠:100　扉:40		枠:80　扉:40		枠:100　扉:40	
備考	笹摺:SUS304 t=2.0		笹摺:SUS304 t=2.0		笹摺:SUS304 t=2.0	
符号名称	SD 4 両開きフラッシュドア		SD 5 両開きフラッシュドア		GB 1 ガラスブロック窓	
位置個数	発電機室	1	電気室	1	電気室・通信機械室	8
形状寸法						
材質	扉:スチール t=1.6　枠:スチール t=2.3		扉:スチール t=1.6　枠:スチール t=2.3		アルミ	
仕上	SOP塗装		SOP塗装		アルマイト	
金物	シリンダー本締り錠・レバーハンドル・丁番・戸当り(ﾌｯｸ付) フランス落し・ドアチェック		シリンダー本締り錠・レバーハンドル・丁番・戸当り(ﾌｯｸ付) フランス落し・ドアチェック		付属金物１式	
硝子					ガラスブロック145*145*95	
見込	枠:100　扉:40		枠:100　扉:40		枠 100	
備考	笹摺:SUS304 t=2.0		笹摺:SUS304 t=2.0		アルミ額縁	
符号名称						
位置個数						
形状寸法						
材質						
仕上						
金物						
硝子						
見込						
備考						

令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1:50
図 名	二葉の里電気室 1F電気室 展開図	番号	A-25
路 線 名	高速５号線		
広島高速道路公社			

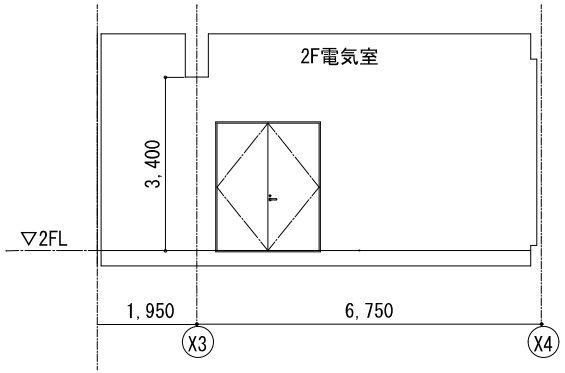


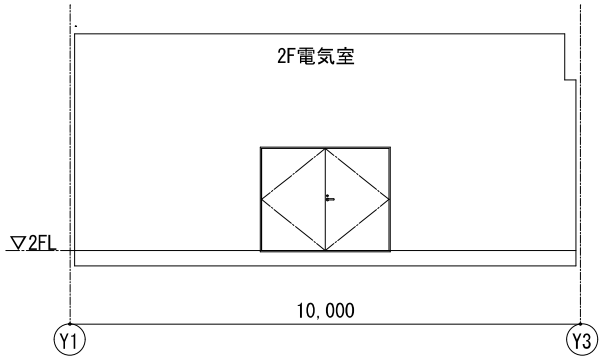
室 名	1F電気室
床	帯電防止ビニル床シート t =2.0
巾 木	ビニル巾木 H=75
壁	コンクリート打放し EP-G
天 井	コンクリート打放し EP-G
備 考	配線ピットW=300
柱 型	コンクリート打放し EP-G

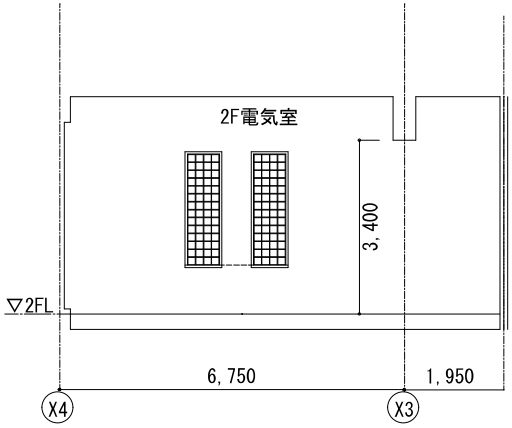


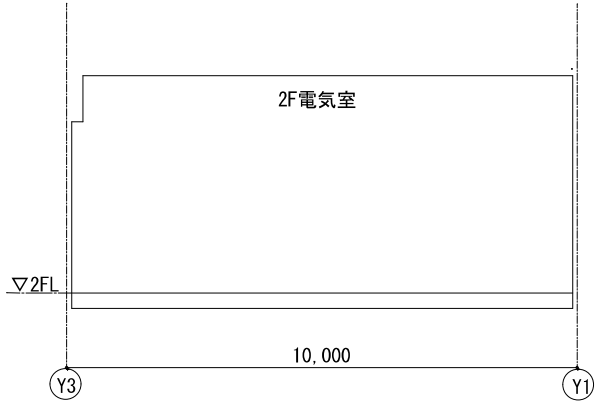
令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1:50
図 名	二葉の里電気室 2F電気室 展開図	番号	A-26
路 線 名	高速５号線		
広島高速道路公社			

室 名	2F電気室
床	帯電防止ビニル床シート t =2.0
巾 木	ビニル巾木 H=75
壁	コンクリート打放し EP-G
天 井	コンクリート打放し EP-G
備 考	配線ピットW=300
柱 型	コンクリート打放し EP-G





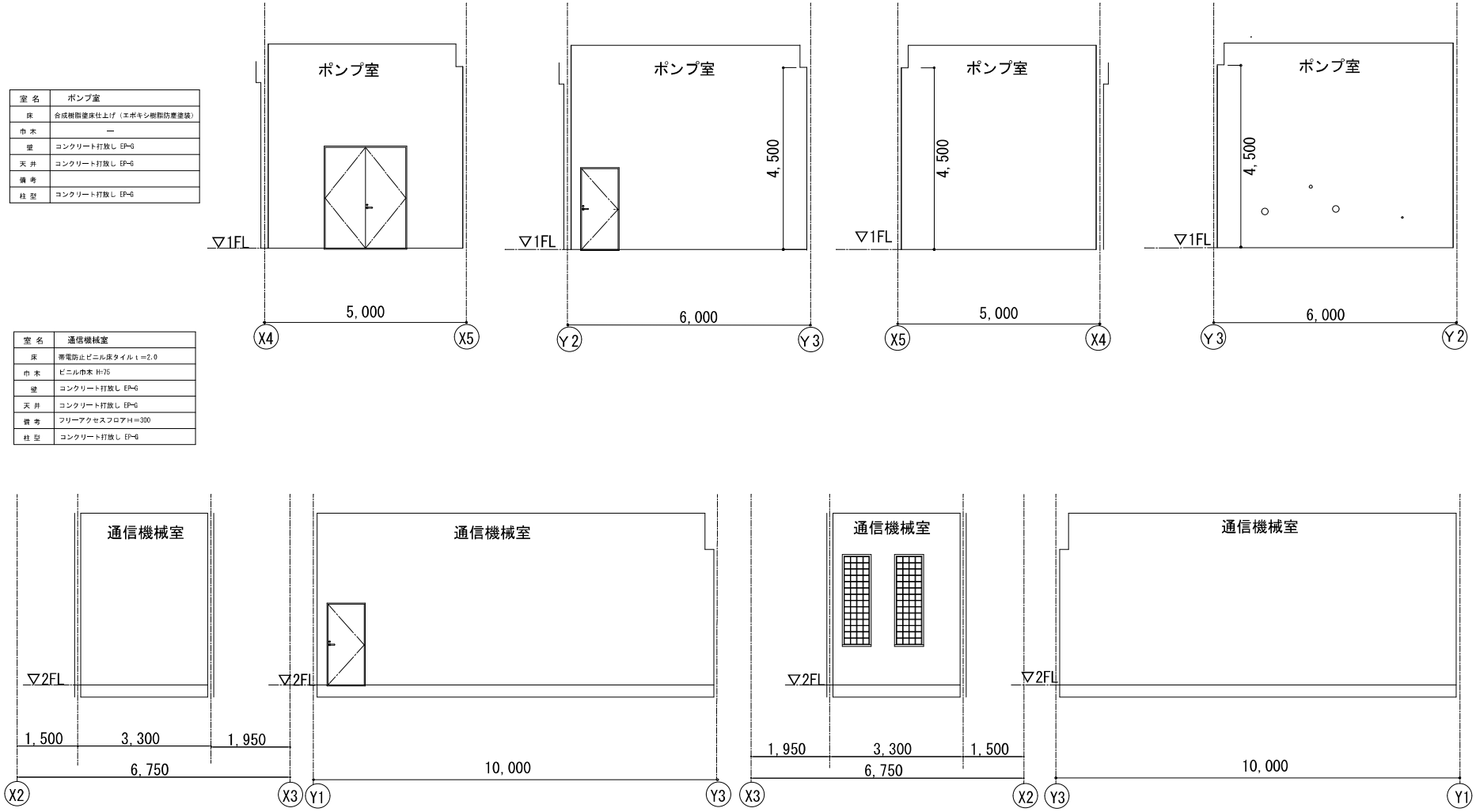




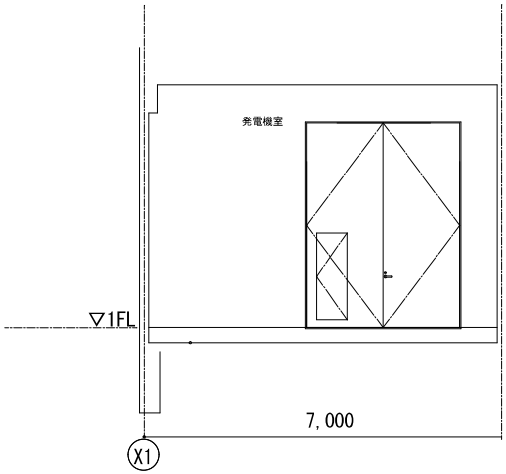
令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1:50
図 名	二葉の里電気室 ポンプ室・通信機械室 展開図	番号	A-27
路 線 名	高速５号線		
広島高速道路公社			

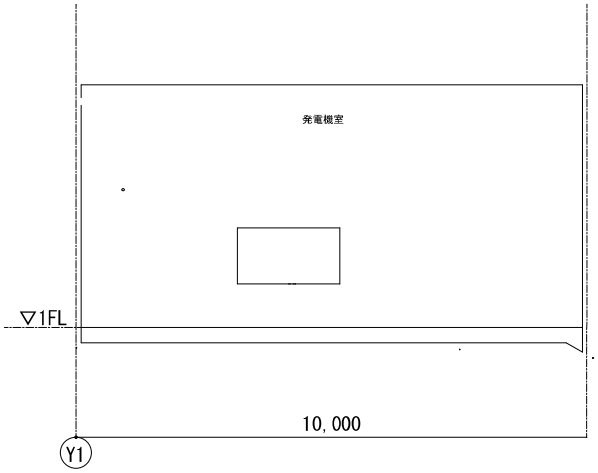
室 名	ポンプ室
床	合成樹脂塗床仕上げ（エポキシ樹脂防塵塗装）
巾 木	―
壁	コンクリート打放し EP-G
天 井	コンクリート打放し EP-G
備 考	
柱 型	コンクリート打放し EP-G

室 名	通信機械室
床	帯電防止ビニル床タイル t＝2.0
巾 木	ビニル巾木 H=75
壁	コンクリート打放し EP-G
天 井	コンクリート打放し EP-G
備 考	フリーアクセスフロアH＝300
柱 型	コンクリート打放し EP-G

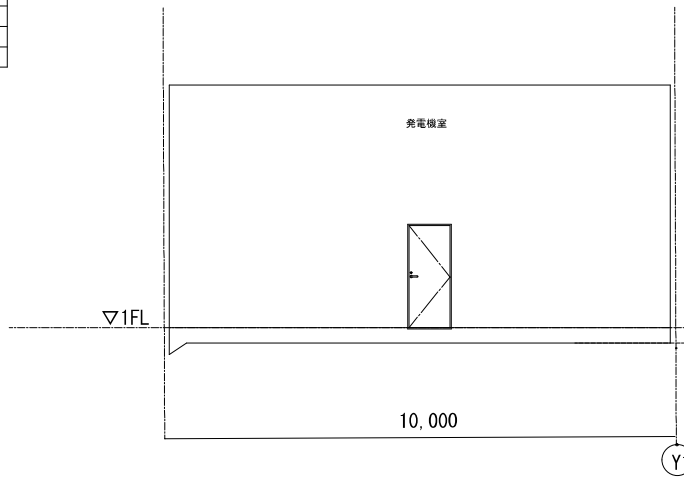


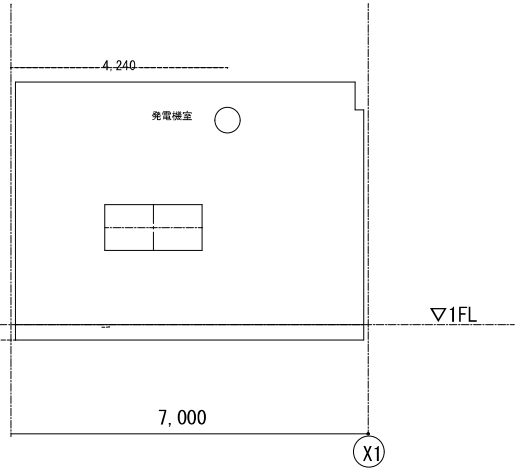
令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1:50
図 名	二葉の里電気室 発電機室 展開図	番号	A-28
路 線 名	高速５号線		
広島高速道路公社			



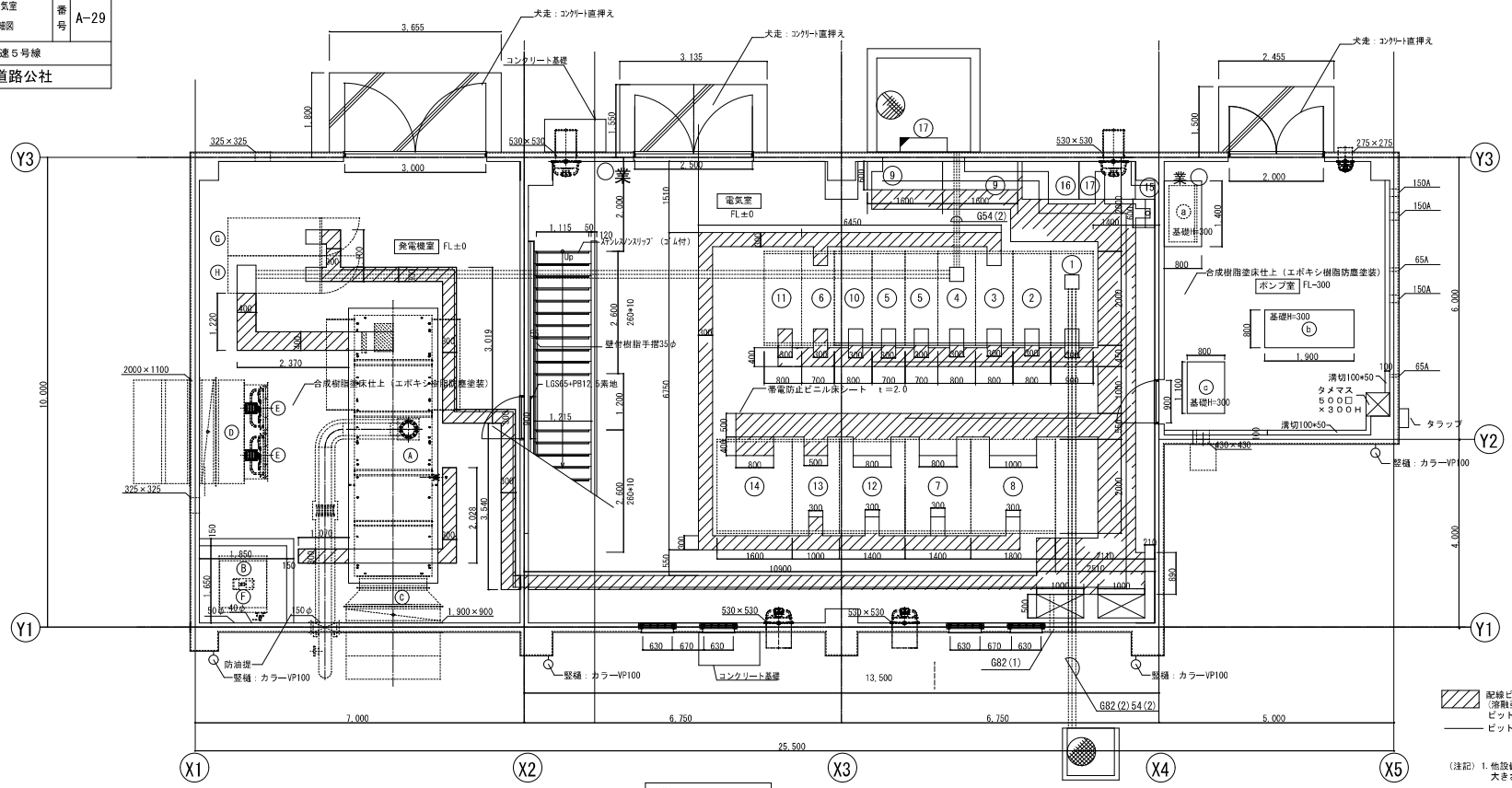


室 名	発電機室
床	合成樹脂塗床仕上げ（エポキシ樹脂防塵塗装）
巾 木	ビニル巾木 H=75
壁	グラスウールt60ガラスクロスフトン張り
天 井	グラスウールt60ガラスクロスフトン張り
備 考	配線ピットW=300、発電機用基礎＋100、防油堤＋500
柱 型	グラスウールt60ガラスクロスフトン張り





令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	1:100
図名	二葉の里電気室 1階平面詳細図	番号	A-29
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			

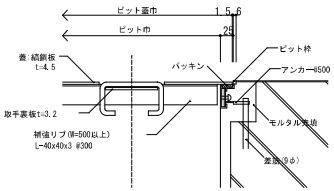


1階平面詳細図 S=1/50

配線ピット蓋：縞鋼板 t4.5（溶融亜鉛メッキ仕上HDZ35）
ピット内：防水モルタル金ごて
ピット内セパレーター

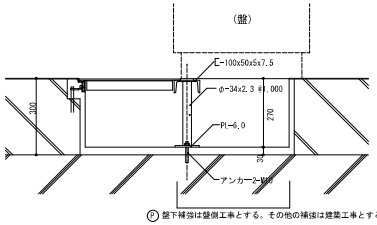
（注記）1.他設備工事業者と調整し、配線ピット蓋の大きさ等を決めること。

配線ピット蓋詳細図 S=1/5



※鉄部は溶融亜鉛メッキ仕上とする。
※枠はメーカー既製品（硬質アルミ枠）とする。

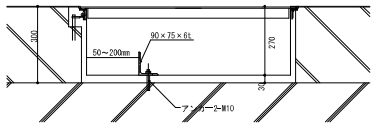
配線ピット盤受支柱詳細図 S=1/10



Ⓟ盤下補強は盤側工事とする。その他の補強は建築工事とする。

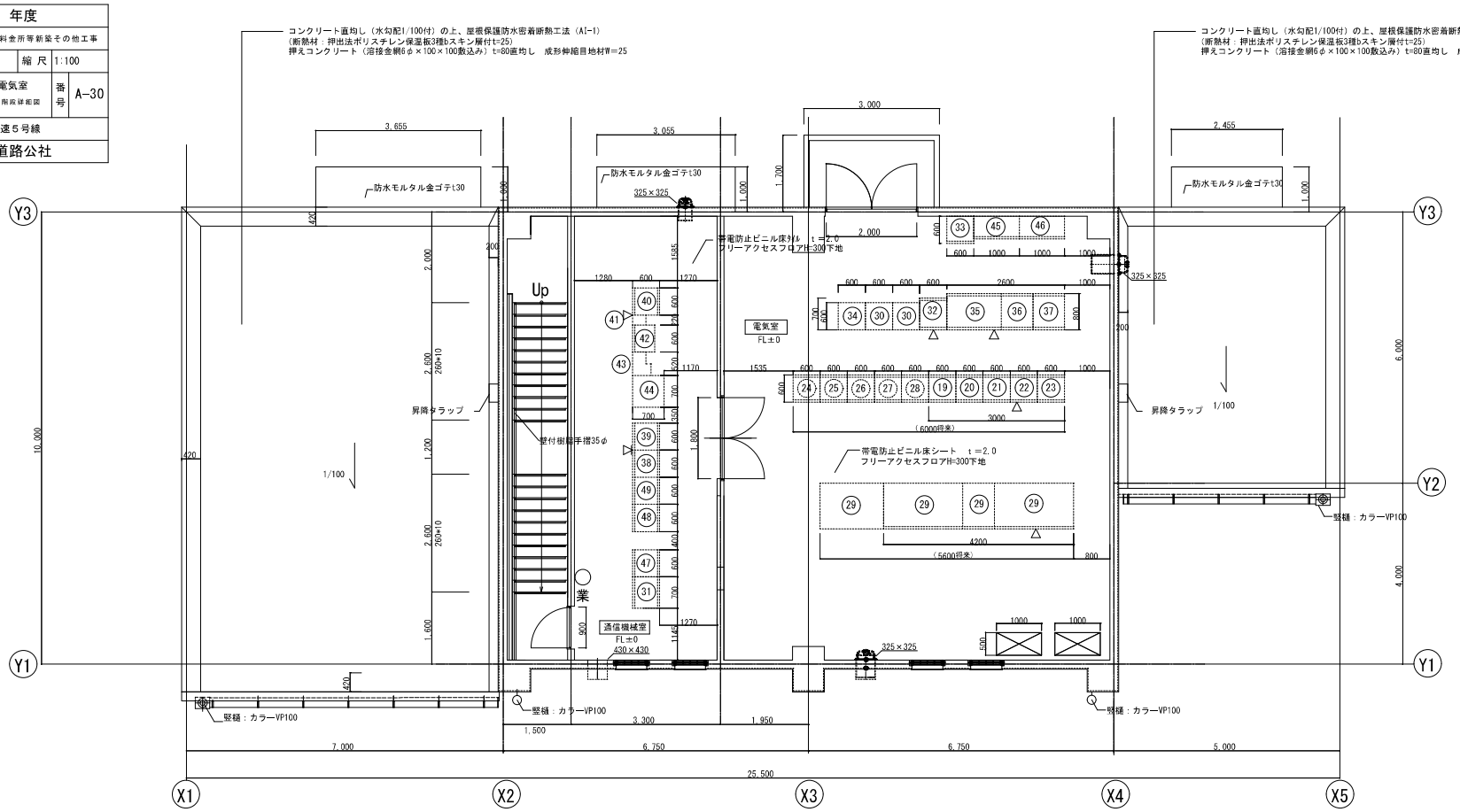
※鉄部は溶融亜鉛メッキ仕上とする。

配線ピットセパレーター詳細図 S=1/10

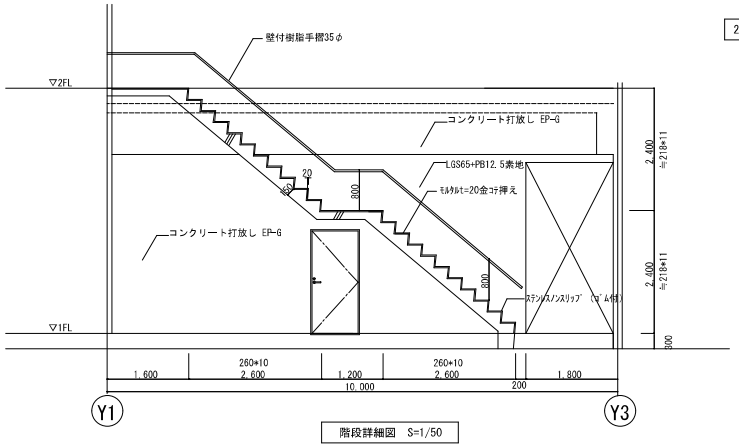


※鉄部は溶融亜鉛メッキ仕上とする。

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	1:100
図名	二葉の里電気室 2階平面詳細図・階段詳細図	番号	A-30
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



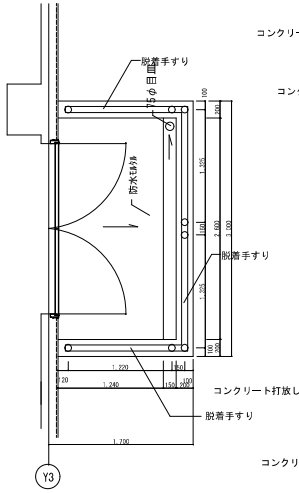
2階平面詳細図　S=1/50



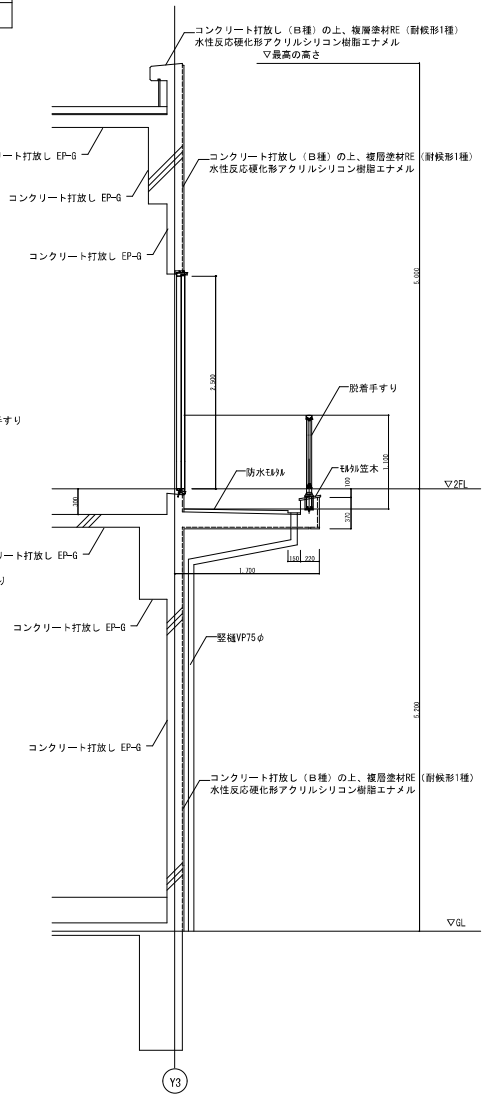
階段詳細図　S=1/50

（注記）1.他設備工事業者と調整し、フリーアクセスボードの切欠き大きさ等を決めること。

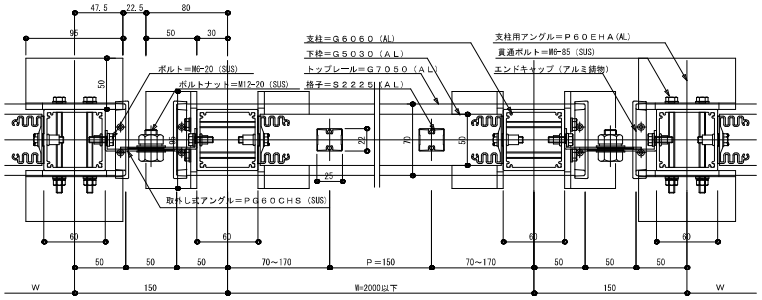
令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	1:30
図名	二葉の里電気室 雑詳細図	番号	A-31
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			



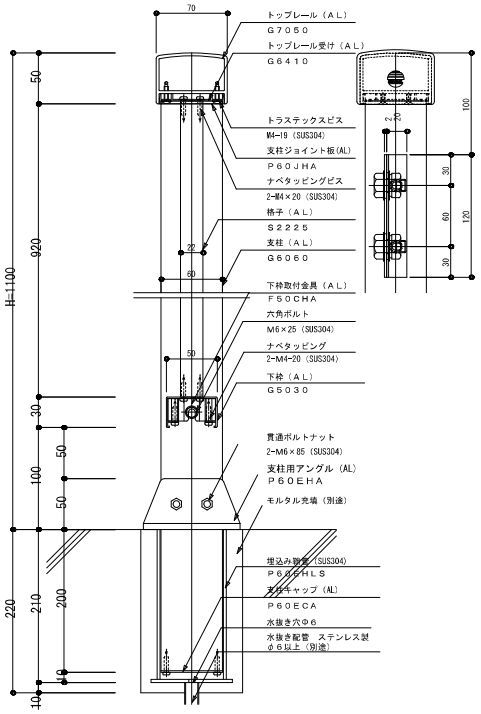
搬入バルコニー平面詳細図　S=1/30



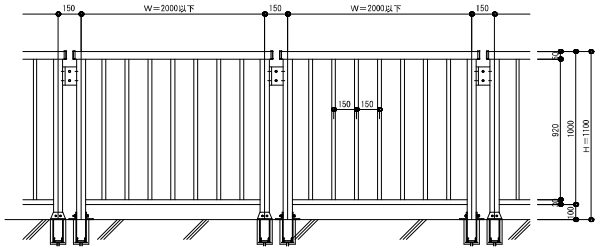
搬入バルコニー断面詳細図　S=1/30



脱着工法／埋め込み鞘管納まり平面詳細図　S=1/5



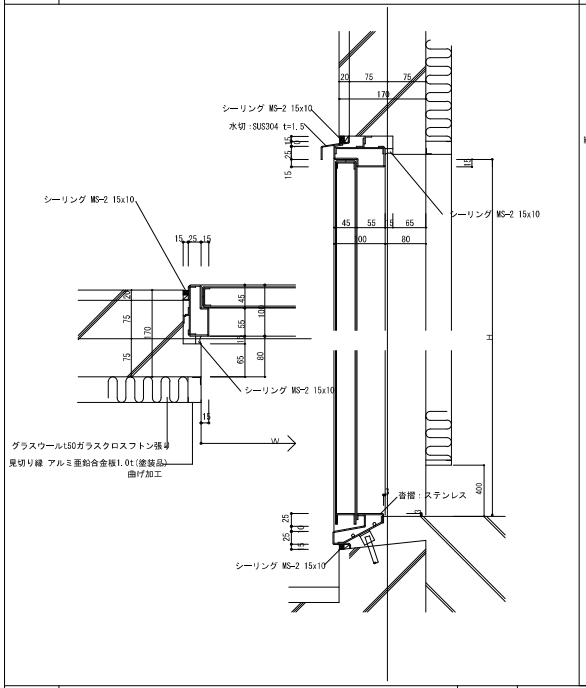
脱着工法／埋め込み鞘管納まり断面図　S=1/5



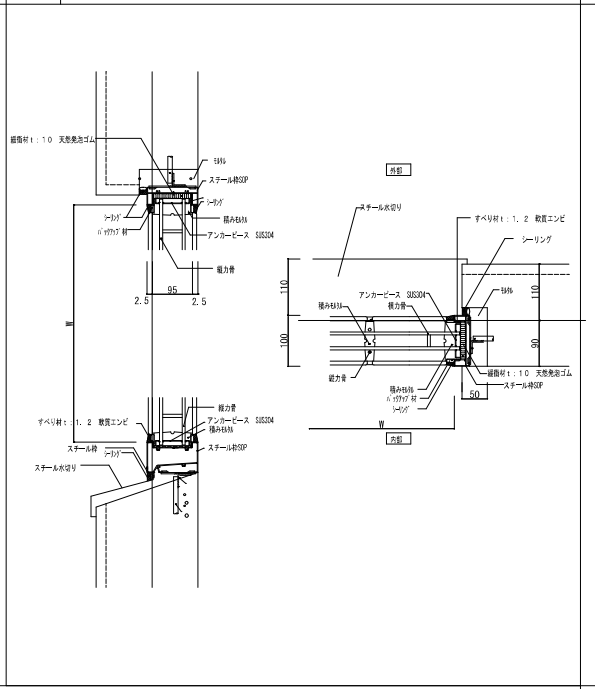
脱着手すり立面図　S=1/5

令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1:20,1:5
図 名	二葉の里電気室 部分詳細図1	番号	A-32
路 線 名	高速５号線		
広島高速道路公社			

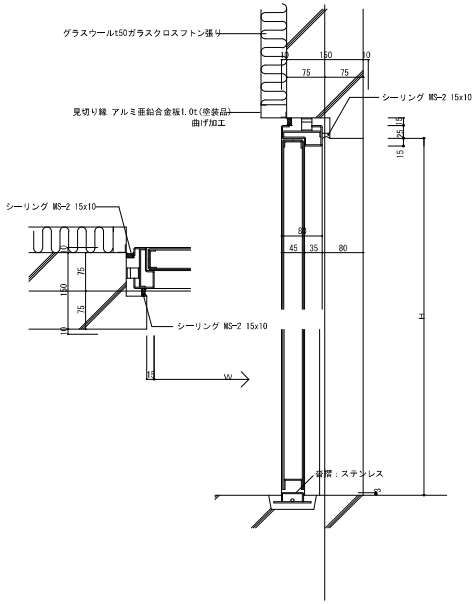
外部スチールドア詳細図 S=1/5



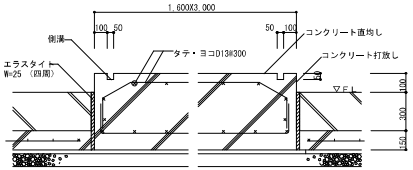
ガラスブロック詳細図 S=1/5



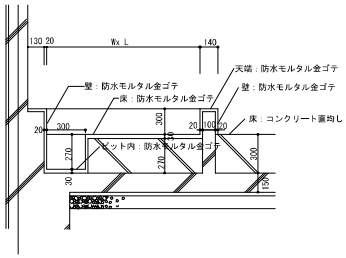
内部スチールドア詳細図 S=1/5



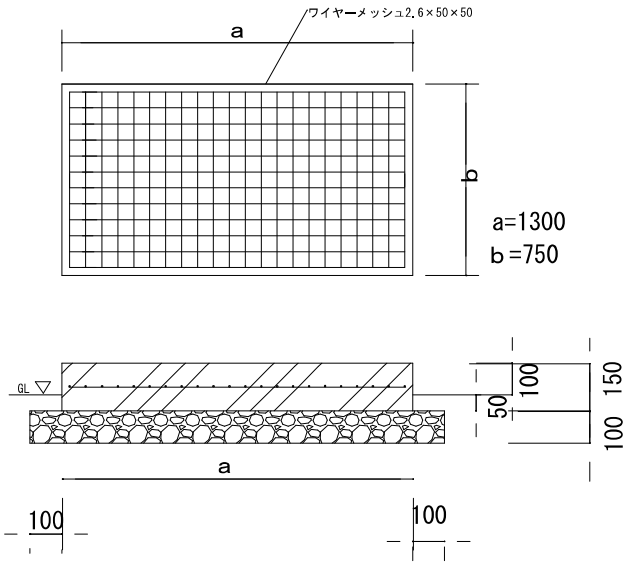
発電機基礎詳細図 S=1/20



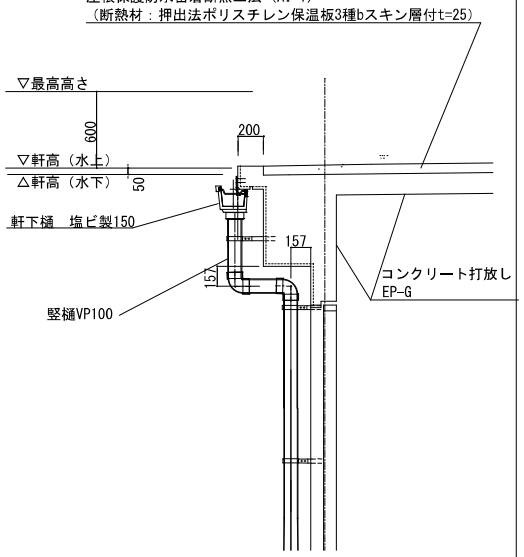
防油堤詳細図 S=1/20



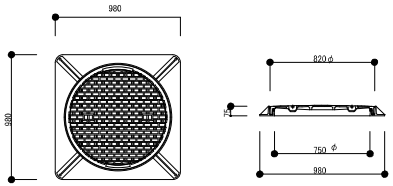
コンクリート基礎 1:5



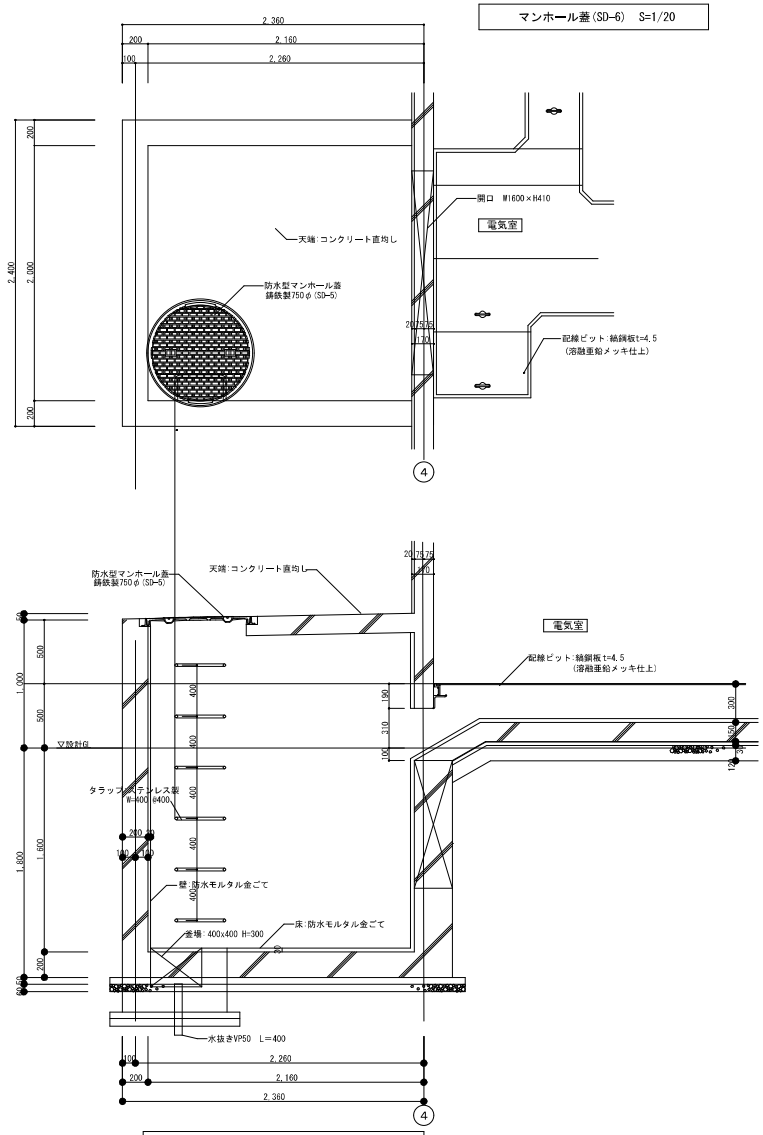
軒部詳細図 S=1/20



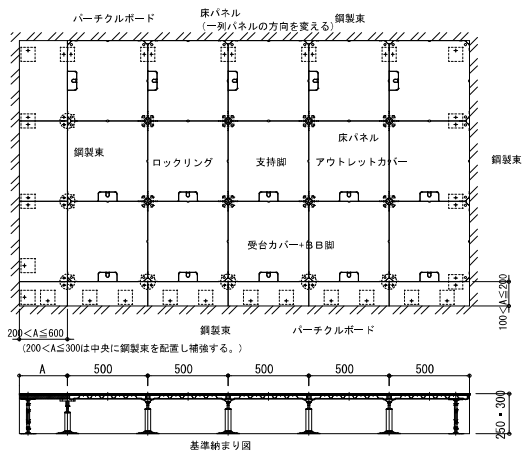
令和 6 年度			
工事名	高速５号線　料金所等新築工事		
図面番号		縮尺	1:20
図名	二葉の里電気室 部分詳細図2	番号	A-33
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			



マンホール蓋(SD-6)　S=1/20

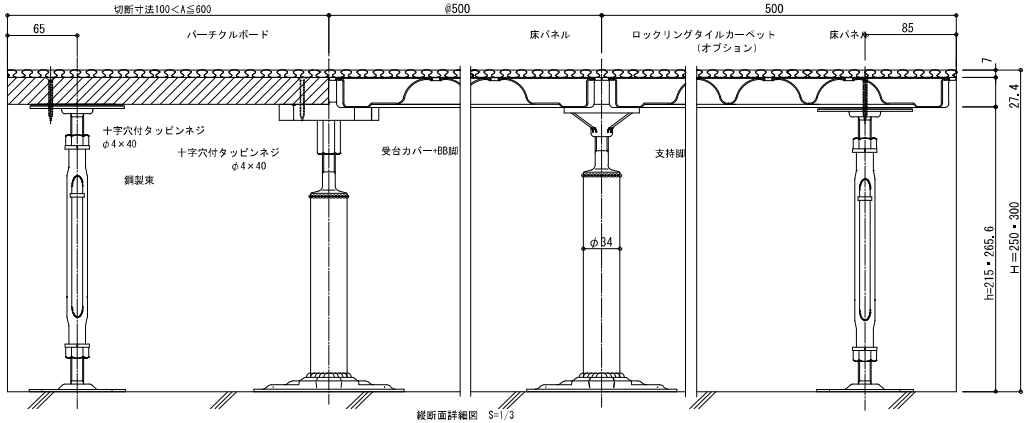


電気室ハンドホール詳細図　S=1/20

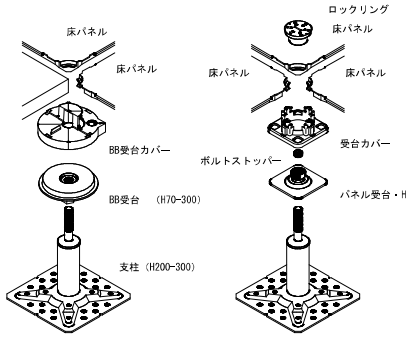


フリーアクセスフロア詳細図

基準納まり図



縦断面詳細図　S=1/3



受台カバー＋ＢＢ脚部　納まり図

支持脚標準部　納まり図

仕様：

●パネルサイズ
500×500×27.4mm

●材質・表面処理
表面板・裏面板
溶融亜鉛メッキ鋼板
(軽量無機質材充填)

●パネル重量
約8.1kg/枚

●最弱部集中荷重（加圧板φ50）※
3,000N（300kgf）
たわみ5.0mm以内

●耐震性能
積載荷重300kg/㎡-1Gクリア

●適応床高さ
H=250・300mm
タイルカーペット厚7mm含む

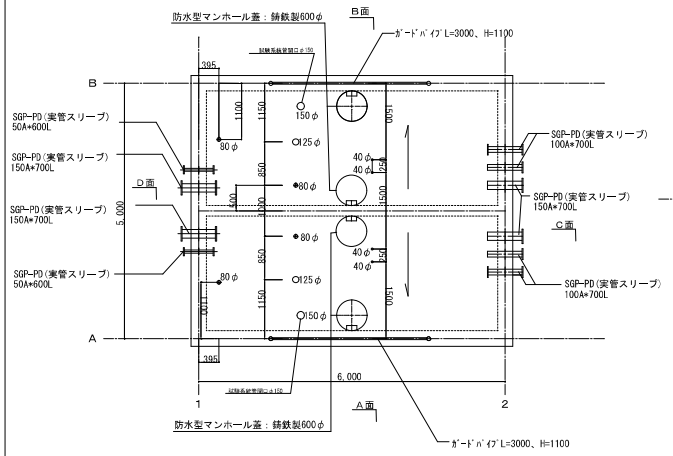
ナカ工業　IBフロア同等品

令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	1:100、1:200
図名	二葉の里電気室 消化水槽 仕上表・平面図・断面図・立面図	番号	A-34
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			

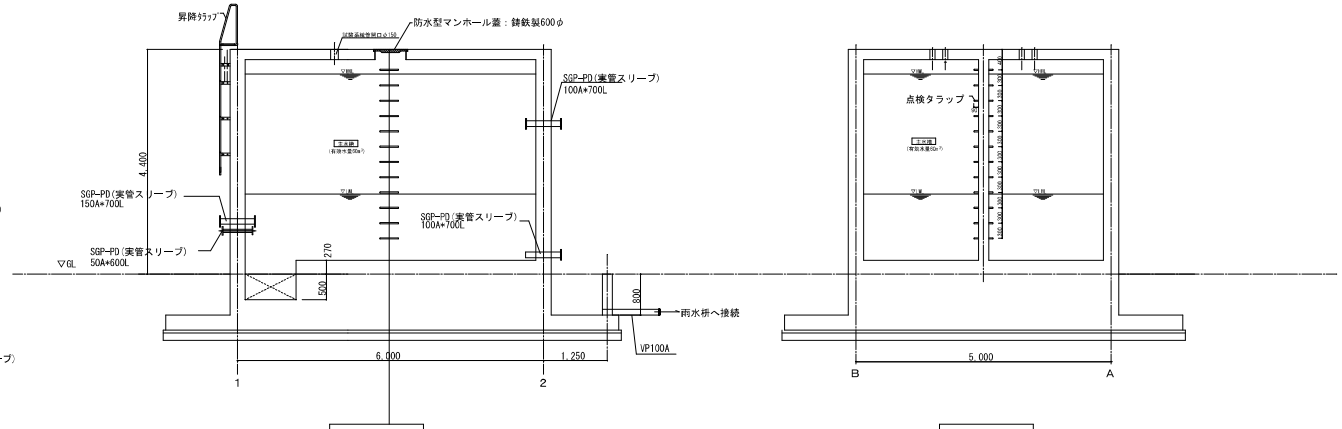
外部仕上表

屋根	コンクリート直均し（水勾配1/100付）
外壁	コンクリート打放しの上複層仕上げ塗材RE　誘発目地@3000　PS-2　20*10
備考	防水型マンホール蓋：鋳鉄製600φ　、点検タラップ、昇降タラップ、ガードパイプL=3000,H=1100

部位	床	巾木	壁	天井	備考
槽内	ケイ酸質系塗布防水	－	ケイ酸質系塗布防水	ケイ酸質系塗布防水	止水板　塩ビ製　H=150

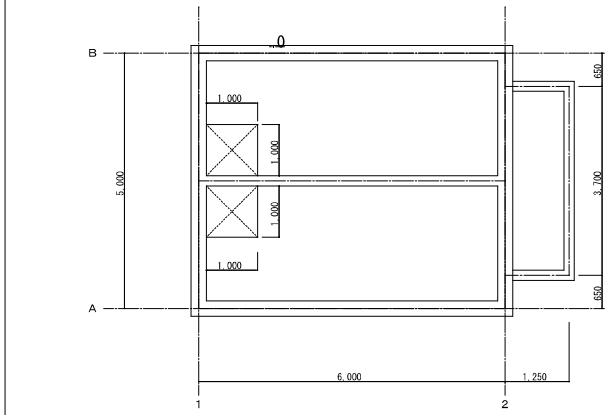


屋階平面図

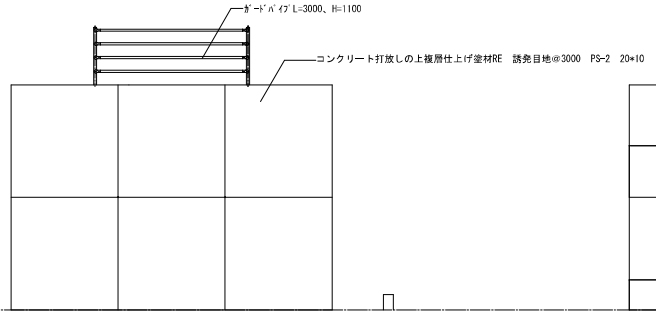


断面図

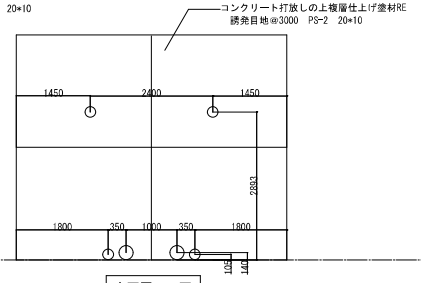
断面図



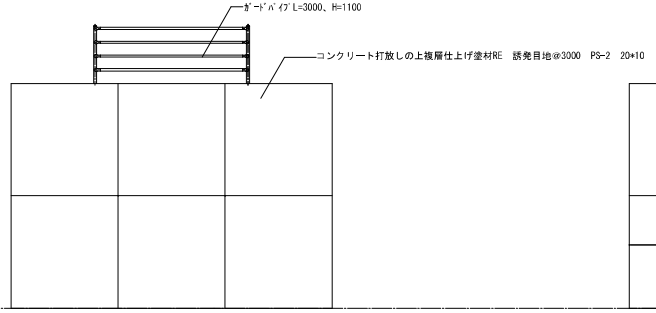
1階平面図



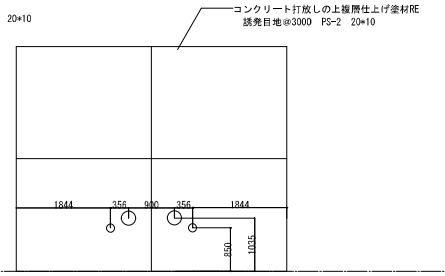
立面図　Ａ面



立面図　Ｃ面



立面図　Ｂ面



立面図　Ｄ面

令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	
図　名	広島駅北口料金所 ブース特記仕様書	番号	BA-01
路線名	高速５号線		
広 島 高 速 道 路 公 社			

料金所ブース工事　特記仕様書

Ⅰ　総則

１．適用範囲　　この特記仕様書はブース製作工事に適用するものとする。

Ⅱ　工事概要

１．工事名称　　高速5号線 料金所等新設工事（仮称）

２．工事位置　　高速5号線
広島駅北口料金所

３．工事種目

A．ブース本体	メインブース	１７５０W×１２０００L	新設一式：　1台
	機械室２	１７５０W×４５７８L	新設一式：　1台
	サブブース	１２２０W×　３９００L	新設一式：　1台
B．電気設備	（電灯動力設備、　弱電設備）		新設一式
C．機械設備	（冷暖房換気設備、衛生設備）		新設一式

4．使用材料　　本工事に使用する資材は、メーカー仕様によるものとし、監督職員の承諾を得るものとする。

Ⅲ　特記仕様

１．総　　則

１）本仕様書に記載されていない事項はすべて下記諸仕様書並びに、基準によるほか、監督職員の指示によるものとする。

建築工事標準仕様書（最新版）	国土交通大臣官房官庁営繕部監修
電気設備工事標準仕様書（最新版）	国土交通大臣官房官庁営繕部監修
機械設備工事標準仕様書（最新版）	国土交通大臣官房官庁営繕部監修
鋼構造設計基準	日本建築学会編
軽量形鋼構造設計施工指針　　同解説	日本建築学会編
溶接工作基準　　同解説	日本建築学会編
電気設備技術基準	
その他関係諸規定	

２）本仕様書その他の設計図書に明記されていない事項で、工事施工上当然必要と思われるもの及び詳細不明のものについては、監督職員の指示をうけ、施工する。

２．特別注意事項

１）本工事においてブース据付面（台枠下面）と、アイランド基準アンカー面はすべて同一レベルを原則としますが、道路面に縦断勾配がある場合によっては基礎の納まり、取り合い等の施工図を作成の上、主任監督員の承諾を得るものとする。
その他別途工事等の取り合いは図示によるも細部については、監督職員の指示により施工する。

３．工事種目別特記事項

A．ブース本体

１）鉄骨工事

ａ．外板及び屋根板：溶融亜鉛アルミニウム合金めっき鋼板　ｔ＝２．３mmを、電気溶接にて取付ける。

２）建具工事

ａ．アルミ製引違いサッシ：製品は枠見込み７０mmとする。

３）塗装工事

ａ．塗装範囲

イ）Ｐ１工程：室内化粧鉄部、屋根上部（Ｒ部分は含まず）
Ｐ２工程：外部（Ｐ１工程部分は含まず）
：低汚染形セラミック変性ウレタン樹脂塗装。

ロ）構体骨組錆止塗装：クロムフリー錆止塗装

P1工程	P2工程
1)　汚れ付着物除去	1)　汚れ付着物除去
2)　油脂除去	2)　油脂除去
3)　錆止塗料（１回目）	3)　錆止塗料（FL＋３００mmまでを２回塗り）
4)　研磨紙摺り	4)　錆止塗料（ブース全体１回目）
5)　錆止塗料（２回目）	5)　研磨紙摺り
6)　研磨紙摺り	6)　錆止塗料（ブース全体２回目）
7)　中塗り	7)　穴埋め及びパテかい
8)　上塗り	8)　研磨紙摺り
	9)　中塗り
	10)　上塗り

ｂ．塗装色

外部色　　全　体　色：Ｕ７５－３０Ｐ
ライン色：Ｙ７５－９０Ｂ　　（日本塗料工業会）
内部色　　Ｕ２２－８５Ｄ　（　　〃　　）

４）雑工事

ａ．プリント鋼板：耐熱限界１４０℃以下、被膜厚０．０３mm　厚さ０．７mmとし、ビス又はリベットにて取付ける。

ｂ．断熱材：（グラスウール）又は発泡ポリスチレンフォーム
天井裏、片開戸、片引戸・・・・・（２号３２Ｋ２５ｔ）
側壁、間仕切壁、・・・・・・・・・・・・（２号２４Ｋ５０ｔ）
床、・・・・・・・・・・・・・・・・・・（発泡ポリスチレンフォーム４０ｔ）

ｃ．ビニルシート：下記以外の床面は、厚さ２．５mmを接着する。
但し、ＥＴＣ監視室及び便所床は厚２．５mm　イボ付とする。

ｄ．ベッド：ベッドマットは畳とする。

ｅ．アクリル樹脂板：静電気現象防止処置を施したものとする。

ｆ．シーリング：雨樋、建具、アルミサッシ廻り等のシーリングにはシリコン系を使用する。

ｇ．カーテンレール：　ステンレス製Ｃ型とする。

ｈ．流し台及び吊戸棚：　木製キャビネット，ステンレス製水槽（排水トラップ付き）、冷蔵庫付とする。

B．電気設備

１）電気方式

（イ）動力配線設備　　3φ　3W　２００Ｖ　　６０Ｈｚ
（ロ）電灯設備　　1φ　3W　２１０／１０５Ｖ　６０Ｈｚ

２）弱電設備

（イ）非常ベル押釦　（別途、電気設備工事。）
（ロ）インターホン　（別途、電気設備工事。）

３）工事範囲

設計図記載に基づき、下記事項に留意するものとする。

ａ．電灯動力配線設備

（イ）ブース内に設けられた分電盤二次側からブース内の照明、換気、ＳＷ、コンセントの各機器迄（配管配線、分電盤、端子盤、端子台などの接続線を含む）を本工事とする。
ブース外取付の機器については別途工事とする。

（ロ）収受室、ETC監視室、機械室(1)・(2)の天井面にバッテリー内蔵の非常灯を設置します。

ｂ．弱電設備

（イ）サブブースについては、収受室端子盤二次側より各端末機（放送機器（アンプ、マイク））迄の配管配線を行なうものとする。
ただし、インターホン機器・取付は別途工事とする。
また、端子盤一次側の配線、引き込みも別途工事とする。

（ロ）メインブースについては、機械室内に設けられた端子盤二次側より各端末機（放送機器（アンプ、マイク））迄の配管配線を行うものとする。ただし、インターホン機器は別途とする。
また、端子盤一次側の配線、引き込みも別途工事とする。

ｃ．ＥＴＣ・ＣＣＴＶ設備

（イ）ブースについては、端子盤二次側より各端末機、機器までの配管は、本工事、配線は別途とする。
また、端子盤一次側の配線、引き込みも別途工事とする。

C．機械設備

１）空気調和換気設備工事

メインブースの収受室にエアーカーテン、
ヒートポンプ式パッケージエアコン及び床ヒーターを設置し、
ETC監視室と機械室にはルームエアコンを設置する。
機械室には冷房専用ルームエアコンを設置する。
サブブースにはエアカーテン、ヒートポンプ式パッケージエアコン及び床ヒーターを設置する。
尚、流し、便所、機械室にはそれぞれ換気扇を取付ける。

２）衛生設備工事

給水管は水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管　ＳＧＰ-ＰＢ（ＪＷＷＡ Ｋ １３２）、
排水管及び通気管は硬質ポリ塩化ビニル管　ＶＰ（ＪＩＳ Ｋ　６７４１）とし、
給水管の保温は標準仕様書第二編　３・１・５，ｄ・（ハ）・㈡とする。

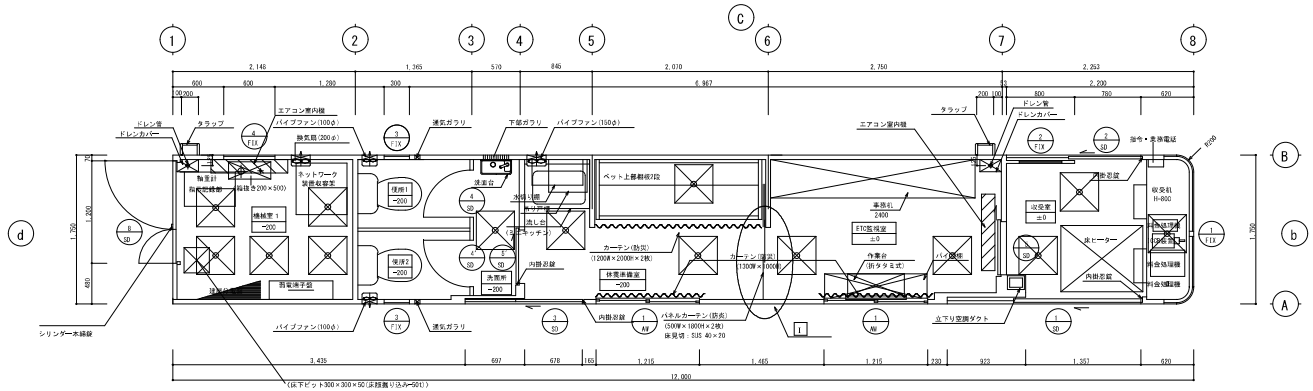
令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	S=1/30
図 名	広島駅北口料金所 メインブース 仕上表・平面図	番号	BA-02
路線名	高速5号線		
広 島 高 速 道 路 公 社			

〈外部仕上表〉

	材 質 ・ 仕 上	備 考
屋 根	溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 t=2.3mm 低汚染性セラミック変性ウレタン樹脂塗装	φ36 吊金物(8ヶ所)
外 壁	溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 t=2.3mm 低汚染性セラミック変性ウレタン樹脂塗装(屋根R部を含む)	
建 具	鋼製及びアルミ合金製(アルマイト処理)	
硝 子	色付、透明アクリル板 t=5mm・ 透明強化ガラス t=5mm 網入型ガラス、網入磨き(下半分ボカシ)ガラス t=6.8、一部遮光フィルム張り	
ブースナンバー	アクリル板(乳白色地に黒色番号貼付)	150×200×3t

〈内部仕上表〉

	床	床 高 (GL±)	巾 木	壁 ・ 天井	天 井 高	備 考
収 受 室	イボ付ビニールシート t=2.5mm	±0	ビニール巾木H=60	プリント鋼板 t=0.7mm	2200	収受机 床ヒーター
ETC監視室	ビニールシート t=2.5mm	±0	同 上	同 上	2200	事務机2400×450×750H、作業台300×666(折タタミ式)
休憩準備室	ビニールシート t=2.5mm	−200	同 上	同 上	2400	一段ベット1950×700×1970H、パイプ棚2段1950×350 浅し台(ミニキッチン)785×500×800H、吊戸棚450×380×500H 光硬質塩ビ300×250、カーテンレール(C型)、パネルカーテン
洗 面 所	イボ付ビニールシート t=2.5mm	−200	同 上	同 上	2400	鋼板SUS 3.0t
便所1・2	イボ付ビニールシート t=2.5mm	−200	ビニールシート立上げのみ SUS1.0t、150H押え	同 上	2400	鋼板SUS 3.0t
機 械 室 1	ビニールシート t=2.5mm	−200	ビニール巾木H=60	同 上	2400	



平 面 図(メインブース) S=1/30

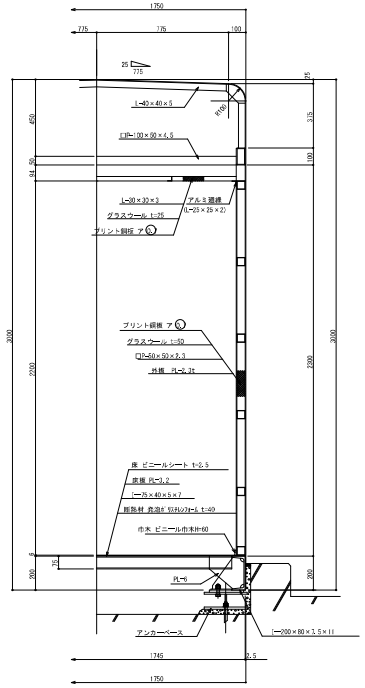
共通凡例

(床下ピット300×300×50(床版抜り込み−50t)) : 別途工事

: 床下点検口

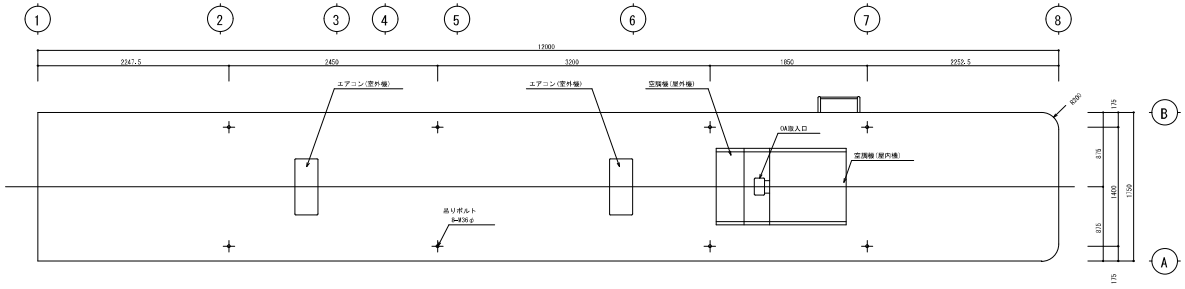
然下、機器下には配線取り出し開口を適宜設けることとする。

窓名を示す
円からの高さを示す

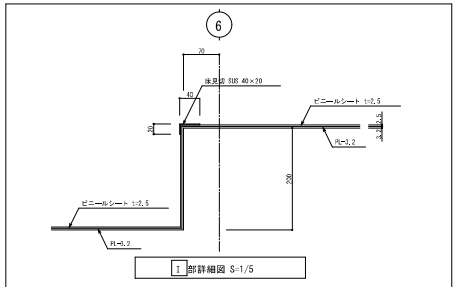


矩計詳細図 S=1/15

※ ( )内寸法は一之通り間のみを示す



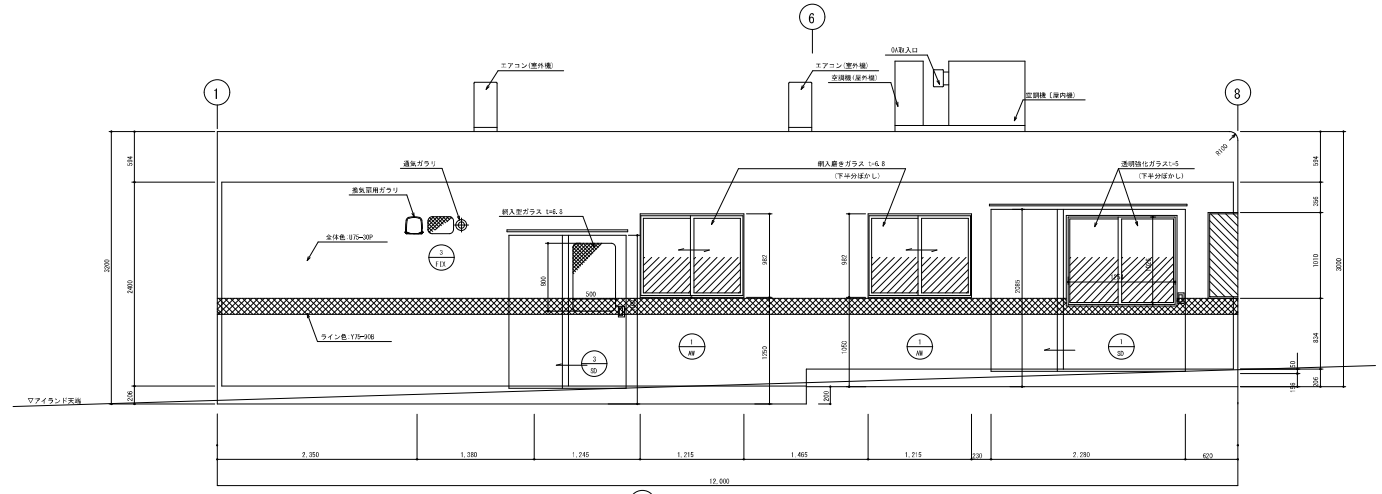
屋根伏図



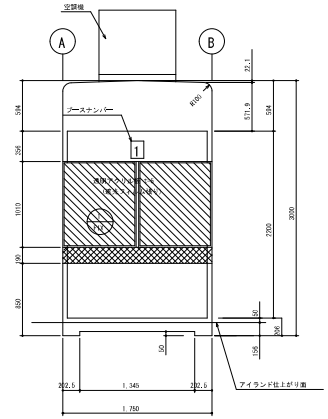
1 部詳細図 S=1/5

令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	S=1/30
図 名	広島駅北口料金所 メインブース 立面図	番号	BA-03
路線名	高速5号線		
広 島 高 速 道 路 公 社			

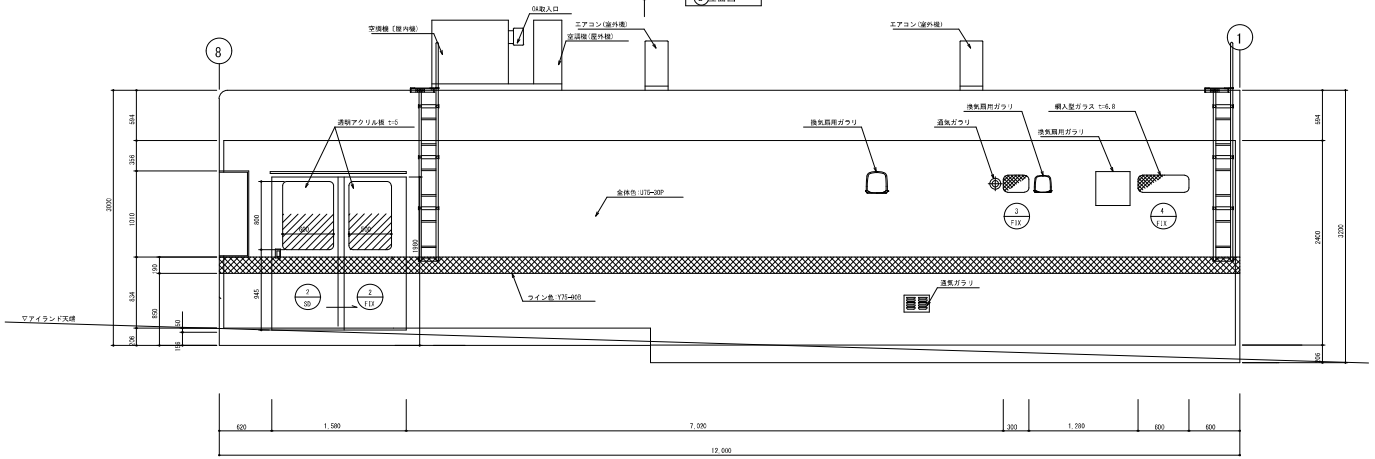
メインブース



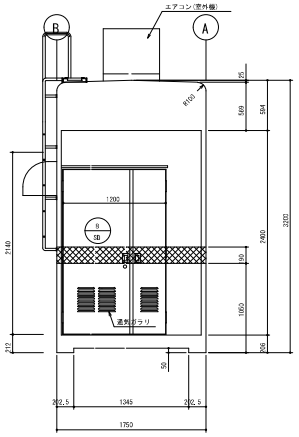
ⓐ立面図



ⓑ立面図

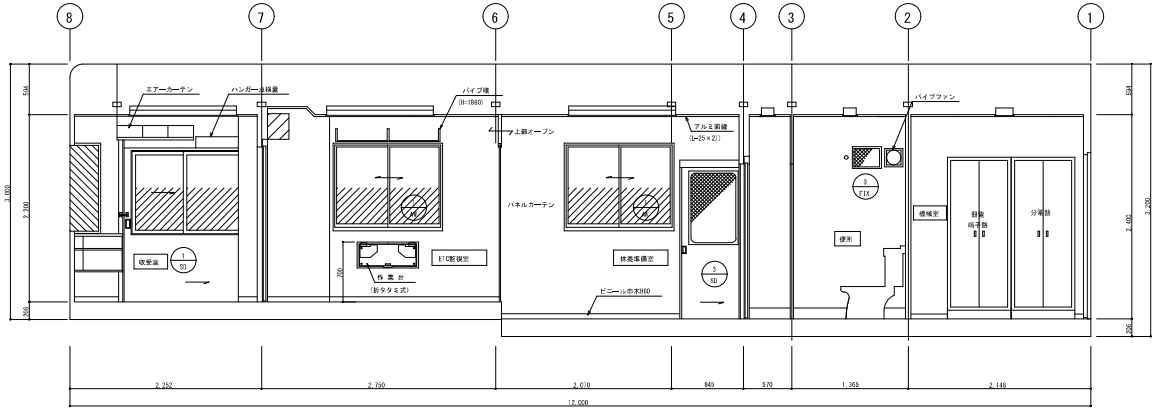


ⓒ立面図

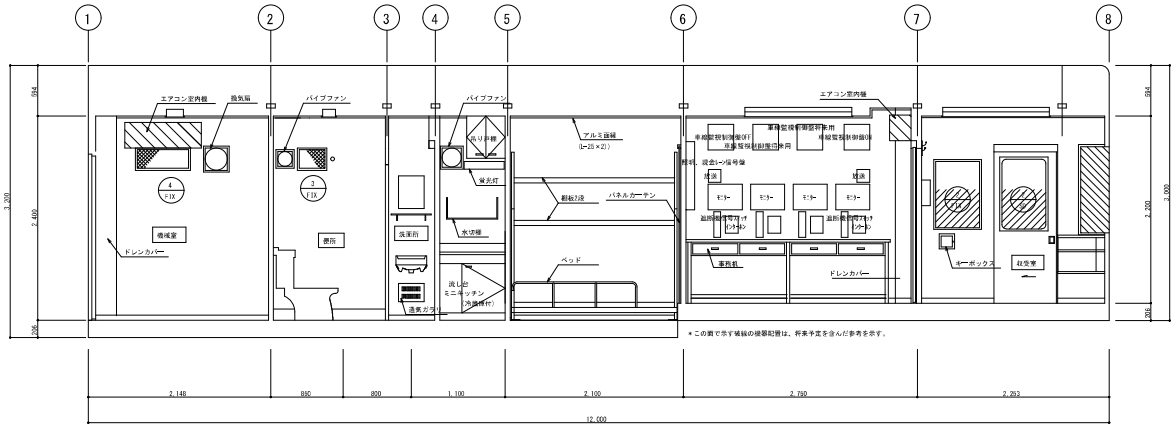


ⓓ立面図

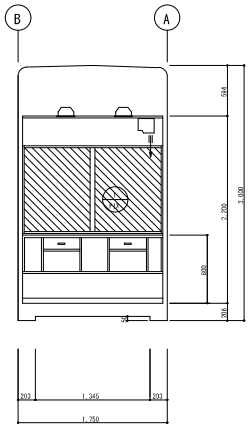
令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	S=1/30
図 名	広島駅北口料金所 メインブース 展開図	番号	BA-04
路線名	高速5号線		
広 島 高 速 道 路 公 社			



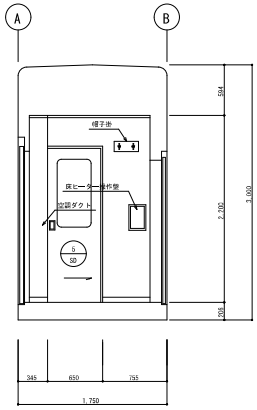
A通り内観図



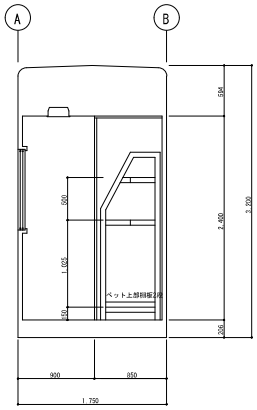
B通り内観図



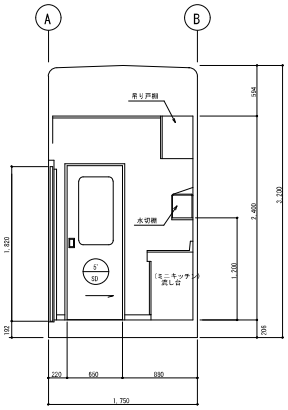
B通り内観図



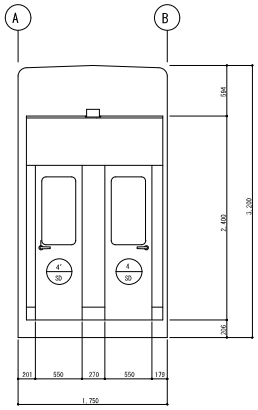
7通り内観図



5通り内観図

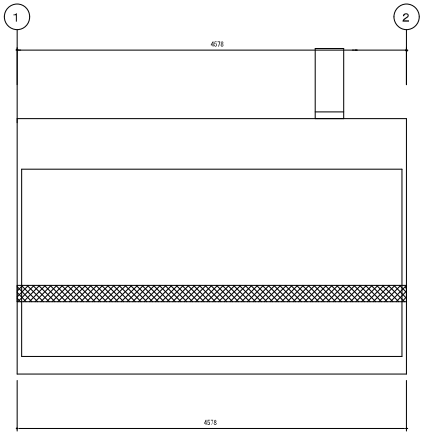


4通り内観図

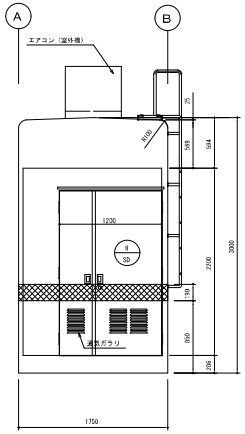


3通り内観図

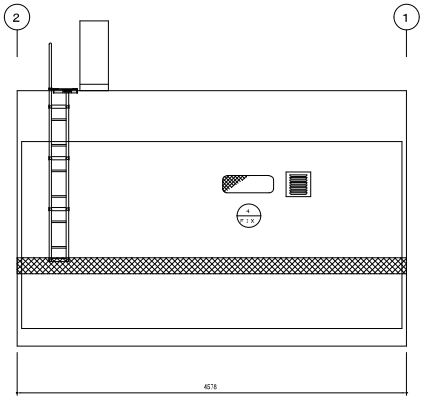
令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	S=1/30
図 名	広島駅北口料金所 機械室2 仕上表・平面図 屋根伏・立面図・展開図	番号	BA-05
路線名	高速５号線		
広 島 高 速 道 路 公 社			



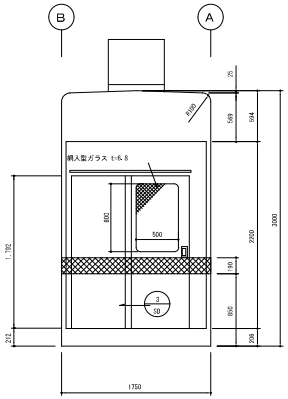
ⓐ 立面図　S=1/30



ⓑ 立面図　S=1/30



ⓒ 立面図　S=1/30



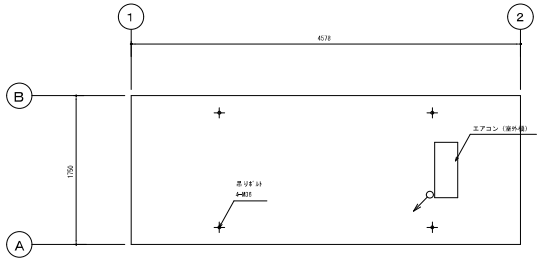
ⓓ 立面図　S=1/30

＜外部仕上表＞

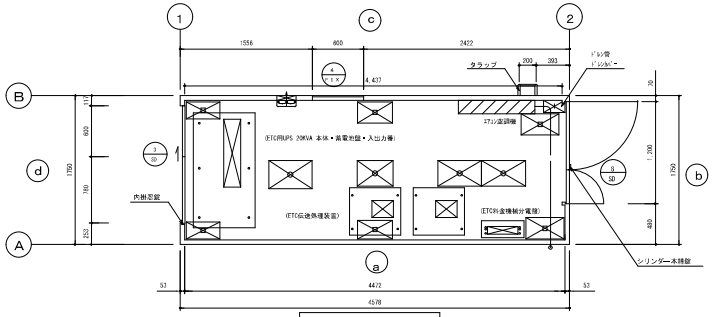
	材 質 ・ 仕 上	備 考
屋 根	溶融亜鉛－５％アルミニウム合金めっき鋼板　t＝２．３mm 低汚染形セラミック変性ウレタン樹脂塗装	φ３６　吊金物（４ヶ所）
外 壁	溶融亜鉛－５％アルミニウム合金めっき鋼板　t＝２．３mm 低汚染形セラミック変性ウレタン樹脂塗装（屋根Ｒ部を含む）	
建 具	鋼製	
硝 子	網入型ガラス、　t＝６．８	

＜内部仕上表＞

	床	巾 木	壁 ・ 天井	天 井 高	備 考
機 械 室	ビニールシート t＝２．５mm	ソフト巾木　Ｈ＝６０	プリント鋼板 t＝１．２mm	２２００	



屋根伏図　Ｓ＝１／３０

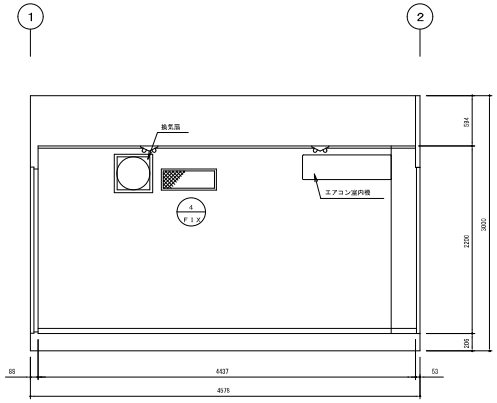


平面図　Ｓ＝１／３０

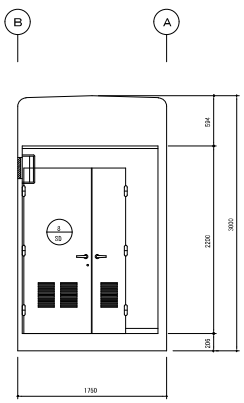
共通凡例

- ：床下点検口
- ：ブース架台用点検口
- ：機器配線用点検口

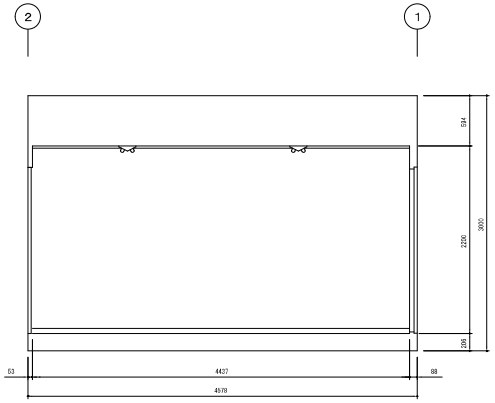
盤下、機器下には配線取り出し開口を適宜設けることとする。



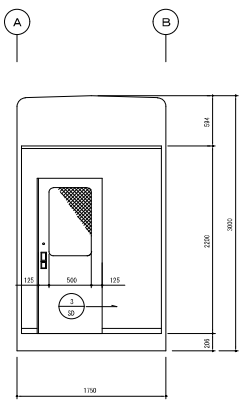
Ⓑ 通芯側内観図



② 通芯側内観図



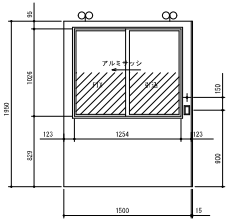
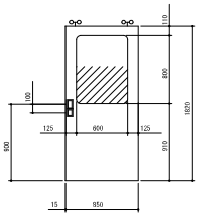
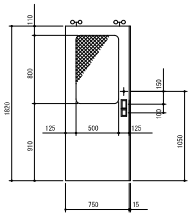
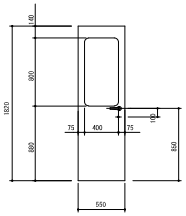
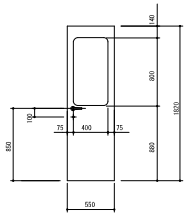
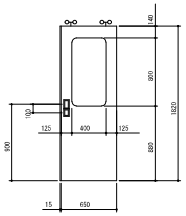
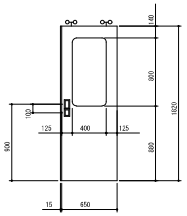
Ⓐ 通芯側内観図



① 通芯側内観図

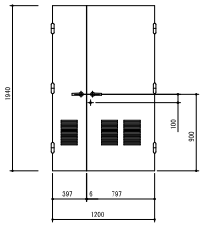
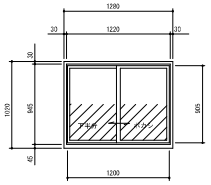
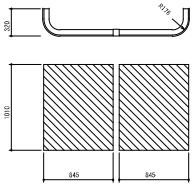
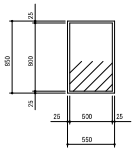
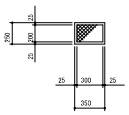
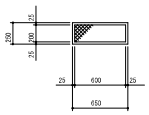
令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	S=1/30
図 名	広島駅北口料金所 メインブース・機械室2 建具表	番号	BA-06
路線名	高速5号線		
広 島 高 速 道 路 公 社			

建 具 表 S=1/30

記号・場所	1 SD 収受室	2 SD 収受室	3 SD 休養準備室・機械室2	4 SD 便 所	4' SD 便 所	5 SD ETC監視室	5' SD 休養準備室
姿 図							
見込寸法	43.8(ドアー)・48.5(片引アングルドアー)	27.8	27.8	27.4	27.4	27.4	27.4
形式・数量	鋼製片引腰高フラッシュ戸 1	鋼製片引腰高フラッシュ戸 1	鋼製片引腰高フラッシュ戸 2	鋼製片開き腰高フラッシュ戸 1	鋼製片開き腰高フラッシュ戸 1	鋼製片引腰高フラッシュ戸 1	鋼製片引腰高フラッシュ戸 1
材質・塗装	外, 鋼板 1.6 低汚染形セラミック変性 内, 鋼板 1.2 ポリウレタン樹脂塗装(P2工程)	外, 鋼板 1.6 低汚染形セラミック変性 内, 鋼板 1.2 ウレタン樹脂塗装(P2工程)	外, 鋼板 1.6 低汚染形セラミック変性 内, 鋼板 1.2 ウレタン樹脂塗装(P2工程)	内外, 鋼板 1.2 低汚染形セラミック変性 ウレタン樹脂塗装(P2工程)	内外, 鋼板 1.2 低汚染形セラミック変性 ウレタン樹脂塗装(P2工程)	内外, 鋼板 1.2 低汚染形セラミック変性 ウレタン樹脂塗装(P2工程)	内外, 鋼板 1.2 低汚染形セラミック変性 ウレタン樹脂塗装(P2工程)
硝 子	透明半強化ガラス t=5 下半分ボカシ	透明半強化ガラス t=5 下半分ボカシ	網入り型ガラス t=6.8	透明ガラス t=3、不透明ガラスフィルム張り	透明ガラス t=3、不透明ガラスフィルム張り	透明ガラス t=3	透明ガラス t=3
付属金物	ハンガー複数戸車 2 ステンレスプレス把手 2 内掛忍錠(鍵付き) 1 アルミ窓(1300×1066) 1	ハンガー複数戸車 2 ステンレスプレス把手 2 内掛忍錠(鍵付き) 1	ハンガー複数戸車 2 ステンレスプレス把手 2 内掛忍錠(鍵付き) 1	ｽﾃﾝﾚｽﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ 2 内掛忍錠(鍵付き) 1	ｽﾃﾝﾚｽﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ 2 内掛忍錠(鍵付き) 1	ハンガー複数戸車 2 ステンレスプレス把手 2	ハンガー複数戸車 2 ステンレスプレス把手 2 内掛忍錠(鍵穴無し)1
備 考	グラスウール充填 t=50 32K	グラスウール充填 t=25 32K	グラスウール充填 t=25 32K	グラスウール充填 t=25 32K	グラスウール充填 t=25 32K	グラスウール充填 t=25 32K	グラスウール充填 t=25 32K

(注記) 1.ガラス窓が軽く動くこと。

建 具 表 S=1/30

記号・場所	8 SD 機械室1・2	1 AW ETC監視室・休養準備室	1 FIX 収受室	2 FIX 収受室	3 FIX 便 所	4 FIX 機械室	
姿 図							
見込寸法	38.2	70 (サッシュ), 93(枠)	61 (枠)	61 (枠)	61 (枠)	61 (枠)	
形式・数量	鋼製ｶﾞﾗﾘ付両開ﾌﾗｯｼｭ戸 2	引違いアルミ窓 2	嵌殺し窓 1	嵌殺し窓 1	嵌殺し窓 2	嵌殺し窓 メイン 1、機械棟 1	
材質・塗装	内外, 鋼板 1.6 低汚染形セラミック変性 ウレタン樹脂塗装(P2工程)	アルミ 表面アルマイト処理	外板切込	外板切込	外板切込	外板切込	
硝 子	――――	網入りガラス t=6.8, 下半分ボカシ	透明色付アクリル板 t=5, ﾌﾞﾗｳﾝｽﾓｰｸ	透明半強化ガラス t=5 下半分ボカシ	網入型ガラス t=6.8	網入型ガラス t=6.8	
付属金物	127mm両付旅丁番 6 ｽﾃﾝﾚｽﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ 4 シリンダー本締錠 1 アームスットパー 2 丸落し錠 2 ガラリフィルター 2	室内側サッシュ押え枠 鋼板1.6メラミン焼付	室内側押え枠 鋼板 1.6 メラミン焼付 溝ゴム	室内側押え枠 鋼板 1.6 メラミン焼付 溝ゴム	室内側押え枠 鋼板 1.6 メラミン焼付 溝ゴム	室内側押え枠 鋼板 1.6 メラミン焼付 溝ゴム	
備 考	グラスウール充填 t=25 32K 召し合わせ有	外板側シリコンコーキング カーテン(防炎)1300×1000	シリコンコーキング	シリコンコーキング	シリコンコーキング	シリコンコーキング	

＊ 下半分ボカシ： 住友スリーエム ミルキーホワイト同等以上

＊ 遮光フィルム： 住友スリーエム ニュートラルグリーン同等以上

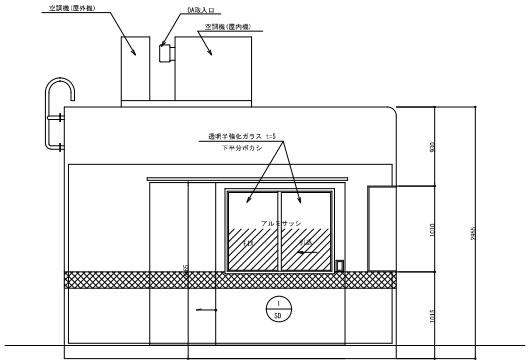
令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	S=1/30
図 名	広島駅北口料金所 サブブース 仕上表 平面図・屋根伏・立面図	番号	BA-07
路線名	高速5号線		
広 島 高 速 道 路 公 社			

〈外部仕上表〉

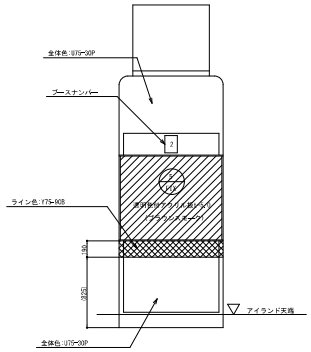
	材質・仕上	備 考
屋 根	溶融亜鉛−5%アルミニウム合金めっき鋼板2.3mm 素汚染形セラミック変性ウレタン樹脂塗装	足金物(4ケ所)
外 壁	溶融亜鉛−5%アルミニウム合金めっき鋼板2.3mm 素汚染形セラミック変性ウレタン樹脂塗装(屋根R部を含む)	
建 具	鋼製及びアルミ合金製(アルマイト処理)	
硝 子	透明アクリル板t=5 遮光フィルム張り　嵌入磨きガラスt=6.8 下半分ボカシ 嵌入磨きガラスt=6.8 下半分ボカシ　透明強化ガラスt=5 下半分ボカシ	
ブースナンバー	アクリル板(乳白色地に黒色番号貼付)	150×200×3

〈内部仕上表〉

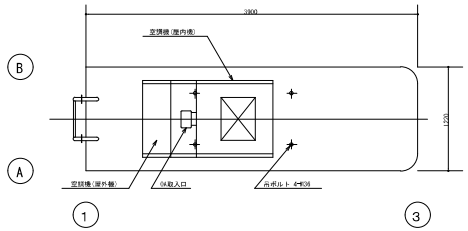
	床	巾木	壁・天井	天井高	備 考
収受室	イボイボビニール シートt=2.5	ビニール巾木H=60	プリント鋼板 t=0.7	2100	収受机、床ヒーター 事務机　900×750×300 端子盤　400×900×135 パイプ棚　900×330×140



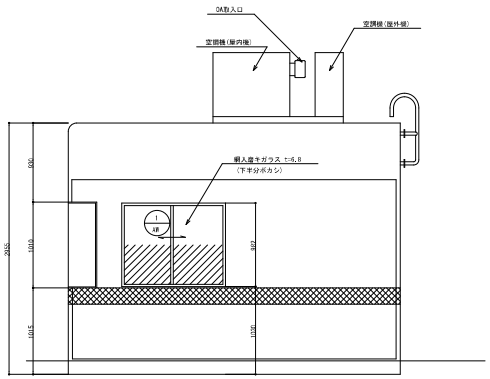
ⓐ立面図　S=1/30



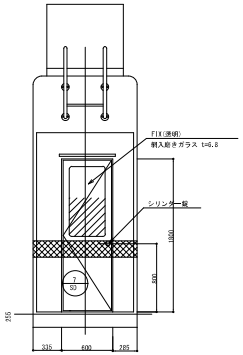
ⓑ立面図　S=1/30



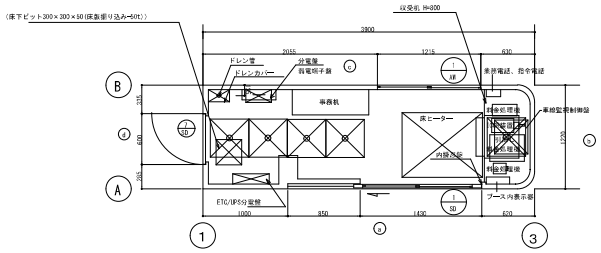
屋根平面図　S=1/30



ⓒ立面図　S=1/30



ⓓ立面図　S=1/30

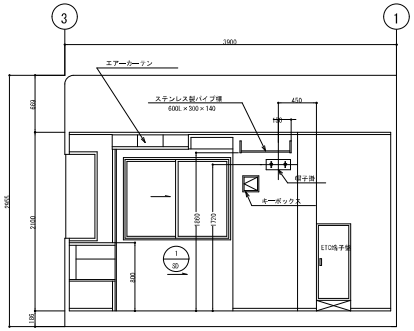


平 面 図　S=1/30

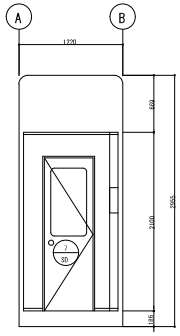
共通凡例
(床下ピット300×300×50(床板振り込み−50t))　：測量工事
：床下点検口

盤下、機器下には配線取り出し開口を適宜設けることとする。

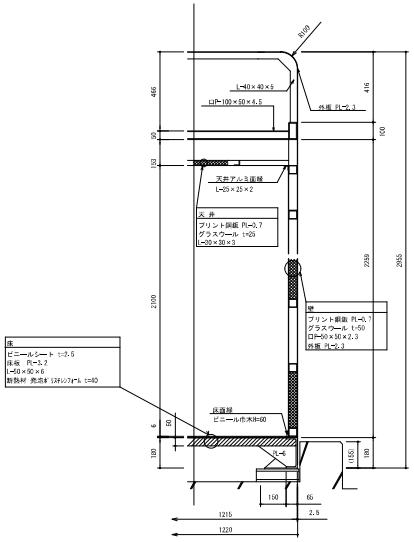
令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	S=1/30
図　名	広島駅北口料金所 サブブース 展開図	番号	BA-08
路線名	高速５号線		
広 島 高 速 道 路 公 社			



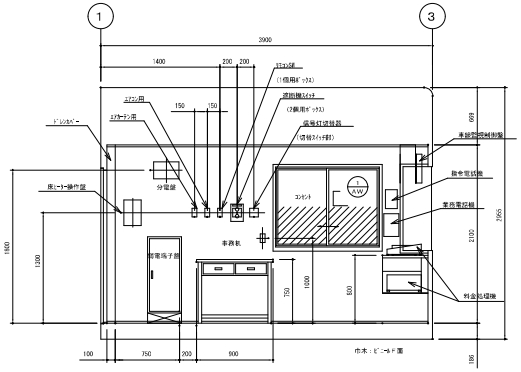
Ⓐ通芯側内観図



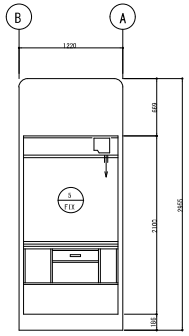
③通芯側内観図



矩計詳細図　1/15



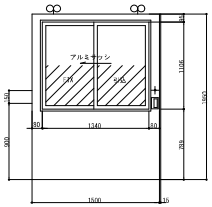
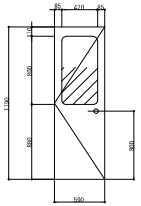
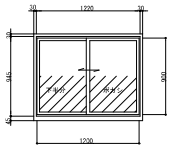
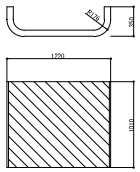
⑤通芯側内観図



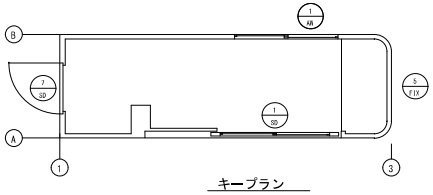
①通芯側内観図

令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	S=1/30
図　名	広島駅北口料金所 サブブース 建具表	番号	BA-09
路線名	高速５号線		
広 島 高 速 道 路 公 社			

建　具　表（ブースー棟分）

記号・場所	1/SD 収受室	7/SD 収受室	1/AW 収受室	5/FIX 収受室
姿　図				
見込寸法	43.8（ドアー）,48.5(片引アルミサッシ)	32.8	70(サッシュ),93(枠)	嵌殺し窓　1　　61　(枠)
形式・数量	鋼製片引違高フラッシュ戸　1	鋼製片開フラッシュ戸　1	引違いアルミ窓　1	外板切込
材質・塗装	外,鋼板　1.6　非汚染形セラミック変性 内,鋼板　1.2　ポリウレタン樹脂塗装	外,鋼板　1.6　非汚染形セラミック変性 内,鋼板　1.2　ポリウレタン樹脂塗装	アルミ　表面アルマイト処理	透明色付アクリル板 t=5　ブラウンスモーク
硝　子	透明半強化ガラス t=5　下半分ポカシ	網入硝子 t=6.8　下半分ポカシ	網入ガラス t=6.8　下半分ポカシ	室内側押え枠 鋼板 t=1.6（メラミン焼付）
附属金物	ハンガー複数戸車　2　ステンレスプレス把手 2 内掛忍錠　1（鍵付） アルミ窓(1300×1066)　1	127mm面付旗丁番 3,　握玉付シリンダー錠 1 アームストッパー 1　清ゴム	室内側サッシュ押え枠 鋼板1.6　（メラミン焼付）	清ゴム シリコンコーキング
備　考	グラスウール充填 "T=50 32K"	グラスウール充填 "T=25 32K"	外板側シリコンコーキング	

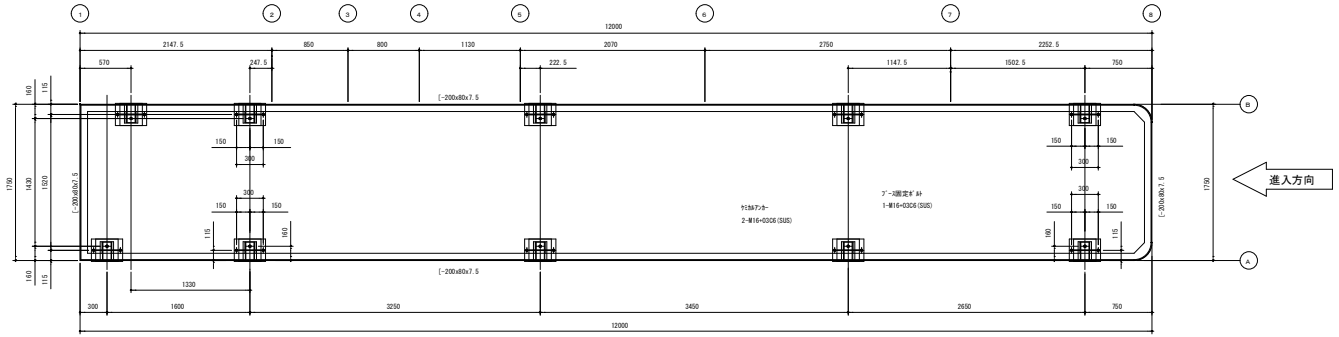
（注記）1.ガラス窓が軽く動くこと。



キープラン

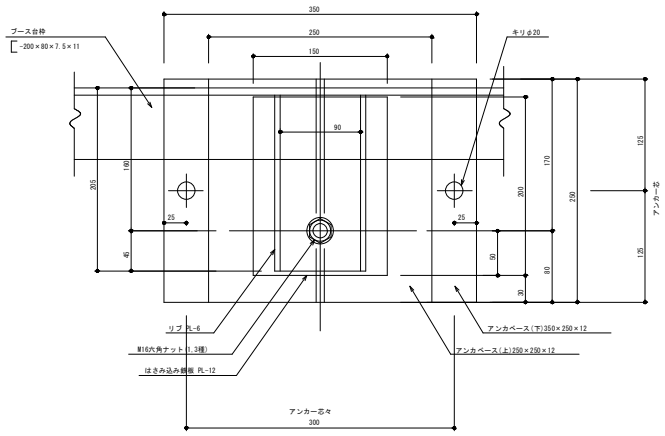
NO.3回答

令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	S=1/30, 1/3
図 名	広島駅北口料金所 ブースアンカー詳細図(1) メインブース	番号	BA-10
路線名	高速５号線		
広 島 高 速 道 路 公 社			

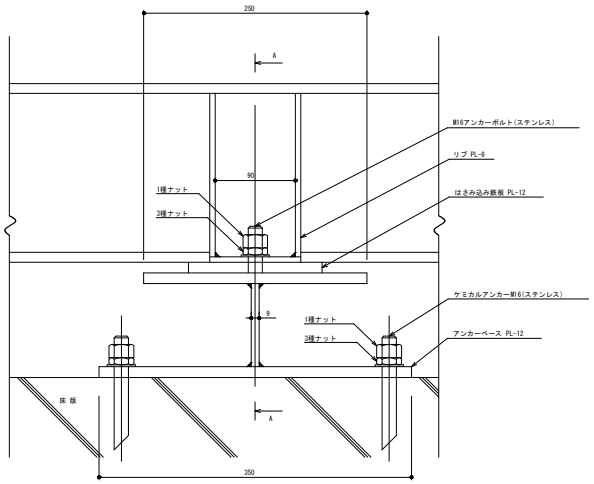


アンカーベース配置図　Ｓ＝１／３０

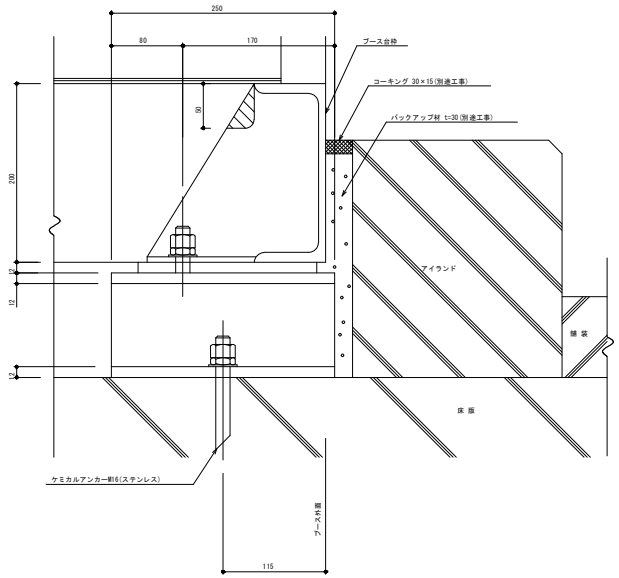
（ベース据付は別途工事）



台枠アンカー取合平面図 S=1/3



台枠アンカー取合正面図 S=1/3

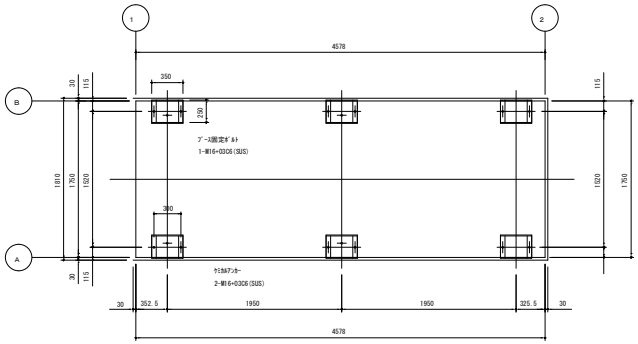


A-A断面図 S=1/3

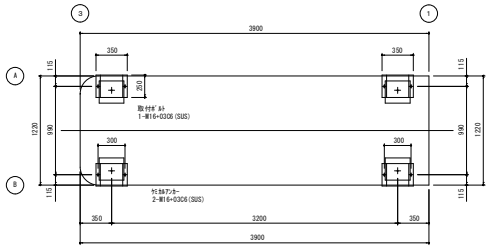
注記:フロアヒーター設置部のみ斜線部分をカットする。

NO.3回答

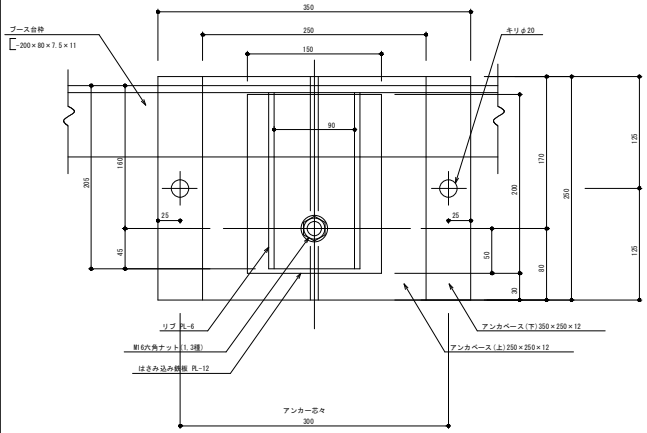
令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	S=1/30 1/3
図　名	広島駅北口料金所 ブースアンカー詳細図(2) 機械室2　サブブース	番号	BA-11
路線名	高速５号線		
広 島 高 速 道 路 公 社			



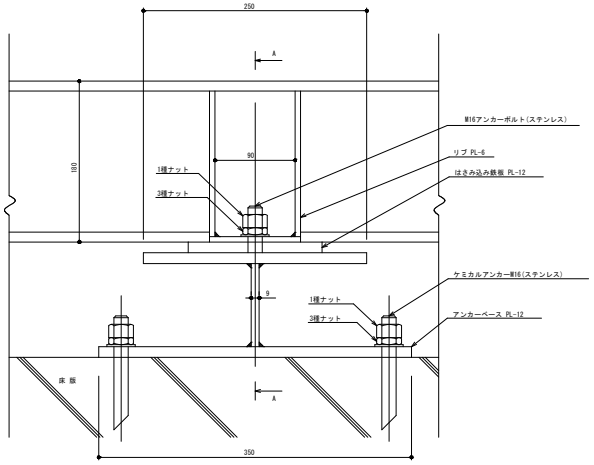
機械室ブースアンカーベース配置図　S＝１／３０
（ベース据付は別途工事）



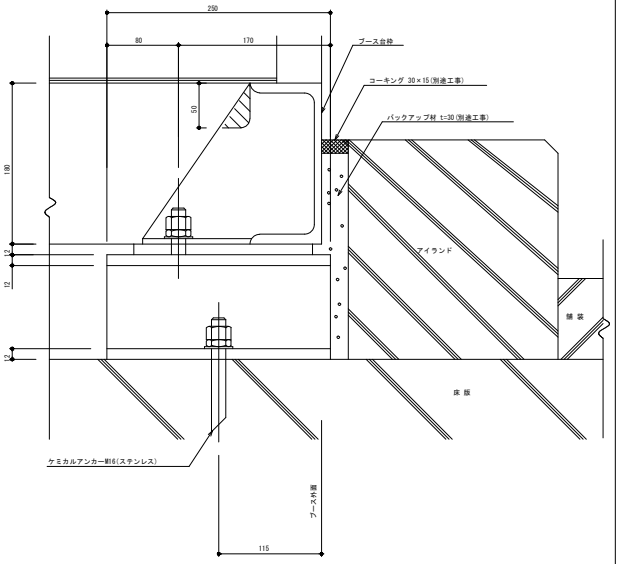
サブアンカーベース配置図　S=1/30
（ベース据付は別途工事）



台枠アンカー取合平面図 S=1/3



台枠アンカー取合正面図 S=1/3



A-A断面図 S=1/3

注記:フロアヒーター設置部のみ斜線部分をカットする。

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

１　一般事項

1.1　適用範囲

この図は、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造等の鉄筋工事に適用する。

1.2　基本要求品質

（ａ）　鉄筋工事に用いる材料は、所定のものであること。

（ｂ）　組み立てられた鉄筋は、所定の形状及び寸法を有し、所定の位置に保持されていること。また、鉄筋の表面は、所要の状態であること。

（ｃ）　鉄筋の継手及び定着部は、作用する力を伝達できるものであること。

1.3　配筋検査

主要な配筋は、コンクリート打込みに先立ち、数量、かぶり、間隔、位置等について、監督職員の検査を受ける。

1.4　その他準拠基準

・　壁式構造配筋指針・同解説（日本建築学会）

２　材　料

2.1　鉄　筋

鉄筋は表2.1により、種類の記号は特記による。

表２．１　鉄　筋

規格番号	規格名称	種類の記号
JIS G 3112	鉄筋コンクリート用棒鋼	ＳＲ235，　ＳＲ295 ＳＤ295Ａ，ＳＤ295Ｂ，ＳＤ345，ＳＤ390
――	建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けたせん断補強筋	――

2.2　溶接金網

溶接金網はJIS G 3551（溶接金網及び鉄筋格子）により、網目の形状、寸法及び鉄線の径は特記による。

2.3　材料試験

鉄筋の品質を試験により証明する場合は、適用するJIS又は建築基準法に基づき定められた方法により、それぞれ材料に相応したものとする。

３　加工及び組立

3.1　一般事項

（ａ）　鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工して組み立てる。

なお、異形鉄筋の径（この章の本文、図、表において「ｄ」で示す。）は、呼び名に用いた数値とする。

（ｂ）　有害な曲がり又は損傷等のある鉄筋は、使用しない。

（ｃ）　コイル状の鉄筋は、直線状伸ばしてから使用する。この際、鉄筋に損傷を与えない。

（ｄ）　鉄筋には、点付け溶接を行わない。また、アークストライク起してはならない。

3.2　加　工

（ａ）　鉄筋の切断は、シヤーカッター等によって行う。

（ｂ）　次の部分に使用する異形鉄筋の末端部には、フックを付ける。

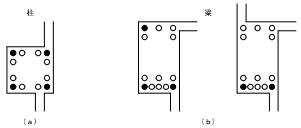
（１）　柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合。

（２）　梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く。）

（３）　煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む。）

（４）　杭基礎のベース筋

（５）　帯筋、あばら筋及び幅止め筋



（ｃ）　鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は、表3.1及び表3.2による。

表３．１　鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所（末端部）

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径（Ｄ） ＳＤ295Ａ，ＳＤ295Ｂ ＳＤ345 Ｄ16以下	ＳＤ295Ａ，ＳＤ295Ｂ ＳＤ345 Ｄ19～Ｄ38	ＳＤ390 Ｄ19～Ｄ38	使用箇所
180°	4ｄ以上	３ｄ以上	４ｄ以上	５ｄ以上	柱・梁の主筋 杭基礎のベース筋 Ｄ16以上の鉄筋
135°	6ｄ以上	３ｄ以上	４ｄ以上	５ｄ以上	あばら筋，帯筋， スパイラル筋 Ｄ13以下の鉄筋
90°	12ｄ以上	３ｄ以上	４ｄ以上	５ｄ以上	Ｔ形及びＬ形の 梁のあばら筋
135°及び90°	4ｄ以上	３ｄ以上	４ｄ以上	５ｄ以上	幅止め筋

表３．２　鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所（中間部）

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径（Ｄ） ＳＤ295Ａ，ＳＤ295Ｂ ＳＤ345，ＳＤ390(注) Ｄ16以下	ＳＤ295Ａ，ＳＤ295Ｂ ＳＤ345，ＳＤ390(注) Ｄ19～Ｄ25	ＳＤ295Ａ，ＳＤ295Ｂ ＳＤ345，ＳＤ390(注) Ｄ29～Ｄ38	使用箇所
90°以下		３ｄ以上	４ｄ以上	――	あばら筋，帯筋， スパイラル筋
		４ｄ以上 （５ｄ以上）	６ｄ以上 （６ｄ以上）	８ｄ以上 （８ｄ以上）	その他の鉄筋

（注）　SD390は、柱周囲所が、その他の鉄筋の場合に、（　）内を適用する。

3.3　組　立

鉄筋の組立は、鉄筋継手部分及び交差部の要所を径0.8mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスペーサー、吊金物等を使用して行う。

なお、スペーサーは、転倒及び外革降重等に耐えられるものとし、スラブのスペーサーは、原則として、鋼製とする。また、鋼製のスペーサーは、型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。

3.4　継手及び定着

（ａ）　鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手又は溶接継手とし、適切な特記による。

特記又は設当する章での指定がなければ、柱及び梁の主筋はガス圧接とし、その他の鉄筋は重ね継手とする。

（ｂ）　鉄筋の重ね継手は、次による。

なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。

（１）　柱及び梁の主筋及びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、特記による。耐力壁の鉄筋の重ね継手の場合、特記がなければ、40dと表3.3の重ね継手長さのうち大きい値とする。

（２）　（１）以外の鉄筋の重ね継手の長さは、表3.3による。

表３．３　鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度（Ｆｃ）(N/mm²)	Ｌ₁ フックなし	Ｌ₁ フックあり
ＳＤ295Ａ ＳＤ295Ｂ	18	45ｄ	35ｄ
	21	40ｄ	30ｄ
	24，27	35ｄ	25ｄ
	30，33，36	35ｄ	25ｄ
ＳＤ345	18	50ｄ	35ｄ
	21	45ｄ	30ｄ
	24，27	40ｄ	30ｄ
	30，33，36	35ｄ	25ｄ
ＳＤ390	21	50ｄ	35ｄ
	24，27	45ｄ	35ｄ
	30，33，36	40ｄ	30ｄ

（注）１．　Ｌ₁：重ね継手の長さ

２．　フックありの場合のＬ₁：Ｌ₁は、図3.1に示すようにフック部分1 を含まない。

３．　軽量コンクリートの場合は、表の値に5ｄを加えたものとする。

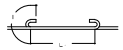


図３．１　フックありの場合の重ね継手の長さ

（３）　隣り合う継手の位置は、表3.4による。ただし、壁の場合及びスラブ筋でＤ16以下の場合は除く。

なお、先組み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合は、特記による。

表５．３．４　隣り合う継手の位置

フックありの場合	a≧Ｌ₁ ，　a≧0.4Ｌ₁
フックなしの場合	a≧Ｌ₁ ，　a≧0.4Ｌ₁
圧接継手の場合 溶接継手の場合	圧接継手・溶接継手 a≧400mm
機械式継手の場合	カップラー a≧Ｌ，400mm以上，かつ，（h+40）mm以上

（ｃ）　鉄筋の定着は、次による。

（１）　柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着の長さは、表3.5により、適用は特記による。

（２）　（１）以外の鉄筋の定着の長さは、表3.5により、適用は特記による。

表３．５　鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度（Ｆｃ）(N/mm²)	直線定着の長さ Ｌ₁	Ｌ₂	Ｌ₃ 小梁	Ｌ₃ スラブ	フックあり定着の長さ Ｌₐ	Ｌ₁	Ｌ₂ 小梁	Ｌ₂ スラブ
ＳＤ295Ａ ＳＤ295Ｂ	18	45ｄ	40ｄ	20ｄ	10ｄかつ150mm以上	35ｄ	30ｄ	10ｄ	――
	21	40ｄ	35ｄ			30ｄ	25ｄ		
	24，27	35ｄ	30ｄ			25ｄ	20ｄ		
	30，33，36	35ｄ	30ｄ			25ｄ	20ｄ		
ＳＤ345	18	50ｄ	40ｄ			35ｄ	30ｄ		
	21	45ｄ	35ｄ			30ｄ	25ｄ		
	24，27	40ｄ	35ｄ			30ｄ	25ｄ		
	30，33，36	35ｄ	35ｄ			25ｄ	20ｄ		
ＳＤ390	21	50ｄ	40ｄ			35ｄ	30ｄ		
	24，27	45ｄ	40ｄ			35ｄ	30ｄ		
	30，33，36	40ｄ	35ｄ			30ｄ	25ｄ		

（注）１．　Ｌ₁，Ｌ₂：ｄ，及びｈ，以外の定着長さ。

２．　Ｌ₃：　：鋼筋端部のおそれのない面所への定着長さ。

３．　Ｌ₃：　：小梁及びスラブの下端筋の定着長さ。ただし、基礎梁にスラブ筋はこれを受ける小梁は除く。

４．　フックありの場合のＬ₁，Ｌ₂，Ｌₐ及びＬ₃：　は、図3.7に示すようにフック部分1 を含まない。

ただし、フックありの場合は、中間階での段付けは行わない。

５．　軽量コンクリートの場合は、表の値に5ｄを加えたものとする。

（３）　定着の方法は、図3.7による。

なお、梁主筋の柱内定着において、縁に折り曲げて定着する場合は、図3.7（ｂ）に示すように、原則として柱せいの3/4倍以上とする。ただし、折り曲げた先の直線部の長さが10dに満たなくなる場合は、監督職員と協議する。

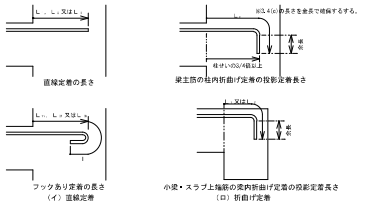


図３．２　定着の長さ

（ｄ）　その他の鉄筋の継手及び定着は、次による。

（１）　溶接金網の継手及び定着は、図3.8による。

なお、Ｌ　，及びＬ，　は表3.5の（注）による。

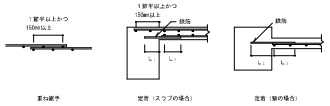


図３．３　溶接金網の継手及び定着

（２）　スパイラル筋の継手及び定着は、図3.4による。

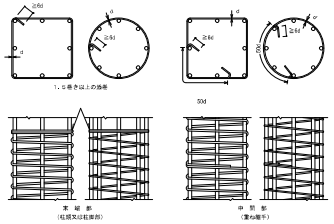


図３．４　スパイラル筋の継手及び定着

3.5　鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

（ａ）　鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表3.6による。ただし、柱及び梁の主筋にＤ29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表３．６　鉄筋の最小かぶり厚さ（単位：mm）

構造部分の種別				最小かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ，耐力壁以外の壁	仕上げあり		20
		仕上げなし		30
	柱，梁，耐力壁	屋内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
		屋外	仕上げあり	30
			仕上げなし	40
	擁壁，耐圧スラブ			40
土に接する部分	柱，梁，スラブ，壁			*40
	基礎，擁壁，耐圧スラブ			*60
煙突等高熱を受ける部分				60

（注）１．　*印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。

２．　「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の部久性上要求でない仕上げ（仕上塗材、壁紙等）のものを除く。

３．　スラブ，梁，あばら及び幅壁で、雰囲気に接する部分のかぶり厚さには、普コンクリートの厚さを適用する。

４．　柱梁補の場合のかぶり厚さは、最大値からとする。

５．　塩害を受けるおそれのある雰囲気、耐久性上不利な施設は、特記による。

（ｂ）　柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mm を加えた数値を標準とする。

（ｃ）　鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

（ｄ）　鉄筋相互のあきは図3.5により、次の値のうち最大のもの以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合のあきは、特記による。

（１）　粗骨材の最大寸法の1.25倍

（２）　25mm

（３）　隣り合う鉄筋の平均径（3.1(aによるｄ）の1.5倍

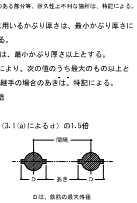


図３．５　鉄筋相互のあき

（ｅ）　鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、ｄ，ｄ，ｄ，ｄによる。

（ｆ）　貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、(c)による。

3.6　鉄筋の保護

（ａ）　鉄筋の短立筋、スラブ、梁等には、歩み板を置き渡し、直接鉄筋の上を歩かないようにする。

（ｂ）　コンクリート打込みによる鉄筋の乱れは、なるべく少なくする。

特に、かぶり厚さ、上端筋の位置及び間隔の保持に努める。

公共建築工事標準仕様書（建築工事編）より

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

4　基礎及び基礎梁の配筋

4.1　杭基礎

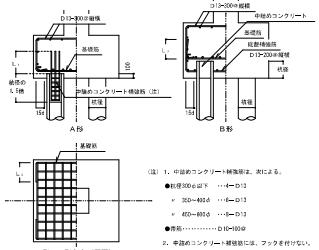
杭基礎の配筋及び杭頭部の補強方法は、次による。

なお、本文中の３つの数字は、公共建築工事標準仕様書（建築工事編）の **章・節・項** を示している。また、図中の寸法の単位はmmとし、単位記号は省略する。（以下、この頁図において同じ。）。

（１）　既製コンクリート杭の杭頭部の補強方法は、図1.1のＡ形又はＢ形とし、適用は特記による。特記がなければ、Ｂ形とする。

（２）　中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。

（３）　既製コンクリート杭以外の場合は、特記による。



（注）1．中詰めコンクリート補強筋は、次による。
●杭径300φ以下　…－D12
〃　350～400φ　…－D13
〃　450～600φ　…－D13
●帯筋……D10－@90
2．中詰めコンクリート補強筋には、フックを付けない。

図１．１　杭基礎の配筋及び杭頭部の補強方法

4.2　直接基礎

（ａ）　直接基礎（独立基礎）の場合の配筋は、図1.2による。

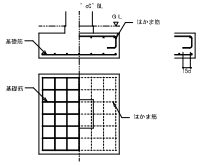


図１．２　独立基礎の配筋

（ｂ）　直接基礎（連続基礎）の場合の配筋は、図1.3による。

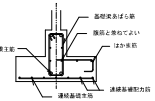
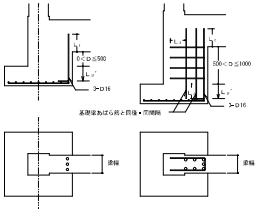


図１．３　連続基礎の配筋

4.3　基礎接合部の補強

基礎接合部の補強配筋は、図1.4による。



（注）Ｌ ｄ　を確保できない場合は、3.4(c)(3)によることができる。

図１．４　基礎接合部の補強配筋

4.4　基礎梁

（ａ）　一般事項

（１）　上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる。

（２）　梁筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図1.5による。

（３）　梁筋を柱内に定着する場合は、3.1(a)(4)による。

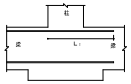


図１．５　梁筋の基礎梁内への定着

（ｂ）　独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図1.6による。

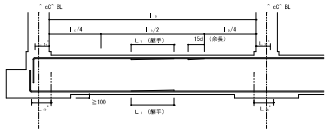


図１．６　主筋の継手、定着及び余長（その１）

（ｃ）　独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図1.7による。ただし、自圧スラブが付く場合は、（ｄ）による。

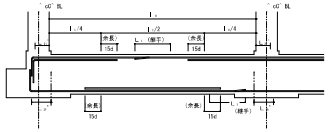


図１．７　主筋の継手、定着及び余長（その２）

（ｄ）　連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図1.8による。

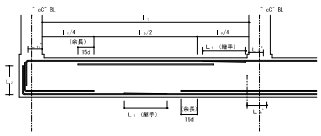


図１．８　主筋の継手、定着及び余長（その３）

（注）1．（）内数のない寸法は3.1による。
2．━━━　印は、継手及び余長位置を示す。
3．　端部は、柱芯位置の場合を示す。
4．　Ｌ ｄ　を確保できない場合は3.4(c)(3)によることができる。

4.5　基礎梁のあばら筋等

（ａ）　あばら筋

（１）　あばら筋の径及び間隔は、特記による。

（２）　あばら筋組立ての形及びフックの位置は、3.2(b)による。ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図1.9によることができる。

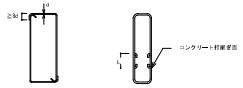


図１．９　あばら筋組立の形及びフックの位置

（ｂ）　腹筋及び幅止め筋は、3.2による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は、特記による。

（ｃ）　あばら筋の割付けは、3.2(d)による。

4.6　基礎梁の補強

（ａ）　打増し補強筋は、3.3による。

（ｂ）　土間スラブ等の打継ぎ補強筋は、5.3(c)及び(d)による。

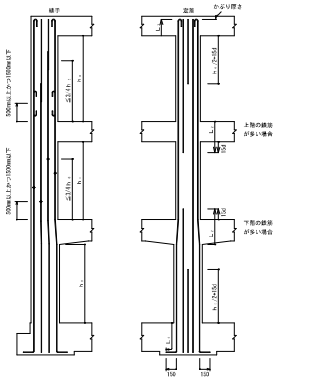
5　柱の配筋

5.1　柱

柱主筋の継手、定着及び余長は、次による。

（１）　継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下、かつ、3/4ｈ ｃ（ｈ ｃ　は柱の内法高さ）以下とする。

（２）　継手、定着及び余長は図2.1による。ただし、柱脚定着長さし　　ｃが確保できない場合は、オールフック付とする。



（注）1．　5.3.2［加工］b)(1)で定めた数値には、フックを付ける。
2．　隣り合う継手の位置は、表5.4による。
3．　継手、定着は、すべての柱に適用できる。

図２．１　柱主筋の継手、定着及び余長

5.2　帯　筋

（ａ）　帯筋の種類及び間隔は、特記による。

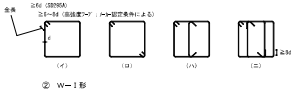
（ｂ）　帯筋相立ての形は図2.2により、適用は特記による。特記がなければ、次による。

（１）　Ｈ形とする。

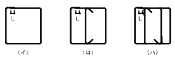
（２）　Ｈ形の135°曲げのフックが困難な場合は、Ｗ－Ｉ形とする。

（３）　溶接する場合の溶接長さしは、両面フレア溶接の場合は5ｄ以上、片面フレア溶接の場合は10ｄ以上とする。

（１）　Ｈ形

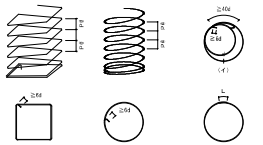


②　Ｗ－Ｉ形



（注）溶接は、構造の組立て前に行う。

③　ＳＰ形（スパイラル筋）　　④　丸形

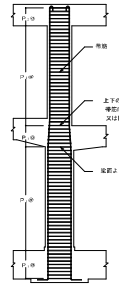


（注）　ＳＰ形において、柱頭及び柱脚の側面は、1.5倍以上の拡径を行う。

図２．２　帯筋組立の形

（ｃ）　フック及び継手の位置は、交互とする。

（ｄ）　帯筋の割付けは、特記による。特記がなければ、図2.3による。



（注）1．　図示のない事項については、
一般の場合に準じ、
2．　柱に取りつく梁に段差がある場合、帯筋の調節をＦ ｉ（Ｉ又はＰ ｉ）をとする調節は、その柱に取りつくすべての梁を考慮して適用する。
なお、Ｐ　ｉ、Ｐ ｉ、付は、特記された帯筋の間隔を示す。

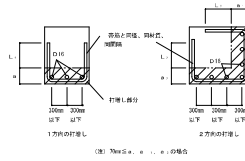
図２．３　帯筋の割り付け

5.3　柱の打ち増し補強

（ａ）　柱の打増し補強配筋は図2.4により、打増し幅が70mm以上の場合を示す。

（ｂ）　帯筋と同一方向の補強筋は、帯筋と同径・同材質・同間隔とし、定着長さＬ ｄとする。

（ｃ）　軸方向の補強筋間隔は300mm以下とする。



（注）70mm≦ａ ｉ、ｂ ｉ、ｃ ｉの場合

図２．４　柱の打増し補強配筋

6　梁の配筋

6.1　大　梁

（ａ）　大梁主筋の継手及び定着の一般事項

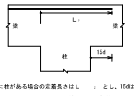
（１）　継手中心位置は、次による。

上端筋：中央Ｌ ｏ/2以内

下端筋：柱面より梁せい（Ｄ）以上離し、Ｌ ｏ/4を加えた範囲以内

（２）　継手中央部の位置、継手長さはＬ　　、とし、定着長さ及び余長は図3.3及び図3.4による。

（３）　梁主筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、(4)により柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図3.1による。



（注）　主筋に柱がある場合の定着長さは、　　、とし、15dは省略できる。

図３．１　梁主筋の梁内定着

（４）　梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は、次による。

なお、定着の方法は、5.3.4［継手及び定着］(C)(2)による。

上端筋：曲げ降ろす。

下端筋（一段）：曲げ上げる。ただし、やむを得ない場合は、監督職員の承諾を受けて、曲げ降ろすことができる。

下端筋（ハンチ付き）：曲げ降ろす。

（５）　梁にハンチをつける場合、その傾斜は特記による。特記がなければ１：４とする。

（６）　段違い梁は、図3.2によることができる。

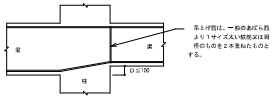
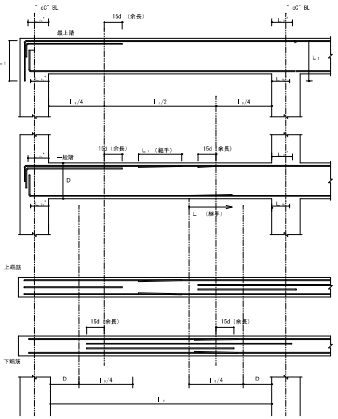


図３．２　段違い梁

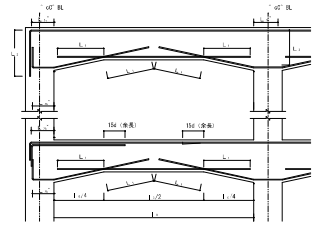
（ｂ）　ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図3.3による。



（注）　1．　5.3.2［加工］(b)(2)で定めた数値には、フックを付ける。
2．　━━━　印は、継手及び余長を示す。
3．　破線は、柱内法寸法の場合を示す。
4．　Ｌ ｄ　を確保できない場合は3.4(c)(3)によることができる。

図３．３　大梁の重ね継手、定着及び余長

（ｃ）　ハンチのある場合の定着及び余長は、図3.4による。



（注）　1．　5.3.2［加工］(b)(2)で定めた数値には、フックを付ける。
2．　━━━　印は、継手及び余長を示す。
3．　実内法寸法の破断ラ線部が確認するときは、　　のように引き通すことができる。
4．　破線は、柱芯位置を示す。
5．　Ｌ ｄ　を確保できない場合は、3.4(c)(3)によることができる。

図３．４　ハンチのある大梁の定着及び余長

6.2　あばら筋等

（ａ）　あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項

（１）　あばら筋の種類、径及び間隔は、特記による。

（２）　腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。

（３）　腹梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、特記による。特記がなければ、　とする。

（４）　幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10－1000@程度とする。

（ｂ）　あばら筋相立ての形及びフックの位置

（１）　形は、図3.5(イ)とする。ただし、Ｌ形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、Ｔ形梁の場合は(ロ)～(ニ)とすることができる。

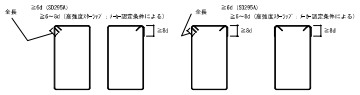


図３．５　あばら筋組立の形

（２）　フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、Ｌ形ではスラブのつく側、Ｔ形では交互とする。

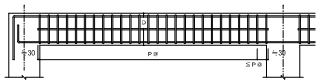
なお、(ハ)の場合は、スラブのつく側を９０°折曲げとする。

公共建築工事標準仕様書（建築工事編）より

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）

（ｃ） あばら筋の割付け

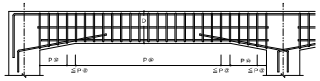
（１） 間隔が一様で、ハンチのない場合は、図3.6による。



（注）１． あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
２． 図中のＰ₀₀は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図３．６ あばら筋の割付け（その１）

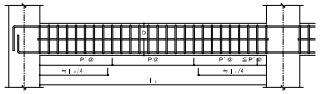
（２） 間隔が一様で、ハンチのある場合は、図3.7による。



（注）１． あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
２． 図中のＰ₀₀は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図３．７ あばら筋の割付け（その２）

（３） 梁の端部で間隔の異なる場合は、図3.8による。



（注）１． あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
２． 図中のＰ₀₀、Ｐ₁₁は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図３．８ あばら筋の割付け（その３）

（ｄ） 腹筋及び幅止め筋

（１） 一般の梁は、図3.9による。

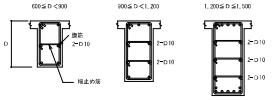


図３．９ 腹筋及び幅止め筋（その１）

（２） 壁梁の場合は、図3.10による。

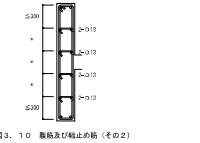
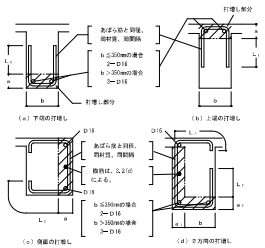


図３．１０ 腹筋及び幅止め筋（その２）

6.3 梁の打増し補強

（ａ） 梁の打増し補強配筋は図3.11により、打増し幅が70mm以上の場合を示す。

（ｂ） 帯筋と同一方向の補強筋は、帯筋と同径・同材質・同間隔とし、定着長さＬ₁とする。



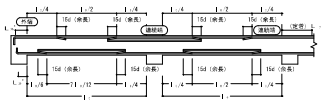
（注）Ｐ₁₁≦ａ、ａ₁、ａ₂の場合

図３．１１ 梁の打増し補強配筋

6.4 小 梁

（ａ） 小梁上筋の継手、定着及び余長

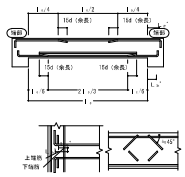
（１） 連続小梁の場合は、図3.12による。



（注）１． 柱は、継手及び余長位置を示す。
２． 図中のない寸法は、L₁及び L₂に準ずる。

図３．１２ 小梁主筋の継手、定着及び余長（その１）

（２） 単独小梁の場合は、図3.13による。



（注）１． 柱は、継手及び余長位置を示す。
２． 図示のない寸法は、L₁及び L₂に準ずる。
３． L₁、L₂、L₃、L₄ を確保できない場合は3.4(c)(3)によることができる。

図３．１３ 小梁主筋の継手、定着及び余長（その２）

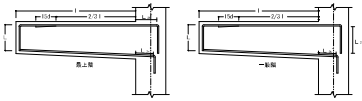
（ｂ） あばら筋は、3.2による。

（ｃ） 打増し補強筋は、3.3による。

6.5 片持梁

（ａ） 片持梁主筋の定着及び余長

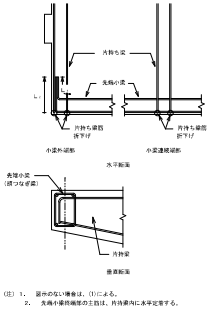
（１） 先端に小梁のない場合は、図3.14による。



（注）１． 図示のない寸法は、L₁による。
２． ━━━ は、柱、余長を示す。
３． 先端の折曲げの長さ L₅は、梁せいから かぶり厚さを除いた長さとする。
４． 柱幅を引き通せない場合は、取付い強度に応じて、ただし、柱に取
余う場合は、金物引き通せる場合でも、上端筋は、２本以上を柱に定着する。
５． L₁、L₂、L₃、L₄ を確保できない場合は3.4(c)(3)によることができる。

図３．１４ 片持梁主筋の定着及び余長（先端に小梁のない場合）

（２） 先端に小梁がある場合は、図3.15による。



（注）１． 図示のない場合は、(1)による。
２． 先端小梁形状部分上筋は、片持梁内に水平定着する。
３． 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する長い部としてよい。

図３．１５ 片持梁主筋の定着

（ｂ） あばら筋は、3.2による。

（ｃ） 打増し補強筋は、3.3による。

7 壁，その他の配筋

7.1 壁

（ａ） 一般事項

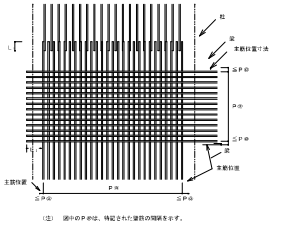
（１） 壁配筋の重ね継手及び定着の長さは、特記がなければＬ　　とする。

（２） 土圧等を受ける壁及び耐震壁として特記されたものは、重ね継手長さをＬ　、定着長さをＬ　とする。

（３） 重ね継手及び定着の長さが取れない場合は、配筋施工と協議する。

（４） 幅止め筋は、縦横ともＤ10-1,000㎡程度とする。

（５） 一般部壁の配筋は、図4.1による。



（注） 図中のＰ₀₀は、特記された壁筋の間隔を示す。

図４．１ 壁の配筋

（ｂ） 壁の基準配筋は表4.1により、種別は特記による。

表４．１ 壁の基準配筋

種 別	縦 筋 及 び 横 筋	断 面 図
Ｗ１０	Ｄ10-250㎡シングル	100
Ｗ１２	Ｄ10-200㎡シングル	120
Ｗ１５Ａ	Ｄ10-150㎡シングル	150
Ｗ１５Ｂ	Ｄ10-100㎡シングル	
Ｗ１８Ａ	Ｄ10-200㎡ダブル	180
Ｗ１８Ｂ	Ｄ10-150㎡ダブル	
Ｗ２０Ａ	Ｄ10-200㎡ダブル	200
Ｗ２０Ｂ	Ｄ10-150㎡ダブル	

（注） 壁筋の配筋間隔は、確定しない。

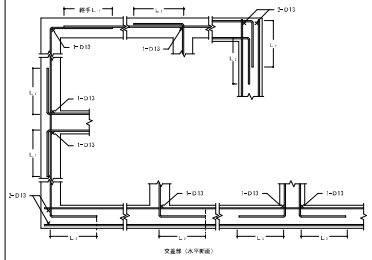
（ｃ） 片持スラブ形階段を受ける壁の基準配筋は表4.2により、種別は特記による。

表４．２ 片持スラブ形階段を受ける壁の基準配筋

種別	縦筋及び横筋		断面図	階段の配筋種別（表6.1）
ＫＷ１	縦 筋	Ｄ13-200㎡ ダブル	150	ＫＡ１ ＫＡ３
	横 筋	Ｄ10-200㎡ ダブル		
ＫＷ２	縦 筋	Ｄ13-150㎡ ダブル	200	ＫＡ２ ＫＡ４
	横 筋	Ｄ10-200㎡ ダブル		

（注） 縦筋は、最深の外側に配筋する。

（ｄ） 壁の交差部及び隅部の配筋は、図4.2による。



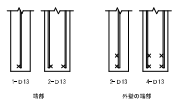


図４．２ 壁の交差部及び隅部の配筋

7.2 壁の補強

（ａ） 壁開口部の補強

［１］ 耐震壁を除く壁開口部の補強筋はＡ形は表4.3、Ｂ形は表4.4とし、適用は特記による。特記がなければ、Ｂ形とする。

なお、耐震壁の補強筋は、特記による。

表４．３ 壁開口部補強筋（Ａ形）

壁の種別	補強筋	
	縦、横	斜め
Ｗ12，Ｗ15	１－Ｄ13	１－Ｄ13
Ｗ18，Ｗ20	２－Ｄ13	２－Ｄ13

表４．４ 壁開口部補強筋（Ｂ形）

壁の種別	補強筋	
	縦、横	斜め
Ｗ12，Ｗ15	２－Ｄ13	１－Ｄ13
Ｗ18，Ｗ20	４－Ｄ13	２－Ｄ13

（２） 壁開口部補強の定着長さは、図4.3による。

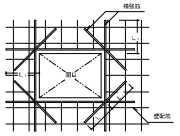


図４．３ 壁開口部補強筋の定着長さ

（３） 開口部が柱及び梁に接する部分又は最大径が300mm以下で鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

（ｂ） コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記による。

（ｃ） 壁の打増し補強配筋

壁の打増し補強配筋は図4.4により、打増し厚さａが50mm以上の場合に適用する。

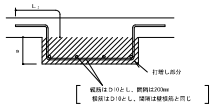


図４．４ 壁の打増し補強配筋

7.3 パラペット

パラペットの配筋は、表4.5による。

表４．５ パラペットの配筋

コンクリート厚さ	方向	配筋	先端補強筋
特記による	縦	Ｄ10-150ダブル	Ｄ10-150㎡ ─Ｄ13 ─Ｄ13
	横	Ｄ10-150ダブル	─Ｄ13 Ｄ10-150㎡ ─Ｄ13

8 スラブの配筋

8.1 スラブ

スラブの配筋は、次による。

（１） スラブの基準配筋（Ｓ形基準配筋）は表5.1及び図5.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、特記による。

表５．１ Ｓ形基準配筋

配筋種別	短辺方向(主筋)全域	長辺方向(主筋)全域	配筋種別	短辺方向(主筋)全域	長辺方向(主筋)全域
Ｓ１	Ｄ13-100㎡	Ｄ13-100㎡	Ｓ８	Ｄ10，Ｄ13-150㎡	Ｄ10-150㎡
Ｓ２	同 上	Ｄ13-150㎡	Ｓ９	同 上	Ｄ10-200㎡
Ｓ３	同 上	Ｄ10，Ｄ13-150㎡	Ｓ10	Ｄ10，Ｄ13-200㎡	Ｄ10，Ｄ13-200㎡
Ｓ４	Ｄ13-150㎡	Ｄ13-150㎡	Ｓ11	同 上	Ｄ10-200㎡
Ｓ５	同 上	Ｄ10，Ｄ13-150㎡	Ｓ12	同 上	Ｄ10-250㎡
Ｓ６	同 上	Ｄ10-150㎡	Ｓ13	Ｄ10-200㎡	Ｄ10-200㎡
Ｓ７	Ｄ10，Ｄ13-150㎡	Ｄ10，Ｄ13-150㎡	Ｓ14	同 上	Ｄ10-250㎡

（注） 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

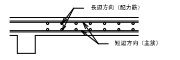


図５．１ スラブの配筋

（２） 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。

（３） 鉄筋の重ね継手長さは、Ｌ　　とする。

（４） 定着長さ及び受け筋は、図5.2による。ただし、引き通すことができない場合は、図5.3により梁内に定着する。

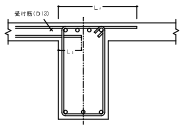
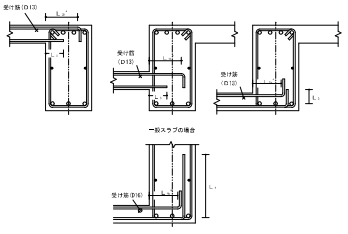


図５．２ スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その１）



（注）Ｌ₂₀ を確保できない場合は、3.4(c)(3)によることができる。

図５．３ スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その２）

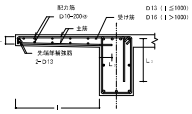
8.2 片持スラブ

片持スラブの配筋は、次による。

（１） 片持スラブの基準配筋（ＣＳ形基準配筋）は表5.2並びに図5.4及び図5.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、特記による。

表５．２ ＣＳ形基準配筋

配筋種別		主筋	配筋種別		主筋
ＣＳ１	上	Ｄ13-100㎡	ＣＳ５	上	Ｄ10-200㎡
	下	Ｄ13-200㎡		下	Ｄ10-400㎡
ＣＳ２	上	Ｄ13-150㎡	ＣＳ６	上	Ｄ10，Ｄ13-200㎡
	下	Ｄ13-300㎡		下	──
ＣＳ３	上	Ｄ10，Ｄ13-150㎡	ＣＳ７	上	Ｄ10-200㎡
	下	Ｄ10，Ｄ13-300㎡		下	──
ＣＳ４	上	Ｄ10，Ｄ13-200㎡			
	下	Ｄ10-200㎡			

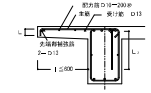


（注）１． 先端の折曲げ長さＬ₅は、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
２． スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

図５．４ 片持スラブの配筋（ＣＳ１からＣＳ５）

公共建築工事標準仕様書（建築工事編）より

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（４）



（注）１．先端の斜め切りは、スラブ厚さより小さい厚さを除いた長さとする。
２．スラブに段差のない場合は、土台を引き通してスラブに定着してもよい。

図５．５　片持スラブの配筋（ＣＳ６及びＣＳ７）

（２）　先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

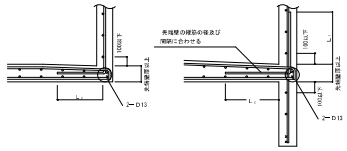


図５．６　先端に壁が付く場合の配筋

（３）　出隅部

（ｉ）　補強の配筋は、特記による。特記がなければ、D10−100@ダブルとする。配筋方法は、図5.7による。

（ii）　出隅受け部（図5.7の斜線部分）の補強筋は、特記による。

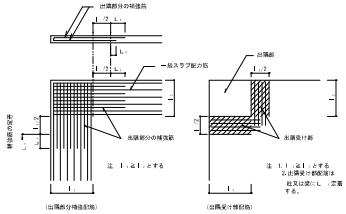


図５．７　片持スラブ出隅部の補強配筋

8.3　スラブ等の補強

（ａ）　スラブ開口部の補強

スラブ開口部の補強は、特記による。特記がなければ、次による。

（ｉ）　スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は、図5.8により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2−D10（ｌ＝２Ｌ　　）シングルを上下筋の内側に配筋する。

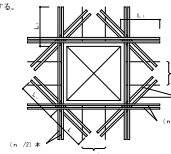


図５．８　スラブ開口部の補強配筋

（ii）　スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を縦やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

（ｂ）　厨房スラブの補強

厨房スラブの出隅及び入隅部分には、図5.9により、補強筋を上筋筋の下側に配置する。

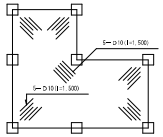


図５．９　出隅部及び入隅部の補強配筋

（ｃ）　土間スラブの打継ぎ補強

基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、特記による。特記がなければ、図5.10による。ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでＳ形の配筋によるものをいう。

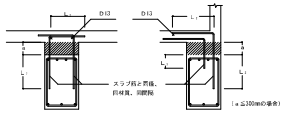


図５．１０　打継ぎ補強配筋

（ｄ）　土間コンクリートの補強

土間コンクリートの補強筋は、特記による。

なお、基礎梁との接合部は、図5.11による。

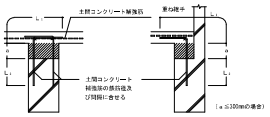


図５．１１　土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

（ｅ）　段差のあるスラブの補強

150mm以下の段差のあるスラブの補強は、図5.12による。

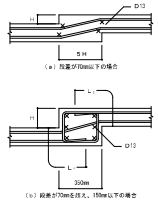


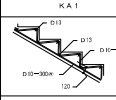
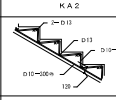
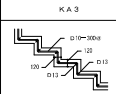
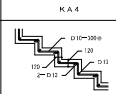
図５．１２　段差のあるスラブ補強配筋

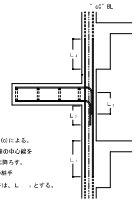
９　階段の配筋

9.1　片持スラブ形階段

片持スラブ形階段の基準配筋は、表6.1及び図6.1により、寸法及び配筋種別は、特記による。

表６．１　片持スラブ形階段の基準配筋

配筋種別	ＫＡ１	ＫＡ２
配筋図		
配筋種別	ＫＡ３	ＫＡ４
配筋図		



(注) 1.鉄筋径は、6.1(c)による。
2.階段を折り、梁の中心線を越えてから梁に開ろす。
3.スラブ配力筋の鉄手及び定着の長さは、Ｌ　　とする。

図６．１　片持スラブ形階段配筋の定着

9.2　二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段の基準配筋は表6.2並びに図6.2及び図6.3により、寸法及び配筋種別は、特記による。

表６．２　二辺固定スラブ形基準配筋

配筋種別	スラブ厚さｔ（mm）	上端筋、下端筋共　全域
ＫＢ１	150	D13−200@
ＫＢ２	150	D13−150@
ＫＢ３	150	D13−100@
ＫＢ４	180	D13, D16−150@
ＫＢ５	180	D16−150@
ＫＢ６	180	D16−125@
ＫＢ７	200	D16−100@

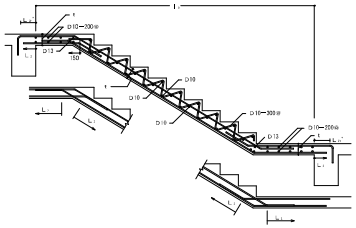
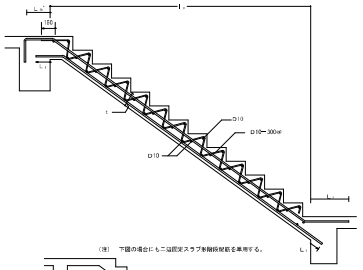


図６．２　二辺固定スラブ形階段配筋（その１）



(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を採用する。

図６．３　二辺固定スラブ形階段配筋（その２）

（注）Ｌ₃　を確保できない場合は、3.4(a)(3)によることができる。

１０　梁貫通孔その他の配筋

10.1　梁貫通孔

（ａ）　梁貫通孔は、次による。

（１）　梁貫通孔補強筋の名称等は、図7.1による。

（２）　孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。

（３）　孔の上下方向の位置の限度は、図7.2による。

（４）　孔の中心位置の限度は、柱及び直交する梁（小梁）の面から原則として1.2D（Dは梁せい）以上離す。

（５）　孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の３倍以上とする。

（６）　縦筋及び上下横筋は、あばら筋の形に配筋する。

（７）　補強筋は、主筋の内側とする。やむを得ない場合は、監督員の承諾を受けて外側とすることができる。また、鉄筋の定着長さは、図7.3による。

（８）　孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、補強を省略することができる。

（９）　溶接金網の余長は１格子以上とし、突出しは10mm以上とする。

（10）　溶接金網の貫通孔部分には、鋼筋 ⌐13@のリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に４箇所以上溶接する。

（11）　溶接金網の割付け始点は、梁筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

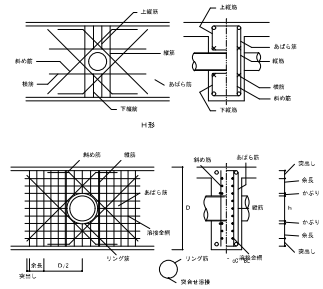
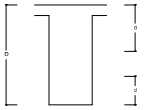
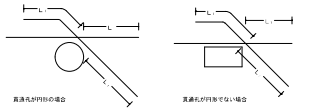


図７．１　梁貫通孔補強筋の名称等



500≦ D ＜700　　d ≧175
700≦ D ＜900　　d ≧200
900≦ D　　d ≧250

図７．２　孔の上下方向の位置の限度


L
L₁
L₂
L₃
L₄
L₅
L₆
L₇
L₈
L₉
L₁₀
L₁₁
L₁₂
L₁₃
L₁₄
L₁₅
L₁₆
L₁₇
L₁₈
L₁₉
L₂₀
L₂₁
L₂₂
L₂₃
L₂₄
L₂₅
L₂₆
L₂₇
L₂₈
L₂₉
L₃₀
L₃₁
L₃₂
L₃₃
L₃₄
L₃₅
L₃₆
L₃₇
L₃₈
L₃₉
L₄₀
L₄₁
L₄₂
L₄₃
L₄₄
L₄₅
L₄₆
L₄₇
L₄₈
L₄₉
L₅₀
L₅₁
L₅₂
L₅₃
L₅₄
L₅₅
L₅₆
L₅₇
L₅₈
L₅₉
L₆₀
L₆₁
L₆₂
L₆₃
L₆₄
L₆₅
L₆₆
L₆₇
L₆₈
L₆₉
L₇₀
L₇₁
L₇₂
L₇₃
L₇₄
L₇₅
L₇₆
L₇₇
L₇₈
L₇₉
L₈₀
L₈₁
L₈₂
L₈₃
L₈₄
L₈₅
L₈₆
L₈₇
L₈₈
L₈₉
L₉₀
L₉₁
L₉₂
L₉₃
L₉₄
L₉₅
L₉₆
L₉₇
L₉₈
L₉₉
L₁₀₀
L₁₀₁
L₁₀₂
L₁₀₃
L₁₀₄
L₁₀₅
L₁₀₆
L₁₀₇
L₁₀₈
L₁₀₉
L₁₁₀
L₁₁₁
L₁₁₂
L₁₁₃
L₁₁₄
L₁₁₅
L₁₁₆
L₁₁₇
L₁₁₈
L₁₁₉
L₁₂₀
L₁₂₁
L₁₂₂
L₁₂₃
L₁₂₄
L₁₂₅
L₁₂₆
L₁₂₇
L₁₂₈
L₁₂₉
L₁₃₀
L₁₃₁
L₁₃₂
L₁₃₃
L₁₃₄
L₁₃₅
L₁₃₆
L₁₃₇
L₁₃₈
L₁₃₉
L₁₄₀
L₁₄₁
L₁₄₂
L₁₄₃
L₁₄₄
L₁₄₅
L₁₄₆
L₁₄₇
L₁₄₈
L₁₄₉
L₁₅₀
L₁₅₁
L₁₅₂
L₁₅₃
L₁₅₄
L₁₅₅
L₁₅₆
L₁₅₇
L₁₅₈
L₁₅₉
L₁₆₀
L₁₆₁
L₁₆₂
L₁₆₃
L₁₆₄
L₁₆₅
L₁₆₆
L₁₆₇
L₁₆₈
L₁₆₉
L₁₇₀
L₁₇₁
L₁₇₂
L₁₇₃
L₁₇₄
L₁₇₅
L₁₇₆
L₁₇₇
L₁₇₈
L₁₇₉
L₁₈₀
L₁₈₁
L₁₈₂
L₁₈₃
L₁₈₄
L₁₈₅
L₁₈₆
L₁₈₇
L₁₈₈
L₁₈₉
L₁₉₀
L₁₉₁
L₁₉₂
L₁₉₃
L₁₉₄
L₁₉₅
L₁₉₆
L₁₉₇
L₁₉₈
L₁₉₉
L₂₀₀
L₂₀₁
L₂₀₂
L₂₀₃
L₂₀₄
L₂₀₅
L₂₀₆
L₂₀₇
L₂₀₈
L₂₀₉
L₂₁₀
L₂₁₁
L₂₁₂
L₂₁₃
L₂₁₄
L₂₁₅
L₂₁₆
L₂₁₇
L₂₁₈
L₂₁₉
L₂₂₀
L₂₂₁
L₂₂₂
L₂₂₃
L₂₂₄
L₂₂₅
L₂₂₆
L₂₂₇
L₂₂₈
L₂₂₉
L₂₃₀
L₂₃₁
L₂₃₂
L₂₃₃
L₂₃₄
L₂₃₅
L₂₃₆
L₂₃₇
L₂₃₈
L₂₃₉
L₂₄₀
L₂₄₁
L₂₄₂
L₂₄₃
L₂₄₄
L₂₄₅
L₂₄₆
L₂₄₇
L₂₄₈
L₂₄₉
L₂₅₀
L₂₅₁
L₂₅₂
L₂₅₃
L₂₅₄
L₂₅₅
L₂₅₆
L₂₅₇
L₂₅₈
L₂₅₉
L₂₆₀
L₂₆₁
L₂₆₂
L₂₆₃
L₂₆₄
L₂₆₅
L₂₆₆
L₂₆₇
L₂₆₈
L₂₆₉
L₂₇₀
L₂₇₁
L₂₇₂
L₂₇₃
L₂₇₄
L₂₇₅
L₂₇₆
L₂₇₇
L₂₇₈
L₂₇₉
L₂₈₀
L₂₈₁
L₂₈₂
L₂₈₃
L₂₈₄
L₂₈₅
L₂₈₆
L₂₈₇
L₂₈₈
L₂₈₉
L₂₉₀
L₂₉₁
L₂₉₂
L₂₉₃
L₂₉₄
L₂₉₅
L₂₉₆
L₂₉₇
L₂₉₈
L₂₉₉
L₃₀₀
L₃₀₁
L₃₀₂
L₃₀₃
L₃₀₄
L₃₀₅
L₃₀₆
L₃₀₇
L₃₀₈
L₃₀₉
L₃₁₀
L₃₁₁
L₃₁₂
L₃₁₃
L₃₁₄
L₃₁₅
L₃₁₆
L₃₁₇
L₃₁₈
L₃₁₉
L₃₂₀
L₃₂₁
L₃₂₂
L₃₂₃
L₃₂₄
L₃₂₅
L₃₂₆
L₃₂₇
L₃₂₈
L₃₂₉
L₃₃₀
L₃₃₁
L₃₃₂
L₃₃₃
L₃₃₄
L₃₃₅
L₃₃₆
L₃₃₇
L₃₃₈
L₃₃₉
L₃₄₀
L₃₄₁
L₃₄₂
L₃₄₃
L₃₄₄
L₃₄₅
L₃₄₆
L₃₄₇
L₃₄₈
L₃₄₉
L₃₅₀
L₃₅₁
L₃₅₂
L₃₅₃
L₃₅₄
L₃₅₅
L₃₅₆
L₃₅₇
L₃₅₈
L₃₅₉
L₃₆₀
L₃₆₁
L₃₆₂
L₃₆₃
L₃₆₄
L₃₆₅
L₃₆₆
L₃₆₇
L₃₆₈
L₃₆₉
L₃₇₀
L₃₇₁
L₃₇₂
L₃₇₃
L₃₇₄
L₃₇₅
L₃₇₆
L₃₇₇
L₃₇₈
L₃₇₉
L₃₈₀
L₃₈₁
L₃₈₂
L₃₈₃
L₃₈₄
L₃₈₅
L₃₈₆
L₃₈₇
L₃₈₈
L₃₈₉
L₃₉₀
L₃₉₁
L₃₉₂
L₃₉₃
L₃₉₄
L₃₉₅
L₃₉₆
L₃₉₇
L₃₉₈
L₃₉₉
L₄₀₀
L₄₀₁
L₄₀₂
L₄₀₃
L₄₀₄
L₄₀₅
L₄₀₆
L₄₀₇
L₄₀₈
L₄₀₉
L₄₁₀
L₄₁₁
L₄₁₂
L₄₁₃
L₄₁₄
L₄₁₅
L₄₁₆
L₄₁₇
L₄₁₈
L₄₁₉
L₄₂₀
L₄₂₁
L₄₂₂
L₄₂₃
L₄₂₄
L₄₂₅
L₄₂₆
L₄₂₇
L₄₂₈
L₄₂₉
L₄₃₀
L₄₃₁
L₄₃₂
L₄₃₃
L₄₃₄
L₄₃₅
L₄₃₆
L₄₃₇
L₄₃₈
L₄₃₉
L₄₄₀
L₄₄₁
L₄₄₂
L₄₄₃
L₄₄₄
L₄₄₅
L₄₄₆
L₄₄₇
L₄₄₈
L₄₄₉
L₄₅₀
L₄₅₁
L₄₅₂
L₄₅₃
L₄₅₄
L₄₅₅
L₄₅₆
L₄₅₇
L₄₅₈
L₄₅₉
L₄₆₀
L₄₆₁
L₄₆₂
L₄₆₃
L₄₆₄
L₄₆₅
L₄₆₆
L₄₆₇
L₄₆₈
L₄₆₉
L₄₇₀
L₄₇₁
L₄₇₂
L₄₇₃
L₄₇₄
L₄₇₅
L₄₇₆
L₄₇₇
L₄₇₈
L₄₇₉
L₄₈₀
L₄₈₁
L₄₈₂
L₄₈₃
L₄₈₄
L₄₈₅
L₄₈₆
L₄₈₇
L₄₈₈
L₄₈₉
L₄₉₀
L₄₉₁
L₄₉₂
L₄₉₃
L₄₉₄
L₄₉₅
L₄₉₆
L₄₉₇
L₄₉₈
L₄₉₉
L₅₀₀
L₅₀₁
L₅₀₂
L₅₀₃
L₅₀₄
L₅₀₅
L₅₀₆
L₅₀₇
L₅₀₈
L₅₀₉
L₅₁₀
L₅₁₁
L₅₁₂
L₅₁₃
L₅₁₄
L₅₁₅
L₅₁₆
L₅₁₇
L₅₁₈
L₅₁₉
L₅₂₀
L₅₂₁
L₅₂₂
L₅₂₃
L₅₂₄
L₅₂₅
L₅₂₆
L₅₂₇
L₅₂₈
L₅₂₉
L₅₃₀
L₅₃₁
L₅₃₂
L₅₃₃
L₅₃₄
L₅₃₅
L₅₃₆
L₅₃₇
L₅₃₈
L₅₃₉
L₅₄₀
L₅₄₁
L₅₄₂
L₅₄₃
L₅₄₄
L₅₄₅
L₅₄₆
L₅₄₇
L₅₄₈
L₅₄₉
L₅₅₀
L₅₅₁
L₅₅₂
L₅₅₃
L₅₅₄
L₅₅₅
L₅₅₆
L₅₅₇
L₅₅₈
L₅₅₉
L₅₆₀
L₅₆₁
L₅₆₂
L₅₆₃
L₅₆₄
L₅₆₅
L₅₆₆
L₅₆₇
L₅₆₈
L₅₆₉
L₅₇₀
L₅₇₁
L₅₇₂
L₅₇₃
L₅₇₄
L₅₇₅
L₅₇₆
L₅₇₇
L₅₇₈
L₅₇₉
L₅₈₀
L₅₈₁
L₅₈₂
L₅₈₃
L₅₈₄
L₅₈₅
L₅₈₆
L₅₈₇
L₅₈₈
L₅₈₉
L₅₉₀
L₅₉₁
L₅₉₂
L₅₉₃
L₅₉₄
L₅₉₅
L₅₉₆
L₅₉₇
L₅₉₈
L₅₉₉
L₆₀₀
L₆₀₁
L₆₀₂
L₆₀₃
L₆₀₄
L₆₀₅
L₆₀₆
L₆₀₇
L₆₀₈
L₆₀₉
L₆₁₀
L₆₁₁
L₆₁₂
L₆₁₃
L₆₁₄
L₆₁₅
L₆₁₆
L₆₁₇
L₆₁₈
L₆₁₉
L₆₂₀
L₆₂₁
L₆₂₂
L₆₂₃
L₆₂₄
L₆₂₅
L₆₂₆
L₆₂₇
L₆₂₈
L₆₂₉
L₆₃₀
L₆₃₁
L₆₃₂
L₆₃₃
L₆₃₄
L₆₃₅
L₆₃₆
L₆₃₇
L₆₃₈
L₆₃₉
L₆₄₀
L₆₄₁
L₆₄₂
L₆₄₃
L₆₄₄
L₆₄₅
L₆₄₆
L₆₄₇
L₆₄₈
L₆₄₉
L₆₅₀
L₆₅₁
L₆₅₂
L₆₅₃
L₆₅₄
L₆₅₅
L₆₅₆
L₆₅₇
L₆₅₈
L₆₅₉
L₆₆₀
L₆₆₁
L₆₆₂
L₆₆₃
L₆₆₄
L₆₆₅
L₆₆₆
L₆₆₇
L₆₆₈
L₆₆₉
L₆₇₀
L₆₇₁
L₆₇₂
L₆₇₃
L₆₇₄
L₆₇₅
L₆₇₆
L₆₇₇
L₆₇₈
L₆₇₉
L₆₈₀
L₆₈₁
L₆₈₂
L₆₈₃
L₆₈₄
L₆₈₅
L₆₈₆
L₆₈₇
L₆₈₈
L₆₈₉
L₆₉₀
L₆₉₁
L₆₉₂
L₆₉₃
L₆₉₄
L₆₉₅
L₆₉₆
L₆₉₇
L₆₉₈
L₆₉₉
L₇₀₀
L₇₀₁
L₇₀₂
L₇₀₃
L₇₀₄
L₇₀₅
L₇₀₆
L₇₀₇
L₇₀₈
L₇₀₉
L₇₁₀
L₇₁₁
L₇₁₂
L₇₁₃
L₇₁₄
L₇₁₅
L₇₁₆
L₇₁₇
L₇₁₈
L₇₁₉
L₇₂₀
L₇₂₁
L₇₂₂
L₇₂₃
L₇₂₄
L₇₂₅
L₇₂₆
L₇₂₇
L₇₂₈
L₇₂₉
L₇₃₀
L₇₃₁
L₇₃₂
L₇₃₃
L₇₃₄
L₇₃₅
L₇₃₆
L₇₃₇
L₇₃₈
L₇₃₉
L₇₄₀
L₇₄₁
L₇₄₂
L₇₄₃
L₇₄₄
L₇₄₅
L₇₄₆
L₇₄₇
L₇₄₈
L₇₄₉
L₇₅₀
L₇₅₁
L₇₅₂
L₇₅₃
L₇₅₄
L₇₅₅
L₇₅₆
L₇₅₇
L₇₅₈
L₇₅₉
L₇₆₀
L₇₆₁
L₇₆₂
L₇₆₃
L₇₆₄
L₇₆₅
L₇₆₆
L₇₆₇
L₇₆₈
L₇₆₉
L₇₇₀
L₇₇₁
L₇₇₂
L₇₇₃
L₇₇₄
L₇₇₅
L₇₇₆
L₇₇₇
L₇₇₈
L₇₇₉
L₇₈₀
L₇₈₁
L₇₈₂
L₇₈₃
L₇₈₄
L₇₈₅
L₇₈₆
L₇₈₇
L₇₈₈
L₇₈₉
L₇₉₀
L₇₉₁
L₇₉₂
L₇₉₃
L₇₉₄
L₇₉₅
L₇₉₆
L₇₉₇
L₇₉₈
L₇₉₉
L₈₀₀
L₈₀₁
L₈₀₂
L₈₀₃
L₈₀₄
L₈₀₅
L₈₀₆
L₈₀₇
L₈₀₈
L₈₀₉
L₈₁₀
L₈₁₁
L₈₁₂
L₈₁₃
L₈₁₄
L₈₁₅
L₈₁₆
L₈₁₇
L₈₁₈
L₈₁₉
L₈₂₀
L₈₂₁
L₈₂₂
L₈₂₃
L₈₂₄
L₈₂₅
L₈₂₆
L₈₂₇
L₈₂₈
L₈₂₉
L₈₃₀
L₈₃₁
L₈₃₂
L₈₃₃
L₈₃₄
L₈₃₅
L₈₃₆
L₈₃₇
L₈₃₈
L₈₃₉
L₈₄₀
L₈₄₁
L₈₄₂
L₈₄₃
L₈₄₄
L₈₄₅
L₈₄₆
L₈₄₇
L₈₄₈
L₈₄₉
L₈₅₀
L₈₅₁
L₈₅₂
L₈₅₃
L₈₅₄
L₈₅₅
L₈₅₆
L₈₅₇
L₈₅₈
L₈₅₉
L₈₆₀
L₈₆₁
L₈₆₂
L₈₆₃
L₈₆₄
L₈₆₅
L₈₆₆
L₈₆₇
L₈₆₈
L₈₆₉
L₈₇₀
L₈₇₁
L₈₇₂
L₈₇₃
L₈₇₄
L₈₇₅
L₈₇₆
L₈₇₇
L₈₇₈
L₈₇₉
L₈₈₀
L₈₈₁
L₈₈₂
L₈₈₃
L₈₈₄
L₈₈₅
L₈₈₆
L₈₈₇
L₈₈₈
L₈₈₉
L₈₉₀
L₈₉₁
L₈₉₂
L₈₉₃
L₈₉₄
L₈₉₅
L₈₉₆
L₈₉₇
L₈₉₈
L₈₉₉
L₉₀₀
L₉₀₁
L₉₀₂
L₉₀₃
L₉₀₄
L₉₀₅
L₉₀₆
L₉₀₇
L₉₀₈
L₉₀₉
L₉₁₀
L₉₁₁
L₉₁₂
L₉₁₃
L₉₁₄
L₉₁₅
L₉₁₆
L₉₁₇
L₉₁₈
L₉₁₉
L₉₂₀
L₉₂₁
L₉₂₂
L₉₂₃
L₉₂₄
L₉₂₅
L₉₂₆
L₉₂₇
L₉₂₈
L₉₂₉
L₉₃₀
L₉₃₁
L₉₃₂
L₉₃₃
L₉₃₄
L₉₃₅
L₉₃₆
L₉₃₇
L₉₃₈
L₉₃₉
L₉₄₀
L₉₄₁
L₉₄₂
L₉₄₃
L₉₄₄
L₉₄₅
L₉₄₆
L₉₄₇
L₉₄₈
L₉₄₉
L₉₅₀
L₉₅₁
L₉₅₂
L₉₅₃
L₉₅₄
L₉₅₅
L₉₅₆
L₉₅₇
L₉₅₈
L₉₅₉
L₉₆₀
L₉₆₁
L₉₆₂
L₉₆₃
L₉₆₄
L₉₆₅
L₉₆₆
L₉₆₇
L₉₆₈
L₉₆₉
L₉₇₀
L₉₇₁
L₉₇₂
L₉₇₃
L₉₇₄
L₉₇₅
L₉₇₆
L₉₇₇
L₉₇₈
L₉₇₉
L₉₈₀
L₉₈₁
L₉₈₂
L₉₈₃
L₉₈₄
L₉₈₅
L₉₈₆
L₉₈₇
L₉₈₈
L₉₈₉
L₉₉₀
L₉₉₁
L₉₉₂
L₉₉₃
L₉₉₄
L₉₉₅
L₉₉₆
L₉₉₇
L₉₉₈
L₉₉₉
L₁₀₀₀
L₁₀₀₁
L₁₀₀₂
L₁₀₀₃
L₁₀₀₄
L₁₀₀₅
L₁₀₀₆
L₁₀₀₇
L₁₀₀₈
L₁₀₀₉
L₁₀₁₀
L₁₀₁₁
L₁₀₁₂
L₁₀₁₃
L₁₀₁₄
L₁₀₁₅
L₁₀₁₆
L₁₀₁₇
L₁₀₁₈
L₁₀₁₉
L₁₀₂₀
L₁₀₂₁
L₁₀₂₂
L₁₀₂₃
L₁₀₂₄
L₁₀₂₅
L₁₀₂₆
L₁₀₂₇
L₁₀₂₈
L₁₀₂₉
L₁₀₃₀
L₁₀₃₁
L₁₀₃₂
L₁₀₃₃
L₁₀₃₄
L₁₀₃₅
L₁₀₃₆
L₁₀₃₇
L₁₀₃₈
L₁₀₃₉
L₁₀₄₀
L₁₀₄₁
L₁₀₄₂
L₁₀₄₃
L₁₀₄₄
L₁₀₄₅
L₁₀₄₆
L₁₀₄₇
L₁₀₄₈
L₁₀₄₉
L₁₀₅₀
L₁₀₅₁
L₁₀₅₂
L₁₀₅₃
L₁₀₅₄
L₁₀₅₅
L₁₀₅₆
L₁₀₅₇
L₁₀₅₈
L₁₀₅₉
L₁₀₆₀
L₁₀₆₁
L₁₀₆₂
L₁₀₆₃
L₁₀₆₄
L₁₀₆₅
L₁₀₆₆
L₁₀₆₇
L₁₀₆₈
L₁₀₆₉
L₁₀₇₀
L₁₀₇₁
L₁₀₇₂
L₁₀₇₃
L₁₀₇₄
L₁₀₇₅
L₁₀₇₆
L₁₀₇₇
L₁₀₇₈
L₁₀₇₉
L₁₀₈₀
L₁₀₈₁
L₁₀₈₂
L₁₀₈₃
L₁₀₈₄
L₁₀₈₅
L₁₀₈₆
L₁₀₈₇
L₁₀₈₈
L₁₀₈₉
L₁₀₉₀
L₁₀₉₁
L₁₀₉₂
L₁₀₉₃
L₁₀₉₄
L₁₀₉₅
L₁₀₉₆
L₁₀₉₇
L₁₀₉₈
L₁₀₉₉
L₁₁₀₀
L₁₁₀₁
L₁₁₀₂
L₁₁₀₃
L₁₁₀₄
L₁₁₀₅
L₁₁₀₆
L₁₁₀₇
L₁₁₀₈
L₁₁₀₉
L₁₁₁₀
L₁₁₁₁
L₁₁₁₂
L₁₁₁₃
L₁₁₁₄
L₁₁₁₅
L₁₁₁₆
L₁₁₁₇
L₁₁₁₈
L₁₁₁₉
L₁₁₂₀
L₁₁₂₁
L₁₁₂₂
L₁₁₂₃
L₁₁₂₄
L₁₁₂₅
L₁₁₂₆
L₁₁₂₇
L₁₁₂₈
L₁₁₂₉
L₁₁₃₀
L₁₁₃₁
L₁₁₃₂
L₁₁₃₃
L₁₁₃₄
L₁₁₃₅
L₁₁₃₆
L₁₁₃₇
L₁₁₃₈
L₁₁₃₉
L₁₁₄₀
L₁₁₄₁
L₁₁₄₂
L₁₁₄₃
L₁₁₄₄
L₁₁₄₅
L₁₁₄₆
L₁₁₄₇
L₁₁₄₈
L₁₁₄₉
L₁₁₅₀
L₁₁₅₁
L₁₁₅₂
L₁₁₅₃
L₁₁₅₄
L₁₁₅₅
L₁₁₅₆
L₁₁₅₇
L₁₁₅₈
L₁₁₅₉
L₁₁₆₀
L₁₁₆₁
L₁₁₆₂
L₁₁₆₃
L₁₁₆₄
L₁₁₆₅
L₁₁₆₆
L₁₁₆₇
L₁₁₆₈
L₁₁₆₉
L₁₁₇₀
L₁₁₇₁
L₁₁₇₂
L₁₁₇₃
L₁₁₇₄
L₁₁₇₅
L₁₁₇₆
L₁₁₇₇
L₁₁₇₈
L₁₁₇₉
L₁₁₈₀
L₁₁₈₁
L₁₁₈₂
L₁₁₈₃
L₁₁₈₄
L₁₁₈₅
L₁₁₈₆
L₁₁₈₇
L₁₁₈₈
L₁₁₈₉
L₁₁₉₀
L₁₁₉₁
L₁₁₉₂
L₁₁₉₃
L₁₁₉₄
L₁₁₉₅
L₁₁₉₆
L₁₁₉₇
L₁₁₉₈
L₁₁₉₉
L₁₂₀₀
L₁₂₀₁
L₁₂₀₂
L₁₂₀₃
L₁₂₀₄
L₁₂₀₅
L₁₂₀₆
L₁₂₀₇
L₁₂₀₈
L₁₂₀₉
L₁₂₁₀
L₁₂₁₁
L₁₂₁₂
L₁₂₁₃
L₁₂₁₄
L₁₂₁₅
L₁₂₁₆
L₁₂₁₇
L₁₂₁₈
L₁₂₁₉
L₁₂₂₀
L₁₂₂₁
L₁₂₂₂
L₁₂₂₃
L₁₂₂₄
L₁₂₂₅
L₁₂₂₆
L₁₂₂₇
L₁₂₂₈
L₁₂₂₉
L₁₂₃₀
L₁₂₃₁
L₁₂₃₂
L₁₂₃₃
L₁₂₃₄
L₁₂₃₅
L₁₂₃₆
L₁₂₃₇
L₁₂₃₈
L₁₂₃₉
L₁₂₄₀
L₁₂₄₁
L₁₂₄₂
L₁₂₄₃
L₁₂₄₄
L₁₂₄₅
L₁₂₄₆
L₁₂₄₇
L₁₂₄₈
L₁₂₄₉
L₁₂₅₀
L₁₂₅₁
L₁₂₅₂
L₁₂₅₃
L₁₂₅₄
L₁₂₅₅
L₁₂₅₆
L₁₂₅₇
L₁₂₅₈
L₁₂₅₉
L₁₂₆₀
L₁₂₆₁
L₁₂₆₂
L₁₂₆₃
L₁₂₆₄
L₁₂₆₅
L₁₂₆₆
L₁₂₆₇
L₁₂₆₈
L₁₂₆₉
L₁₂₇₀
L₁₂₇₁
L₁₂₇₂
L₁₂₇₃
L₁₂₇₄
L₁₂₇₅
L₁₂₇₆
L₁₂₇₇
L₁₂₇₈
L₁₂₇₉
L₁₂₈₀
L₁₂₈₁
L₁₂₈₂
L₁₂₈₃
L₁₂₈₄
L₁₂₈₅
L₁₂₈₆
L₁₂₈₇
L₁₂₈₈
L₁₂₈₉
L₁₂₉₀
L₁₂₉₁
L₁₂₉₂
L₁₂₉₃
L₁₂₉₄
L₁₂₉₅
L₁₂₉₆
L₁₂₉₇
L₁₂₉₈
L₁₂₉₉
L₁₃₀₀
L₁₃₀₁
L₁₃₀₂
L₁₃₀₃
L₁₃₀₄
L₁₃₀₅
L₁₃₀₆
L₁₃₀₇
L₁₃₀₈
L₁₃₀₉
L₁₃₁₀
L₁₃₁₁
L₁₃₁₂
L₁₃₁₃
L₁₃₁₄
L₁₃₁₅
L₁₃₁₆
L₁₃₁₇
L₁₃₁₈
L₁₃₁₉
L₁₃₂₀
L₁₃₂₁
L₁₃₂₂
L₁₃₂₃
L₁₃₂₄
L₁₃₂₅
L₁₃₂₆
L₁₃₂₇
L₁₃₂₈
L₁₃₂₉
L₁₃₃₀
L₁₃₃₁
L₁₃₃₂
L₁₃₃₃
L₁₃₃₄
L₁₃₃₅
L₁₃₃₆
L₁₃₃₇
L₁₃₃₈
L₁₃₃₉
L₁₃₄₀
L₁₃₄₁
L₁₃₄₂
L₁₃₄₃
L₁₃₄₄
L₁₃₄₅
L₁₃₄₆
L₁₃₄₇
L₁₃₄₈
L₁₃₄₉
L₁₃₅₀
L₁₃₅₁
L₁₃₅₂
L₁₃₅₃
L₁₃₅₄
L₁₃₅₅
L₁₃₅₆
L₁₃₅₇
L₁₃₅₈
L₁₃₅₉
L₁₃₆₀
L₁₃₆₁
L₁₃₆₂
L₁₃₆₃
L₁₃₆₄
L₁₃₆₅
L₁₃₆₆
L₁₃₆₇
L₁₃₆₈
L₁₃₆₉
L₁₃₇₀
L₁₃₇₁
L₁₃₇₂
L₁₃₇₃
L₁₃₇₄
L₁₃₇₅
L₁₃₇₆
L₁₃₇₇
L₁₃₇₈
L₁₃₇₉
L₁₃₈₀
L₁₃₈₁
L₁₃₈₂
L₁₃₈₃
L₁₃₈₄
L₁₃₈₅
L₁₃₈₆
L₁₃₈₇
L₁₃₈₈
L₁₃₈₉
L₁₃₉₀
L₁₃₉₁
L₁₃₉₂
L₁₃₉₃
L₁₃₉₄
L₁₃₉₅
L₁₃₉₆
L₁₃₉₇
L₁₃₉₈
L₁₃₉₉
L₁₄₀₀
L₁₄₀₁
L₁₄₀₂
L₁₄₀₃
L₁₄₀₄
L₁₄₀₅
L₁₄₀₆
L₁₄₀₇
L₁₄₀₈
L₁₄₀₉
L₁₄₁₀
L₁₄₁₁
L₁₄₁₂
L₁₄₁₃
L₁₄₁₄
L₁₄₁₅
L₁₄₁₆
L₁₄₁₇
L₁₄₁₈
L₁₄₁₉
L₁₄₂₀
L₁₄₂₁
L₁₄₂

令和６年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築そのた工事		
図面番号		縮 尺	ー
図 名	二葉の里電気室 ボーリング柱状図	番号	CS-05
	高速5号線		
広島高速道路公社			

ボーリング柱状図

調査名　高速5号線　道路附属施設詳細設計業務（ボーリング調査）

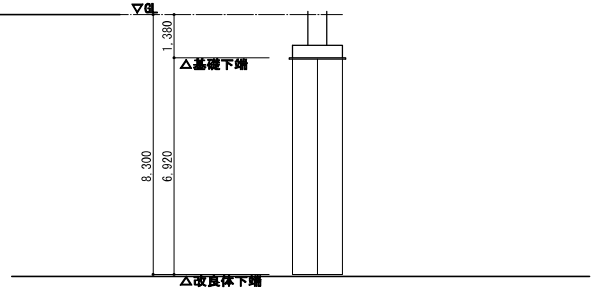
ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

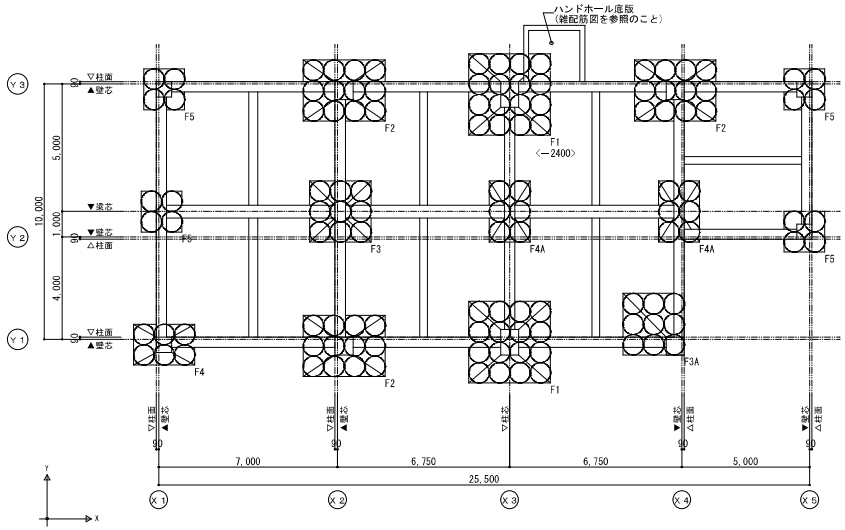
ボーリング名	二葉の里①	調査位置	広島県広島市東区二葉の里　地内			北緯	34° 24′ 12.3″
発注機関	広島高速道路公社			調査期間	平成 31年 1月 28日 ～ 31年 1月 29日	東経	132° 28′ 29.0″
調査業者名	西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社 電話（082-532-1432）	主任技師	西村 信宏	現場代理人	西出 満男	コア鑑定者	大岩 直人
				ボーリング責任者	山本 勝美		
孔口標高	KBM +15.6m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0°
総掘進長	13.00m	使用機種	試錐機	東邦製 D1-3型	ハンマー落下用具	半自動落下装置	
			エンジン	ヤンマー（株） NFI12-MEK	ポンプ	東邦製 BG-3型	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対硬度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進日
1					盛土	淡褐灰	緩い～密な		GL-0.00～0.05m間は砂利。 GL-3.00m付近までは工事施工ヤードの造成盛り土と考えられる。 礫は細礫を主体とする。 所々に φ20～50mm程度の亜角礫を含入する。 砂は中砂～粗砂を主体とする。 下位では砂分が優勢となる。	盛土層	1.15	9	9	5	23/30	23							
2											1.45												
											2.15	12	17	15	44/30	44							
3											2.45						3.00						
											3.15	3	2	2	7/30	7		孔内水平載荷試験 E=8,131kN/m2					
4											3.45						4.00						
											4.15	6	9	10	25/30	25							
5											4.45												
											5.15	3	3	4	10/30	10							
6	8.90	1.70	6.70							1/29 9:00	5.45								6.15	P-1	① 粒度		1/31
											6.15	2	4	3	9/30	9			6.45				
7	7.80	1.10	7.80		礫混じり粘土質砂	暗灰～淡黄灰	緩い		GL-6.70～7.30m間は暗灰色を呈し粘性が大きい。 砂は中砂～粗砂を主体とする。	沖積層	6.45								7.15	P-2 P-3	② 粒度 ③ 粒度		
											7.15	2	2	3	7/30	7			7.30				
8					強風化花崗岩	黄灰	中位～密な		全体に強風化を受け礫質土状を呈する。 コアは指圧にて土砂化する。 岩級区分では土級程度。	白亜紀	7.45												
											8.15	14	14	15	43/30	43							
9	5.80	1.00	9.80							広島花崗岩	8.45												
											9.15	6	5	9	20/30	20							
10					風化花崗岩	黄灰	非常に密な		全体に風化を受け岩片状を呈する。 コアは強い指圧～ハンマーの軽打でボロボロに砕ける。 岩級区分では土級程度。 土工区分では軟岩Ⅰ程度。		9.45												
											10.15	14	26	10/4	50/24	63							
11											10.35												
											11.15	19	18	13/6	50/26	58							
12	2.60	1.20	13.00								11.41												
											12.15	30	20/4		50/14	107							
13											12.28												1/31
											13.00	50/8			50/8	188							
14																							



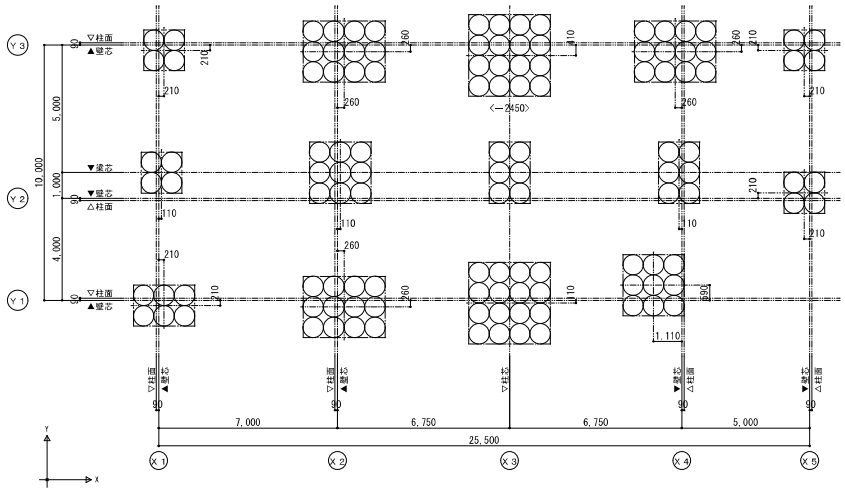
令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1/100
図 名	二葉の里電気室 伏図－１	番号	ＣＳ－０６
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			

共 通 事 項		
長期鉛直地耐力度	改良伏図の特記による	
鉄筋	D19未満	SD295A（重ね継手）
	D19以上	SD345 （圧接）
コンクリート	普通コンクリート Fc=24N/mm2 S=18cm	
基礎コンクリート	普通コンクリート Fc=24N/mm2 S=15cm	
土間コンクリート	普通コンクリート Fc=24N/mm2 S=18cm	
捨てコンクリート	普通コンクリート Fc=18N/mm2 S=15cm ・コンクリート厚 50mm	
砕石	・厚さ 60mm（基礎梁下） ・厚さ 100mm（土間下）	
備考	・打設時期にあった構造体強度補正を行うこと ・コンクリートの仕様は、「公共建築工事標準仕様書（建築工事）最新版」による ・改良工事前にGL-3.0m程度までほぐし（探り掘）を行うこと	



基礎伏図（見下図） 1:100

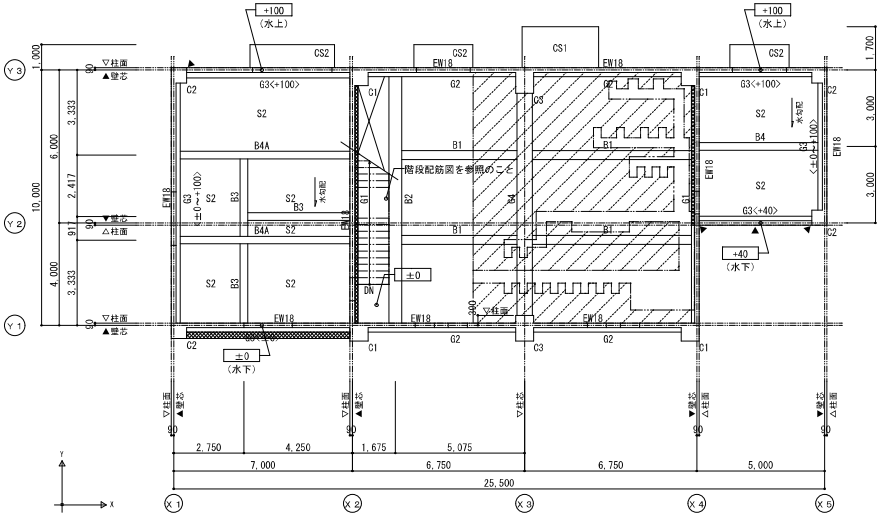
記入なき限り、下記とする
1．基礎下端レベル：GL－1380
2．〈○○○〉…GLからの基礎下端レベル寸法を示す。



改良伏図（見下図） 1:100

記入なき限り、下記とする
1．改良工法：深層混合処理工法
2．改良体天端レベル：GL－1430
3．〈○○○〉…GLからの改良体上端レベル寸法を示す。
4．改良体下端レベル：GL-8300
5．設計基準強度 Fc=1200kN/㎡
6．長期支持力度 σe=260kN/㎡
7．○…φ800 120本
8．支持層：強風化花崗岩層 N≧20

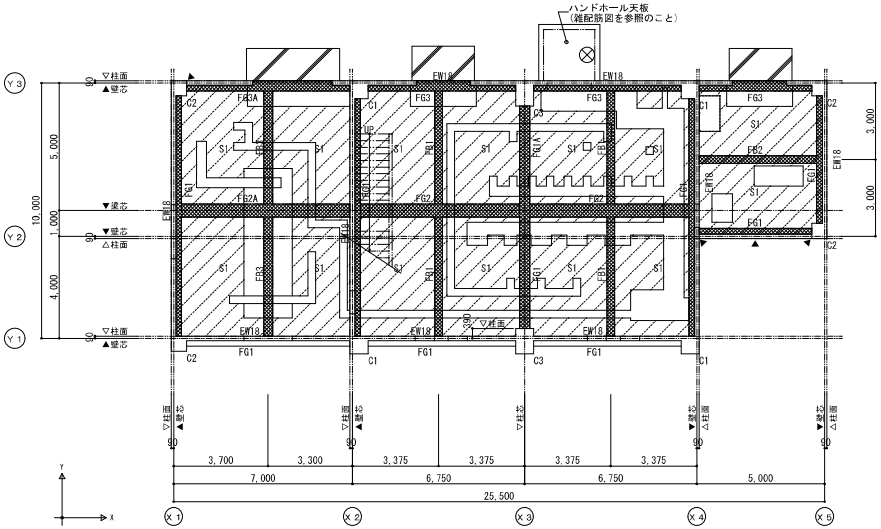
令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1/100 (A1)
図 名	二葉の里電気室 伏図－２	番号	ＣＳ－０７
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			



１階柱壁２階梁床伏図（見上図）　　1:100

記入なき限り、下記とする

1. 床・梁天端レベル：2FL－300
2. 〈○○○〉はFLからの梁天端レベルを示す。
3. ○○○はFLからの床レベルを示す。
4. 壁はW18とする。
5. 床はS1とする。
6. ▼はスリットを示す。
7. ▨は増打ち範囲を示す。
8. ▨は無筋コンクリートt=300増打ちを示す。

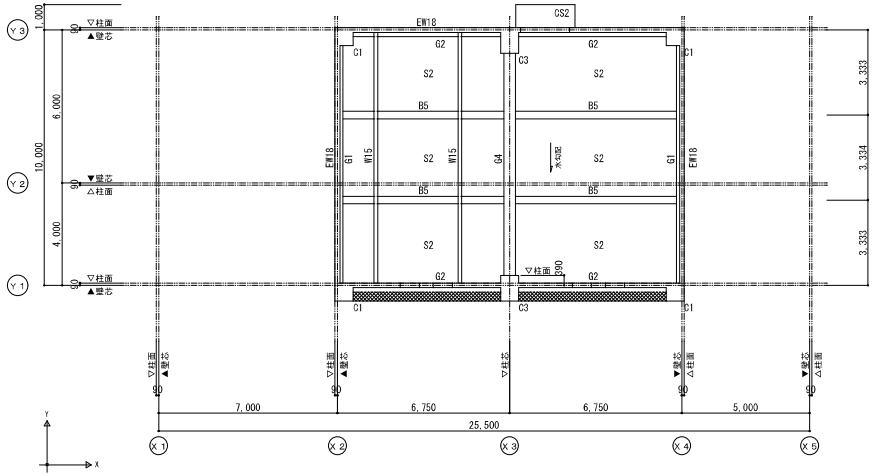


１階床伏図（見下図）　　1:100

記入なき限り、下記とする

1. 基礎梁天端レベル：GL－80（Y3通りのみ、GL－190）
2. 床レベル　　：GL＋100
3. 壁はW18とする。
4. 床はS1とする。
5. ▼はスリットを示す。
6. ▨は増打ち範囲を示す。
7. ▨は土間コンクリート範囲を示す。
8. ▨は無筋コンクリートt=300増打ちを示す。

令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1/100
図 名	二葉の里電気室 伏図－３	番号	ＣＳ－０８
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			

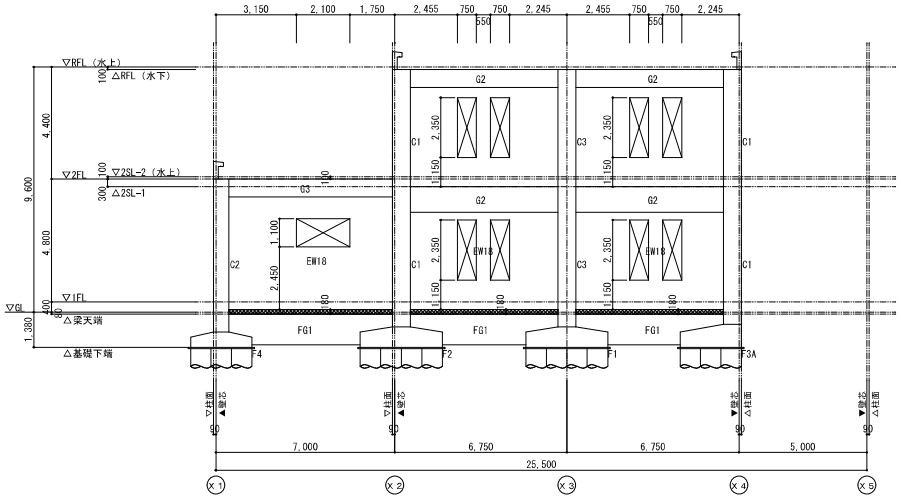


２階柱壁Ｒ階梁床伏図（見上図）　1:100

記入なき限り、下記とする

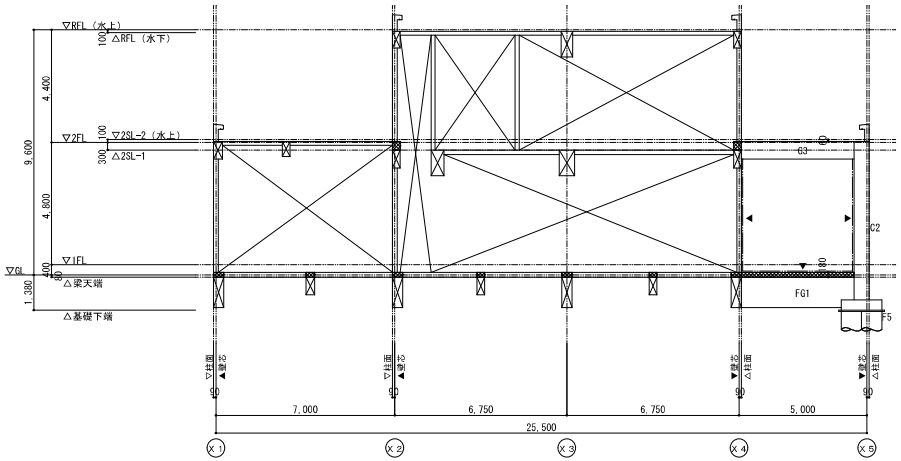
1. 床・梁天端レベル：RFL±0～－100
2. 壁はW18とする。
3. 床はS2とする。
4. ▼はスリットを示す。

令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1/100
図 名	二葉の里電気室 軸組図－１	番号	ＣＳ－０９
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			



Ｙ１通り軸組図　　1:200

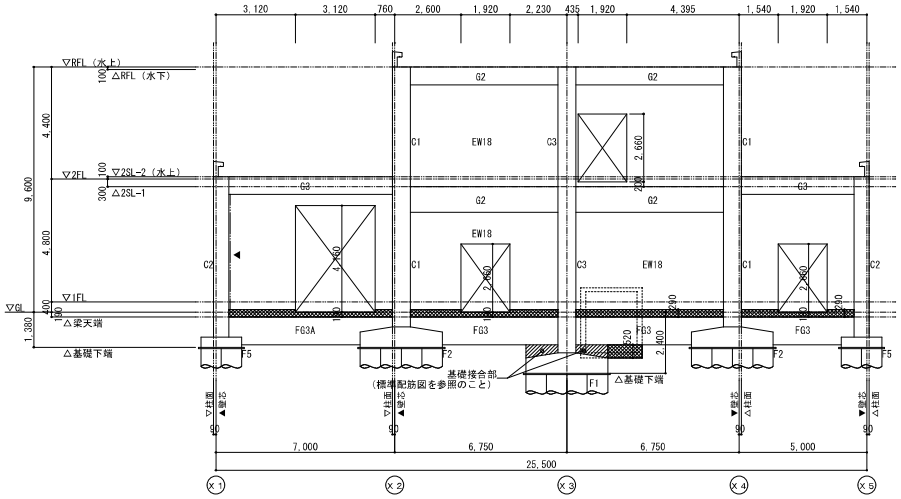
記入なき限り、下記とする
1．壁はW18とする。
2．▼はスリットを示す。
3．▩は増打ち範囲を示す。



Ｙ２通り軸組図　　1:200

記入なき限り、下記とする
1．壁はW18とする。
2．▼はスリットを示す。
3．▩は増打ち範囲を示す。

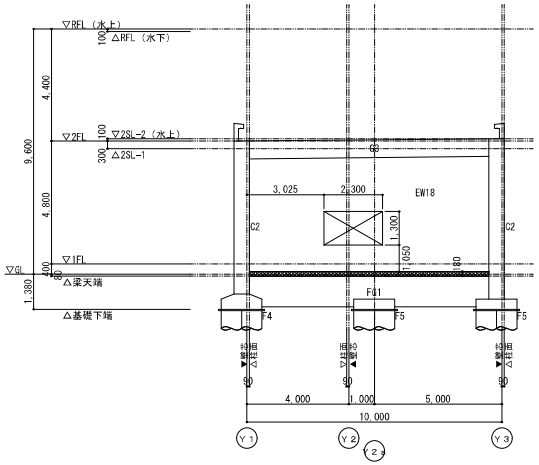
令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1/100
図 名	二葉の里電気室 軸組図－２	番号	ＣＳ－１０
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			



Ｙ３通り軸組図　　1:200

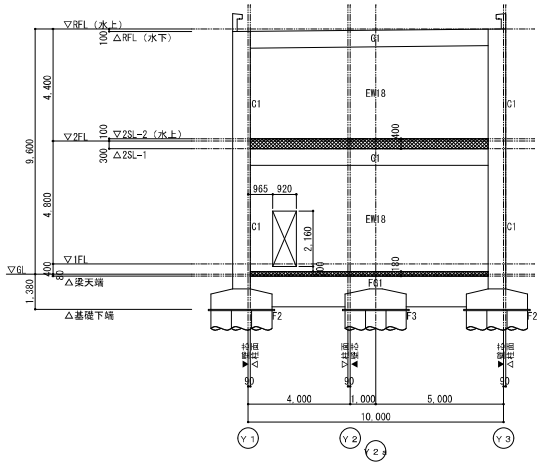
記入なき限り、下記とする
1．壁はW18とする。
2．▼はスリットを示す。
3．▩は増打ち範囲を示す。

令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1/100
図 名	二葉の里電気室 軸組図－３	番号	ＣＳ－１１
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			



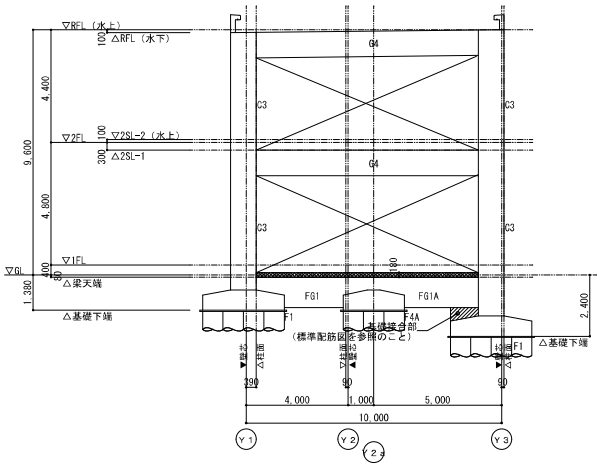
Ｘ１通り軸組図　　1:200

記入なき限り、下記とする
1．壁はW18とする。
2．▼はスリットを示す。
3．▩は増打ち範囲を示す。



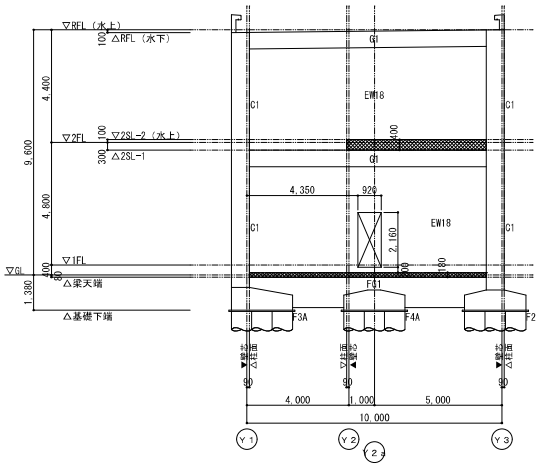
Ｘ２通り軸組図　　1:200

記入なき限り、下記とする
1．壁はW18とする。
2．▼はスリットを示す。
3．▩は増打ち範囲を示す。



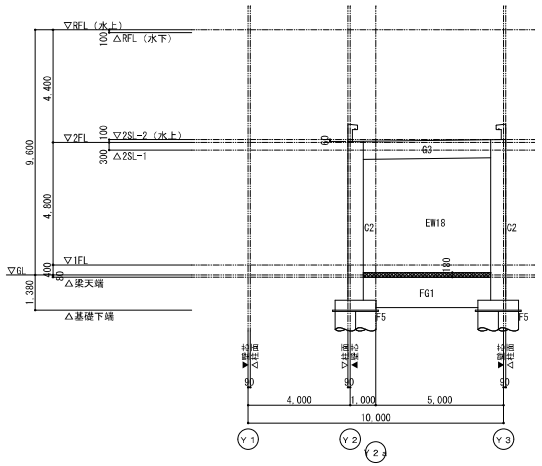
Ｘ３通り軸組図　　1:200

記入なき限り、下記とする
1．壁はW18とする。
2．▼はスリットを示す。
3．▩は増打ち範囲を示す。



Ｘ４通り軸組図　　1:200

記入なき限り、下記とする
1．壁はW18とする。
2．▼はスリットを示す。
3．▩は増打ち範囲を示す。

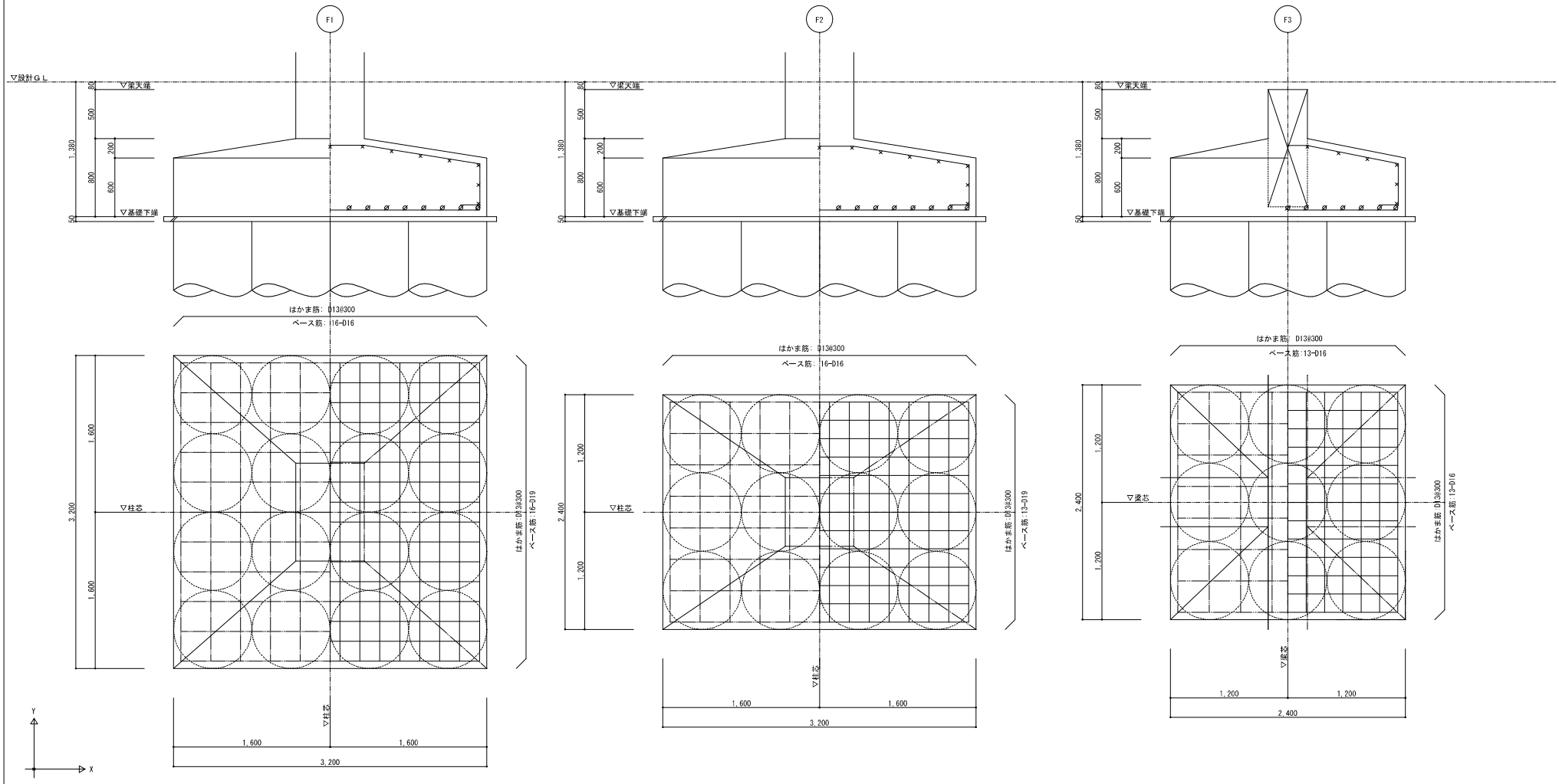


Ｘ５通り軸組図　　1:200

記入なき限り、下記とする
1．壁はW18とする。
2．▼はスリットを示す。
3．▩は増打ち範囲を示す。

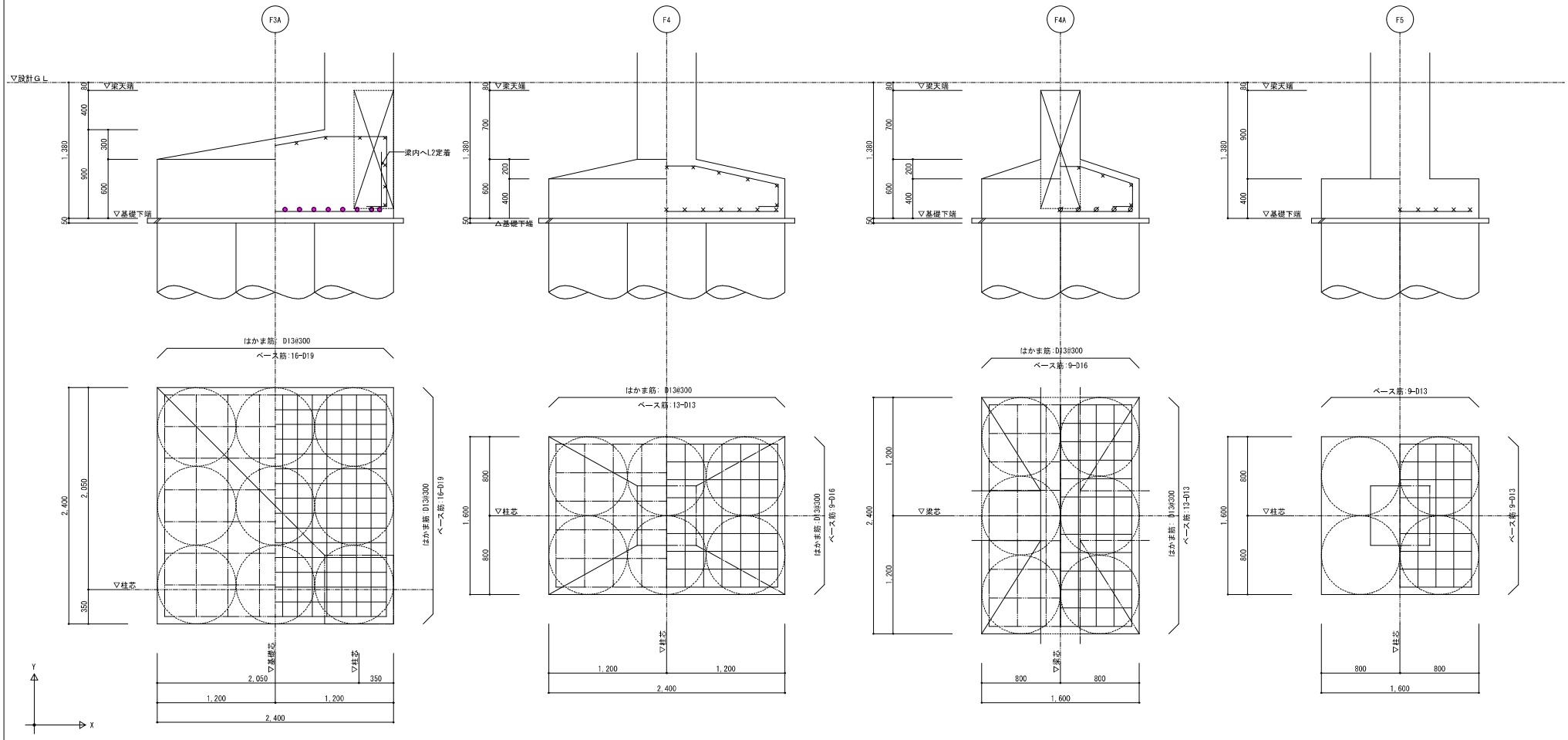
令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1/20
図 名	二葉の里電気室 基礎リストー１	番号	ＣＳ－１２
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			

基礎リスト　　1:20



令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1/20
図 名	二葉の里電気室 基礎リストー２	番号	ＣＳ－１３
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			

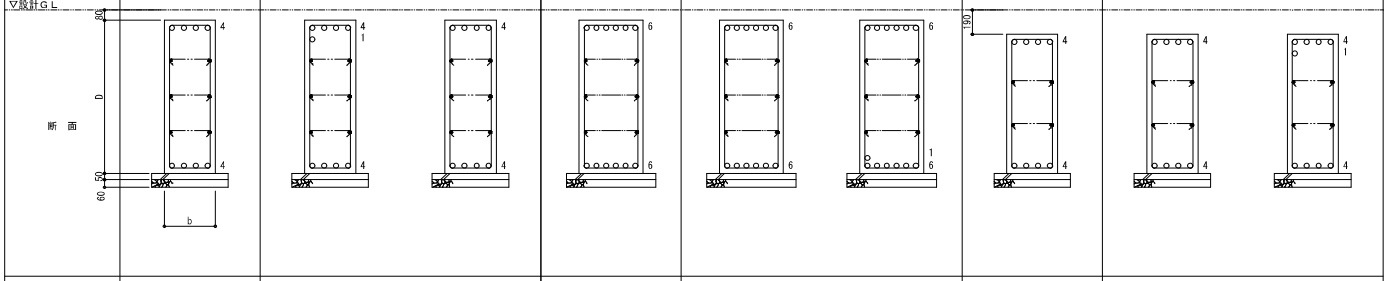
基礎リスト　　1:20

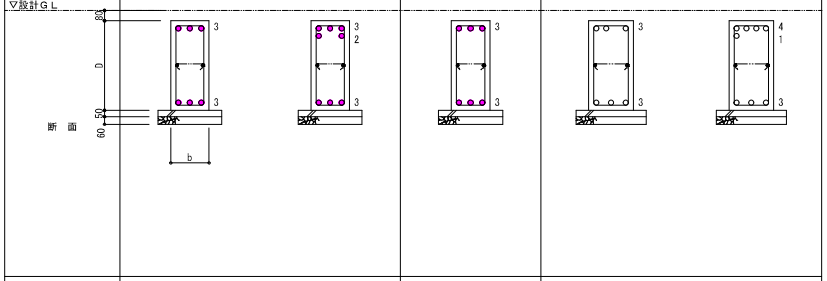


令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1/20
図 名	二葉の里電気室 基礎梁リスト	番号	ＣＳ－１４
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			

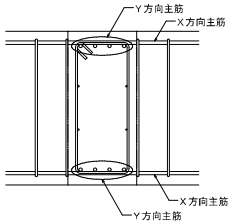
基礎梁リスト　1:20

特記外　1．巾止筋はD10-@1,000とする。
　　2．＜＞内寸法はカットオフ筋付着長を示す。

符 号	FG1	FG1A		FG2	FG2A		FG3	FG3A	
位 置	全断面	Y3通り側	中央・他端	全断面	両端	中央	全断面	外端・中央	内端(X2通り側)
断 面									
b × D	400 × 1200	400 × 1200		500 × 1200	500 × 1200		400 × 1090	400 × 1090	
上端筋	4-D22	5-D22<1,500>	4-D22	6-D22	6-D22	6-D22	4-D22	4-D22	5-D22
下端筋	4-D22	4-D22	4-D22	6-D22	6-D22	7-D22	4-D22	4-D22	4-D22
ＳＴＰ	□ -D13-@200	□ -D13-@200		□ -D13-@200	□ -D13-@200		□ -D13-@200	□ -D13-@200	
腹 筋	6-D10	6-D10		6-D10	6-D10		4-D10	4-D10	

符 号	FB1		FB2	FB3	
位 置	外端・中央	内端（Y2通り側）	全断面	外端・中央	内端（Y2通り側）
断 面					
b × D	300 × 700		300 × 700	350 × 700	
上端筋	3-D19	5-D19	3-D19	3-D22	5-D22
下端筋	3-D19	3-D19	3-D19	3-D22	3-D22
ＳＴＰ	□ -D10-@200		□ -D10-@200	□ -D10-@150	
腹 筋	2-D10		2-D10	2-D10	

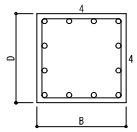
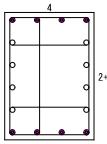
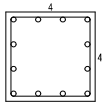
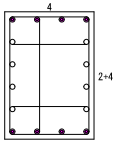
基礎梁主筋上下配筋要領図



令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1/20
図 名	二葉の里電気室 柱・梁リスト	番号	ＣＳ－１５
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			

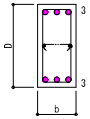
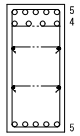
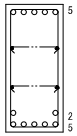
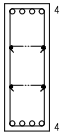
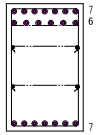
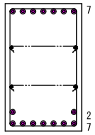
柱リスト　1:20

特記外　1．柱主筋は、全数フック付とする。

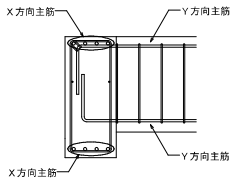
符 号		C1	C2	C3
柱頭仕口ＨＯＯＰ		□ -D10-@100	□ -D10-@110	□ -D13-@120
２ 階				
Ｂｘ Ｄ		700 × 700	600 × 600	700 × 1000
主 筋		12-D22	8-D22	8-D25+8-D22
ＨＯＯＰ	x	□ -D10-@100	□ -D10-@100	⊟ -D10-@100
	y	□ -D10-@100	□ -D10-@100	⊟ -D10-@100
幅止め筋		——	——	——
柱頭/柱脚仕口ＨＯＯＰ		□ -D10-@100	□ -D10-@110	□ -D13-@120
１ 階				
Ｂｘ Ｄ		700 × 700	600 × 600	700 × 1000
主 筋		12-D22	8-D22	8-D25+8-D22
ＨＯＯＰ	x	□ -D10-@100	□ -D10-@100	⊟ -D10-@100
	y	□ -D10-@100	□ -D10-@100	⊟ -D10-@100
幅止め筋		——	——	——

大梁リスト　1:20

特記外　1．巾止筋はD10-@1,000とする。

符 号		G1	G2	G3	G4	
位 置		全断面	全断面		両端	中央
Ｒ 階						
ｂｘ Ｄ		300 × 650	350 × 700		450 × 1000	
上端筋		3-D19	4-D22		9-D22	5-D22
下端筋		3-D19	4-D22		5-D22	7-D22
ＳＴＰ		□ -D10-@200	□ -D10-@200		□ -D13-@200	
腹 筋		2-D10	2-D10		4-D10	
位 置		全断面	全断面	全断面	両端	中央
２ 階						
ｂｘ Ｄ		300 × 650	350 × 1000	350 × 700	600 × 1000	
上端筋		3-D19	4-D22	4-D22	13-D25	7-D25
下端筋		3-D19	4-D22	4-D22	7-D25	9-D25
ＳＴＰ		□ -D10-@200	□ -D10-@200	□ -D10-@200	□ -D13-@100	
腹 筋		2-D10	4-D10	2-D10	4-D10	

梁主筋上下配筋要領図

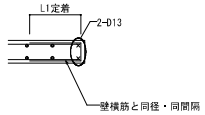


令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1/20
図 名	二葉の里電気室 小梁・壁・スラブリスト	番号	ＣＳ－１６
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			

壁リスト　1:20

特記外　1．巾止筋はD10−@1,000とする。

符号		W15	W18・EW18	開口部補強筋
断 面		150	180	L=40d
縦筋		D10−@200 S	D10−@200 D	
横筋		D10−@200 S	D10−@200 D	
開口部補強筋	a	1−D13	4−D13	
	b	1−D13	4−D13	
	c	1−D13	——	
端部補強筋		1−D13	2−D13	

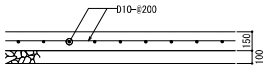


壁端部補強筋　1:20

特記外　1．EWの壁のみ適用すること。

スラブリスト

符号	床厚	位置	短辺方向(主筋方向)			長辺方向(配力筋)		
			端部	中央	周辺部	端部	中央	周辺部
S1	180	上筋	D13−@150			D13−@150		
		下筋	D13−@150			D13−@150		
S2	150	上筋	D10・D13−@150			D10・D13−@150		
		下筋	D10・D13−@150			D10・D13−@150		
CS1	180	上筋	D13−@150			D10−@200		
		下筋	D10−@150			D10−@200		
CS2	150	上筋	D13−@200			D10−@200		
		下筋	D10−@200			D10−@200		



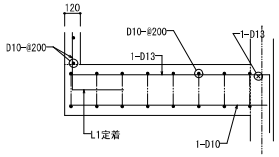
土間コンクリート配筋図　1:20

小梁リスト　1:20

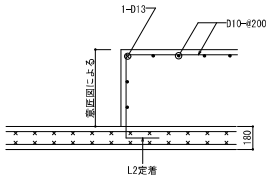
特記外　1．巾止筋はD10−@1,000とする。

符 号	B1		B2		B3	B4
位 置	外端・中央	内端（X3通り側）	両端	中央	全断面	全断面
断 面						
b × D	350 × 700		500 × 1000		300 × 600	300 × 650
上端筋	4−D22	7−D22	10−D22	6−D22	3−D19	3−D22
下端筋	4−D22	4−D22	6−D22	10−D22	3−D19	3−D22
ＳＴＰ	□ −D10−@200		□ −D13−@200		□ −D10−@200	□ −D10−@200
腹 筋	2−D10		4−D10		2−D10	2−D10

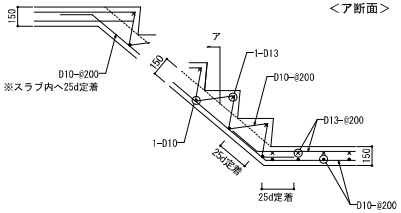
符 号	B4A		B5	
位 置	両端	中央	外端・中央	内端（X3通り側）
断 面				
b × D	300 × 650		300 × 650	
上端筋	3−D22	3−D22	3−D22	5−D22
下端筋	3−D22	4−D22	3−D22	3−D22
ＳＴＰ	□ −D10−@200		□ −D10−@200	
腹 筋	2−D10		2−D10	



＜ア断面＞

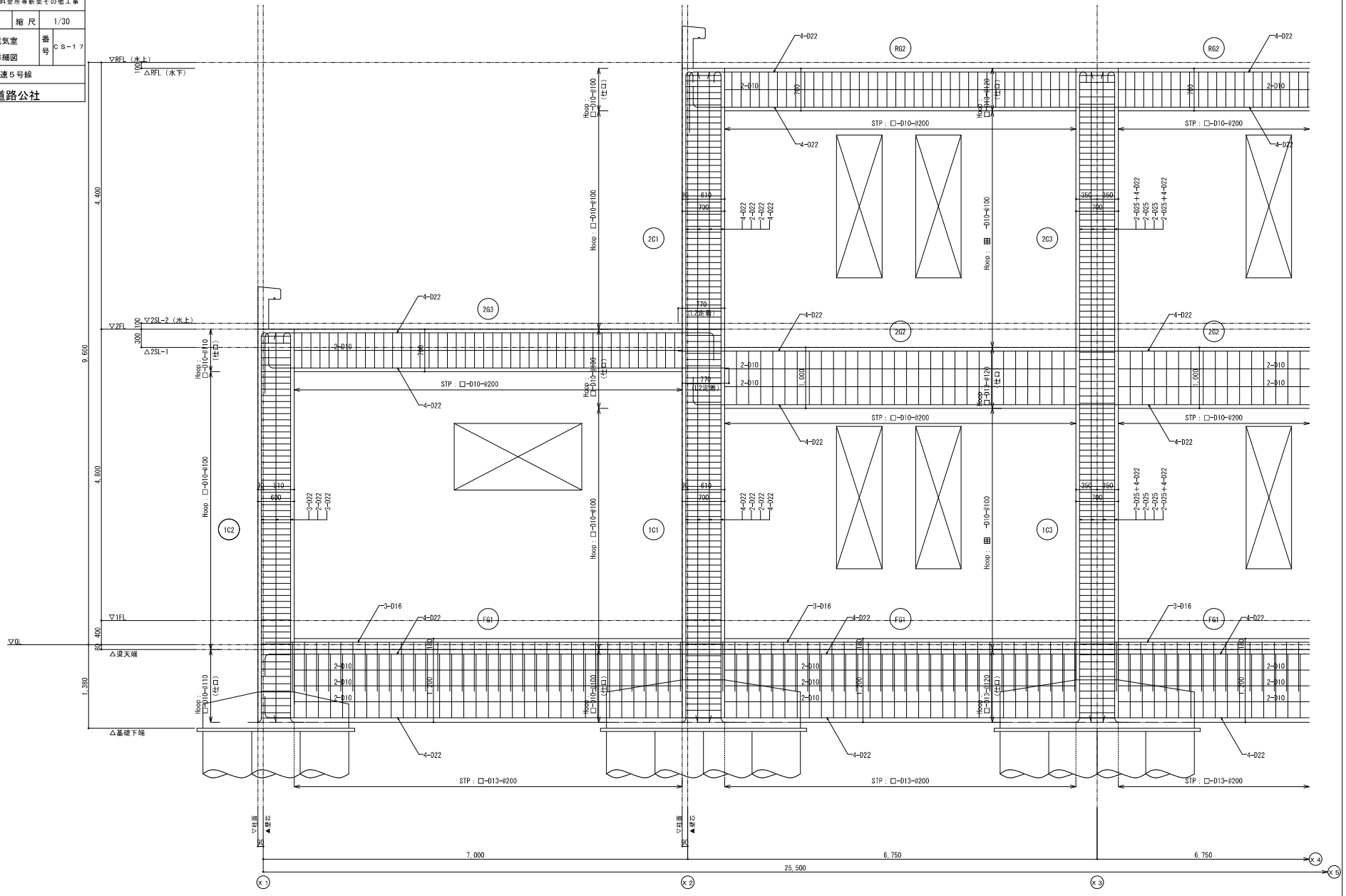


機械基礎配筋図　1:20



階段配筋図　1:20

令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1/30
図 名	二葉の里電気室 架構配筋詳細図	番号	ＣＳ－１７
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			

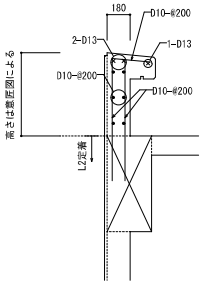


Ｙ１通り配筋詳細図　1:30

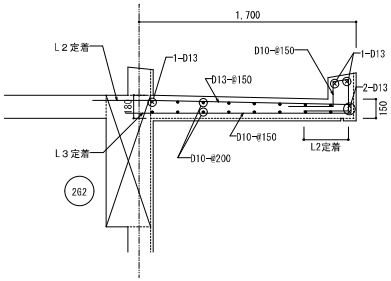
1．柱主筋は、全数フック付とする。

令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号	ＣＳ－１８	縮 尺	1/20
図 名	二葉の里電気室 雑配筋詳細図	番号	
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			

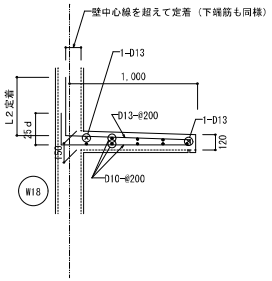
パラペット配筋詳細図　1:20



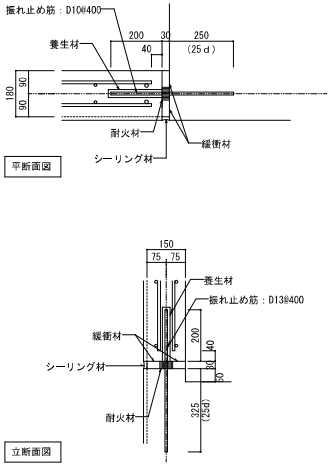
CS1配筋詳細図　1:20



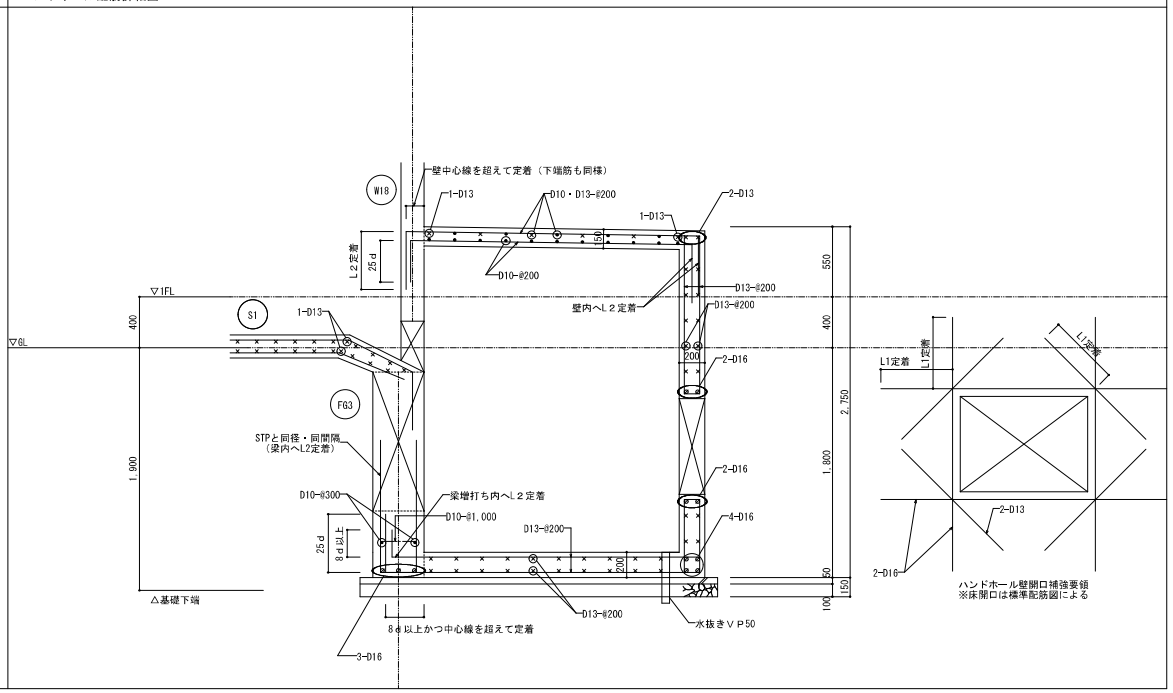
CS2配筋詳細図　1:20



スリット断面詳細図　1:10



ハンドホール配筋詳細図　1:20



鉄 骨 構 造 標 準 図 （1）

1. 一般事項

（1） 材料及び検査

（a） 構造設計仕様による

（b） 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする

（c） 社内検査結果の報告書には、鉄骨の寸法、制度及びその他の結果を添付する

（2） 工作一般

（a） 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る

（b） 鋼管部材の分岐端手番の相貫切断は、鋼管自動切断機による

（c） 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする

（3） 高力ボルト接合

（a） 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない

（4） 溶接接合

（a） 溶接技能者

溶接技能者は施工する溶接に適応するＪＩＳ Ｚ３８０１（半溶接）又はＪＩＳ Ｚ３８４１（半自動溶接）の溶接技術検定試験に合格し引き続き、半年以上溶接に従事している者とする

（b） 溶接機器

（イ） 交流アーク溶接機 ３００Ａ～５００Ａ

（ロ） アークエアーガウジング機（直流）

（ハ） サブマージアーク溶接機一式

（ニ） 直線ガスアーク半自動溶接機

（ホ） 溶接棒乾燥器

（c） 溶接方法

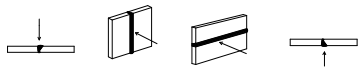
アーク半溶接(MC)

セルフ(ノンガス)シールドアーク半自動溶接(NGC)

ガスシールドアーク半自動溶接機(GC)

アークエアーガウジング(AAG)

（d） 溶接姿勢

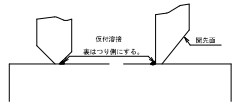


（e） 組立て溶接技能者は、溶剤として本工事に従事する者が行う

（イ）仮付位置

組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける

（ロ） 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



（f） 溶接施工

（イ） エンドタブ

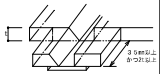
Ⅰ）完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の開始部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける

Ⅱ）エンドタブの材質は、母材と同質とする

Ⅲ）エンドタブの長さは、MC：３６mm以上

NGC、GC ４０mm以上とし特記がない場合は、溶接終了後、母材より１０mm程度残しの所にて、グラインダー仕上げとする

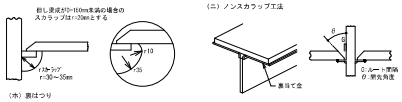
Ⅳ）プレス鋼板タブ、型鋼タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監理者の承認を得る



（ロ） 裏あて金

材質は母材と同質材料とし厚さは半溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする

（ハ） スカラップ半径は30～35mmと、10mmのダブルアールとする



（ホ） 裏はつり

規準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を受け

し、部材に確認マークをつける

（ヘ） 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいため

ない様に、養生を行なう

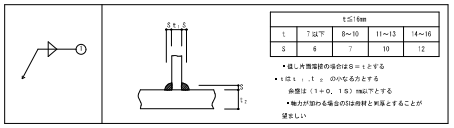
（5） 塗 装

コンクリートに埋の込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

2. 溶接規準図

（注） f：余盛 G：ルート間隔 R：フェース S：脚長 （単位mm）

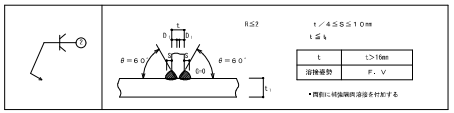
（1） 隅肉溶接



t≦16mm			
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

- 継ぎ片面溶接の場合はS＝tとする
- t は t₁，t₂ のかなる方とする
  余盛は（1＋0．15）mmとする
- 強力が加わる場合のSは両脚と同寸とすることが望ましい

（2） 部分溶込み溶接 （使用箇所に注意）

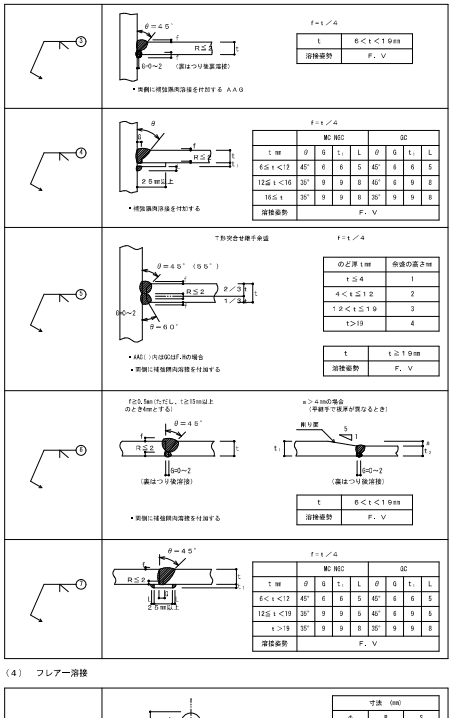


t／4≦S≦10mm
t≦4

t	t>16mm
溶接姿勢	F，V

- 両側に隅肉隅角溶接を付加する

（3） 完全溶込み溶接 （平継手 T継手）



f＝t／4

t	6＜t＜19mm
溶接姿勢	F，V

- 両側に隅肉隅角溶接を付加する AAG

f＝t／4

	MC NGC				GC			
t：mm	θ	G	t₁	L	θ	G	t₁	L
6≦t＜12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t＜16	35°	9	9	8	45°	6	9	8
16≦t	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F，V							

- 隅肉隅角溶接を付加する

T形突合せ継手余盛 t＝t₁／4

のど厚t：mm	余盛の高さ：mm
t≦4	1
4＜t≦12	2
12＜t≦19	3
t>19	4

t	t≧19mm
溶接姿勢	F，V

- AAG（）内はGC3F,4Hの場合
- 両側に隅肉隅角溶接を付加する

（2.5mm（ただし、t≧15mm以上のときt4mmとする）

θ＝45°
R≦2
G=0～2
（裏はつり後溶接）

a＞4mmの場合
（平継手で板厚が異なるとき）
剛与度 5 1
t₁
t₂
G=0～2
（裏はつり後溶接）

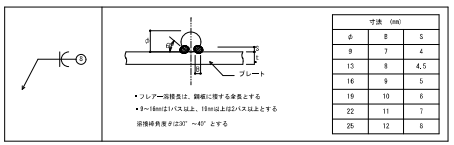
t	6＜t＜19mm
溶接姿勢	F，V

- 両側に隅肉隅角溶接を付加する

f＝t／4

	MC NGC				GC			
t：mm	θ	G	t₁	L	θ	G	t₁	L
6＜t＜12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t＜19	35°	9	9	8	45°	6	9	8
t＞19	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F，V							

（4） フレアー溶接



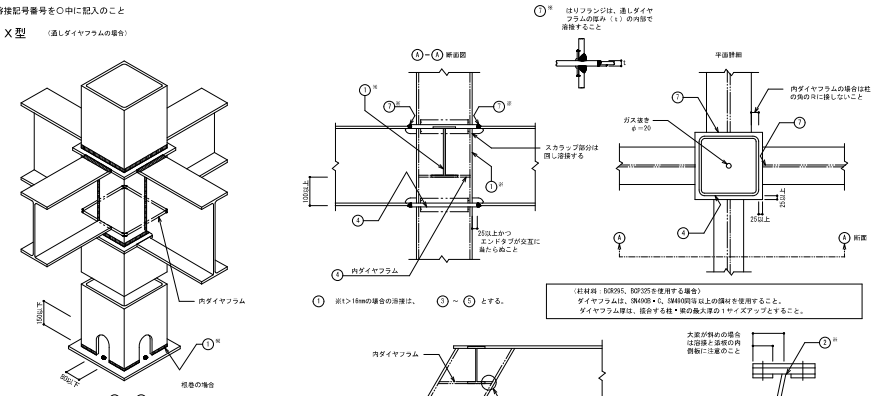
- フレアー溶接長は、鋼板に接する全長とする
- 9～16mmは1パス以上、19mm以上は2パス以上とする

溶接傾角度φは30°～40°とする

寸法 (mm)		
φ	R	G
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

・溶接記号番号を○中に記入のこと

● ＢＯＸ型 （通しダイヤフラムの場合）



① ※t>16mmの場合の溶接は、 ③ ～ ⑤ とする。

（柱材料：BCR295，BCP325を使用する場合）
ダイヤフラムは、SM490B・C，SM490同等以上の鋼材を使用すること。
ダイヤフラム厚は、接合する柱・梁の最大厚の１サイズアップとすること。

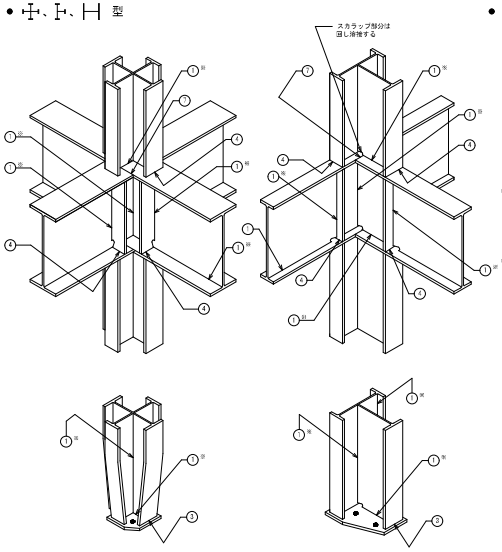
① ※t>16mmの場合の溶接は、 ③ ～ ⑤ とする。

● 鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	パス温度℃
400N 級鋼	JIS Z 3211，3212，3214	(30) 40 以下	(250) 350 以下
	YGW-11，15		
	YGW-18，19		
	YGS-50W，50P		
490N 級鋼	JIS Z 3212，3214	40 以下	350 以下
	YGW-11，15	30 以下	250 以下
	YGW-18，19	(30) 40 以下	(250) 350 以下
	YGS-50W，50P		

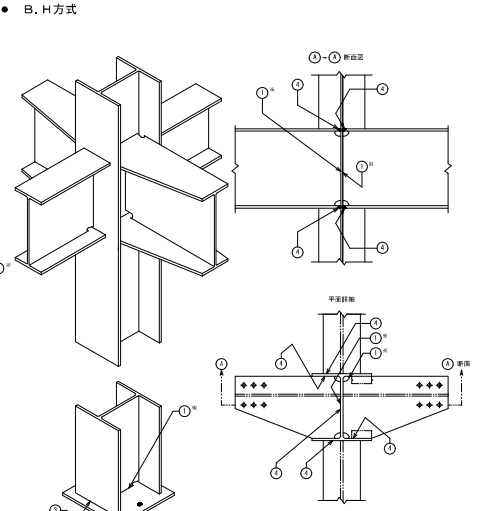
※（ ）内はBCP、BCR材の場合

● ⊕、⊕、⊕ 型



① ※t>16mmの場合の溶接は、 ③ ～ ⑤ とする。

● Ｂ．Ｈ方式



① ※t>16mmの場合の溶接は、 ③ ～ ⑤ とする。

公共建築協会 共通仕様書より

鉄 骨 構 造 標 準 図 （2）

3． 継手規準図、その他

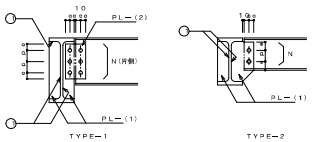
（1） ボルトピッチ（P）、 ボルト穴径・最小縁端距離

（mm）

呼び	ボルト穴径	最小縁端距離（e）				ピッチ（P）	
		（1）	（2）	（3）	（2）の標準	最小	標準
M16	18	40	28	22	40	40	60
M20	22	50	34	26	40	50	60
M22	24	55	38	28	40	55	60
M24	26	60	44	32	45	60	70

（注） （1）引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
（2）せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
（3）圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

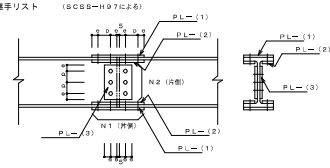
（2） ピン接合梁継手リスト



※別図による

符号	タイプ	部材	PL－（1）	PL－（2）	N－径

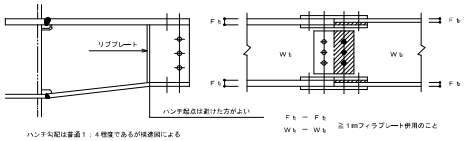
（3） 梁剛接合継手リスト （SCSS－H97による）



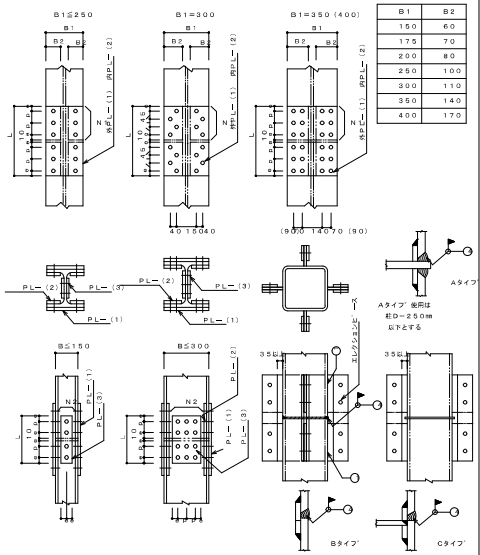
（注） 端部をBHとする場合の体材は設計図による ※別図による

符号	部材	フランジ			ウェブ	
		PL－（1）	PL－（2）	N1－径	PL－（3）	N2－径

（4） ハンチ部の継手



（5） 柱継手リスト （SCSS－H97による）



B1	B2
150	60
175	70
200	80
250	100
300	110
350	140
400	170

（注） 現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%を行う ※別図による

符号	部材	フランジ			ウェブ	
		PL－（1）	PL－（2）	N1－径	PL－（3）	N2－径

（6） 鉄筋ブレース （JIS規格品とする・・・JIS5540・・・1982／5541・5542・・・1993）

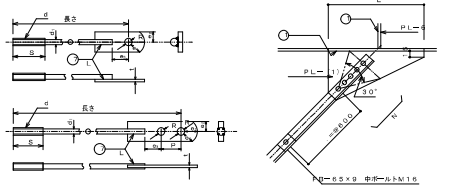
（a）羽子板ボルト

ねじの呼び（d）			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d_1	最大		10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最小		10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
締付ねじの長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 許容差±0.5mm		R	13	17	17	21.5	21.5	23.5	23.5
はしあき（最小）	（2）	e_1	35	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき（最小） （1）	e_2	22	28	28	34	34	38	38
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき（最小） （1）	e_2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト孔から取付ボルト穴心のあき（最小）		e_3	47	52	59	65	66	73	70
溶接長さ（最小）		L	40	50	55	60	75	85	85
取付ボルト	種類		JIS B 1186(10)又は 2種高力ボルト JIS B 1180 8g 10.9						
	ねじの呼び		M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本数		1	1	1	1	1	1	2

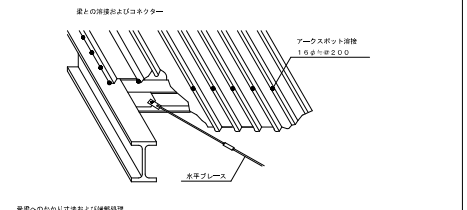
注（1）e 、e_2 が確保されていれば形状は同由でよい
（2）羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断（支圧）接合とする

（b）形鋼ブレース

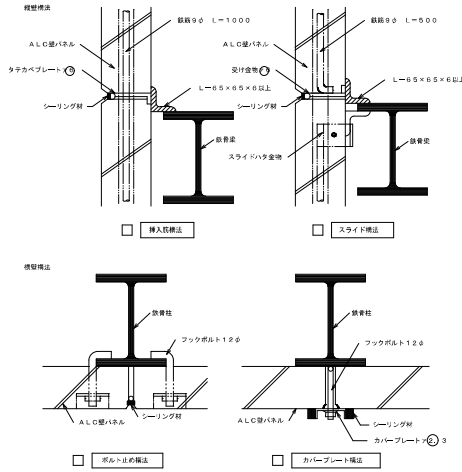
符号	部材	PL－（1）	PL－（2）	N－径



（7） デッキプレート （床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照）



（8） ALC板取付要領



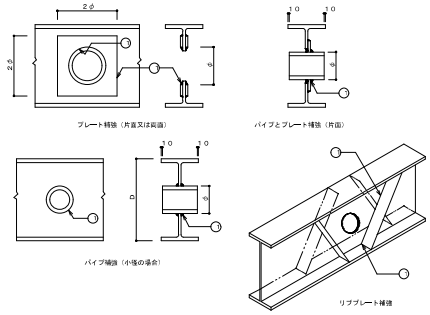
（9） 頭付きスタッド （JIS1198）

スタッド材の標準形状・寸法

形状	スタッド材				
	呼び名	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	溶接後の長さ L mm
	φ13mm	13.0 12.7	22.0 25.4	10.0 7.9	50、80、100、130
	φ16mm	16.0 15.8	29.0 31.7	10.0 7.9	80、100、130
	φ19mm	19.0 19.0	32.0 31.7	10.0 9.5	80、100、130、150
	φ22mm	22.0 22.2	35.0 34.9	10.0 9.5	100、130、150

（10） 梁貫通補強

- 計算で補強された場合は下記の位置、寸法によらなくて良い。
- 梁成部（スパンのL／10以内かつ2D以上）は避ける
- φ≦0.4D



公共建築協会 共通仕様書より

壁式配筋基準図（１）

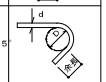
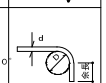
１．鉄筋の表示

鉄筋の表示は下表による。

鉄筋径	Ｄ１０	Ｄ１３	Ｄ１６	Ｄ１９	Ｄ２２
記　号	○	×	∅	●	○

２．鉄筋加工、かぶり

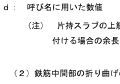
（１）鉄筋末端部の折曲げ形状・寸法

曲げ角度	折り曲げ図	鉄筋の折り曲げ内径寸法（Ｄ）	鉄筋の余長	備　考
１８０°		Ｄ１６以下　３ｄ以上 ＳＤ３４５（Ｄ１９～Ｄ２９）４ｄ以上 ＳＤ３９０（Ｄ２９以上）５ｄ以上	４ｄ以上	
１３５°			６ｄ以上	
９０°			８ｄ以上	スラブ筋、壁筋の末端部またはスラブと同等に打込むＴ、Ｌ形ばりのキャップタイにのみ用いる。 キャップタイ

ｄ：　呼び名に用いた数値

（注）　片持スラブの上筋の先端、壁の自由端に用いる先端にフックを付ける場合の余長は４ｄ以上でよい。

（２）鉄筋中間部の折り曲げの形状、鉄筋の折り曲げ角度９０°以下

曲げ角度	折り曲げ図	使用箇所	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内径寸法（Ｄ）
９０°以下		あばら筋 帯筋 スパイラル筋	Ｄ１６以下	３ｄ以上
			Ｄ１９以上	４ｄ以上
		上記以外の鉄筋	Ｄ１６以下	４ｄ以上
			Ｄ１９～Ｄ２５	６ｄ以上
			Ｄ２９～Ｄ３８	８ｄ以上

（３）鉄筋の定着および重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度（Ｎ／ｍｍ²）	定着の長さ　一般（Ｌ２）	定着の長さ　下端筋（Ｌ³）小梁	定着の長さ　下端筋（Ｌ³）スラブ	特別の定着および重ね継手長さ（Ｌ１）
ＳＤ２９５Ａ	１８	４０ｄまたは ３０σｔｏｐ付	２５ｄまたは １５σｔｏｐ付	１０ｄかつ １５ｃｍ以上	４５ｄまたは ３５σｔｏｐ付
ＳＤ２９５Ａ ＳＤ３４５	２１～２７	３５ｄまたは ２５σｔｏｐ付			４０ｄまたは ３０σｔｏｐ付
	３０以上	３０ｄまたは ２０σｔｏｐ付			３５ｄまたは ２５σｔｏｐ付

（注）　末端のフックは定着長さに含まない。

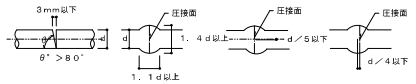
○　梁および小梁筋の定着のための中間折り曲げにあっては、表中の定着長さに関わらず、柱および梁の中心を超えてから折り曲げる。

○　耐圧スラブの下端筋の定着長さは、一般定着（Ｌ２）とする。

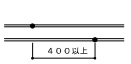
○　径の異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い方のｄによる。

○　耐圧スラブを受ける小梁の下端筋（Ｌ２）とする。

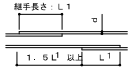
ａ．（ガス圧接形状）



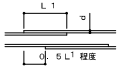
ｂ．（ガス圧接）



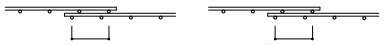
ｃ．（重ね継手）



（下図のいずれかとする）



（４）溶接金網の継手



ⓐ　応力伝達継手　　ⓑ　ひびわれ防止メッシュ

（５）設計かぶり厚さ

ａ．使用区分　　（単位：ｍｍ）

使用区分		設計かぶり厚さ（ｂ）	備考
土に接しない部分	床版 耐力壁以外の壁	３０	
	梁・耐力壁	４０	
	擁壁	５０	
土に接する部分	梁・床版・壁	５０	
	基礎・擁壁・耐圧版	７０	
煙突など高熱を受ける部分		７０	

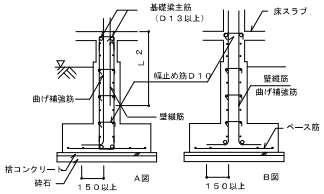
ｂ．各部分のかぶり厚さ

床版	壁	梁	直接基礎	杭基礎

（注）　ｂには、増しコンクリート厚さは含まない。

３．基　礎

（１）直接基礎

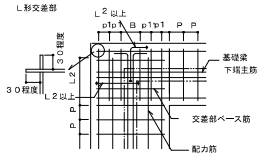


曲げ補強筋と壁縦筋は、原則としてベース筋位置まで延ばす。

ただし、あばら筋形式の布基礎（Ａ図）の場合は、壁縦筋に限りＬ２定着でも

布基礎交差部の配筋（平面）

Ｌ形交差部



Ｐ：ベース筋の設計間隔

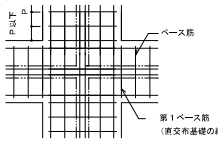
ｐ１　：交差部ベース筋の間隔（≦Ｐ）

Ｂ：基礎梁の幅

（基礎梁側面位置に交差部ベース筋を配置し、第１ベース筋との間をＰ以下に配置する）

（交差する布基礎の縁からＬ2　の長さを確保する）

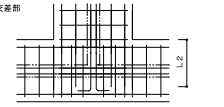
Ｘ形交差部



ベース筋の間隔は原則として２００mm以下とし、配力筋の間隔は３００mm程度とする。

（直交布基礎の縁に配置する）

Ｔ形交差部



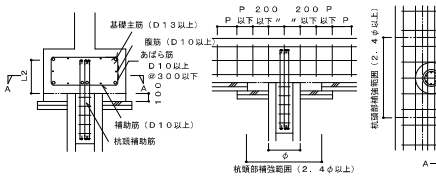
原則として、基礎梁下端筋・ベース筋・配力筋および交差部ベース筋を配置する。

また、特殊な場合にはばか筋を配置する。

（２）杭基礎

Ｐ：あばら筋の設計間隔（３００以下）

φ：杭径



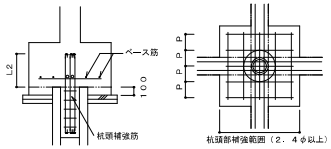
基礎主筋はＤ１３以上とし、あばら筋・補強筋・腹筋はＤ１０以上とする。

あばら筋の間隔は３００mm以下とし、杭頭部では原則として２０cm以下とする。

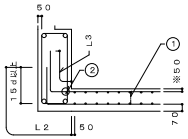
また、補助筋・腹筋の間隔は３００mm程度とする。

Ｐ：ベース筋の設計間隔（２００以下）

φ：杭径



（３）べた基礎

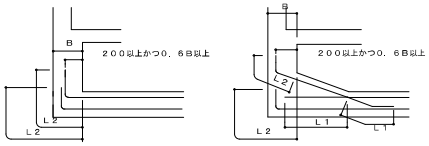


○①　の鉄筋はスラブ幅止め筋でＤ１０以上で@１０００以内

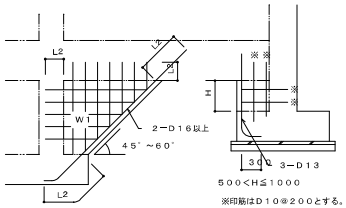
○②　の鉄筋はＤ１３以上

○　埋戻し土のある場合は※５０を７０とする。

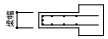
（４）耐圧版（定着および継手）



（５）基礎接合部の補強

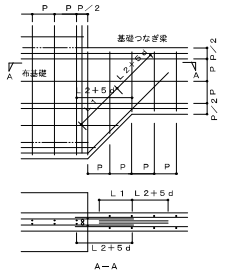


Ｗ1の三角壁厚さは、２００以上または基礎梁幅とし、配筋は同厚の壁リストにならう。



Ｈ≦５００は※印筋は不要とする。

（６）布基礎と基礎つなぎ梁



Ｐ：鉄筋の設計間隔

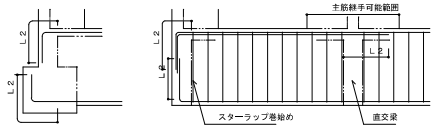
段差が生じる場合は、３０～４０°のハンチを設けて補強を行う。

ただし、段差が小さい場合（布基礎せいの１／５程度）は、ハンチを設けなくてもよい。

４．基礎梁

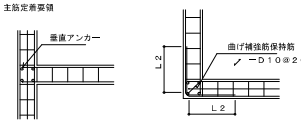
（１）基礎はりの配筋

ａ．定着・継手



地反力を受けない場合　　地反力を受ける場合

ｂ．主筋定着要領



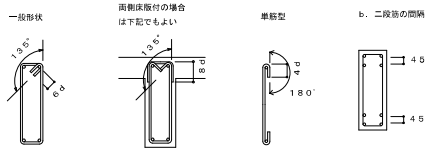
Ｔ形交叉部　　Ｌ形交叉部

◎　印は、耐力壁の曲げ補強筋を示す。

（２）スターラップの加工、その他

ａ．スターラップの加工

２Ｇ～ＲＧについては、壁式配筋基準図－２　７．による。



片側床版以外は、フック位置を交互とする。

ｃ．鉄筋相互のあき（Ｐ）は、下記のうち最大のもの以上とする。

１）粗骨材の最大寸法の１．２５倍

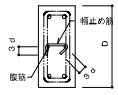
２）２５mm

３）鉄筋径（ｄ）の１．５倍

Ｄ：鉄筋の最外径、ｄ：鉄筋径（呼び名）

（３）幅止め筋の本数、加工

腹筋	Ｄ＜６００	不要
	６００≦Ｄ＜９００	２－Ｄ１０　１段
	９００≦Ｄ＜１２００	２－Ｄ１０　２段
	１２００≦Ｄ	２－Ｄ１０　@３００以内
幅止め筋	Ｄ１０　@１０００以内で割付ける	



○　腹筋は柱面より３０mm以上定着すること。

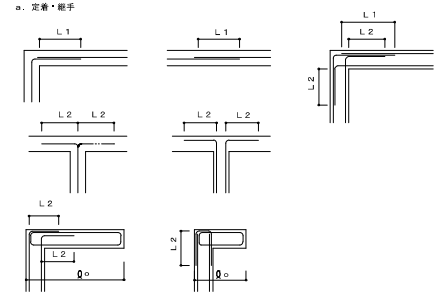
公共建築工事共通仕様書（建築編）より

壁式配筋基準図（２）

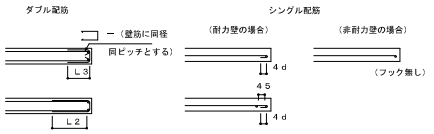
５．壁の配筋

（１）横筋の継手、定着、その他

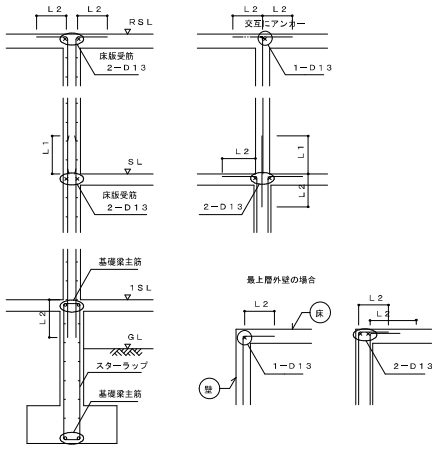
ａ．定着・継手

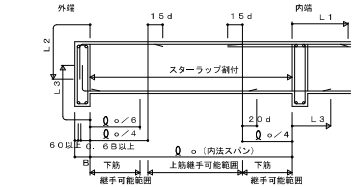


ｂ．横筋・末端部



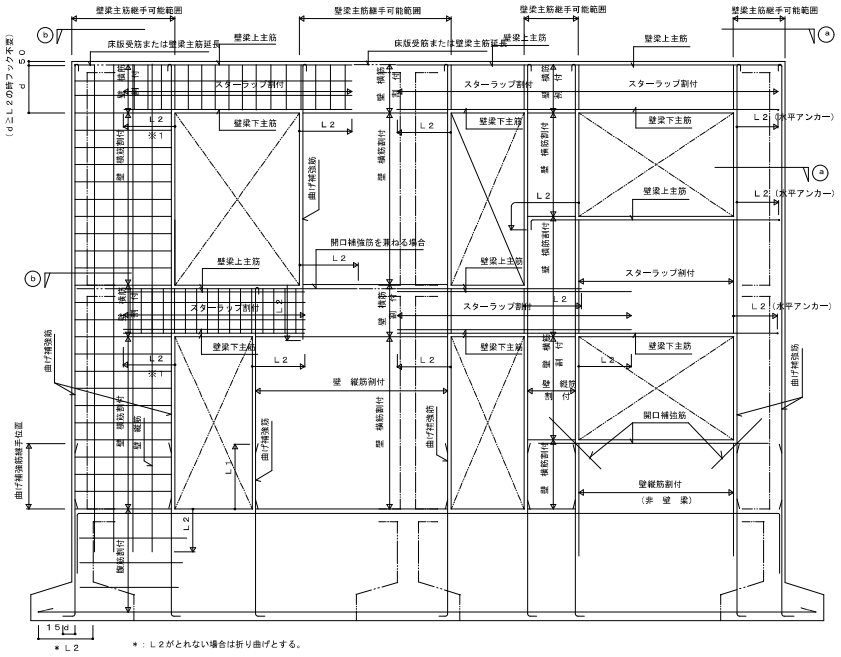
（２）縦筋の継手、定着



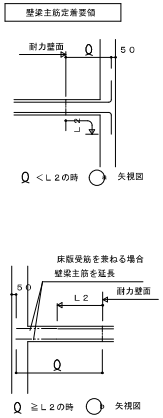


６．耐力壁・壁梁の配筋詳細

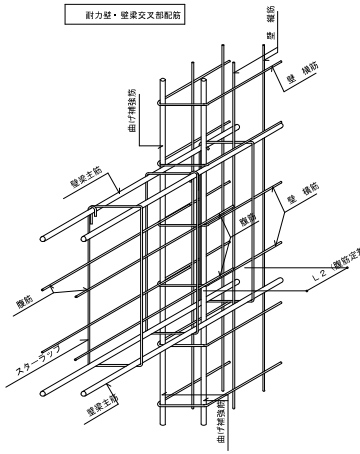
・壁梁主筋の定着・継手およびスターラップの割付。
・耐力壁曲げ補強筋の定着および継手。縦横筋の割付



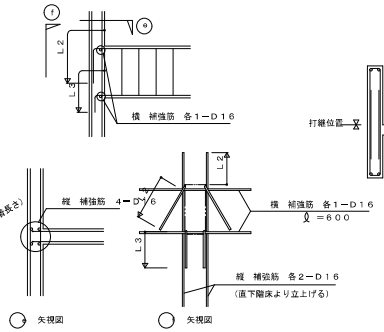
壁梁主筋定着要領



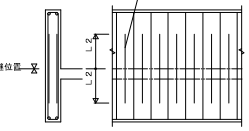
耐力壁・壁梁交叉部配筋



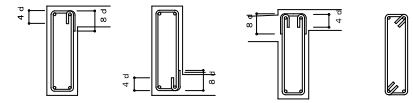
壁と梁の取合部配筋



壁梁打継部補強



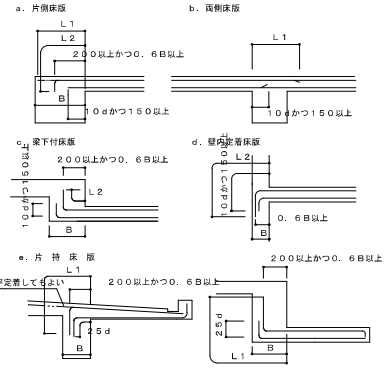
壁梁スターラップの加工



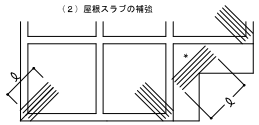
※１壁内のスターラップの形状は、左記で可とする。

７．床版

（１）定着および継手

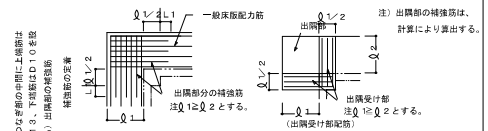


（２）屋根スラブの補強



ⓐ 補強筋は各ーＤ１３またはスラブ主筋の同一ℓ定で キ．５００とし、上端部の下に配筋する
ⓑ ＊の個所（入隅）は各階補強する

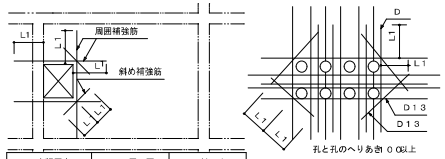
（３）片持ちスラブの補強



注）出隅部の補強筋は、計算により算出する。

※出隅受け部補強筋は、それぞれの方向に出隅部補強筋として、出隅部の同本数をハッチ部分に配置する。

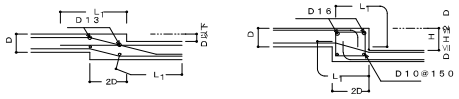
（４）床版開口部の補強　（開口の径００　以下の場合）



床版厚さD	周囲	斜め
D≦ 150	各 2−D 13	各 1−D 13
150＜D≦ 200	各 2−D 13	各 2−D 13
200＜D≦ 300	各 2−D 19	各 2−D 16

注）設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切られる鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

（５）床版段差

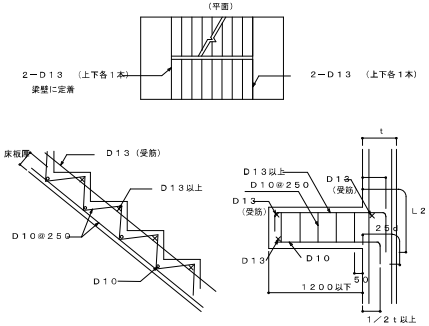


公共建築工事共通仕様書（建築編）より

壁式配筋基準図（３）

８．　階段

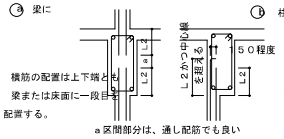
（１）片持階段



９．　壁

（１）定着

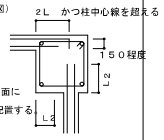
Ⓐ 梁に



横筋の配置は上下端とも梁または床面に一段目を配置する。

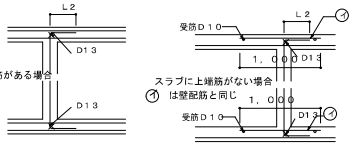
ａ区間部分は、通し配筋でも良い

Ⓑ 柱に（平面図）



縦筋は、柱面に一本目を配置する

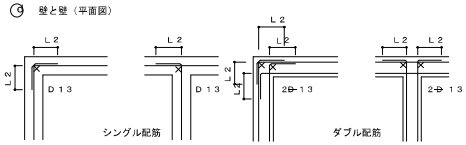
Ⓒ 床に　（非耐力壁とスラブが取合う場合）



スラブに上端筋がある場合

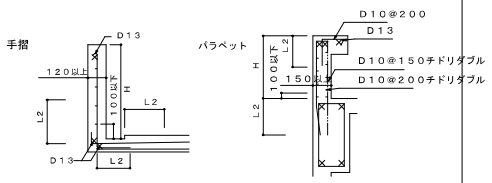
スラブに上端筋がない場合
Ⓐは壁配筋と同じ

Ⓓ 壁と壁（平面図）



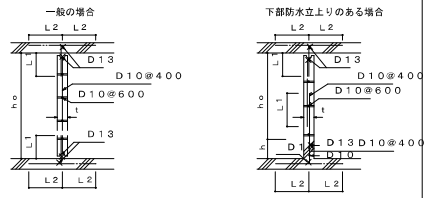
シングル配筋　　ダブル配筋

（２）手摺、パラペット



（　　ただしＨ≧８００以上の場合、設計図による）

（３）コンクリートブロック帳壁

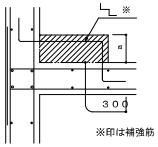


- Ｈ≦　２５ｔ　かつ５００　以下とする。ただし直交方向ｔ　以内に壁、または柱がある場合は除く。
- ｈはコンクリートブロック段数調節寸法とする。ただし　≦ｈ　４００
- 継手部は必ずモルタルを充填すること。

１０．　増打コンクリート補強

（増打するときは事前に設計者および工事監理者と打合せのこと）

（１）　壁

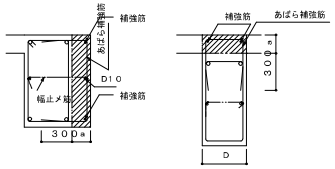


※柱と同径、同ピッチとする。

※印は補強筋

- ａは８０～２００程度。
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

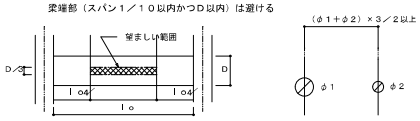
（２）　梁



- 補強筋は、梁主筋の１段落し径（Ｄ１３以上）とする。
- あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
- 腹筋Ｄ１０ピッチは、梁の腹筋と合わせる。
- ≧Ｄ　４００の場合は補強筋を３本とする。
- ａは８０～２００程度。
- 梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

１１．　梁貫通孔補強

（１）設置可能範囲

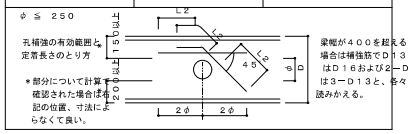


貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は場合は設計者または工事監理者と打合せのこと。

（２）鉄筋標準配筋

ただし　≦Ｄ／　とする

８０ ≦ １００	１００ ≦ １５０	１５０ ≦ ２５０
折筋　２－（２－Ｄ１３） 縦筋　ＳＴ２－Ｄ１３	折筋　２－（２－Ｄ１３） 縦筋　ＳＴ４－Ｄ１３ 横筋　２－（２－Ｄ１３）	折筋　４－（２－Ｄ１３） 縦筋　ＳＴ４－Ｄ１３ 横筋　２－（２－Ｄ１３） 上下縁筋　各ＳＴ１－Ｄ１３



（３）既製品

（使用するときには、監理者の承諾を得ること）

○リング型　　○パイプ型　　○金網型　　○プレート型

公共建築工事共通仕様書（建築編）より

令和６年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築そのた工事		
図面番号		縮 尺	―
図 名	二葉の里消火水槽 ボーリング柱状図	番号	CS-24
	高速5号線		
広島高速道路公社			

ボーリング柱状図

調査名　高速5号線　道路附属施設詳細設計業務（ボーリング調査）

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	二葉の里①	調査位置	広島県広島市東区二葉の里　地内	北緯	34° 24′ 12.3″
発注機関	広島高速道路公社	調査期間	平成 31年 1月 28日 ～ 31年 1月 29日	東経	132° 28′ 29.0″
調査業者名	西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社 電話（082－532－1432） 主任技師 西村 信宏	現場代理人	西出 満男	コア鑑定者 大岩 直人	ボーリング責任者 山本 勝美
孔口標高	KBM +15.6m	角度 180° 上 90° 下 0° 0°	方向 270° 北 0° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配 鉛直 90° 0° 不平 0°	使用機種
試錐機	東邦製 D1-B型	ハンマー落下用具	半自動落下装置		
総掘進長	13.00m	エンジン	ヤンマー（株） NFD12-MEK	ポンプ	東邦製 BG-3型

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1～6.70	8.90～6.70	6.70	6.70		盛土	淡褐灰	緩い～密な		GL-0.00～0.05m間は砕石。 GL-3.00m付近までは工事施工ヤードの地盤改良土と考えられる。 礫は細礫と主体とする。 所々に40～50mm程度の亜角礫を混入する。 砂は中砂～粗砂を主体とする。 下位では砂分が優勢となる。	盛土層 1/29 6.05
7	7.80	110	7.80		礫混じり粘土質砂	暗灰～灰黒	緩い		GL-6.70～7.30m間は明灰色を呈し粘性が強い。 砂は中砂～粗砂を主体とする。	声程層
8～9	5.60	200	9.80		強風化花崗岩	黄灰	中位～密な		全体に強風化を受け礫質土状を呈する。 コアは指圧にて土砂化する。 岩級区分では2級程度。	白道板
10～13	2.60	320	13.00		風化花崗岩	黄灰	非常に密な		全体に風化を受け岩片状を呈する。 コアは強い指圧～ハンマーの軽打でボロボロに砕ける。 岩級区分では3級程度。 土工区分では軟岩Ⅰ程度。	広島花崗岩

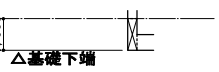
標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.00～1.45	8	7	6	23/30	23
1.45～2.15	12	17	15	44/30	44
2.45～3.15	3	2	2	7/30	7
3.45～4.15	6	9	10	25/30	25
4.45～5.15	3	3	4	10/30	10
5.45～5.65	2	4	3	9/30	9
5.65～5.85	2	2	3	7/30	7
5.85～6.15	14	14	15	43/30	43
6.45～6.65	6	5	9	20/30	20
6.65～6.85	14	26	10/4	50/24	63
7.15～7.35	19	18	13/6	50/28	88
7.35～7.55	30	20/4		50/14	107
7.55～7.80	50/8			50/5	188

原位置試験

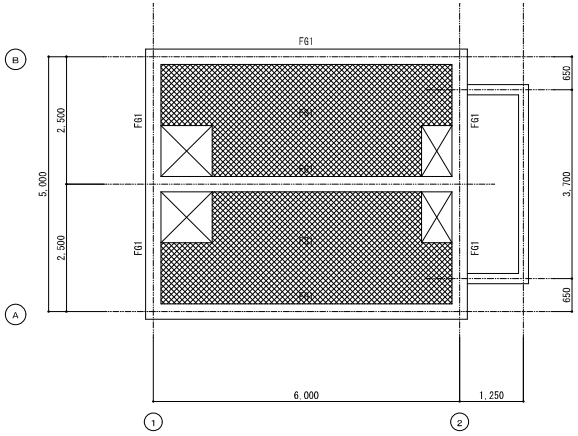
深度 (m)	試験名および結果
3.00～4.00	孔内水平載荷試験 E=8,131kN/m2

試料深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
6.15～6.45	P-1	⑦	粒度	1/29
7.15～7.55	P-2	⑦	粒度	
7.55～7.80	P-3	⑦	粒度	



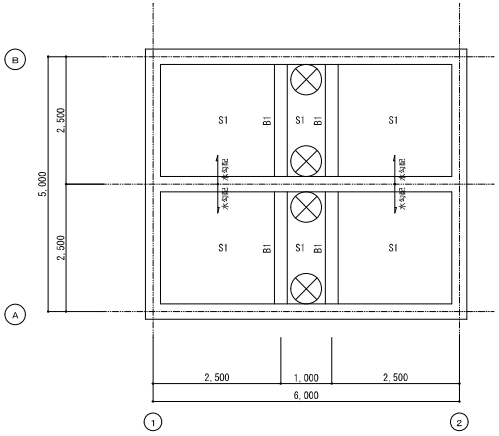
令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1/50
図 名	二葉の里消火水槽 伏図・軸組図	番号	ＣＳ－２５
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			

共 通 事 項					
長期鉛直地耐力度	qa=100kN/m2（支持層：盛土層 N≧7 GL-1.0m ）	土間コンクリート	普通コンクリート Fc=24N/mm2 S=18cm	備考	・打設時期にあった構造体強度補正を行うこと ・コンクリートの仕様は、 「公共建築工事標準仕様書（建築工事）最新版」による
鉄筋	D19未満 SD295A（重ね継手）				
	D19以上 SD345 （圧接）	捨てコンクリート	普通コンクリート Fc=18N/mm2 S=15cm ・コンクリート厚 50mm		
コンクリート	普通コンクリート Fc=24N/mm2 S=18cm				
基礎コンクリート	普通コンクリート Fc=24N/mm2 S=15cm	砕石	・厚さ 100mm		



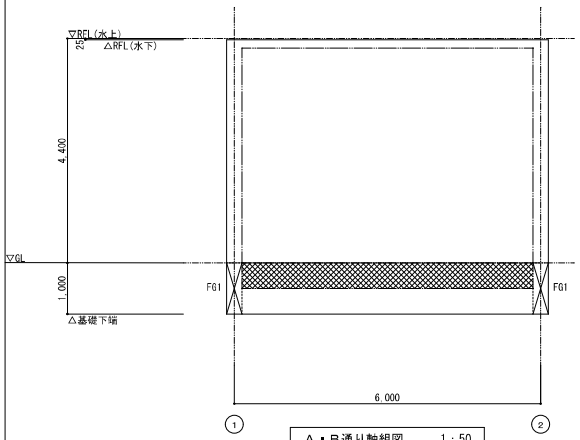
基礎伏図（見下図） 1：50

記入なき限り、下記とする
1．基礎下端レベル：GL－1,000
2．壁はW30とする。
3．耐圧盤はFS1とする。
4．▨は増打ち範囲を示す。



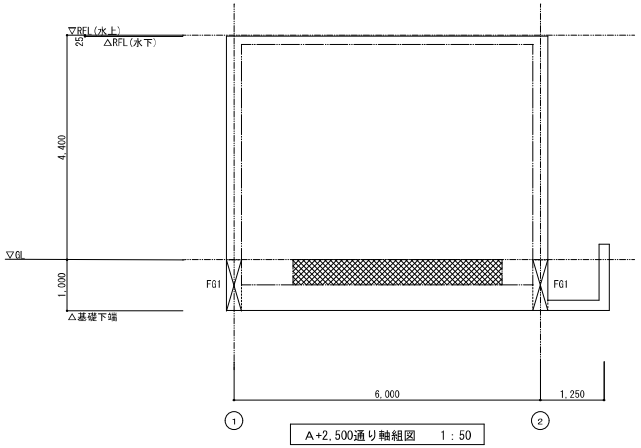
１階壁Ｒ階梁床伏図（見上図） 1：50

記入なき限り、下記とする
1．床天端レベル：RFL±0～-25
2．壁はW30とする。
3．床はS1とする。



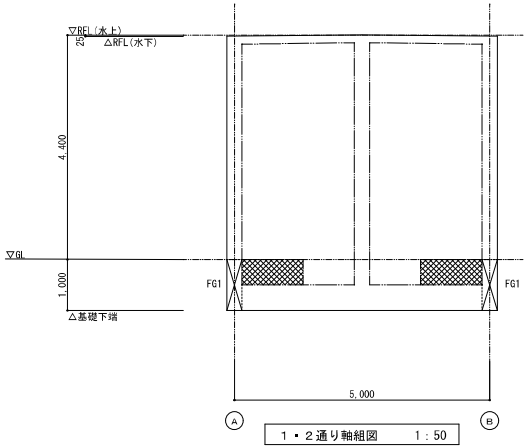
Ａ・Ｂ通り軸組図 1：50

記入なき限り、下記とする
1．壁はW30とする。
2．▨は増打ち範囲を示す。



Ａ+2,500通り軸組図 1：50

記入なき限り、下記とする
1．壁はW30とする。
2．▨は増打ち範囲を示す。



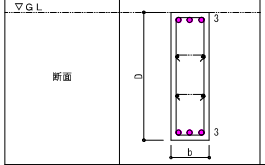
１・２通り軸組図 1：50

記入なき限り、下記とする
1．壁はW30とする。
2．▨は増打ち範囲を示す。

令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1/20
図 名	二葉の里消火水槽 梁・壁・スラブリスト 配筋詳細図	番号	ＣＳ－２６
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			

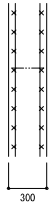
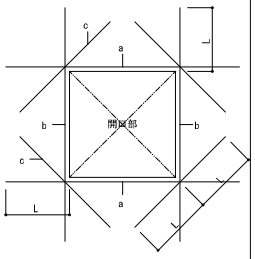
梁リスト　1:20

特記外　1．巾止筋はD10−@1,000とする。

符 号	ＦＧ１	B1	
位 置	全断面	全断面	
▽ＧＬ 断面			
ｂ×Ｄ	300 × 1000	250 × 450	
上端筋	3-D19	2-D16	
下端筋	3-D19	2-D16	
ＳＴＰ	□ -D13-@150	□ -D10-@200	
腹 筋	4-D10	-	

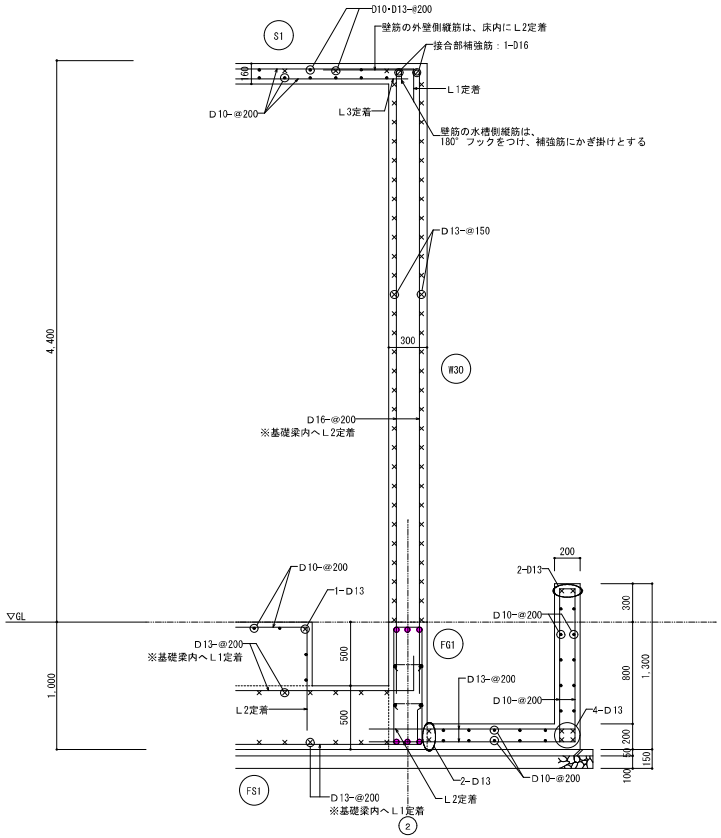
壁リスト　1:20

特記外　1．巾止筋はD10−@1,000とする。

符号		W30		開口部補強筋
断 面				
縦筋		D16-@200 D		
横筋		D13-@150 D		
開口部補強筋	a	——		
	b	——		
	c	——		
端部補強筋		4-D16		

スラブリスト

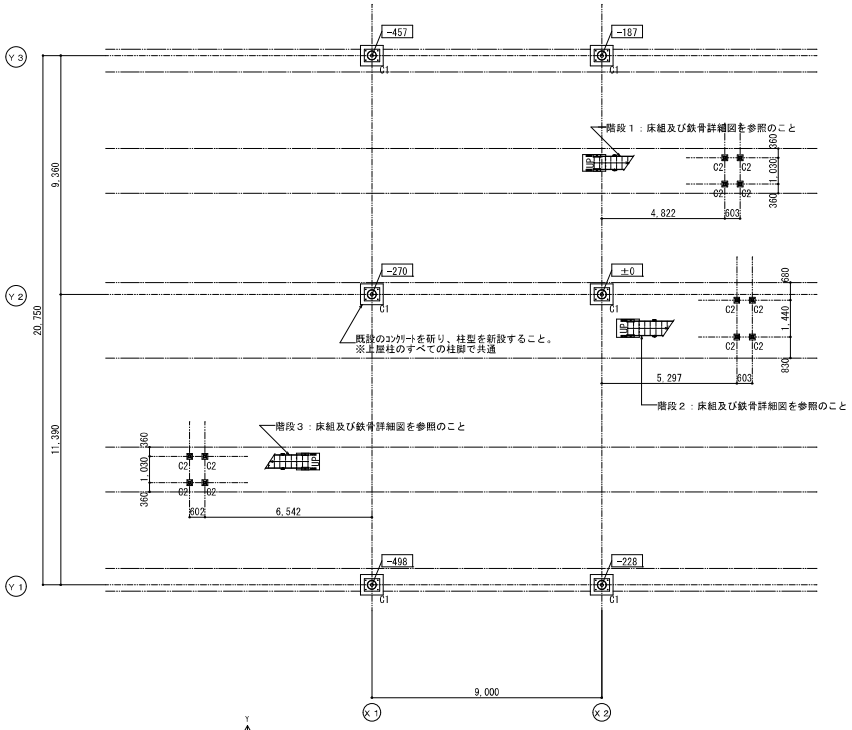
符号	床厚	位置	短辺方向(主筋方向)			長辺方向(配力筋)		
			端部	中央	周辺部	端部	中央	周辺部
S1	160	上筋	D10･D13-@200			D10-@200		
		下筋	D10-@200			D10-@200		
FS1	500	上筋	D13-@200			D13-@200		
		下筋	D13-@200			D13-@200		



配筋詳細図　1:20

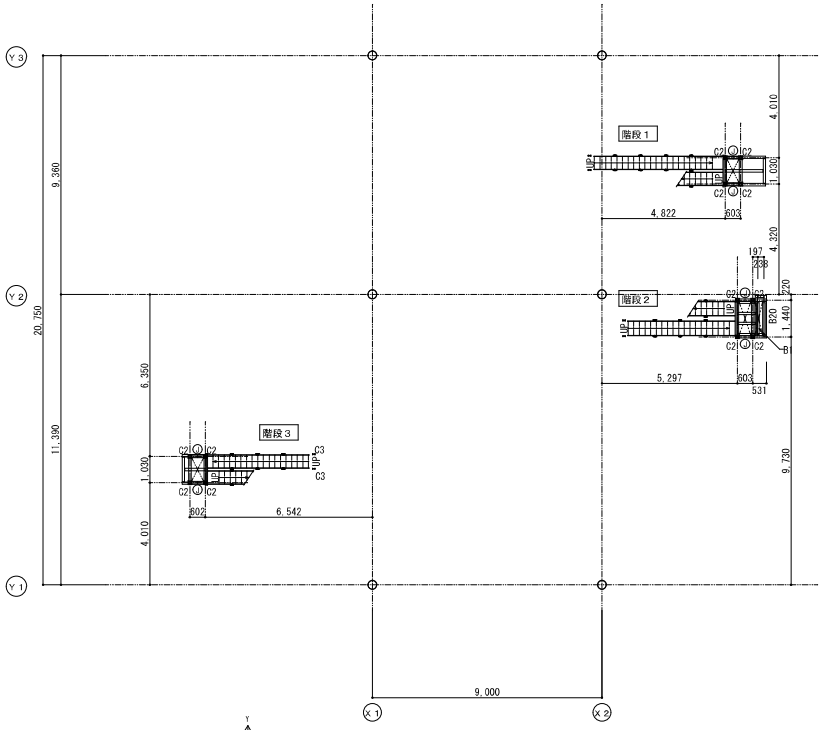
令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	1/100
図名	広島駅北口料金所 伏図（１）	番号	ＣＳ－２７
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			

共通事項		
鋼材	円型鋼管	STKN400B
	角型鋼管	STKR400
	H型鋼	SN400A、SN400B
	ﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑ	SN490C
	ﾍﾞｰｽﾌﾟﾚｰﾄ	SN490C
	ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ	ABR490
	軽量型鋼	SSC400
	鋼板	SN400B
	高力ボルト	F8T
備考	・鋼材の仕上げは、溶融亜鉛メッキとすること	



１階伏図（見下図）　1:100

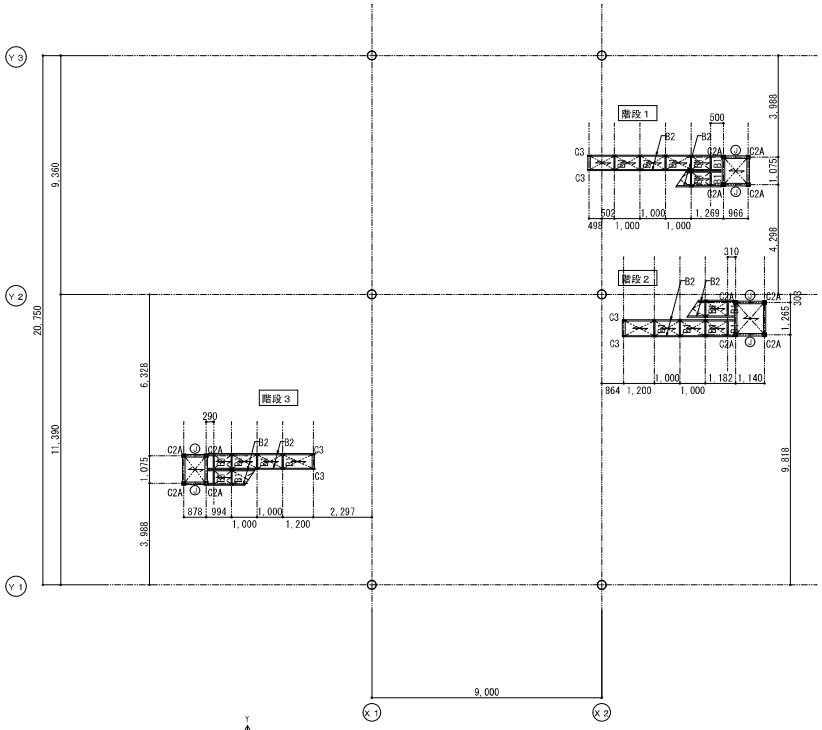
記入なき限り、下記とする
1．最高の舗装天 +221をGLとする。
2．○○○は GLからのアイランド天端レベルを示す。



階段伏図（見下図）　1:100

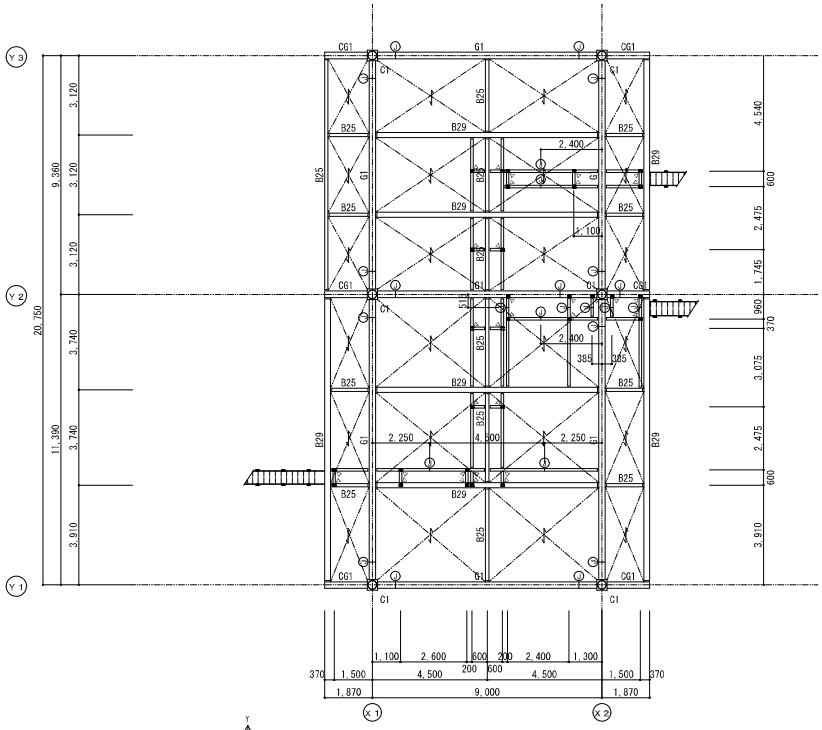
記入なき限り、下記とする
1．大梁は全て、「G20」とする。
2．┅┅印は屋根ブレースHV2を示す。（階段下の全ての層に配置すること）
3．Ⓙは現場継手位置を示す。（位置は、スパンの中央とすること）
4．═══印は階段踊り場の床組を示す。
5．階段の段部や床組等は、詳細図を参照のこと

令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1/100
図 名	広島駅北口料金所 伏図（２）	番号	ＣＳ－２８
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			



階段屋根伏図（見下図）　1:100

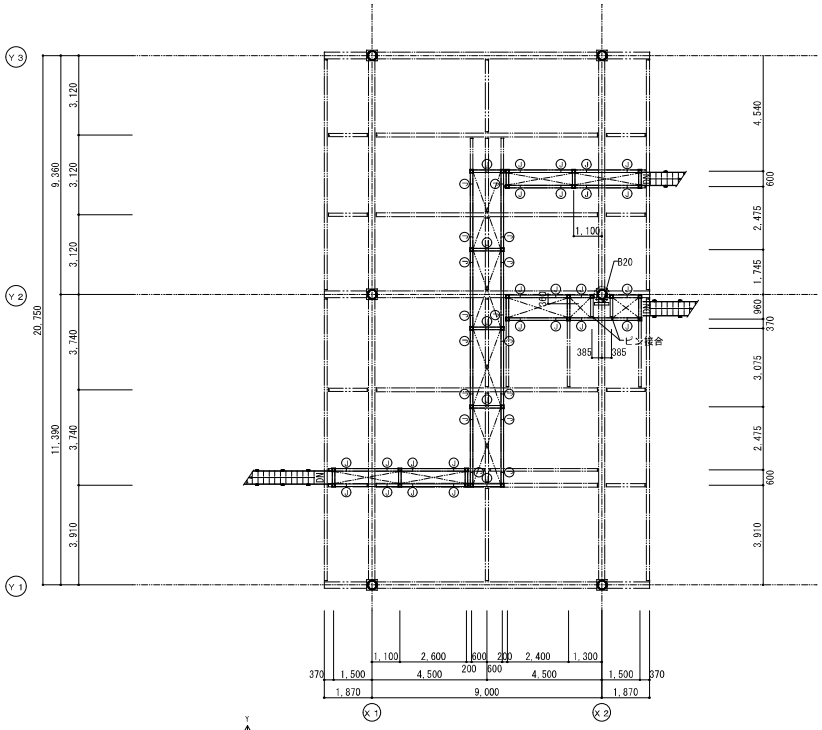
記入なき限り、下記とする
1．大梁は全て、「G14」とする。
2．┅┅印は屋根ブレースHV1を示す。
3．Ⓙは現場継手位置を示す。（位置は、スパンの中央とすること）
4．⟷印は折板方向を示す。



屋根伏図（見上図）　1:100

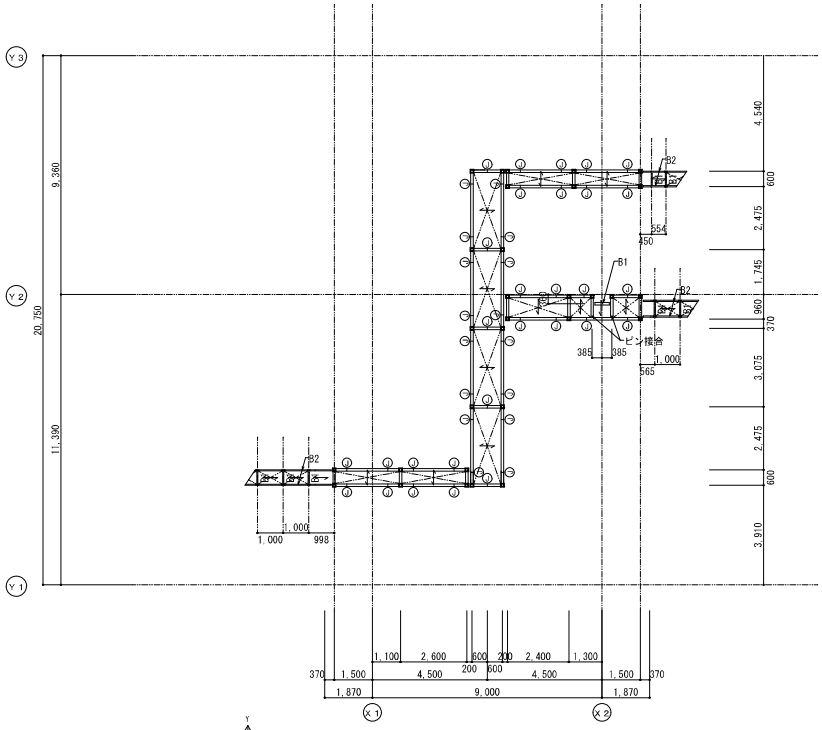
記入なき限り、下記とする
1．部材レベルは軸組図による。
2．▽印は開接合位置を示す。
3．┅┅印は屋根ブレースHV2を示す。
4．Ⓙは現場継手位置を示す。（位置は、軸組図を参照のこと）
5．⟷印は折板方向を示す。
6．小梁は、「B20」とする。

令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	1/100
図名	広島駅北口料金所 伏図（３）	番号	ＣＳ－２９
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			



通路床伏図（見上図）　1:100

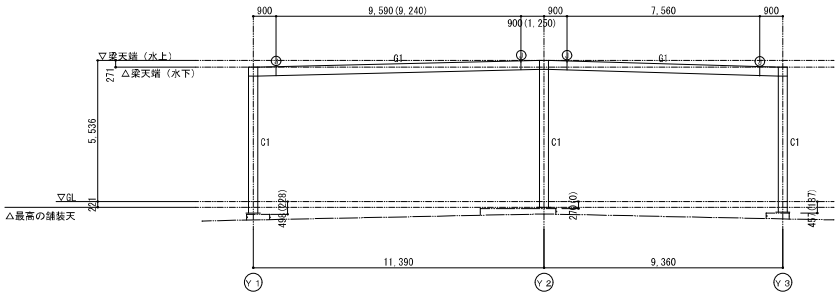
記入なき限り、下記とする
1．部材レベルは軸組図による。
2．┅印は屋根ブレースHV2を示す。
3．Ⓙは現場継手位置を示す。（位置は、軸組図を参照のこと）
4．柱は、「C2B」とする。
5．大梁は、「G20」とする。



通路屋根伏図（見上図）　1:100

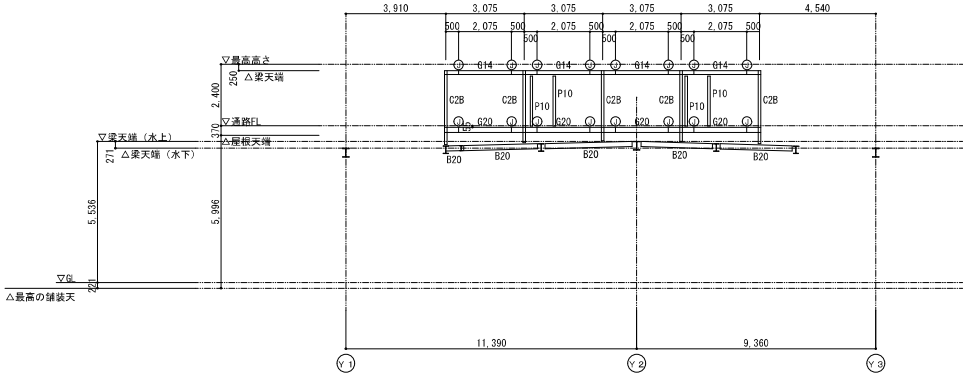
記入なき限り、下記とする
1．部材レベルは軸組図による。
2．┅印は屋根ブレースHV1を示す。
3．Ⓙは現場継手位置を示す。（位置は、軸組図を参照のこと）
4．┅印は折板方向を示す。
5．柱は、「C2B」とする。
6．大梁は、「G14」とする。

令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1/100
図 名	広島駅北口料金所 軸組図	番号	ＣＳ－３０
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			



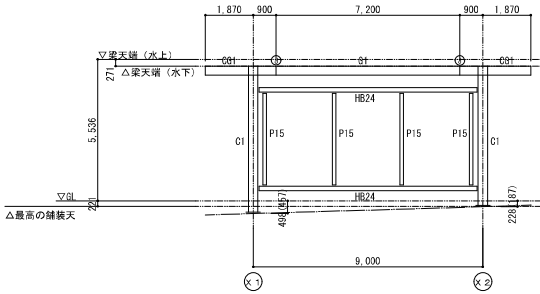
Ｘ１・Ｘ２通り軸組図　1:100

記入なき限り、下記とする
1．Ⓙは現場継手位置を示す。
2．（ ）はＸ２通りのレベル及び符号を示す。
3．B.PL下端は、アイランド天端+50とする。



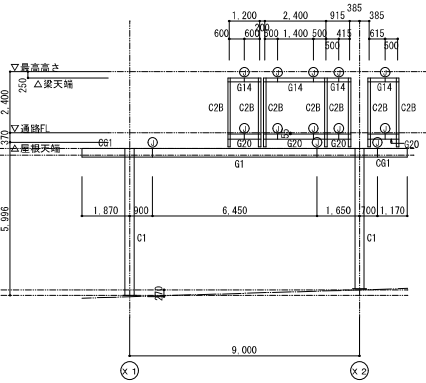
Ｘ１+5,100通り軸組図　1:100

記入なき限り、下記とする
1．Ⓙは現場継手位置を示す。



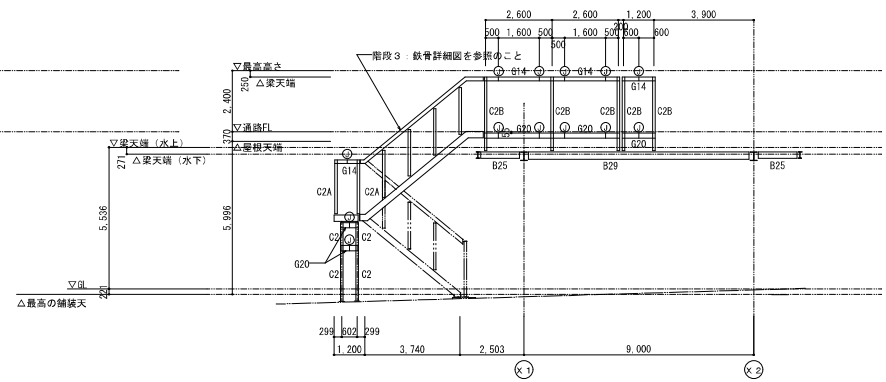
Ｙ１・Ｙ３通り軸組図　1:100

記入なき限り、下記とする
1．Ⓙは現場継手位置を示す。
2．（ ）はＹ３通りのレベル及び符号を示す。
3．B.PL下端は、アイランド天端+50とする。



Ｙ２通り軸組図　1:100

記入なき限り、下記とする
1．Ⓙは現場継手位置を示す。
2．B.PL下端は、アイランド天端+50とする。



Ｙ１+3,988通り軸組図　1:100

記入なき限り、下記とする
1．階段踊り場等のレベルは、詳細図を参照のこと
2．Ⓙは現場継手位置を示す。
3．B.PL下端は、アイランド天端+30とする。

令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1/20
図 名	広島駅北口料金所 部材リスト・床組詳細図	番号	CS-31
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			

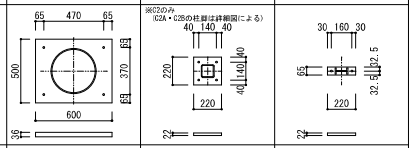
鉄骨部材リスト 1:20

特記外
1. 使用鋼材は、SN400Aとする。

符号	部材	仕口	備考
B1	H-148x100x6x9	G.PL-6 HTB 2-M16	ボルトは1行×2列配置
B2	BH-150x45x6x9	G.PL-9 HTB 2-M16	ボルトは1行×2列配置
B3	[-250x90x9x13	G.PL-12 HTB 3-M16	踊場床組に使用
B20	H-200x100x5.5x8	G.PL-6 HTB 2-M16	
B25	H-250x125x6x9	G.PL-6 HTB 2-M20	Y1及びY3通りのG1に接続する箇所は、2×2-M20
B29	H-294x200x8x12	G.PL-9 HTB 3-M20	
HB24	H-244x175x7x11	G.PL-9 HTB 2-M20	横使い
P1	BH-100x45x6x9	G.PL-6 HTB 1-M16	階段に使用
P10	H-100x100x6x8	G.PL-9 HTB 2-M16	ボルトは1行×2列配置
P15	H-150x150x7x10	G.PL-9 HTB 2-M16	ボルトは1行×2列配置
ｻﾔﾗ	PL-12	G.PL-12 HTB 3-M16	
HV1	I-M12(ターンバックル付)	G.PL-9 HTB 1-M16	JIS製品、SS400
HV2	I-M16(ターンバックル付)	G.PL-9 HTB 1-M20	JIS製品、SS400
屋根葺き材	折板 t=0.8(山高85以上)		上屋の屋根に使用
屋根葺き材	折板 t=0.8(山高170以上)		通路の屋根に使用

柱リスト 1:20

特記外
1. アンカーボルトは定着版付・DN締メとする。

符号	C1	C2・C2A・C2B	C3
S柱断面			
鉄骨	○-355.6x9.5(STKN400B)	□-100x100x6(STKR400)	BH-100x45x6x9(SN400B)
備考			
柱脚			
B.PL	PL-36x500x600(SN490C)	PL-22x220x220(SN490C)	PL-22x65x220(SN490C)
A.BOLT	4-M27(ABR490) L=600	4-M16(ABR490) L=700	2-M16(ABR490) L=700

鉄骨梁リスト 1:20

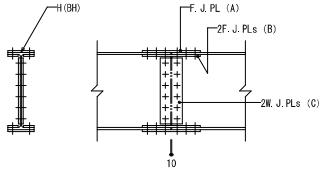
特記外
1. 使用鋼材は、SN400Bとする。

符号	G1	CG1	
位置	全断面	全断面	
断面			
鉄骨	H-340x250x9x14	H-340x250x9x14	
備考			
符号	G14	G20	
位置	全断面	全断面	
断面			
鉄骨	H-148x100x6x9	H-200x100x5.5x8	
備考	ピン接合：G.PL-6 HTB 2-M16	ピン接合：G.PL-6 HTB 2-M16	

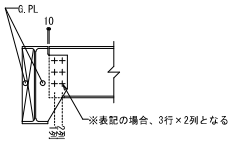
大梁継手表

特記外
1. 使用鋼材は、母材に同じとする。
2. 使用 H.T.B はF8Tとする。
3. 下表の F.H.T.B の本数は、JOINTする片側の梁のｉフランジに必要な本数とする。
4. 下表の W.H.T.B の本数は、JOINTする片側の梁のｉウェブに必要な本数とする。
5. 継手の仕様は、「建築鉄骨設計基準及び同解説（平成１０年版）」による。

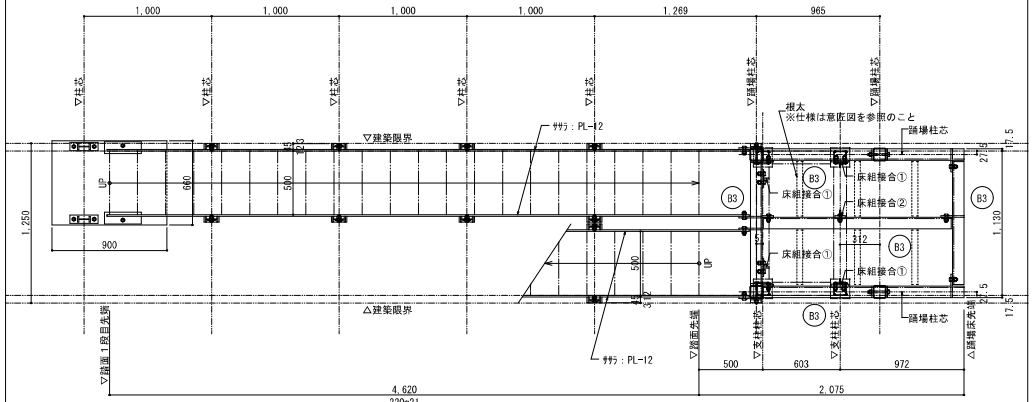
梁中央部材	FLANGE			WEB		梁使用鋼材
	F.J.PL(A)	2F.J.PLs(B)	F.HTB	2W.J.PLs(C)	W.HTB	
H-340x250x9x14	9x250x530	9x100x530	8-M20 Σn=32	9x200x290	6-M20 Σn=12	SN400B
H-200x100x5.5x8	12x100x410	-	6-M16 Σn=24	6x140x290	4-M16 Σn=8	SN400B
H-148x100x6x9	16x100x410	-	6-M16 Σn=24	6x80x290	2-M16 Σn=4	SN400B



（大梁継手表：継手凡例）

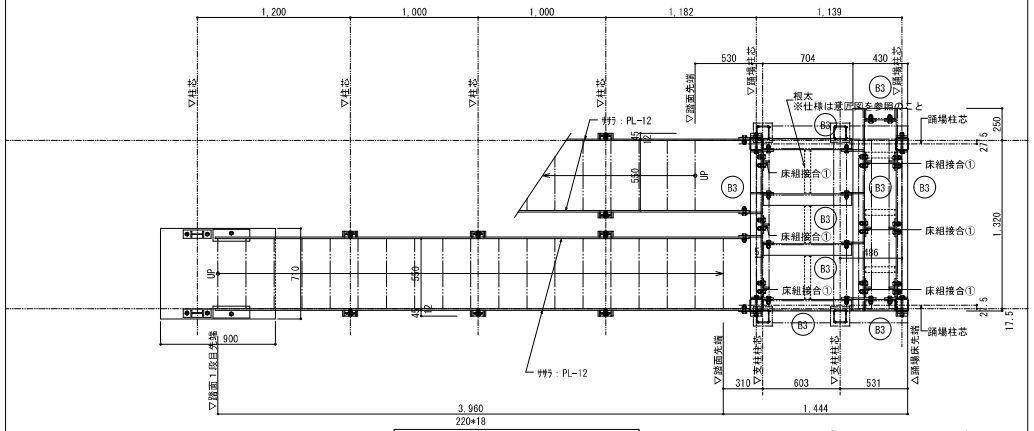


（鉄骨部材リスト：仕口凡例）



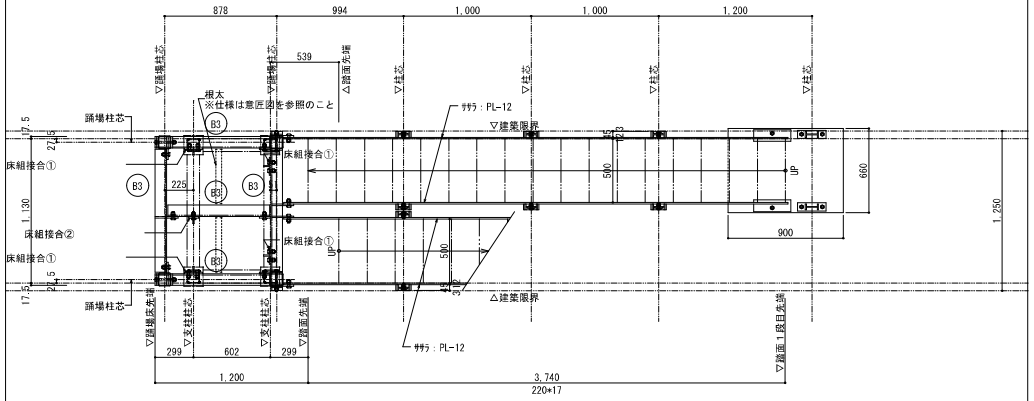
階段1 床組詳細図 1:20

床組接合①：G.PL-12 HTB 4-M16 リブPL-9
床組接合②：G.PL-12 HTB 2-M16 リブPL-9



階段2 床組詳細図 1:20

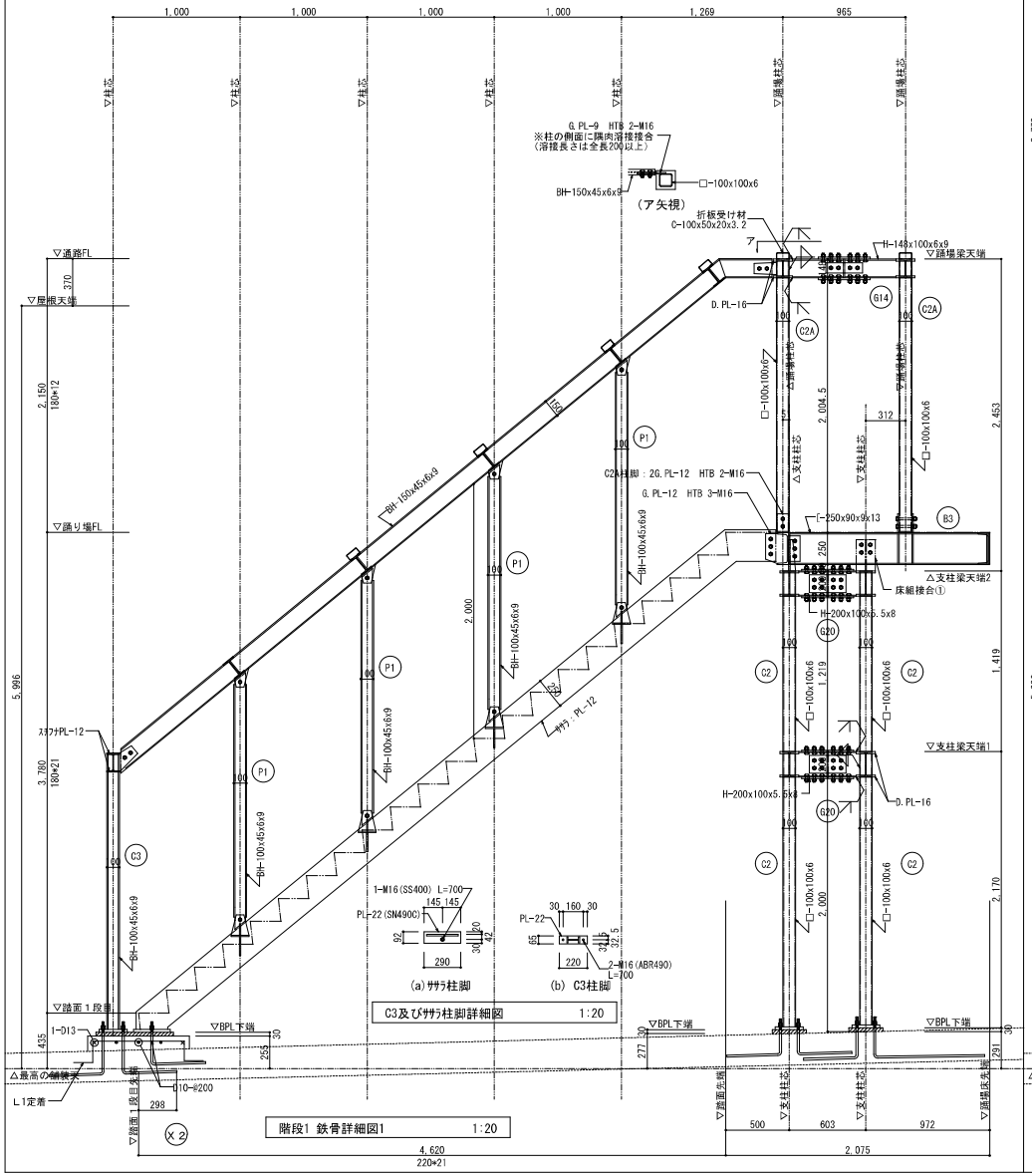
床組接合①：G.PL-12 HTB 4-M16 リブPL-9
床組接合②：G.PL-12 HTB 2-M16 リブPL-9

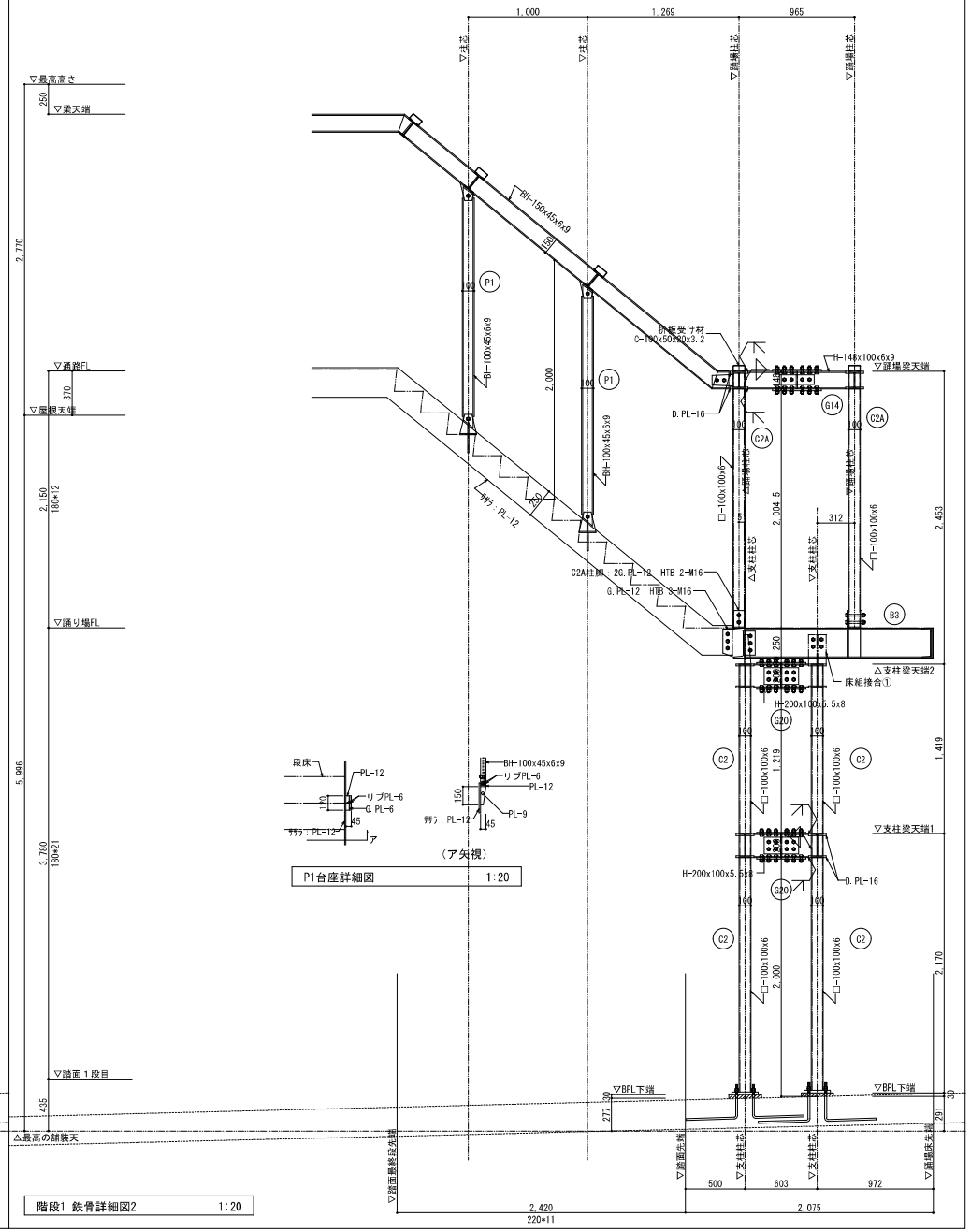


階段3 床組詳細図 1:20

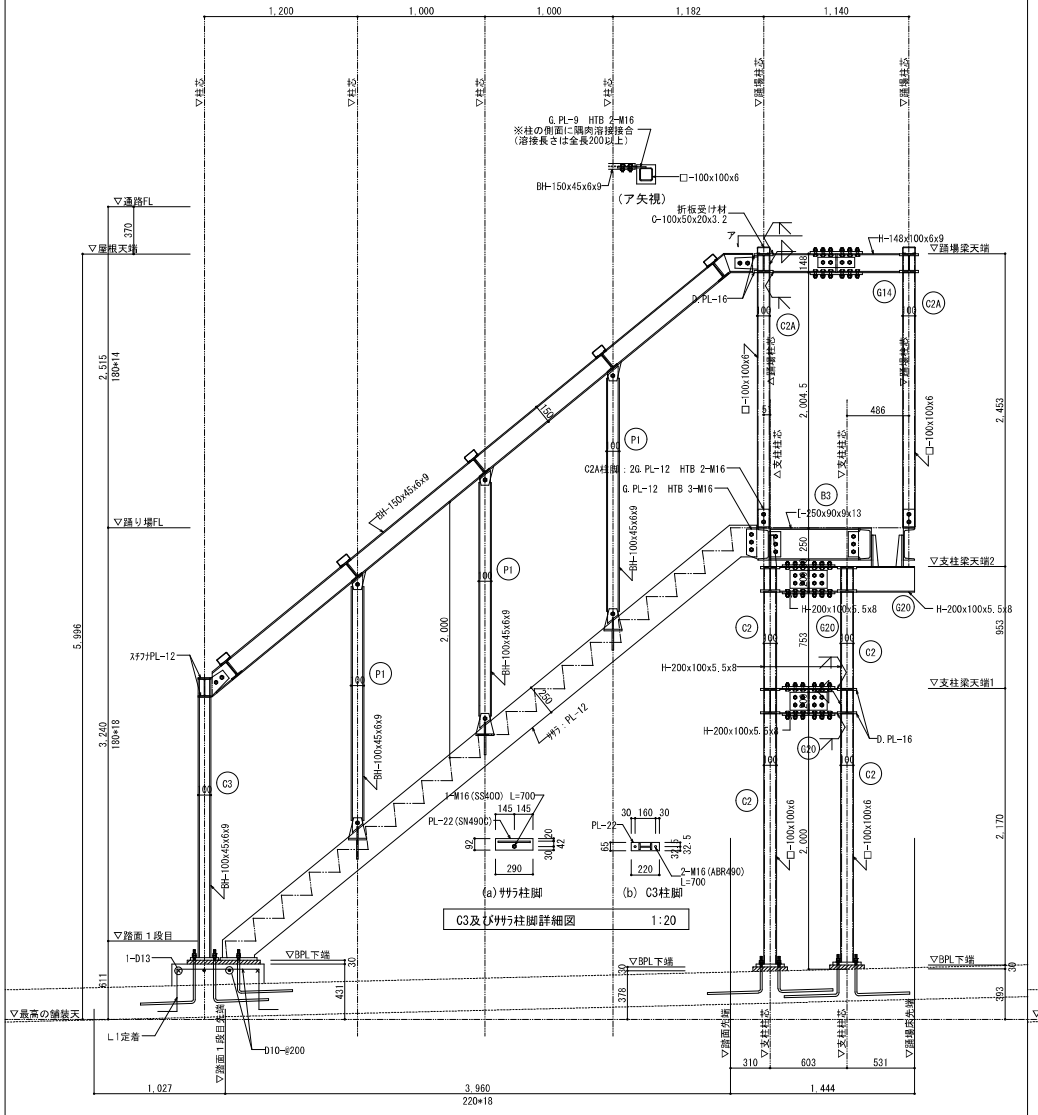
床組接合①：G.PL-12 HTB 4-M16 リブPL-9
床組接合②：G.PL-12 HTB 2-M16 リブPL-9

令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	1/20
図名	広島駅北口料金所 階段1 鉄骨詳細図	番号	CS-32
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			



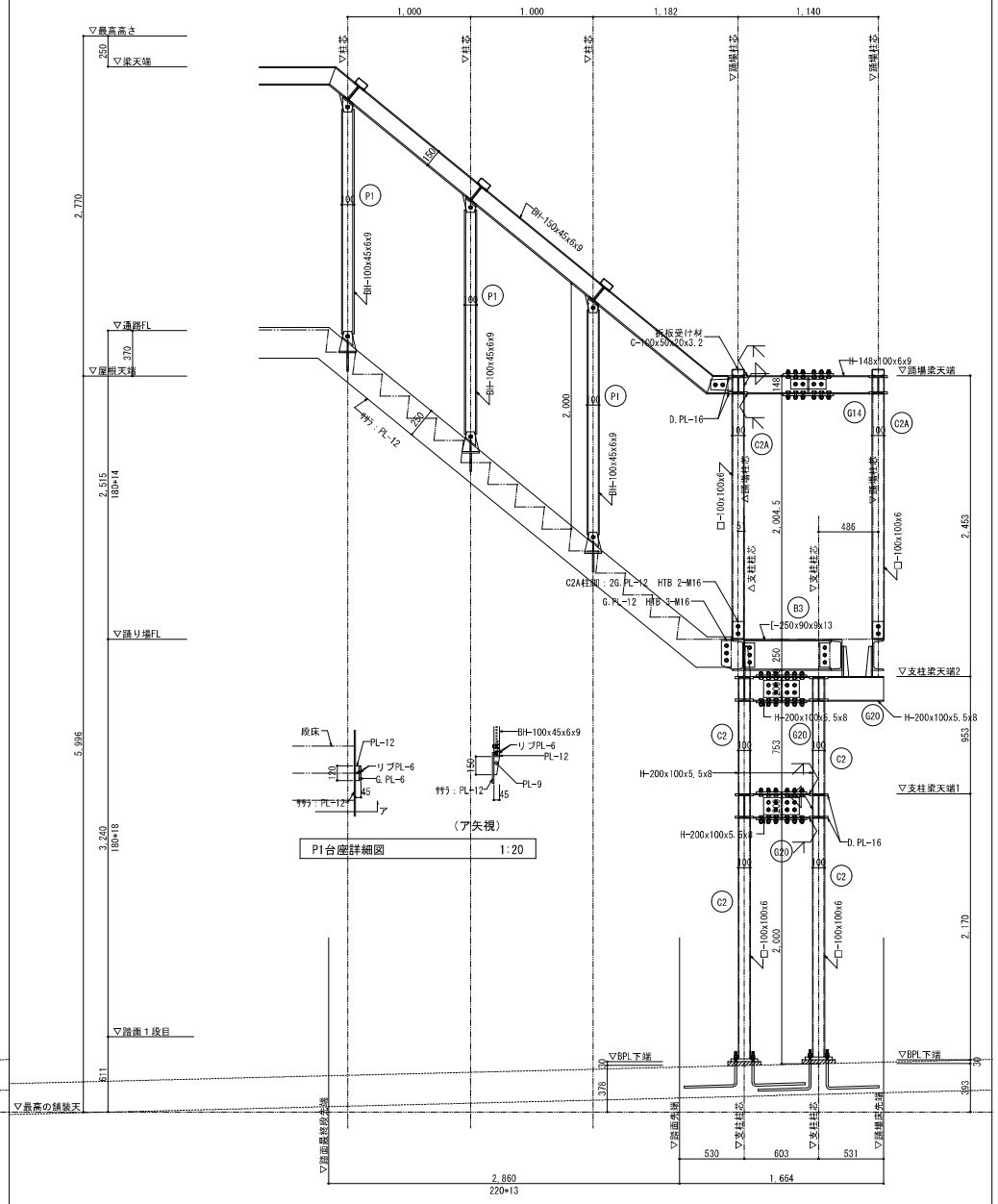


令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1/20
図 名	広島駅北口料金所 階段2 鉄骨詳細図	番号	CS-33
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			



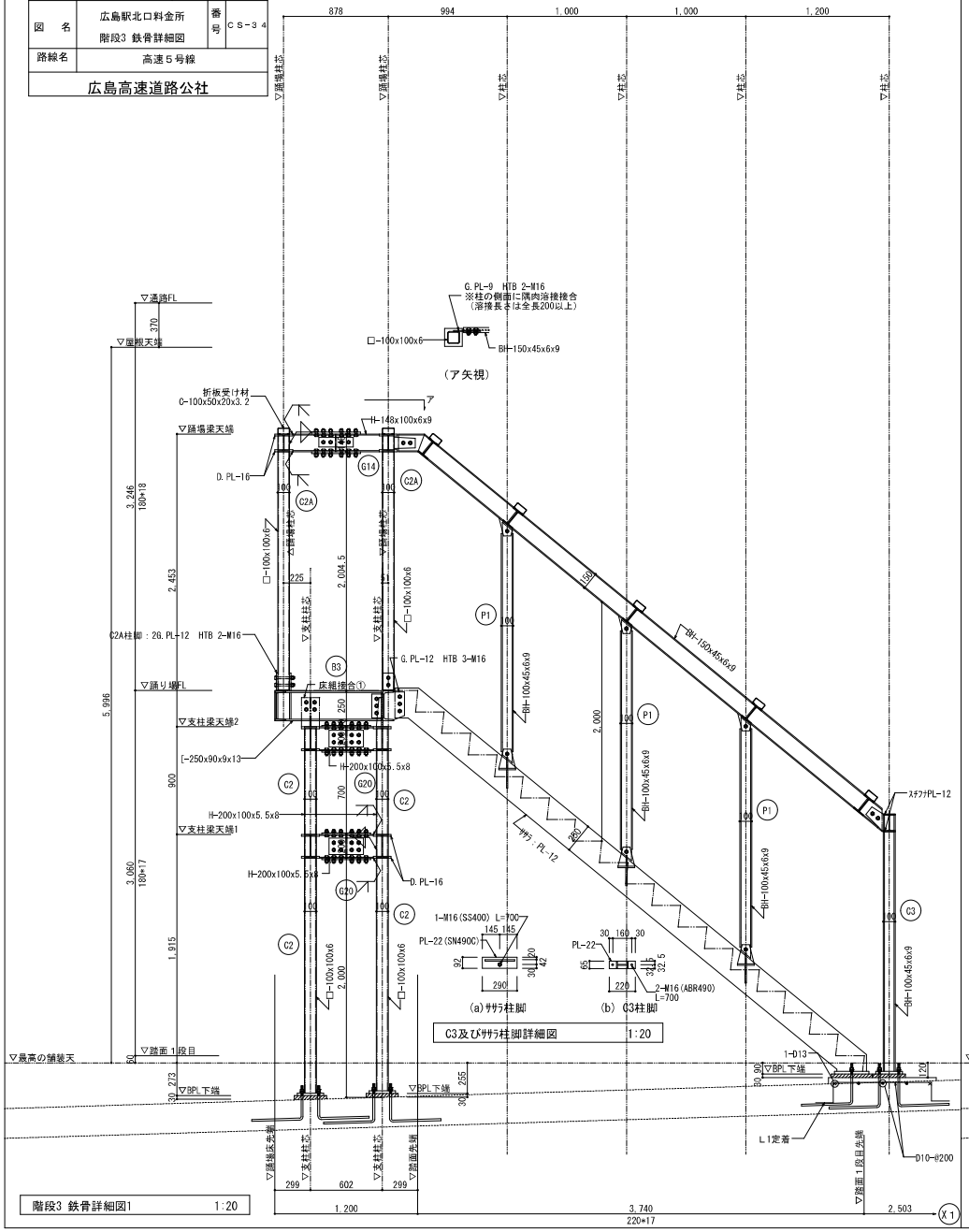
(X 2)

階段2 鉄骨詳細図1 1:20

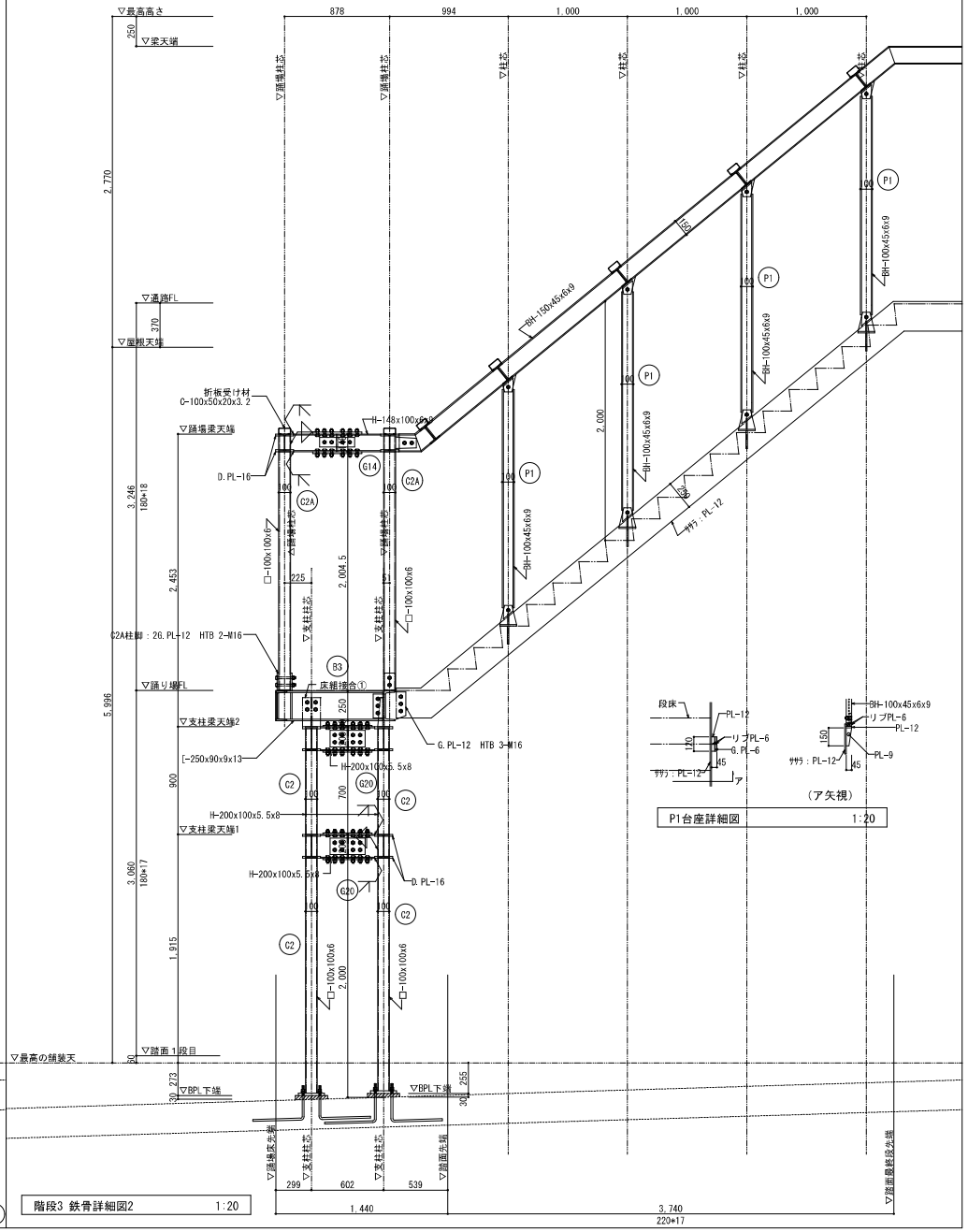


階段2 鉄骨詳細図2 1:20

令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	1/20
図名	広島駅北口料金所 階段3 鉄骨詳細図	番号	CS-34
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			

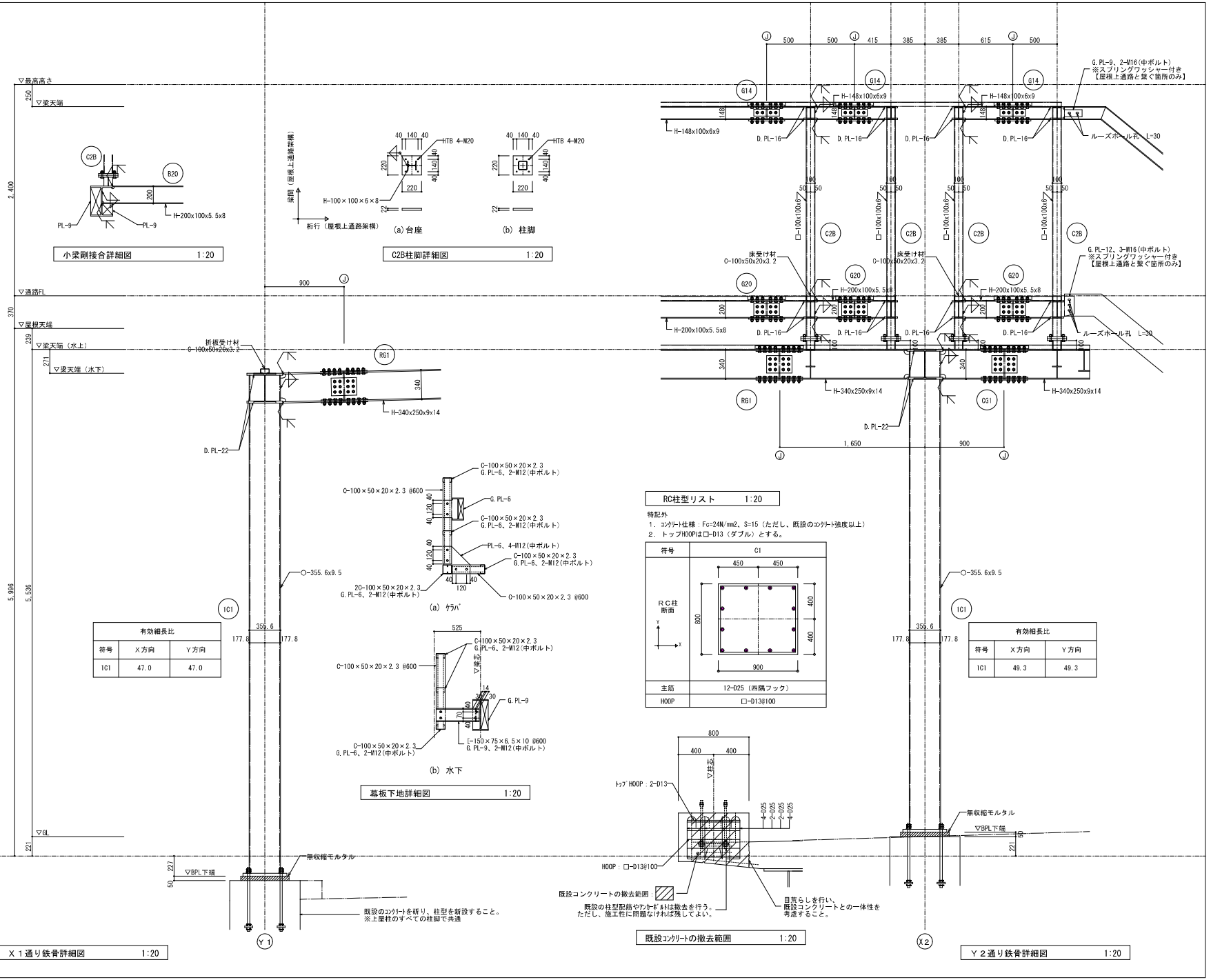


階段3 鉄骨詳細図1 1:20



階段3 鉄骨詳細図2 1:20

令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	1/20
図名	広島駅北口料金所 架構鉄骨詳細図	番号	CS-35
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			



令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	―
図 名	(参考図)-1 鋼上部工事（二葉の里）	番号	ＣＳ－３６
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			

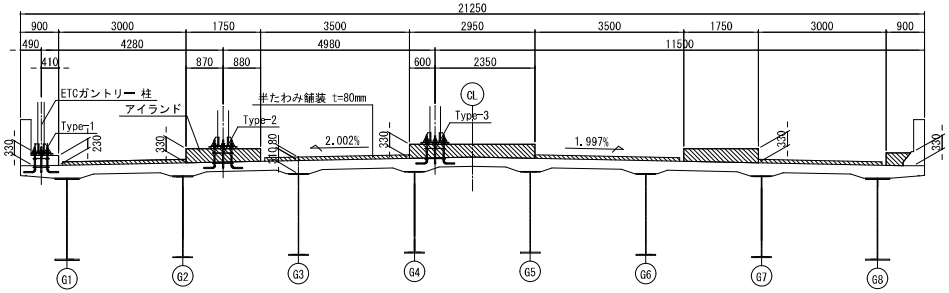
広島高速5号線		
工事名	高速5号線 鋼上部工事（二葉の里）	
図名	二葉G7橋 床版配筋図（その27）	縮尺 1:60 ――
広島高速道路公社		

床版配筋図（その27） S = 1 : 60

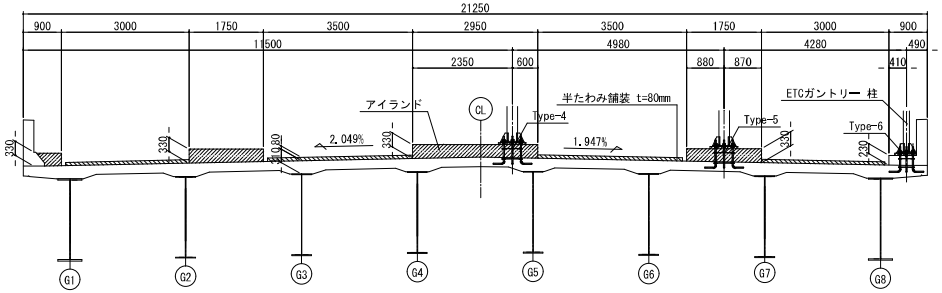
料金所設備用アンカー詳細

注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なき材料は全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
   付着量は、JIS H 8641 HDZ55とする。
   但し、ボルト・ナット類はHDZ35とする。
3. 床版より上（ハッチ部）は、別途工事とする。

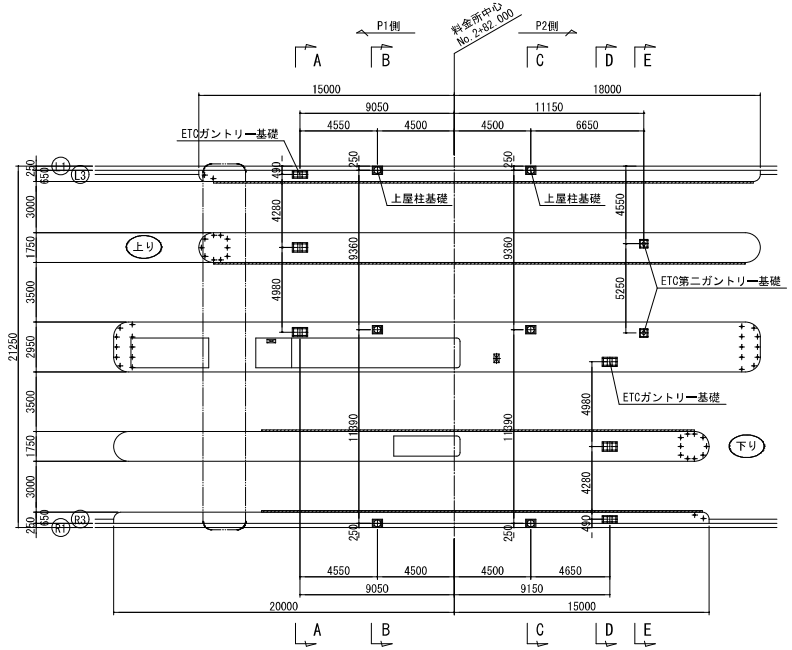
A － A
（上り線 ETCガントリー 入口側）



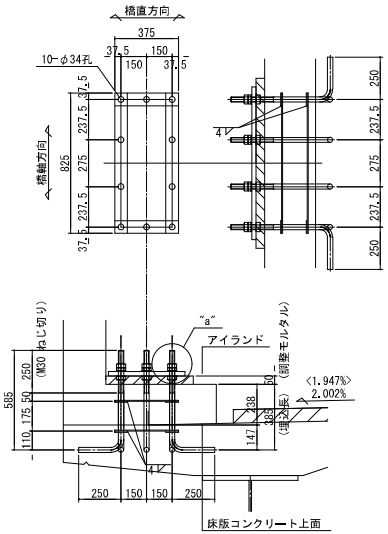
D － D
（下り線 ETCガントリー 出口側）



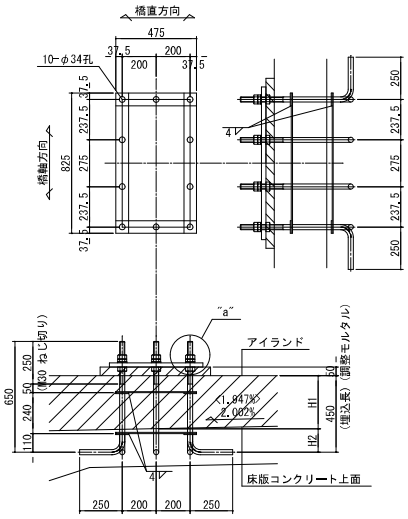
平 面 図 S = 1 : 150



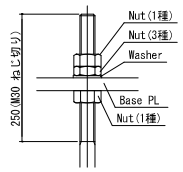
Type-1<Type-6> S = 1 : 15
（製作数:2）



Type-2～5 S = 1 : 15
（製作数:4）



"a"部詳細 S = 1 : 5



アンカー部材料
（製作数：2）

2 － FB 75 x 6 x 375
2 － FB 75 x 6 x 825
10 － RB φ32 x 810
20 － NUT M30 (1種)
10 － NUT M30 (3種)
10 － WASHER M30

アンカー部材料
（製作数：4）

2 － FB 75 x 6 x 475
2 － FB 75 x 6 x 825
10 － RB φ32 x 875
20 － NUT M30 (1種)
10 － NUT M30 (3種)
10 － WASHER M30

	H1	H2
Type-2	312.7	137.3
Type-3	318.2	131.8
Type-4	311.6	138.4
Type-5	313.1	136.9

令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	―
図名	（参考図）-2 鋼上部工事（二葉の里）	番号	CS-37
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			

広島高速5号線			
工事名	高速5号線 鋼上部工事（二葉の里）		
図名	二葉G7橋 床版配筋図（その28）	縮尺 1:60	——
広島高速道路公社			

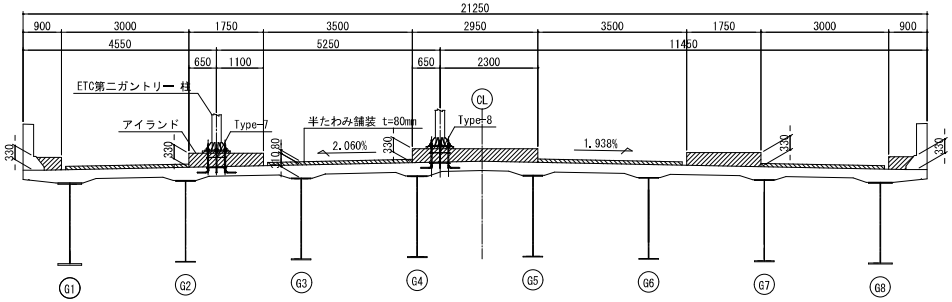
床版配筋図（その28） S = 1 : 60

料金所設備用アンカー詳細

注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なき材料は全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
   付着量は、JIS H 8641 HDZ55とする。
   但し、ボルト・ナット類はHDZ35とする。
3. B-B,C-C,E-Eは「床版配筋図(その27)」を参照のこと。
4. 床版より上（ハッチ部）は、別途工事とする。

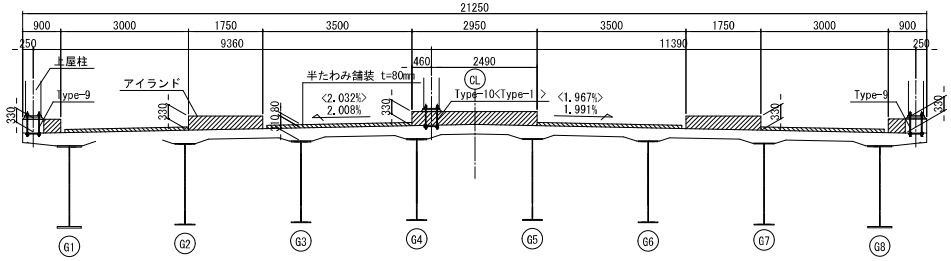
E － E

（上り線 ETC第二ガントリー）



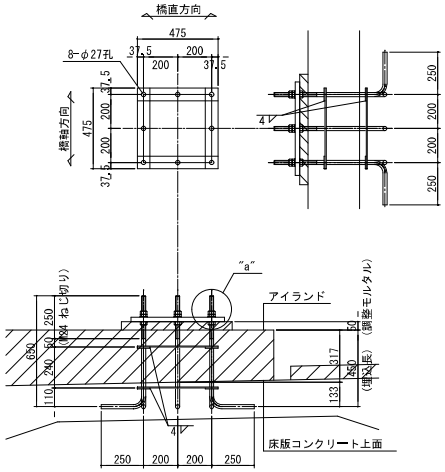
B － B<C － C>

（料金所 上屋）

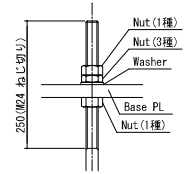


Type-7, Type-8 S = 1 : 15

（製作数:2）



"a"部詳細 S = 1 : 5

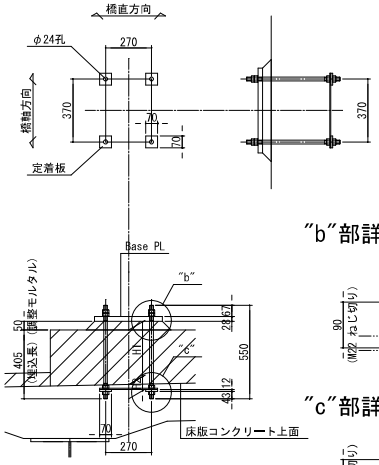


アンカー部材料

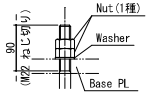
（製作数：2）
4 － FB 75 x 6 x 475
8 － RB φ25 x 880
16 － NUT M24 (1種)
8 － NUT M24 (3種)
8 － WASHER M24

Type-9～11 S = 1 : 15

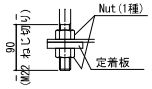
（製作数:6）



"b"部詳細 S = 1 : 5



"c"部詳細 S = 1 : 5



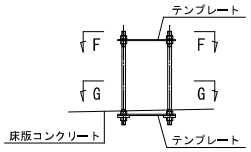
アンカー部材料

（製作数：6）
4 － ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ M22 x 550 (SNR490B)(※1)
16 － NUT M22 (※1)
4 － WASHER M22 (※1)
4 － 定着板 PL 70 x 12 x 70 (※1)

	H1	H2	製作数
Type-9	330	75	4
Type-10	321.2	83.8	1
Type-11	320.7	84.3	1

※1 アンカーボルトは日本構造協会規格JSSⅡ13-2004の
建築構造用転造ねじアンカーボルト(ABR490)・ナット・座金とする。
ナットは強度区分5又は8の並六角ナット1種、座金は
硬さ区分200Hの丸座金とする。

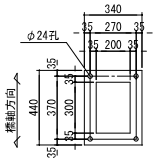
床版打設時



F － F S = 1 : 15

Type-9上側, Type-10, Type-11

（製作数:8）

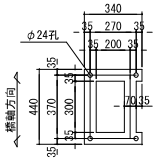


1 － PL 340 x 6 x 440

G － G S = 1 : 15

Type-9下側

（製作数:4）



1 － PL 340 x 6 x 440

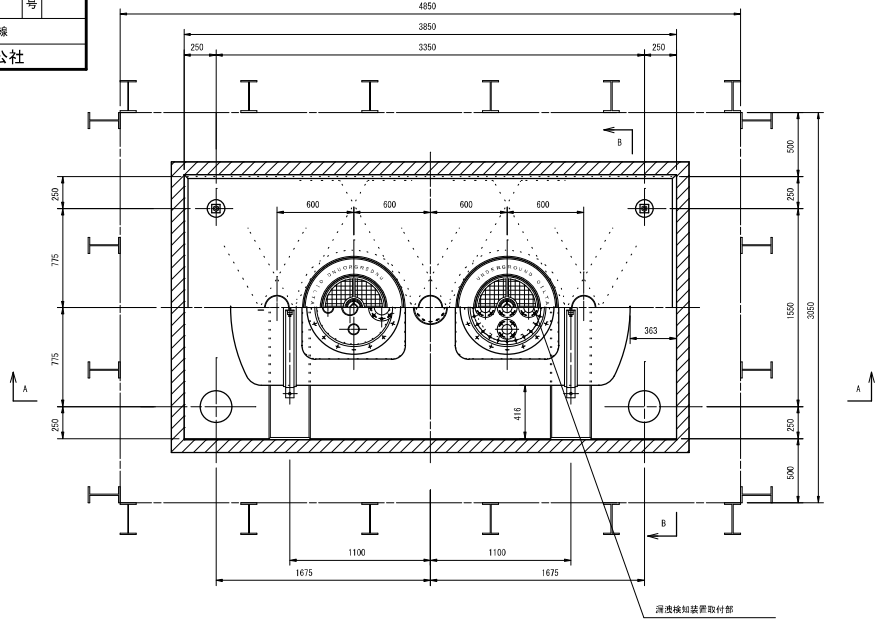
令和６年度			
工 事 名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1:20
図 名	自家発電設備 地下タンク基礎躯体	番号	CS-38
路 線 名	高速5号線		
広島高速道路公社			

自家発電設備燃料地下タンク姿図

S=1:20

(3000L)

平面図



地下タンク(3000L)基礎材料表

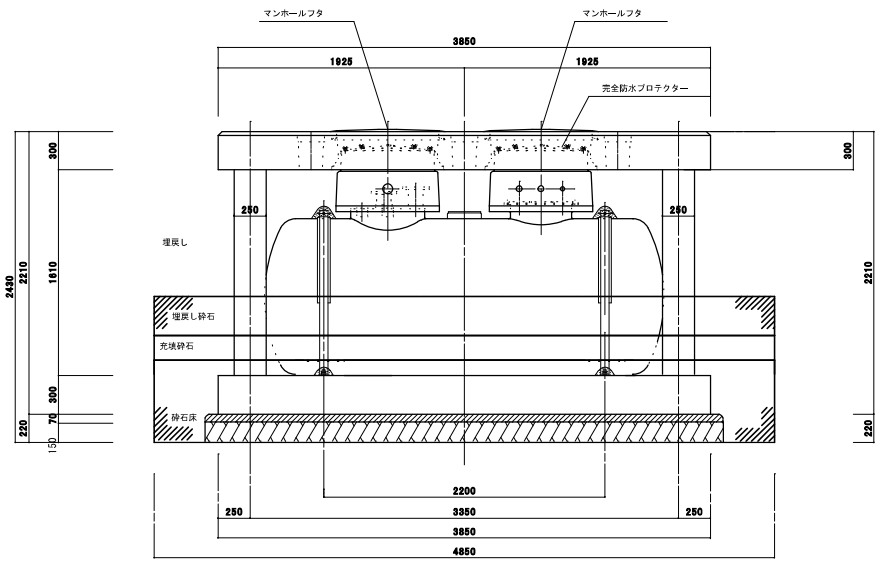
項 目	規 格	単位	数 量	備 考
タンク本体（別途工事）	鋼製強化プラスチック製 二重殻タンク	式	1	別途工事
掘削		m^3	53.219	
埋戻し		m^3	35.315	
残土処理		m^3	17.904	
砕石(基礎下)	6号砕石/7号砕石/粒径3～20mmの砕石及び砂利	m^3	2.003	
埋戻し砕石	6号砕石/7号砕石/粒径3～20mmの砕石及び砂利	m^3	3.355	
充填砕石	6号砕石/7号砕石/粒径3～20mmの砕石及び砂利	m^3	3.548	
砕石床	6号砕石/7号砕石	m^3	4.926	
敷き均しコンクリート		m^3	0.401	
モルタル		m^3	0.401	
木矢板	t=30mm	m^2	49.780	
躯体工事	FC18 N/mm²	式	1	
矢板補機材	I 250-125-5040L	本	20	

注: 6号砕石等とは、6号砕石/7号砕石/粒径3～20mmの砕石を示す。

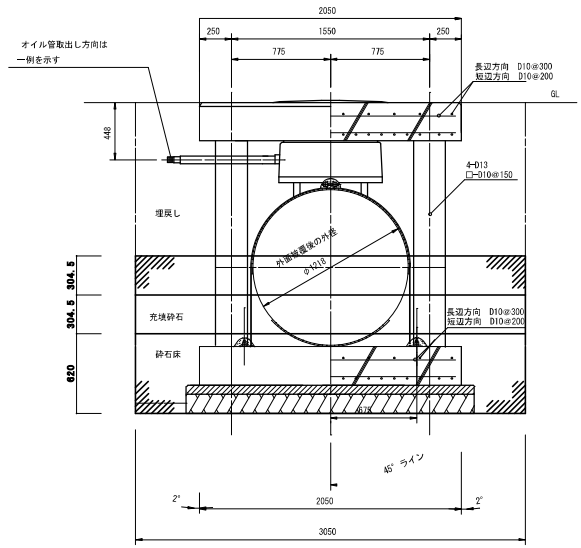
◆ その他施工に関しては平成8年10月18日付消防危第127号通知、平成12年3月30日付消防危第38号に準ずること。

SF二重殻タンク（タンク実容量 3000L 横置円筒型）		
タンク本体（別途工事）	構造	内殻と外殻との間に間隙をもつ二重構造 形状等はタンク姿図による。
	内殻	SS400製 板厚 6.0mm
	外殻 （外面保護）	（気相部）危告示第４条の46第1項4号 による、FRPを被覆する施工法
		（液相部）危告示第24条の2第3項による、 FRPを被覆する施工法
漏洩検知設備（別途工事）		危規則第24条の2第4項による漏洩検知装置

A－A 断面図

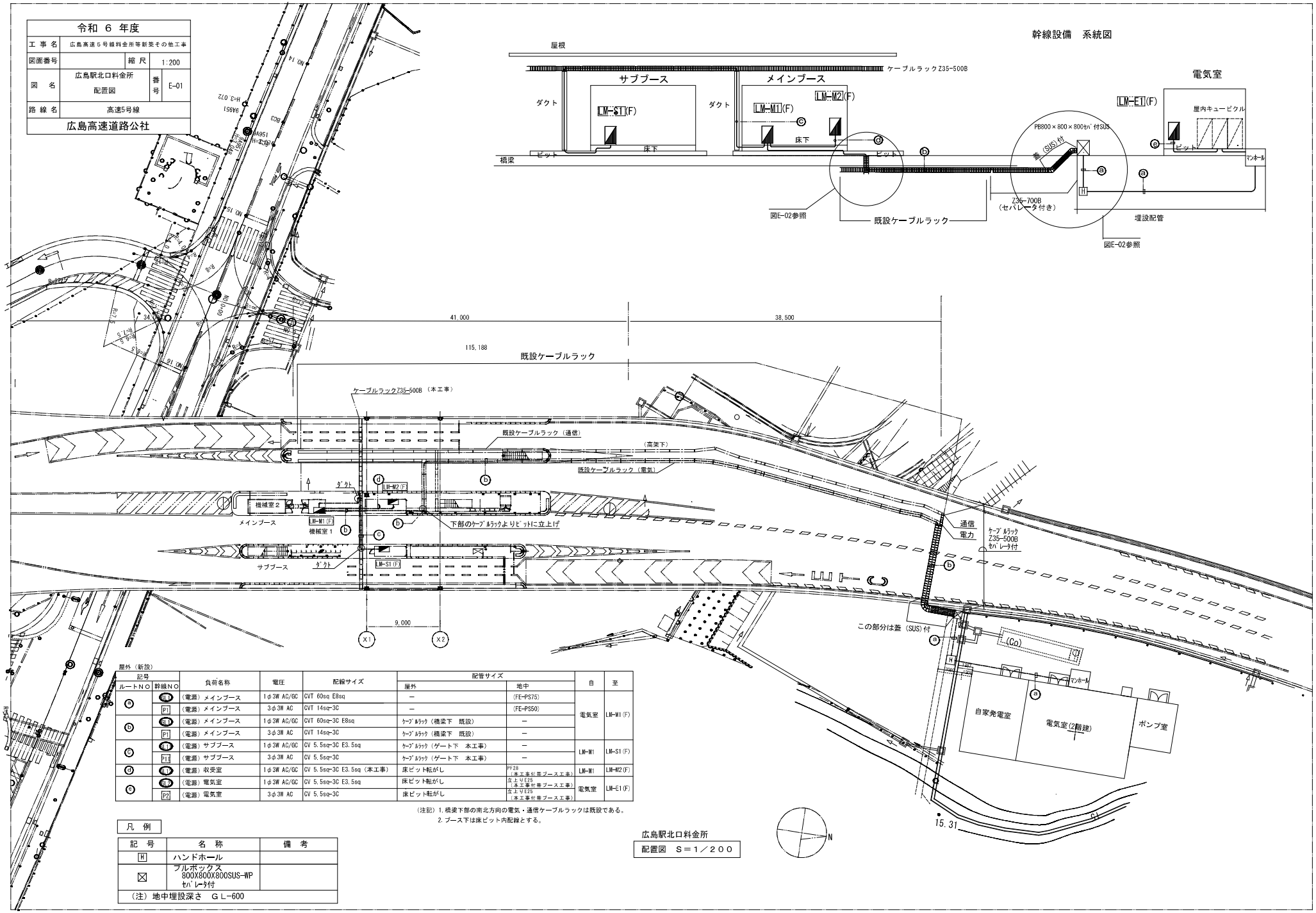


B－B 断面図



(注記) 1. 形状及び寸法は参考とする。

令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1:200
図 名	広島駅北口料金所 配置図	番号	E-01
路 線 名	高速5号線		
広島高速道路公社			



屋外（新設）

記号 ルートNO	幹線NO	負荷名称	電圧	配線サイズ	配管サイズ 屋外	配管サイズ 地中	自	至
ⓐ	電源	（電源）メインブース	1φ3W AC/GC	CVT 60sq E8sq	―	(FE-PS75)	電気室	LM-M1(F)
	P1	（電源）メインブース	3φ3W AC	CVT 14sq-3C	―	(FE-PS50)		
ⓑ	電源	（電源）メインブース	1φ3W AC/GC	CVT 60sq-3C E8sq	ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ（橋梁下　既設）	―		
	P1	（電源）メインブース	3φ3W AC	CVT 14sq-3C	ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ（橋梁下　既設）	―		
ⓒ	電源	（電源）サブブース	1φ3W AC/GC	CV 5.5sq-3C E3.5sq	ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ（ゲート下　本工事）	―	LM-M1	LM-S1(F)
	P1	（電源）サブブース	3φ3W AC	CV 5.5sq-3C	ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ（ゲート下　本工事）	―		
ⓓ	電源	（電源）収受室	1φ3W AC/GC	CV 5.5sq-3C E3.5sq（本工事）	床ピット転がし	PF28（本工事付帯ブース工事）	LM-M1	LM-M2(F)
ⓔ	電源	（電源）電気室	1φ3W AC/GC	CV 5.5sq-3C E3.5sq	床ピット転がし	立上りE25（本工事付帯ブース工事）	電気室	LM-E1(F)
	P2	（電源）電気室	3φ3W AC	CV 5.5sq-3C	床ピット転がし	立上りE25（本工事付帯ブース工事）		

（注記）1. 橋梁下部の南北方向の電気・通信ケーブルラックは既設である。
2. ブース下は床ピット内配線とする。

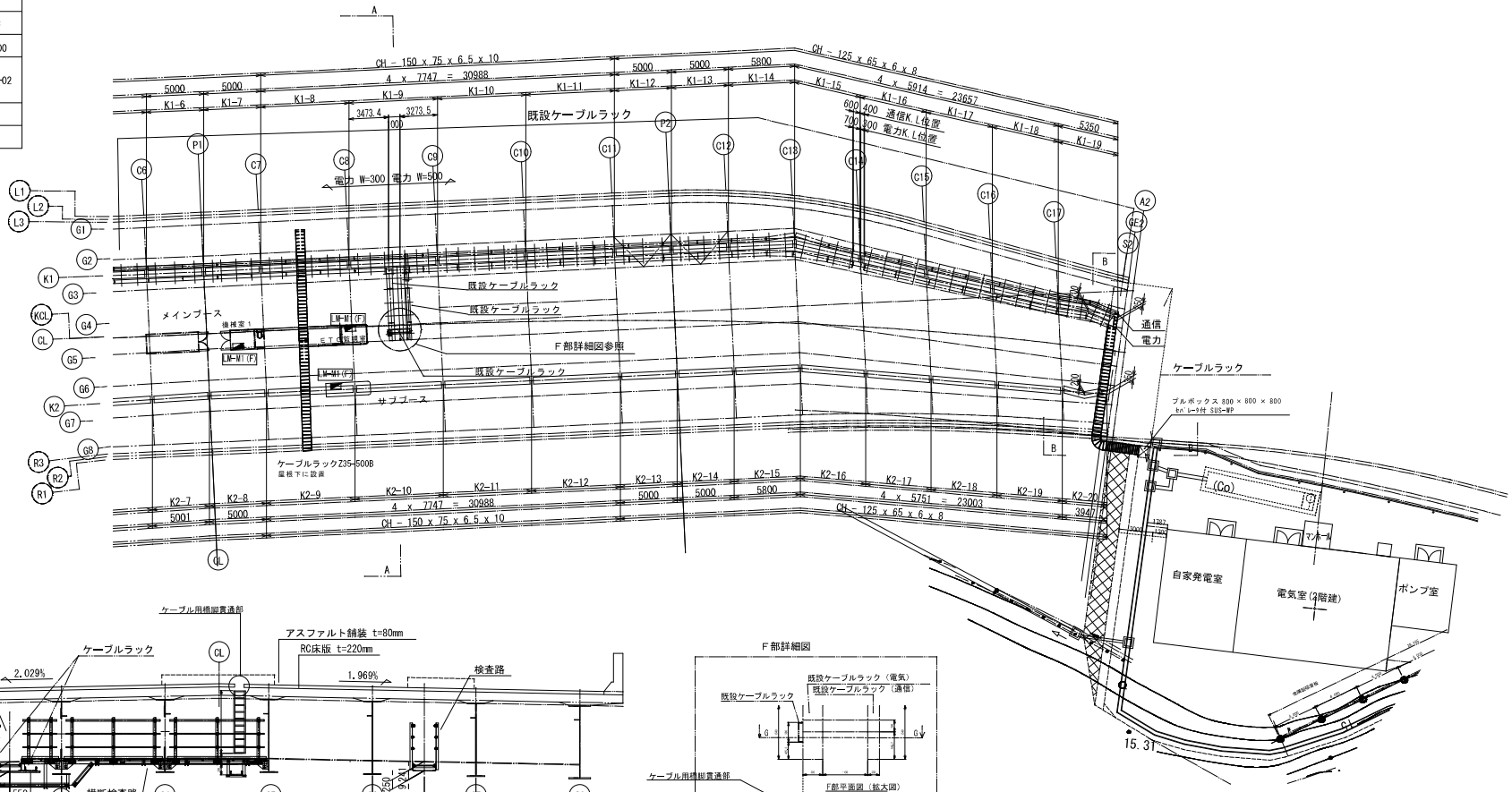
凡 例

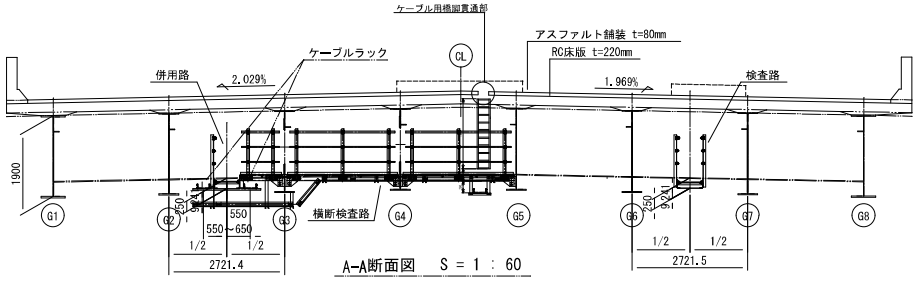
記 号	名 称	備 考
H	ハンドホール	
⊠	プルボックス 800X800X800SUS-WP セパレータ付	
（注）地中埋設深さ　ＧＬ−600		

広島駅北口料金所

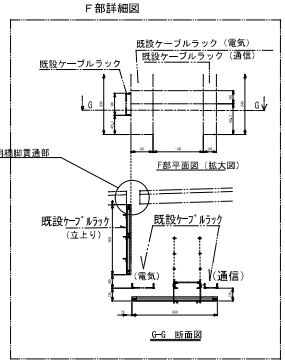
配置図　Ｓ＝１／２００

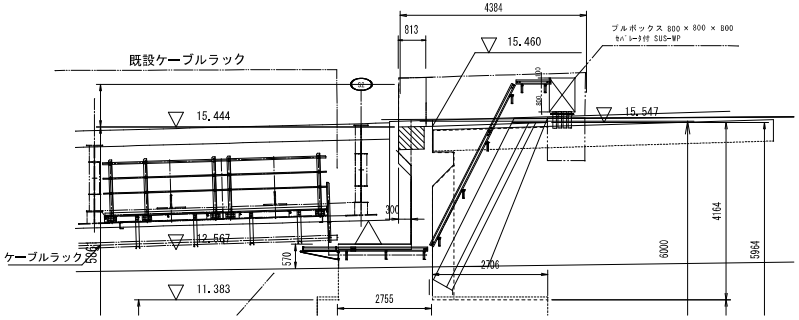
令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	1:200
図名	広島駅北口料金所 アイソメ図	番号	E-02
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



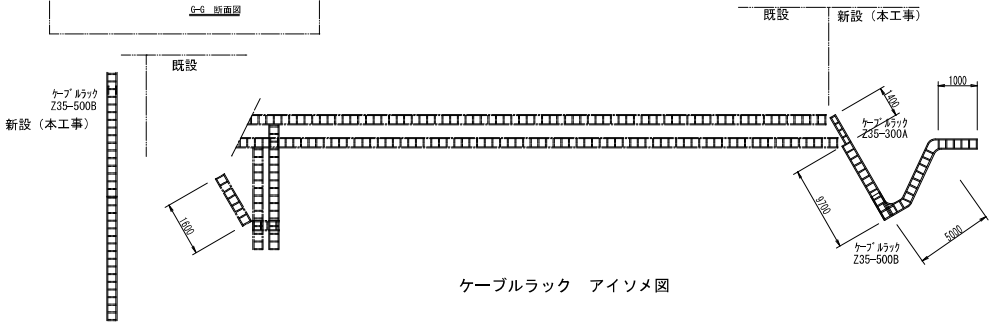


A-A断面図　S = 1 : 60





B-B　断面図　S = 1 : 60

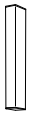


ケーブルラック　アイソメ図

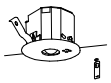
令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	NON
図 名	広島駅北口料金所 分電盤結線図・照明姿図	番号	E-03
路 線 名	高速５号線		
広島高速道路公社			

照 明 器 具 姿 図

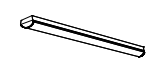
A 1	LSS9-4-48	F	LBF3MP/RP-2-13
A 2	LSS9-4-65		
A 3	LSS9MP/RP-2-14		
A 4	LSS9MP/RP-4-64		
B 1	LRS6-4-48	G	K1-LRS11-1　非常灯　埋込
B 2	LRS6-4-65		
C 1	LSS1-4-48	H	K1-LSS11-1　非常灯　直付
C 2	LSS1-4-65		
D	LRS1-08		
E 1	ＬＥＤブラケット　(FL20形)		
E 2	ＬＥＤブラケット　(Hf32形)		



非常灯評定番号：LALE-004



器具取付高さ		2.1m	2.4m	2.6m	3.0m	3.2m	3.4m	3.6m	3.8m	4.0m
単体配置	A 1	3.8	4.0	4.0	2.8	－	－	－	－	－
直線配置	A 2	8.5	8.4	8.9	10.1	－	－	－	－	－
四角配置	A 4	6.9	7.6	8.1	8.9	－	－	－	－	－



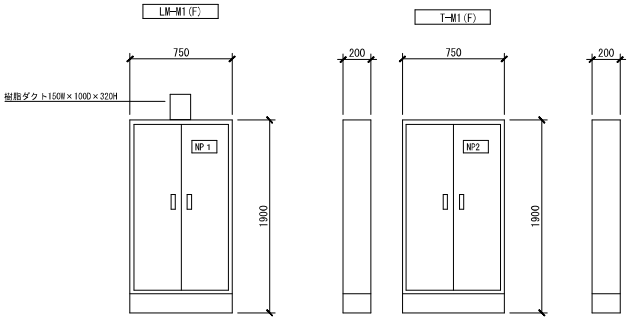
非常灯評定番号：LALE-007

器具取付高さ		2.1m	2.4m	2.6m	3.0m	4.0m	5.0m	6.0m	7.0m	8.0m
単体配置	A 1	3.8	4.0	4.0	2.8	－	－	－	－	－
直線配置	A 2	8.5	8.4	8.9	10.1	－	－	－	－	－
四角配置	A 4	6.9	7.6	8.1	8.9	－	－	－	－	－

昼白色（５０００Ｋ）、Ｒａ８３
電圧１００Ｖ
拡散タイプ、天井直付型・壁直付型
カバー：プラスチック（乳白）
両面化粧タイプ

分電盤名称		LM-M1(F)	
キャビネット形式		ｔ	
電気方式	種別	非常用回路	常用回路
	相線	１φ３Ｗ	３φ３Ｗ
	電圧	２１０／１０５Ｖ	２１０Ｖ
負荷容量　ＶＡ		１５７５６	６．２６ｋＷ
主幹器具	定格電流	１５０Ａ	
	定格遮断電流	２．５ｋＡ	－

屋内自立型（鋼板製）指定色塗装

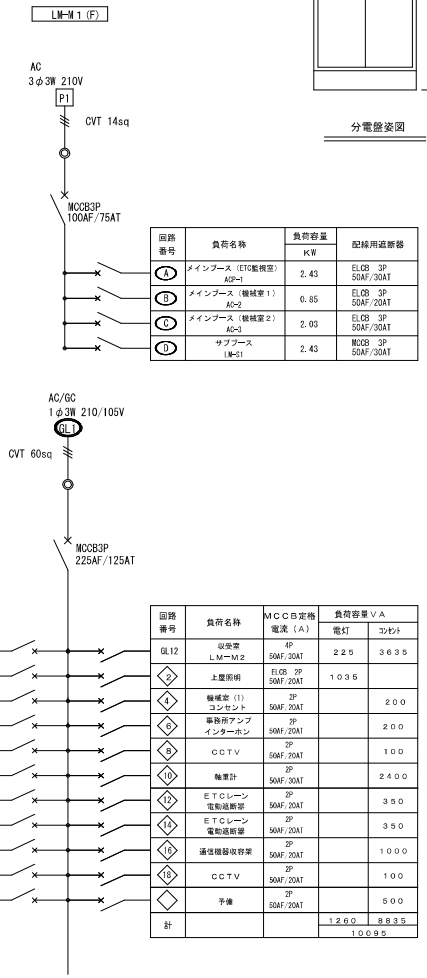


分電盤姿図

端子盤姿図

盤名称

NP1	LM-M1(F)
NP2	通信端子盤



回路番号	負荷名称	負荷容量 KW	配線用遮断器
A	メインブース（ETC監視室）AC-1	2.43	ELCB 3P 50AF/30AT
B	メインブース（機械室１）AC-2	0.85	ELCB 3P 50AF/20AT
C	メインブース（機械室２）AC-3	2.03	ELCB 3P 50AF/30AT
D	サブブース LM-S1	2.43	MCCB 3P 50AF/30AT

分電盤・端子盤仕様

函板	鋼板１．６ｔ以上
扉板	鋼板１．６ｔ以上
把手	平面フラットハンドルＮｏ．２００
塗装	メラミン焼付

（注記）
１、図中、寸法は参考とする。
２、端子盤内は、木製基板（１５mm）付とする。

負荷容量ＶＡ コンセント	負荷容量ＶＡ 電灯	ＭＣＣＢ定格電流（Ａ）	負荷名称	回路番号
９５５	８７	2P 50AF/30AT	サブブース LM－S1	GL11
	１３７	2P 50AF/20AT	機械室（1）（2）電灯	1
	１８２	ELCB 2P 50AF/20AT	安全道路電灯	3
１００		2P 50AF/20AT	機械室（2）コンセント	5
４００		2P 50AF/20AT	事務所モニター	7
１００		2P 50AF/20AT	ＣＣＴＶ	9
２４００		2P 50AF/30AT	軸重計	11
３５０		2P 50AF/20AT	ＥＴＣレーン電動遮断器	13
３５０		2P 50AF/20AT	ＥＴＣレーン電動遮断器	15
１００		2P 50AF/20AT	ＣＣＴＶ	17
５００		2P 50AF/20AT	予備	
５２５５	４０６			計
５６６１				

回路番号	負荷名称	ＭＣＣＢ定格電流（Ａ）	負荷容量ＶＡ 電灯	負荷容量ＶＡ コンセント
GL12	収受室 ＬＭ－Ｍ２	4P 50AF/30AT	２２５	３６３５
2	上屋照明	ELCB 2P 50AF/20AT	１０３５	
4	機械室（1）コンセント	2P 50AF/20AT		２００
6	事務所アンプインターホン	2P 50AF/20AT		２００
8	ＣＣＴＶ	2P 50AF/20AT		１００
10	軸重計	2P 50AF/30AT		２４００
12	ＥＴＣレーン電動遮断器	2P 50AF/20AT		３５０
14	ＥＴＣレーン電動遮断器	2P 50AF/20AT		３５０
16	通信機器収容架	2P 50AF/20AT		１０００
18	ＣＣＴＶ	2P 50AF/20AT		１００
	予備	2P 50AF/20AT		５００
計			１２６０	８８３５
			１００９５	

注　記

１．分岐用配線遮断器は2P（松約形1Pサイズ）とする。
２．分岐回路分の接地端子又は銅バーを設ける。
３．図中記入なきものは下記による。

20　単相１００Ｖ回路（２Ｐ１Ｅ）

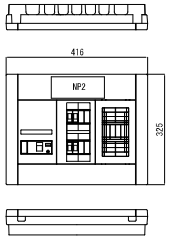
2　単相２００Ｖ回路（２Ｐ２Ｅ）

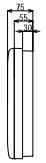
令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	NON
図 名	広島駅北口料金所 サブブース 分電盤結線図	番号	E-04
路 線 名	高速５号線		
広島高速道路公社			

分電盤名称		LM-S１(F)	
キャビネット形式		T	
電気方式	種別	常用回路	常用回路
	相線	１φ３W	３φ３W
	電圧	２１０／１０５V	２１０V
負荷容量 VA		１０４２	１.６KW
主幹容量	定格電流	—	—
	定格遮断電流		

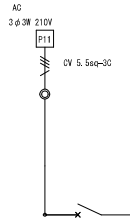
屋内壁掛型（樹脂製）

LM-S1(F)

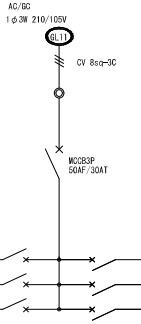




サブブース分電盤姿図



回路番号	負荷名称	負荷容量 KW	配線用遮断器
D	空調室外機 AC2-2	1.60	ELCB 3P 50AF/30AT



盤名称

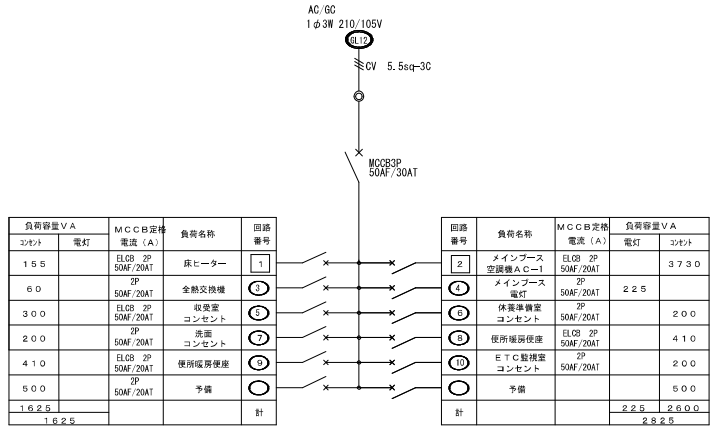
NP2	LM-S1(F)

負荷容量VA コンセント	電灯	MCCB定格 電流（A）	負荷名称	回路番号
１５５		ELCB 2P 50AF/20AT	床ヒーター	1
３００		ELCB 2P 50AF/20AT	サブブース コンセント	◇3
４５５				計
４５５				

回路番号	負荷名称	MCCB定格 電流（A）	負荷容量VA 電灯	コンセント
◇2	電灯	50AF/20AT	８７	
◇	予備	ELCB 2P 50AF/20AT		５００
計			８７	５００
			５８７	

分電盤名称		LM-M２(F)	
キャビネット形式		T	
電気方式	種別	常用回路	
	相線	１φ３W	
	電圧	２１０／１０５V	
負荷容量 VA		３８６０	
主幹容量	定格電流	—	
	定格遮断電流		

屋内壁掛型（樹脂製）



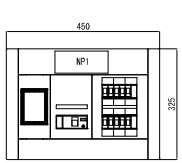
負荷容量VA コンセント	電灯	MCCB定格 電流（A）	負荷名称	回路番号
１５５		ELCB 2P 50AF/20AT	床ヒーター	1
６０		2P 50AF/20AT	全熱交換機	3
３００		ELCB 2P 50AF/20AT	収受室 コンセント	5
２００		2P 50AF/20AT	洗面 コンセント	7
４１０		ELCB 2P 50AF/20AT	便所暖房便座	9
５００		2P 50AF/20AT	予備	
１６２５				計
１６２５				

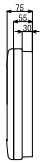
回路番号	負荷名称	MCCB定格 電流（A）	負荷容量VA 電灯	コンセント
2	メインブース 空調機ＡＣ－１	ELCB 2P 50AF/20AT		３７３０
4	メインブース 電灯	2P 50AF/20AT	２２５	
6	休養準備室 コンセント	2P 50AF/20AT		２００
8	便所暖房便座	ELCB 2P 50AF/20AT		４１０
10	ＥＴＣ監視室 コンセント	2P 50AF/20AT		２００
	予備			５００
計			２２５	２６００
			２８２５	

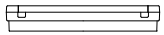
LM-M2(F)

盤名称

NP1	LM-M2(F)







メインブース分電盤姿図

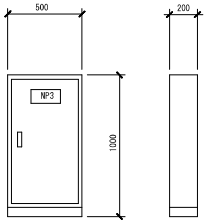
注 記

1. 分岐用配線遮断器は2P（協約計1Pサイズ）とする。
2. 分岐回路分の接地端子又は銅バーを設ける。
3. 図中記入なきものは下記による。

◇20 単相１００V回路（２P１E）

2 単相２００V回路（２P２E）

T-S1(F)



端子盤姿図

盤名称

NP3	通信端子盤

分端子盤仕様

面板	鋼板１．６ｔ以上
扉板	鋼板１．６ｔ以上
把手	平面フラットハンドルＮｏ．２００
塗装	メラミン焼付

（注記）

1、図中、寸法・形状は参考とする。
2、端子盤内は、木製基板（１５mm）付とする。

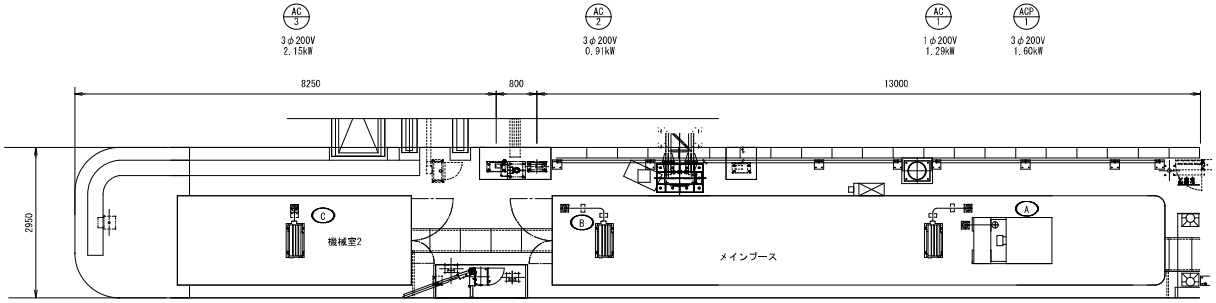
注 記

1. 分岐用配線遮断器は2P（協約計1Pサイズ）とする。
2. 分岐回路分の接地端子又は銅バーを設ける。
3. 図中記入なきものは下記による。

◇20 単相１００V回路（２P１E）

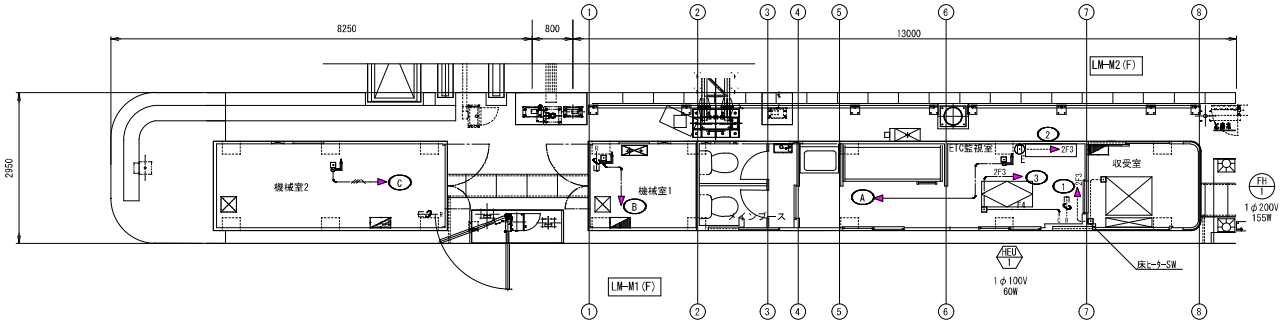
2 単相２００V回路（２P２E）

令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	1:50
図名	広島駅北口料金所 動力設備　1階、屋根平面図	番号	E-05
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			



記号	名称	容量	配線サイズ	配管
A	空調機(ACP-1)	1.60KW	CV 3.5sq-3C E2.0mm	PV24　露出
B	空調機(AC-2)	0.85KW	CV 3.5sq-3C E2.0mm	PV24　露出
C	空調機(AC-3)	2.03KW	CV 3.5sq-3C E2.0mm	PV24　露出
2	空調機(AC-1)	0.74KW	VVF2.0-3C	コンセント

動力設備　屋根平面図



動力設備　１階平面図

凡例

記号	名称	備考
	電灯動力盤	
	LED照明	参考姿図　参照
	LED照明	参考姿図　参照
	非常用照明	電池内蔵型
	タンブラスイッチ	1P15A×1
L	タンブラスイッチ	1P15A×1確認表示灯付
3	タンブラスイッチ	3W15A×1
	コンセント	2P15A×1
2	コンセント	2P15A×2
E	コンセント	2P15A×1 接地極付
ET	コンセント	2P15A×1 接地端子付
2ET	コンセント	2P15A×2 接地端子付
2EETWP	防水コンセント	2P15A×2 接地極接地端子付
	アウトレットボックス	
	換気扇・パイプファン	本工事付帯機械設備工事
	温度スイッチ	本工事付帯機械設備支給品 （取付本工事付帯電気工事）
	空調リモコンスイッチ	本工事付帯機械設備工事
	全熱交換機スイッチ	本工事付帯機械設備支給品 （取付本工事付帯電気工事）
	端子盤	
AMP	アンプ	
M	ダイナミックマイクロホン	

（注記）

１．図中特記なき配管配線は下記とする。

----------	天井隠ぺい	
----------	床下隠ぺい	
----------	露出	

電灯・コンセント設備（床隠ぺいの例）

F2	VVF1.6-2C	（立上りPF16）
F3	VVF1.6-3C	（立上りPF16）
F4	VVF1.6-2C×2	（立上りPF22）
2F2	VVF2.0-2C	（立上りPF16）
2F3	VVF2.0-3C	（立上りPF22）
2F4	VVF2.0-2C×2	（立上りPF22）
	IV2.0×2	（PF16）
C	空配管	（PF22）
	CVV1.25-2C	
	AE1.2-2C×２	

令和６年度			
工事名	広島高速5号線 料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	1:50
図名	広島駅北口料金所 電灯・コンセント設備 １階平面図	番号	E-06
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

機械室（２）	
A1	2
G	1

機械室（１）	
A1	1
G	1

トイレ（1）	
D	1

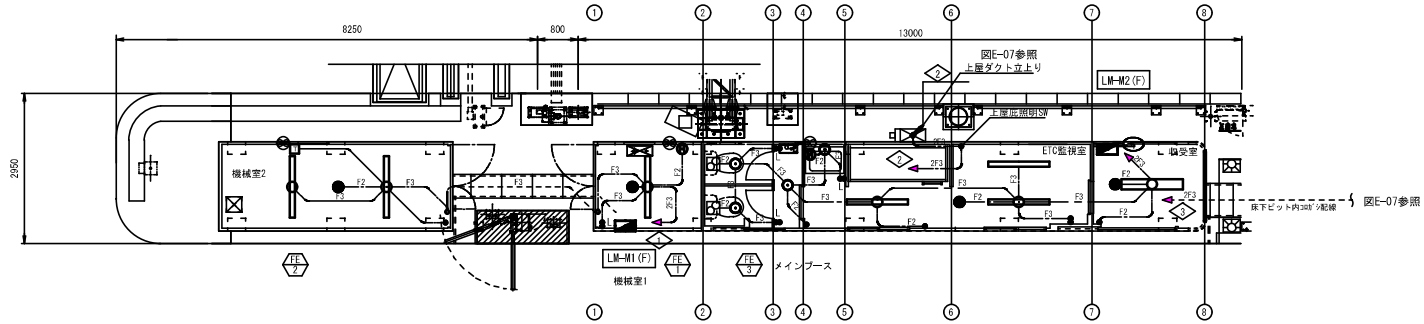
トイレ（2）	
D	1

トイレ前室	
D	1

洗面・休憩室	
B1	1
E1	1

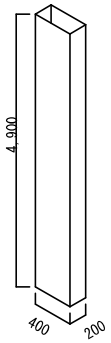
ETC監視室	
B1	2
G	1

収受室	
B2	1
G	1



電灯設備　平面図

配線ダクト　S:NON
SUS304-WP



１．本体は２分割、蓋は４分割とする
２．内部にケーブル支持バーを取り付けること

凡例

記号	名称	備考
	電灯動力盤	
	LED照明	参考姿図　参照
	LED照明	参考姿図　参照
	非常用照明	電池内蔵型
	タンブラスイッチ	1P15A×1
L	タンブラスイッチ	1P15A×1確認表示灯付
3	タンブラスイッチ	3W15A×1
	コンセント	2P15A×1
2	コンセント	2P15A×2
E	コンセント	2P15A×1 接地極付
ET	コンセント	2P15A×1 接地端子付
2ET	コンセント	2P15A×2 接地端子付
EETWP	防水コンセント	2P15A×2 接地極接地端子付
	アウトレットボックス	
	換気扇・パイプファン	本工事付帯機械設備工事
	温度スイッチ	本工事付帯機械設備支給品 （取付本工事付帯電気工事）
	空調リモコンスイッチ	本工事付帯機械設備工事
	全熱交換機スイッチ	本工事付帯機械設備支給品 （取付本工事付帯電気工事）
	端子盤	
AMP	アンプ	
	ダイナミックマイクロホン	

（注記）

１．図中特記なき配管配線は下記とする。

天井隠ぺい

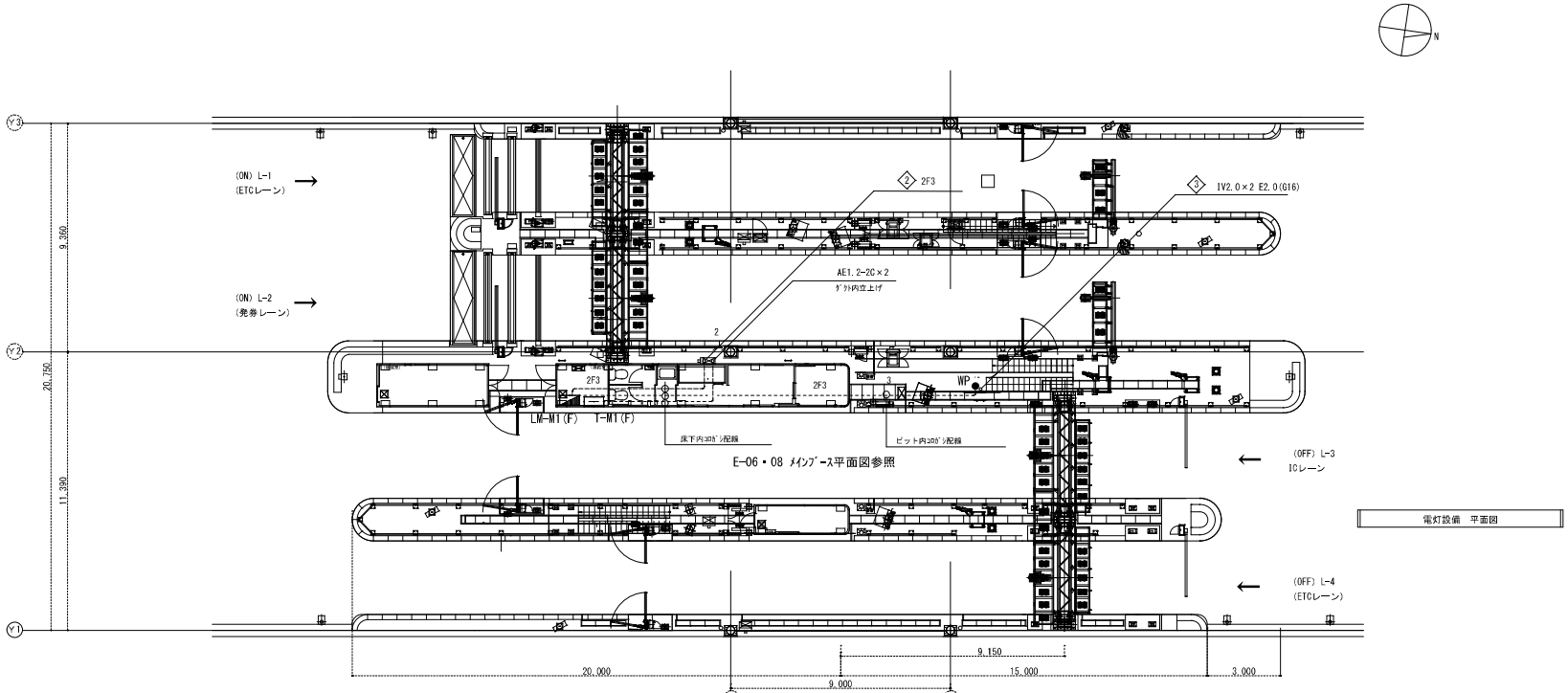
床下隠ぺい

露出

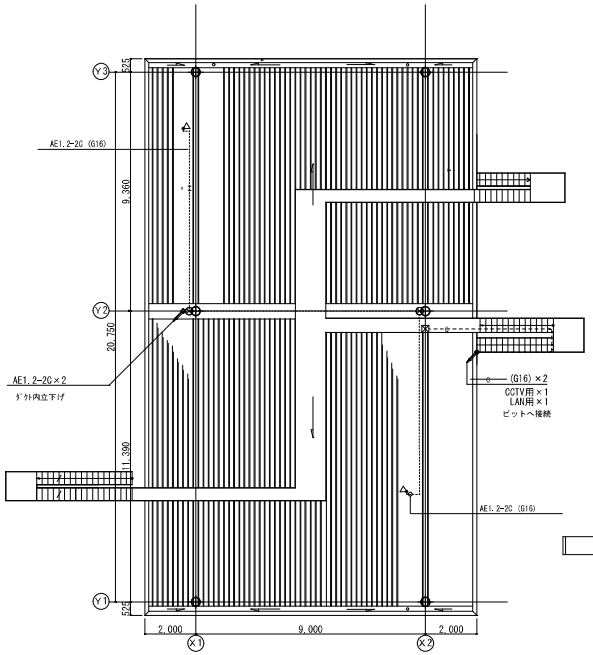
電灯・コンセント設備（床隠ぺいの例）

F2	VVF1.6-2C	（立上りPF16）
F3	VVF1.6-3C	（立上りPF16）
F4	VVF1.6-2C×2	（立上りPF22）
2F2	VVF2.0-2C	（立上りPF16）
2F3	VVF2.0-3C	（立上りPF22）
2F4	VVF2.0-2C×2	（立上りPF22）
	IV2.0×2	(PF16)
	空配管	(PF22)
	CVV1.25-2C	
	AE1.2-2C×２	

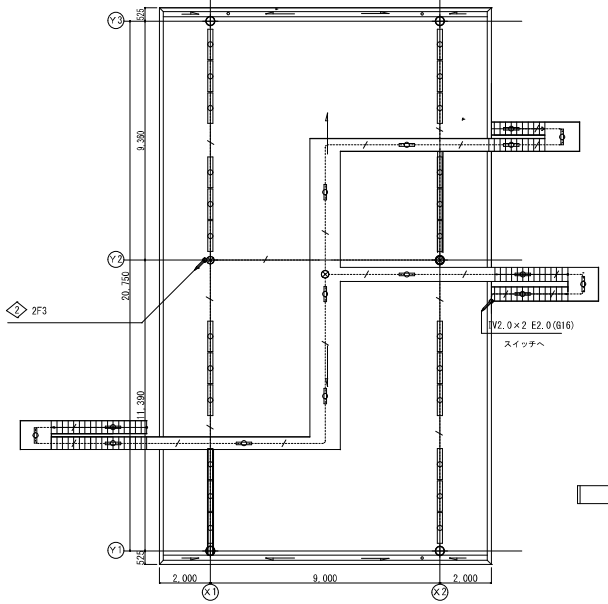
令和６年度			
工事名	広島高速5号線 料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	1:100
図名	広島駅北口料金所 電灯・弱電設備 屋根平面図	番号	E-07
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



電灯設備　平面図



弱電設備　屋根平面図



電灯設備　屋根平面図

上屋　庇	
A4	24

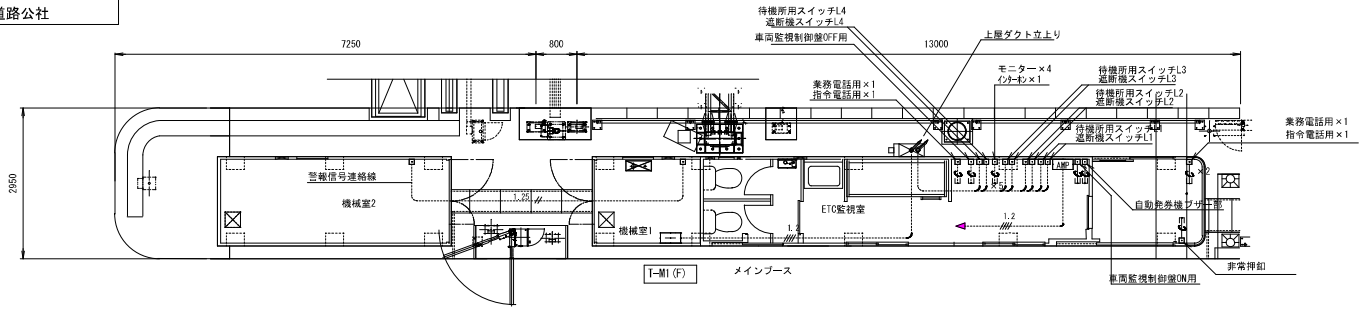
安全通路	
A3	15

凡例

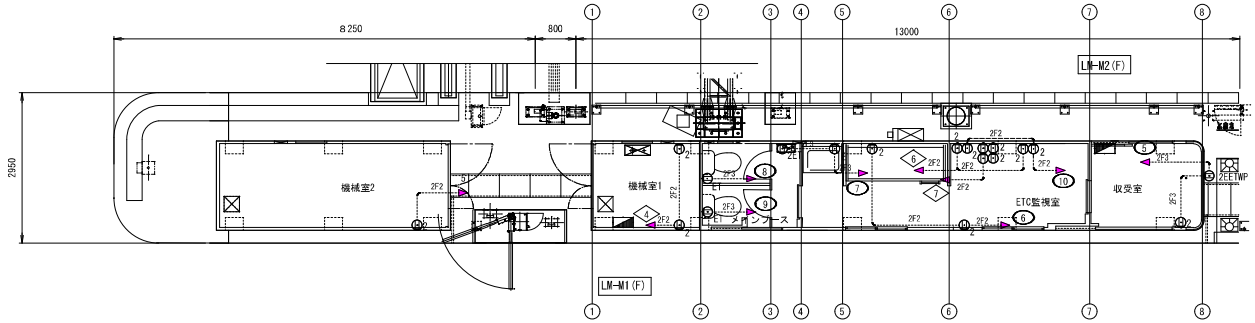
記号	名称	備考
	LED照明	参考姿図　参照
● WP	タンブラスイッチ	1P15A×1　防水型
⊗	丸型露出ボックス	
⊠	プルボックス	250×250×100
	ホーンスピーカー	15W

(注記)		
1．図中特記なき配管配線は下記とする。		
- - - - - - -	天井隠ぺい	
----------	床下隠ぺい	
----------	露出	
電灯・コンセント設備(床隠ぺいの例)		
---------	VVF1.6-2C	(立上りPF16)
F3 ----------	VVF1.0-3C	(立上りPF16)
F4 ----------	VVF1.6-2C×2	(立上りPF22)
2F2 ----------	VVF2.0-2C	(立上りPF16)
2F3 ----------	VVF2.0-3C	(立上りPF22)
2F4 ----------	VVF2.0-2C×2	(立上りPF22)
-----	IV2.0×2	(PF16)
-----	空配管	(PF22)
-----	CVV1.25-2C	
-----	AE1.2-2C×2	
-----	IV1.6×2　E1.6 (G16)	

令和６年度			
工事名	広島高速5号線 料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	1:50
図名	広島駅北口料金所 コンセント・通信設備 1階平面図	番号	E-08
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



通信設備　平面図



コンセント設備　平面図

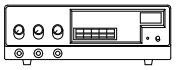
凡例

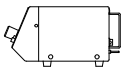
記号	名称	備考
	電灯動力盤	
	LED照明	参考姿図　参照
	LED照明	参考姿図　参照
	非常用照明	電池内蔵型
	タンブラスイッチ	1P15A×1
L	タンブラスイッチ	1P15A×1確認表示灯付
3	タンブラスイッチ	3W15A×1
	コンセント	2P15A×1
2	コンセント	2P15A×2
E	コンセント	2P15A×1　接地極付
ET	コンセント	2P15A×1　接地端子付
2ET	コンセント	2P15A×2　接地端子付
2EETWP	防水コンセント	2P15A×2　接地極接地端子付
	アウトレットボックス	
	換気扇・パイプファン	本工事付帯機械設備工事
	温度スイッチ	本工事付帯機械設備支給品（取付本工事付帯電気工事）
	空調リモコンスイッチ	本工事付帯機械設備工事
	全熱交換機スイッチ	本工事付帯機械設備支給品（取付本工事付帯電気工事）
	端子盤	
AMP	アンプ	

（注記）

1．図中特記なき配管配線は下記とする。

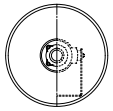
————	天井隠ぺい	
- - - - - -	床下隠ぺい	
·····	露出	
電灯・コンセント設備（床隠ぺいの例）		
————	VVF1.6-2C	（立上りPF16）
——F3——	VVF1.6-3C	（立上りPF16）
——F4——	VVF1.6-2C×2	（立上りPF22）
——2F2——	VVF2.0-2C	（立上りPF16）
——2F3——	VVF2.0-3C	（立上りPF22）
——2F4——	VVF2.0-2C×2	（立上りPF22）
——//——	IV2.0×2	（PF16）
——C——	空配管	（PF22）
——//——	CVV1.25-2C	
——///——	AE1.2-2C×2	

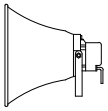




放送用アンプ仕様　（2台）

電源	AC100V　60Hz
定格出力	30W
周波数特性	50Hz～20kHz
スピーカスイッチ	5局＋一斉
入力回路	マイク入力　2以上
出力回路	平衡．300Ω（100系）

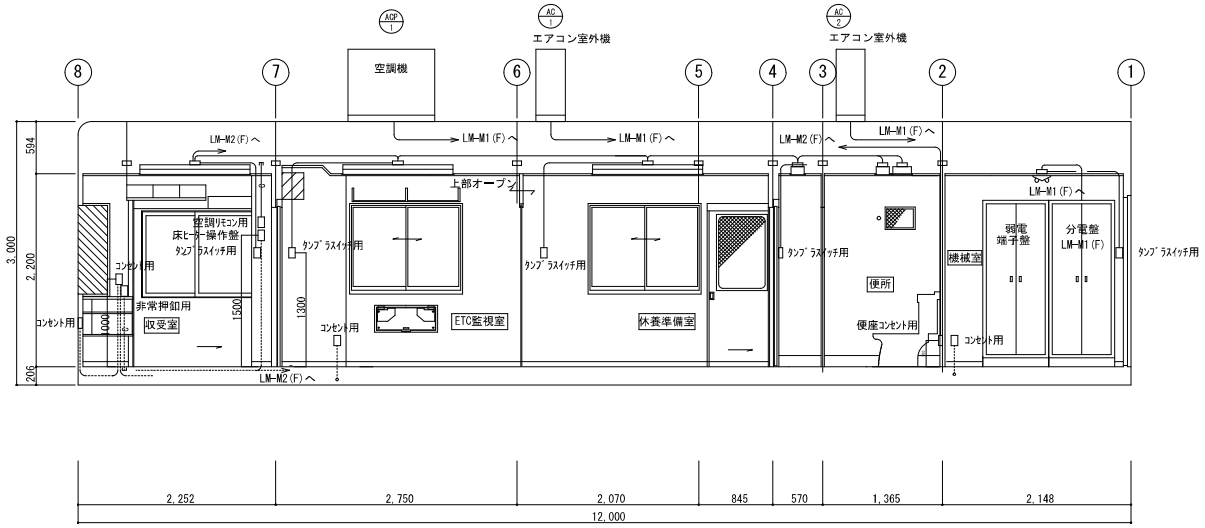




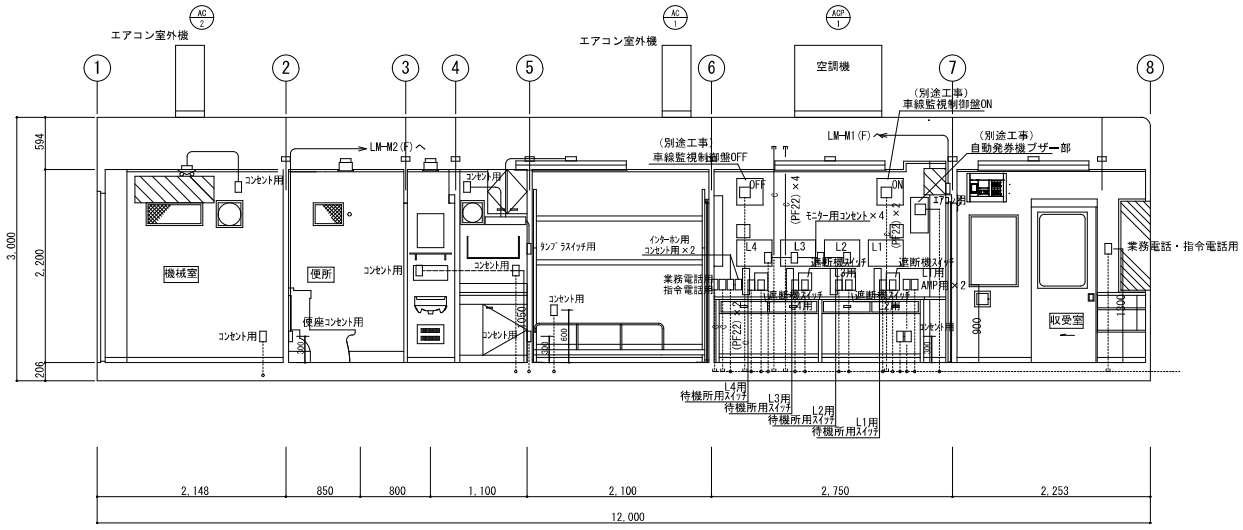
ホーンスピーカ仕様　（2台）

入力インピーダンス	670Ω（15W）
定格入力	15W
出力音圧レベル	99dB（1m/1W）
周波数特性	150Hz～15kHz

令和６年度			
工事名	広島高速5号線 料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	1:30
図名	広島駅北口料金所 電気設備 展開図(メインブース)	番号	E-09
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			



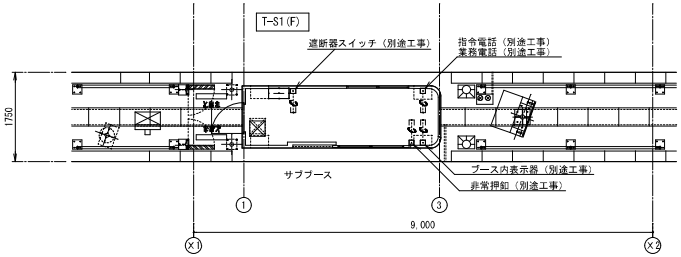
A通り内観図



B通り内観図

(注記)		
1．図中特記なき配管配線は下記とする。		
――――――	天井隠ぺい	
----------	床下隠ぺい	
･･････････	露出	
電灯・コンセント設備(床隠ぺいの例)		
----------	VVF1.6-2C	(立上りPF16)
F3 ----------	VVF1.6-3C	(立上りPF16)
F4 ----------	VVF1.6-2C×2	(立上りPF22)
2F2 ----------	VVF2.0-2C	(立上りPF16)
2F3 ----------	VVF2.0-3C	(立上りPF22)
2F4 ----------	VVF2.0-2C×2	(立上りPF22)
-------//-------	IV2.0×2	(PF16)
-------C-------	空配管	(PF22)
-------//-------	CVV1.25-2C	
-------///------	AE1.2-2C×２	

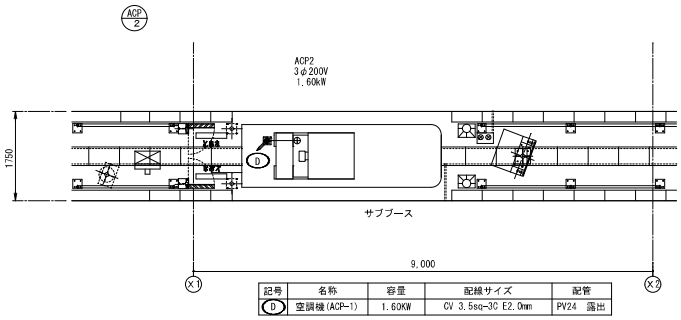
令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1:50
図 名	広島駅北口料金所 サブブース 動力・電灯・コンセント設備 １階、屋根 平面図	番号	E-10
路 線 名	高速５号線		
広島高速道路公社			



通信設備　１階平面図

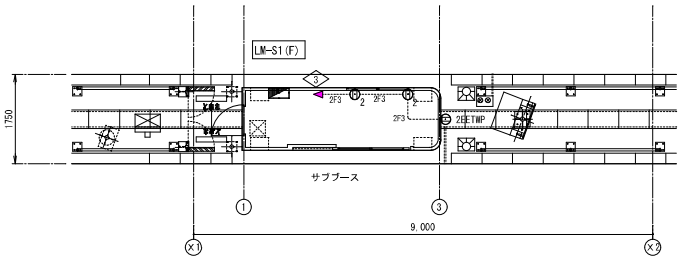
凡例

記号	名 称	備 考
	電灯動力盤	
	LED照明	参考姿図　参照
	LED照明	参考姿図　参照
	非常用照明	電池内蔵型
	タンブラスイッチ	1P15A×1
L	タンブラスイッチ	1P15A×1確認表示灯付
3	タンブラスイッチ	3W15A×1
	コンセント	2P15A×1
2	コンセント	2P15A×2
E	コンセント	2P15A×1 接地極付
ET	コンセント	2P15A×1 接地端子付
2ET	コンセント	2P15A×2 接地端子付
2ETWP	防水コンセント	2P15A×2 接地極接地端子付
	アウトレットボックス	
	換気扇・パイプファン	本工事付帯機械設備工事
	温度スイッチ	本工事付帯機械設備支給品 （取付本工事付帯電気工事）
	空調リモコンスイッチ	本工事付帯機械設備工事
	全熱交換機スイッチ	本工事付帯機械設備支給品 （取付本工事付帯電気工事）
	端子盤	
AMP	アンプ	
	ダイナミックマイクロホン	

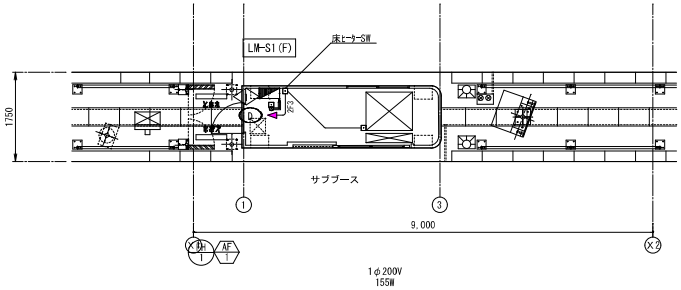


記号	名称	容量	配線サイズ	配管
D	空調機(ACP-1)	1.60KW	CV 3.5sq-3C E2.0mm	PV24　露出

動力設備　屋根伏図

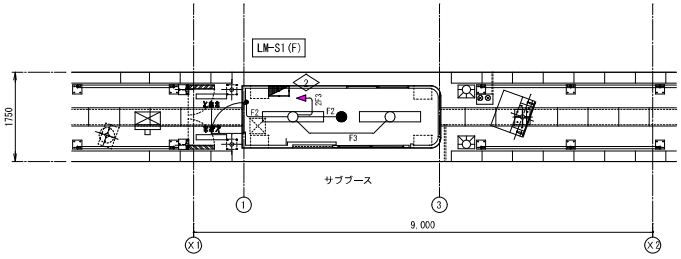


コンセント設備　１階平面図



動力設備　１階平面図

サブブース	
B2	2
G	1



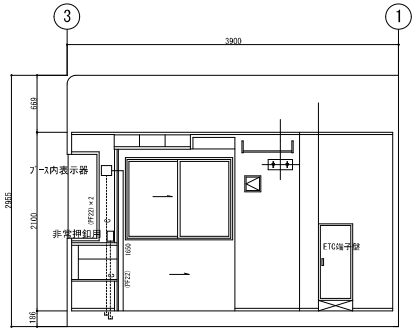
電灯設備　１階平面図

（注記）

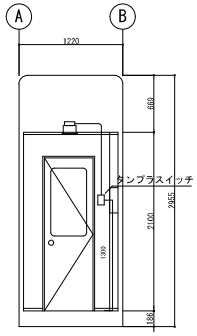
1．図中特記なき配管配線は下記とする。

————	天井隠ぺい	
----------	床下隠ぺい	
----------	露出	
電灯・コンセント設備(床隠ぺいの例)		
F2 ----------	VVF1.6-2C	(立上りPF16)
F3 ----------	VVF1.6-3C	(立上りPF16)
F4 ----------	VVF1.6-2C×2	(立上りPF22)
2F2 ----------	VVF2.0-2C	(立上りPF16)
2F3 ----------	VVF2.0-3C	(立上りPF22)
2F4 ----------	VVF2.0-2C×2	(立上りPF22)
----IV----	IV2.0×2	(PF16)
----C----	空配管	(PF22)
----CV----	CVV1.25-2C	
----AE----	AE1.2-2C×2	

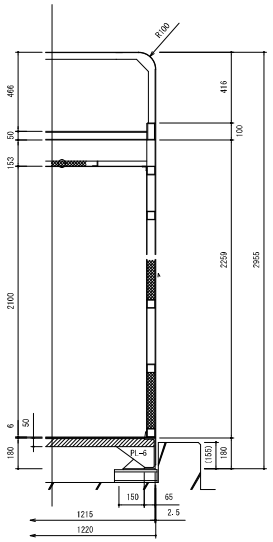
令和６年度			
工 事 名	広島高速5号線 料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1:30
図 名	広島駅北口料金所 サブブース 展開図	番号	E-11
路 線 名	高速5号線		
広島高速道路公社			



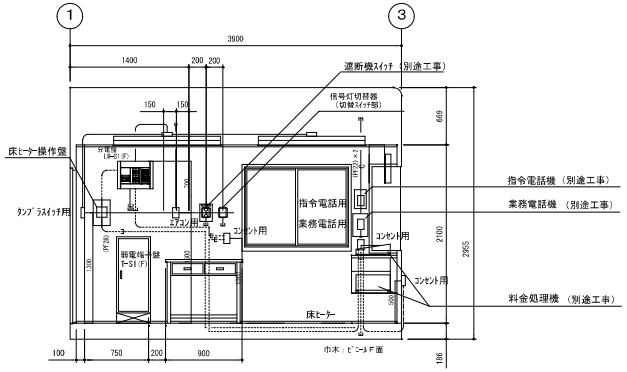
Ⓐ通道側内観図



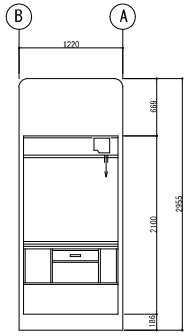
③通道側内観図



矩計詳細図　1/15



Ⓑ通道側内観図



①通道側内観図

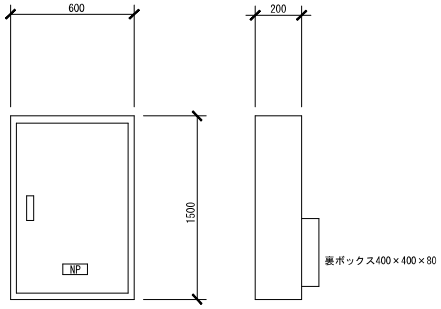
（注記）

1．図中特記なき配管配線は下記とする。

————	天井隠ぺい	
- - - - - -	床下隠ぺい	
·····	露出	
電灯・コンセント設備（床隠ぺいの例）		
----------	VVF1.6-2C	（立上りPF16）
F3 ----------	VVF1.6-3C	（立上りPF16）
F4 ----------	VVF1.6-2C×2	（立上りPF22）
2F2 ----------	VVF2.0-2C	（立上りPF16）
2F3 ----------	VVF2.0-3C	（立上りPF22）
2F4 ----------	VVF2.0-2C×2	（立上りPF22）
-------//-------	IV2.0×2	（PF16）
-------C-------	空配管	（PF22）
-------//-------	CVV1.25-2C	
-------////------	AE1.2-2C×２	

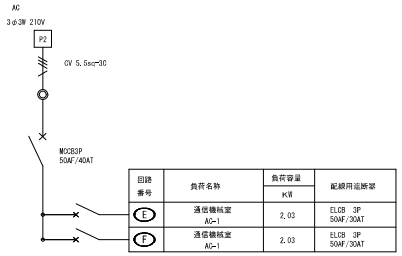
令和６年度			
工 事 名	広島高速5号線 料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	NON
図 名	二業の里電気室 分電盤結線図	番号	E-12
路 線 名	高速5号線		
広島高速道路公社			

分電盤名称		LM-E1(F)	
キャビネット形式		┬	屋内壁掛型（鋼板製）指定色塗装
電気方式	種別	非常用回路	常用回路
	相線	1φ3W	3φ3W
	電圧	210/105V	210V
負荷容量 VA		5981	6.5kW
主幹機具	定格電流	100A	
	定格遮断電流	2.5kA	—



分電盤姿図

NP	LM-E1(F)



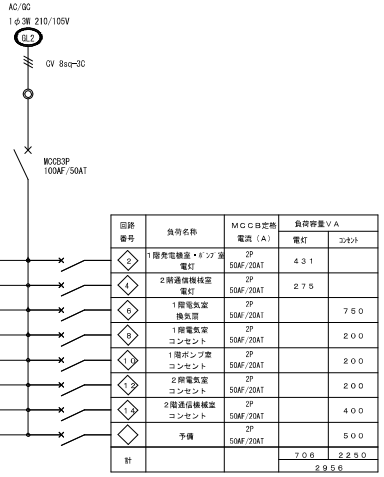
回路番号	負荷名称	負荷容量 KW	配線用遮断器
E	通信機械室 AC-1	2.03	ELCB 3P 50AF/30AT
F	通信機械室 AC-1	2.03	ELCB 3P 50AF/30AT

注 記

1. 分電盤配線遮断器は2P（位約計1Pサイズ）とする。
2. 分電回路分の接地端子又は銅バーを設ける。
3. 図中記入なきものは下記による。

20 単相１００Ｖ回路（２Ｐ１Ｅ）

2 単相２００Ｖ回路（２Ｐ２Ｅ）



負荷容量VA コンセント	負荷容量VA 電灯	MCCB定格 電流（A）	負荷名称	回路番号
	388	2P 50AF/20AT	1階電気室 電灯	1
	530	2P 50AF/20AT	2階電気室 電灯	3
	57	ELCB 2P 50AF/20AT	出入口 電灯	5
750		2P 50AF/20AT	1階電気室 換気扇	7
200		2P 50AF/20AT	1階電気室 コンセント	9
400		2P 50AF/20AT	1階発電機室 コンセント	11
200		2P 50AF/20AT	2階電気室 コンセント	13
500		2P 50AF/20AT	予備	
2050	975			計
3025				

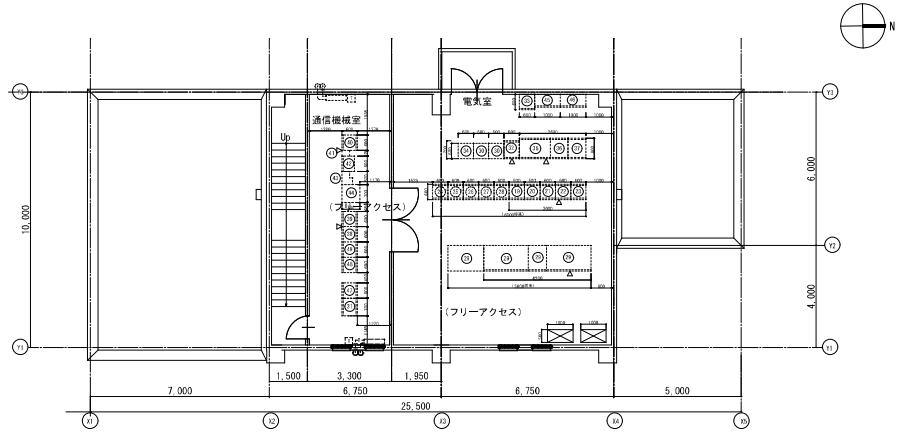
回路番号	負荷名称	MCCB定格 電流（A）	負荷容量VA 電灯	負荷容量VA コンセント
2	1階発電機室・ポンプ室 電灯	2P 50AF/20AT	431	
4	2階通信機械室 電灯	2P 50AF/20AT	275	
6	1階電気室 換気扇	2P 50AF/20AT		750
8	1階電気室 コンセント	2P 50AF/20AT		200
10	1階ポンプ室 コンセント	2P 50AF/20AT		200
12	2階電気室 コンセント	2P 50AF/20AT		200
14	2階通信機械室 コンセント	2P 50AF/20AT		400
	予備	2P 50AF/20AT		500
計			706	2250
			2956	

分電盤・端子盤仕様

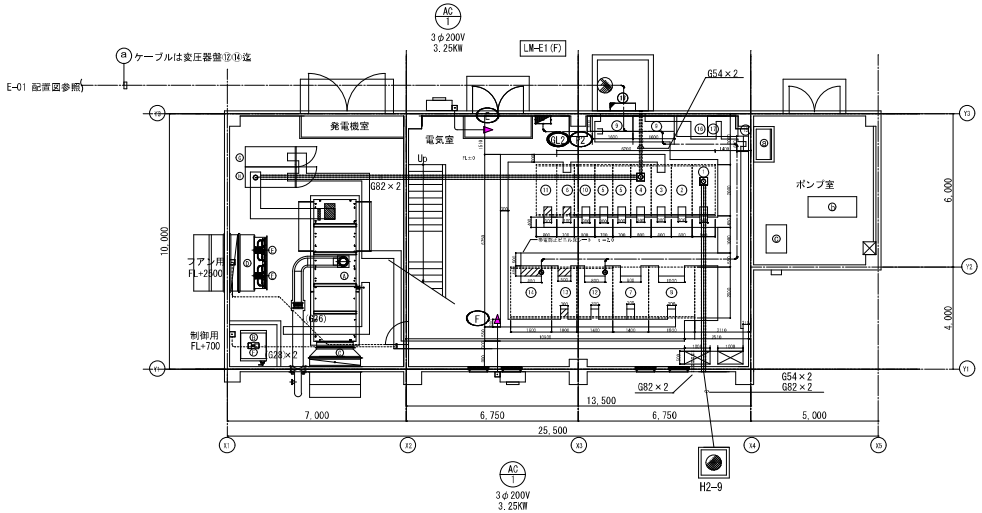
函板	鋼板１．６ｔ以上
扉板	鋼板１．６ｔ以上
把手	平面フラットハンドルＮｏ．２００
塗装	メラミン焼付

（注記）図中、寸法は参考とする。

令和６年度			
工 事 名	広島高速5号線 料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1:100
図 名	二葉の里電気室 幹線・動力設備 １、２階平面図	番号	E-13
路 線 名	高速5号線		
広島高速道路公社			



幹線・動力設備　２階平面図



幹線・動力設備　１階平面図

凡例

記号	名 称	備 考
	電灯動力盤	
	LED照明	参考姿図　参照
	LED照明	参考姿図　参照
	非常用照明	電池内蔵型
	タンブラスイッチ	1P15A×1
L	タンブラスイッチ	1P15A×1確認表示灯付
3	タンブラスイッチ	3W15A×1
	コンセント	2P15A×1
2	コンセント	2P15A×2
	アウトレットボックス	
	換気扇	本工事付帯機械設備工事
	温度スイッチ	本工事付帯機械設備支給品 （取付本工事付帯電気工事）
	空調リモコンスイッチ	本工事付帯機械設備工事

記号	名称	電圧	配線サイズ	立上り	ピット
GL2	LM-E1	1φ3W	CV 5.5sq-3C E3.5sq	E25	ｺﾛｶﾞｼ
P2		3φ3W	CV 5.5sq-3C	E25	ｺﾛｶﾞｼ

記号	名称	容量	配線サイズ	配管
E	空調機(AC-1)	3.25KW	CV 3.5sq-3C E2.0mm	PF22
F	空調機(AC-1)	3.25KW	CV 3.5sq-3C E2.0mm	PF22

令和６年度			
工 事 名	高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1:100
図 名	二葉の里電気室 電灯・コンセント設備 １、２階平面図	番号	E-14
路 線 名	高速5号線		
広島高速道路公社			

凡例

記号	名 称	備 考	記号	名 称	備 考
	電灯動力盤			アウトレットボックス	
	LED照明	参考姿図 参照			
	LED照明	参考姿図 参照		換気扇	本工事付帯機械設備工事
	非常用照明	電池内蔵型		温度スイッチ	本工事付帯機械設備支給品 （取付本工事付帯電気工事）
	タンブラスイッチ	1P15A×1		空調リモコンスイッチ	本工事付帯機械設備工事
L	タンブラスイッチ	1P15A×1確認表示灯付			
3	タンブラスイッチ	3W15A×1		金属製配線ダクト	
	コンセント	2P15A×1			
2	コンセント	2P15A×2			
	電話用受口	モジュラージャック			

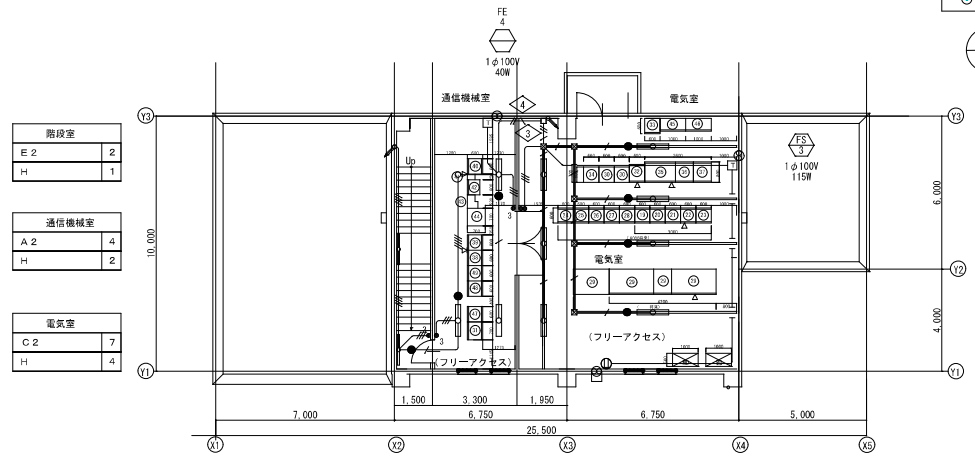
（注記）

1．図中特記なき配管配線は下記とする。

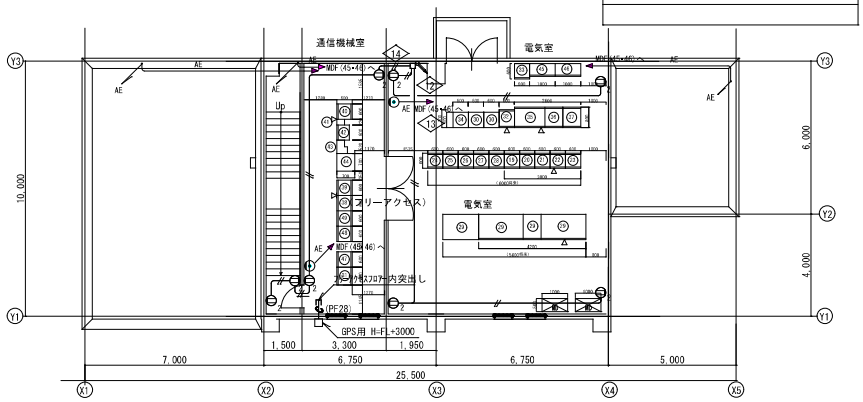
――――	天井隠ぺい	
――――	床下隠ぺい	
- - - - - - - - - -	露出	

1Fピット及び2Fフリーアクセス内はころがしとする。

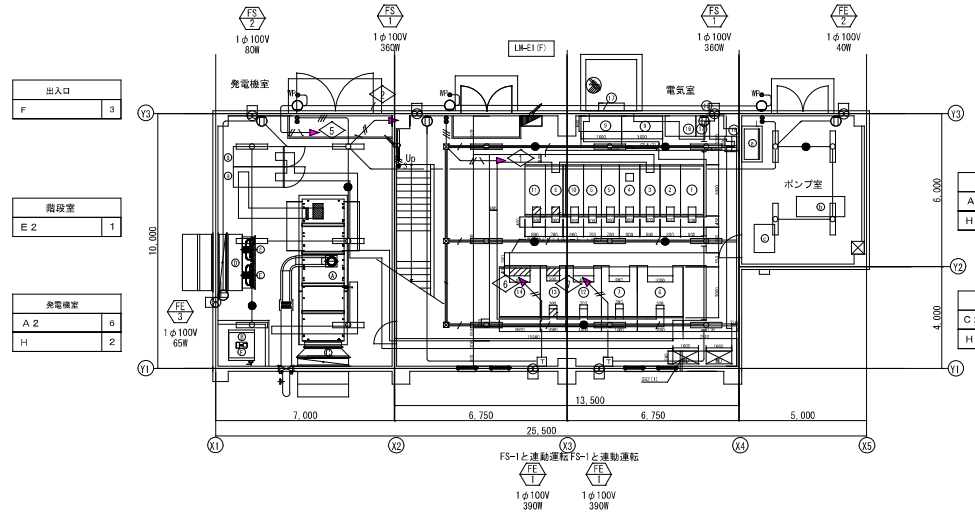
――――	VVF1.6-2C	（スラブ・立上りPF16）
F3	VVF1.6-3C	（スラブ・立上りPF16）
F4	VVF1.6-2C×2	（スラブ・立上りPF22）
2F2	VVF2.0-2C	（スラブ・立上りPF16）
2F3	VVF2.0-3C	（スラブ・立上りPF22）
2F4	VVF2.0-2C×2	（スラブ・立上りPF22）
―//―	IV2.0×2	（スラブ・PF16）
――――	空配管	（PF22）
―//―	VVF1.6-3C(内7-7X1)	二種金属線ぴ40×30
AE	AE1.2-2C×1	（スラブ・立上りPF16）



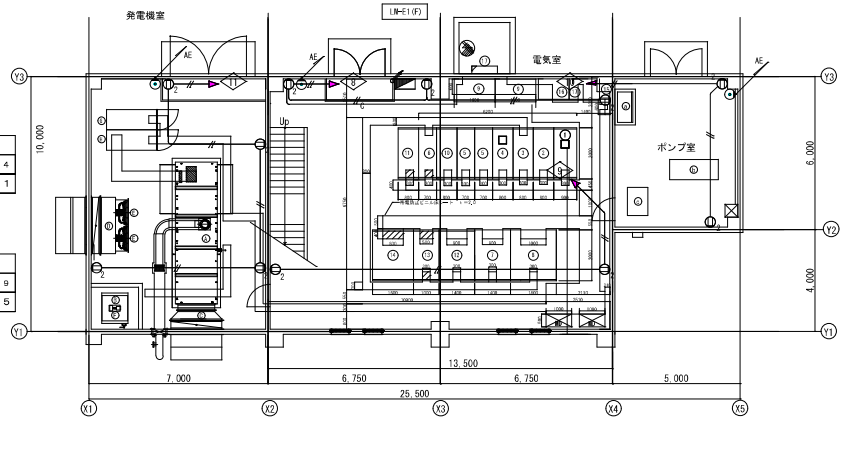
電灯設備　２階平面図



コンセント・通信設備　２階平面図

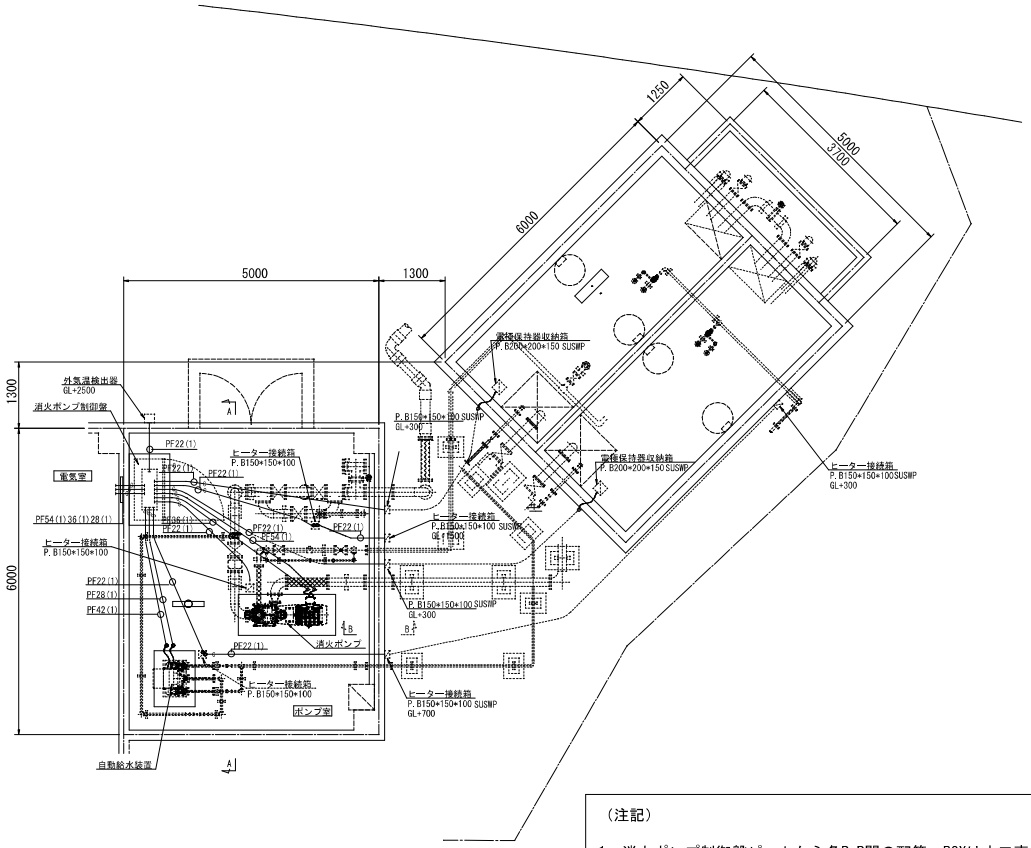


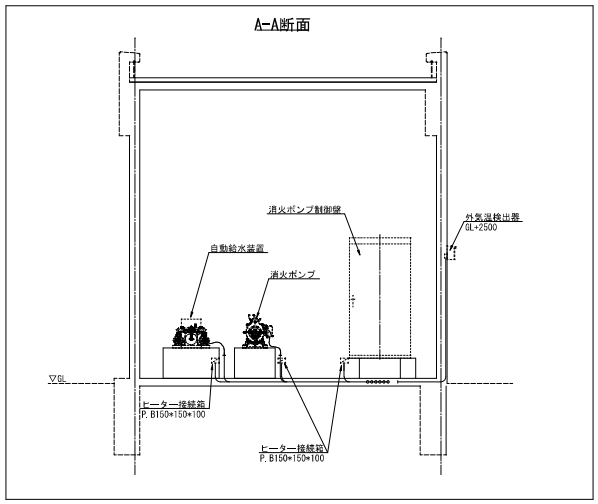
電灯設備　１階平面図

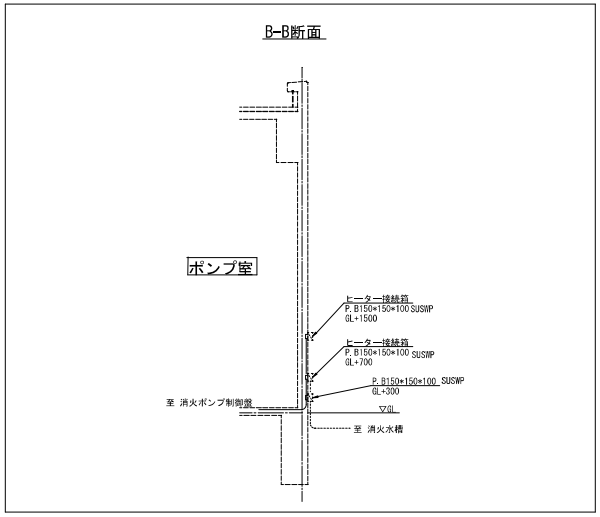


コンセント・通信設備　１階平面図

令和６年度			
工 事 名	広島高速5号線 料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1:50
図 名	二葉の里ポンプ室 消火ポンプ配管設備 １階平面図	番号	E-15
路 線 名	高速5号線		
広島高速道路公社			







（注記）

1. 消火ポンプ制御盤ピットから各P.B間の配管・BOXは本工事とする。
2. 破線部分は別途工事とする。
3. 消火ポンプ制御盤から各機器間の配線は別途工事とする。
4. 消火ポンプ制御盤及び各機器は別途工事とする。
5. 消火ポンプ制御盤ピット、消火ポンプ基礎、自動給水装置基礎は本工事とする。

令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	NON
図 名	広島駅北口料金所 設備凡例	番号	M－０１
路 線 名	高速５号線		
広島高速道路公社			

設備凡例　S=NON

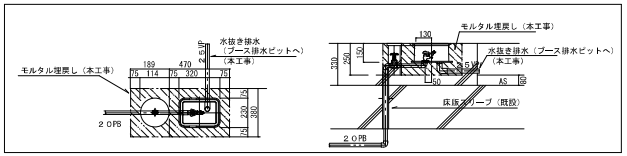
凡例

記 号	名 称	配管材料及びその他使用材料	備 考
——R——	冷媒管	一般：冷媒用被覆銅管（室内外機渡り配線は本工事） JCDA 0009	※屋外露出部は樹脂製化粧カバーにて保護（メーカー仕様）
——D——	ドレン管	一般：硬質塩化ビニル管（VP） JIS K 6741	※隠ぺい部は保温チューブ巻きを行うこと。屋内露出部は保温チューブ＋配管化粧カバー巻きを行うこと。
——SA——	給気ダクト	一般：スパイラルダクト、亜鉛鉄板	※屋内隠ぺい部は保温を行うこと、種別はⅠ・（ロ）・XI　とする。
——RA——	還気ダクト	一般：スパイラルダクト、亜鉛鉄板	
——OA——	外気ダクト	一般：スパイラルダクト、亜鉛鉄板	
——EA——	排気ダクト	一般：スパイラルダクト、亜鉛鉄板	
——▷	ベントキャップ	SUS製深型（指定色焼付塗装）	
T	サーモスタッド		
——－－——	給水管	水道用ポリエチレン紛体ライニング鋼管（SGP-PB） JWWA K 132	屋内配管（屋外露出・桁内）　保温防露施工 屋外露出はｅ₂・（ハ）・Ⅶ、天井内・PS内はｃ・（ハ）・Ⅶ、床下・ピット内はｄ・（ハ）・Ⅶとする。
		水道用ポリエチレン紛体ライニング鋼管（SGP-PD） JWWA K 132	土間配管
		水道用ポリエチレン管　１種２層管 JIS K 6762	屋外埋設（道路、歩道下）
————	排水管	硬質塩化ビニル管　（VP） JIS K 6741	屋内配管（桁内）、埋設配管（１００φ以下）
		硬質塩化ビニル管　（VU） JIS K 6741	埋設配管（１５０φ以上）
		排水用塩ビライニング鋼管 WSP 042	屋外立管（屋外露出）、MD継手
----------	通気管	硬質ポリ塩化ビニル管（VP） JIS K 6741	

（注記）１.本工事に使用する材料は下記仕様書による。
・公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）国土交通省監修
上記に該当しない場合は承諾を得るものとする。
２.本工事に使用するコンクリートアンカーについて特記なき場合は金属拡張おねじアンカーとする。
３.本工事に使用する金属製弁類、継手類について特記なき場合は管端防食を行うこと。
４.本工事に使用する電線類（電源線、操作線、接地線等）について特記なき場合はJCS規格による。
５．床下、ピット内配管は、レベルバンド支持とする。
６．給水設備は全て広島市水道局の指定品、指定工法とする。

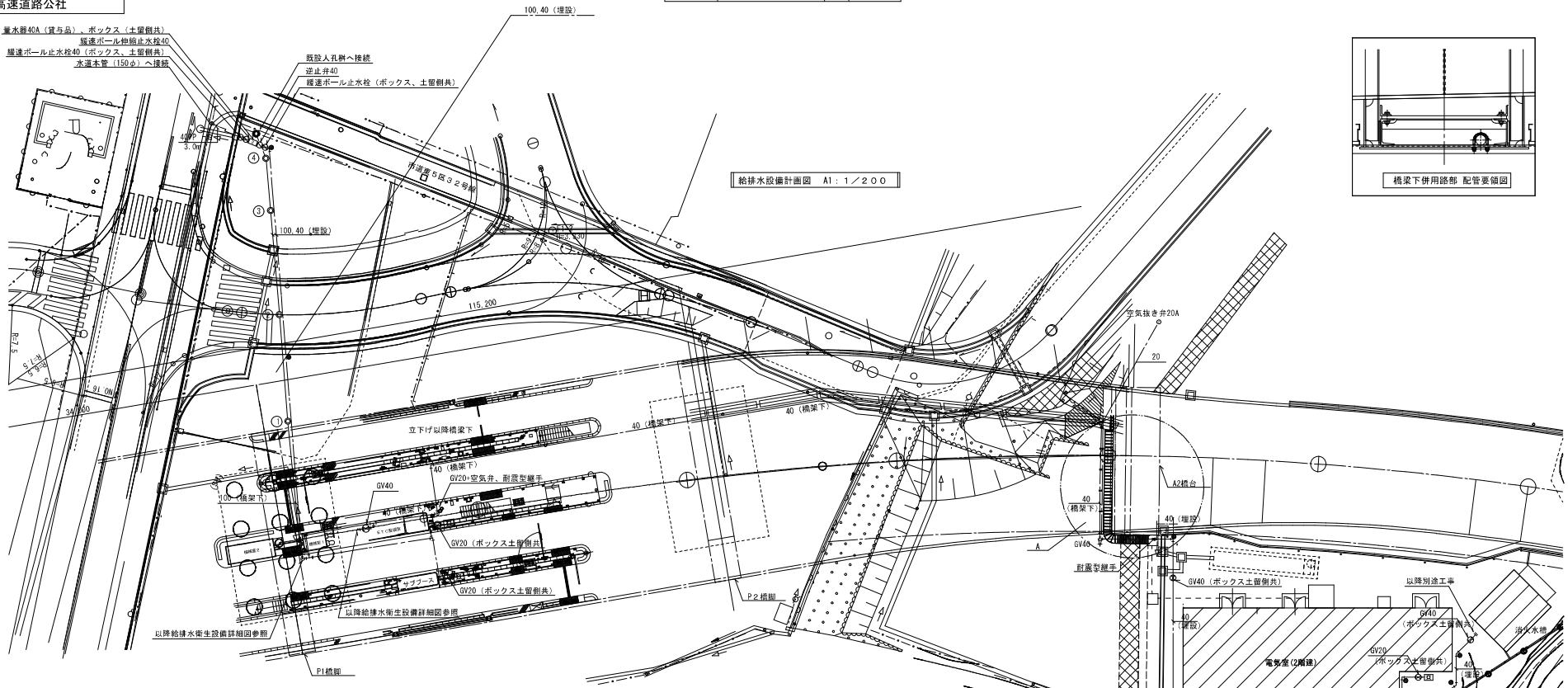
令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	1：200
図名	広島駅北口料金所 給排水設備　配置図	番号	M－02
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

器具表			
器具名	広島市機械設備工事機材標準図記号	数量	備考
散水栓	13-HF1	2	
散水栓ﾎﾞｯｸｽ	B-3	2	屋外埋設
仕切弁	GV-20　10k	3	ボックス共
仕切弁	GV-40　10k	2	ボックス共

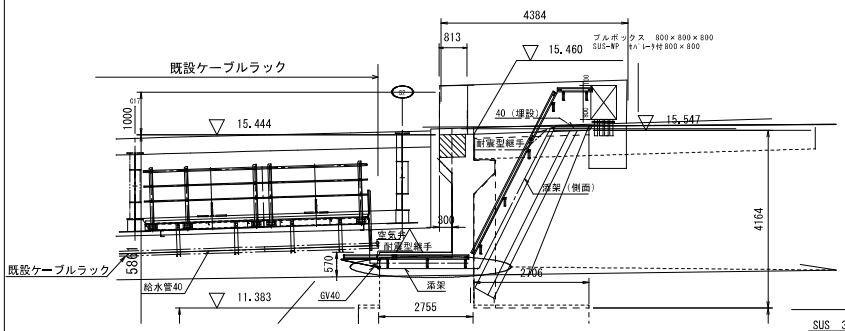


散水栓施工要領　S=1:40　　散水栓箱抜き（本工事）

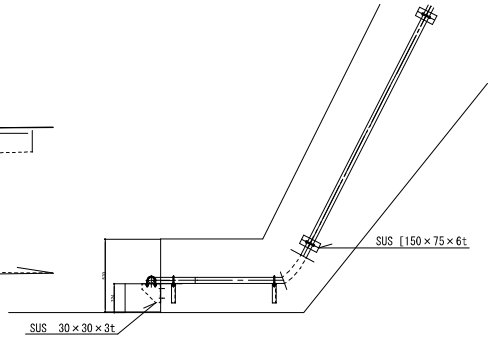
橋梁下併用路部　配管要領図

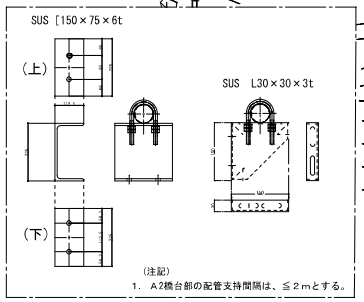


給排水設備計画図　A1：1／200



A部　断面図　S＝1：60



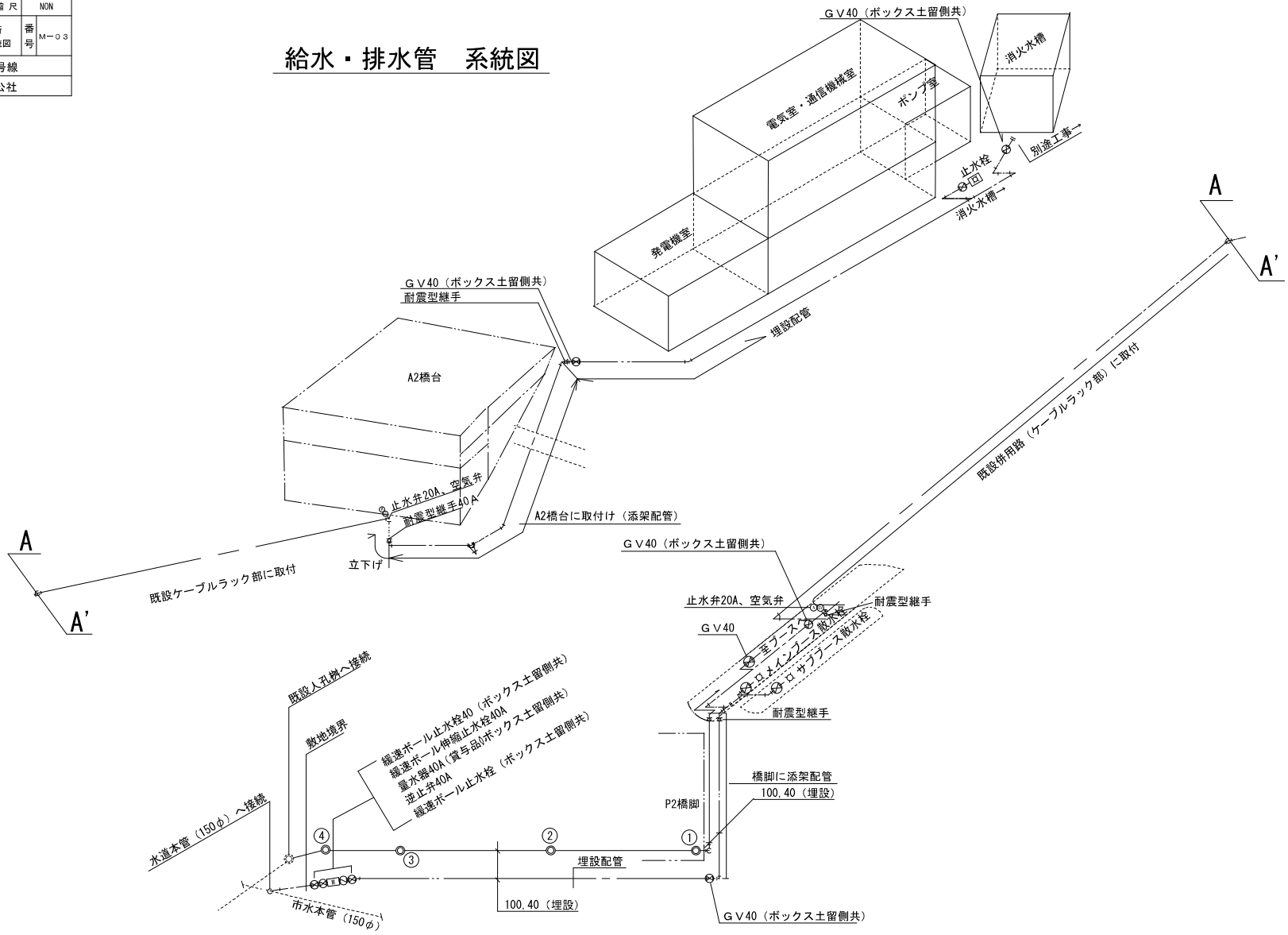


（注記）
1．A2橋台部の配管支持間隔は、≦2mとする。

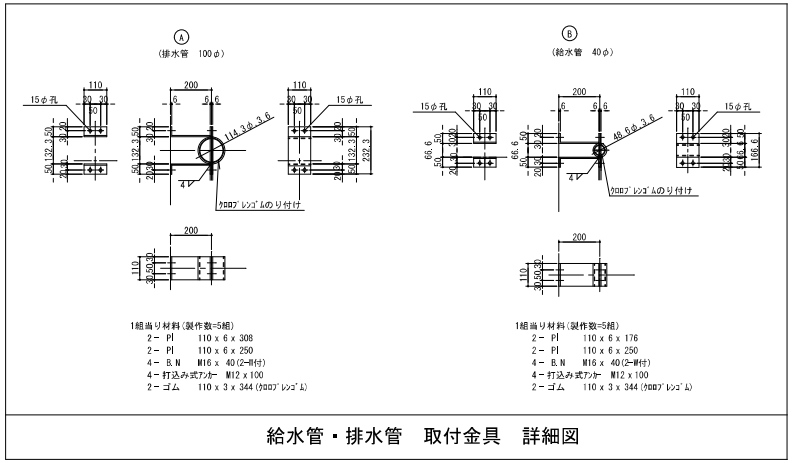
（注記）1．●　は埋設表示（鉄製）を示す。
2．土工部埋設深さは土被り300mm以上とする 。
将来道路部分の埋設深さは土被り600mm以上とする 。
3．仕様は、広島市水道局水道工事設計標準図を参考とする。

令和 6 年度				
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事			
図面番号		縮 尺	NON	
図 名	広島駅北口料金所 給水・排水管 系統図	番号	M－０３	
路 線 名	高速５号線			
広島高速道路公社				

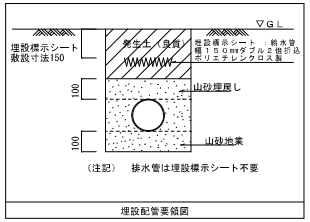
給水・排水管　系統図



令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	１：５０
図名	広島駅北口料金所 給排水設備　縦断図	番号	M－０４
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			

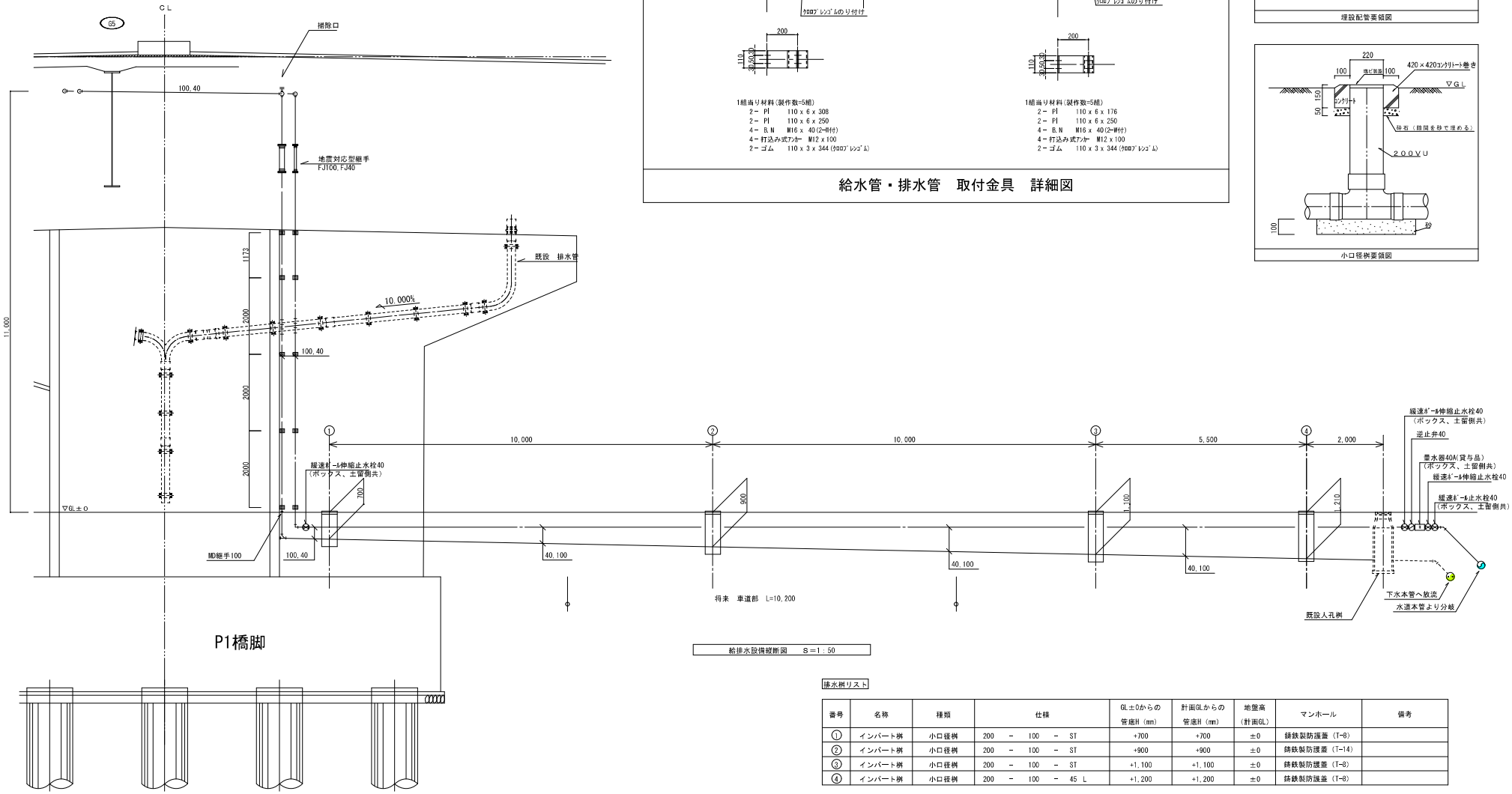


給水管・排水管　取付金具　詳細図



埋設配管要領図

小口径桝要領図



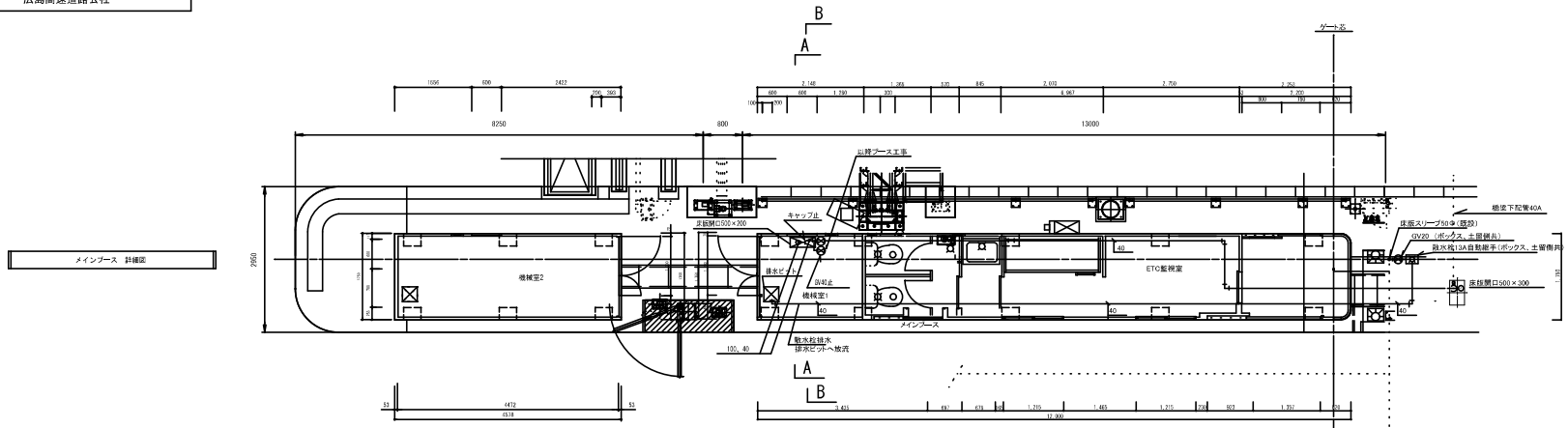
給排水設備縦断図　S＝1：50

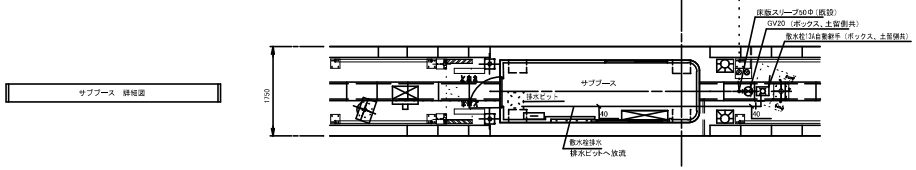
排水桝リスト

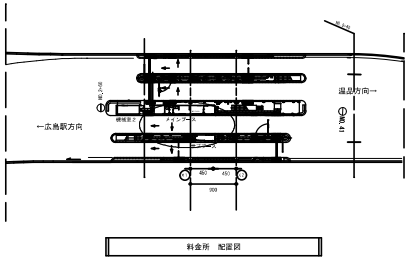
番号	名称	種類	仕様	GL±0からの管底H (mm)	計画GLからの管底H (mm)	地盤高(計画GL)	マンホール	備考
①	インバート桝	小口径桝	200 － 100 － ST	+700	+700	±0	鋳鉄製防護蓋 (T-8)	
②	インバート桝	小口径桝	200 － 100 － ST	+900	+900	±0	鋳鉄製防護蓋 (T-14)	
③	インバート桝	小口径桝	200 － 100 － ST	+1,100	+1,100	±0	鋳鉄製防護蓋 (T-8)	
④	インバート桝	小口径桝	200 － 100 － 45 L	+1,200	+1,200	±0	鋳鉄製防護蓋 (T-8)	

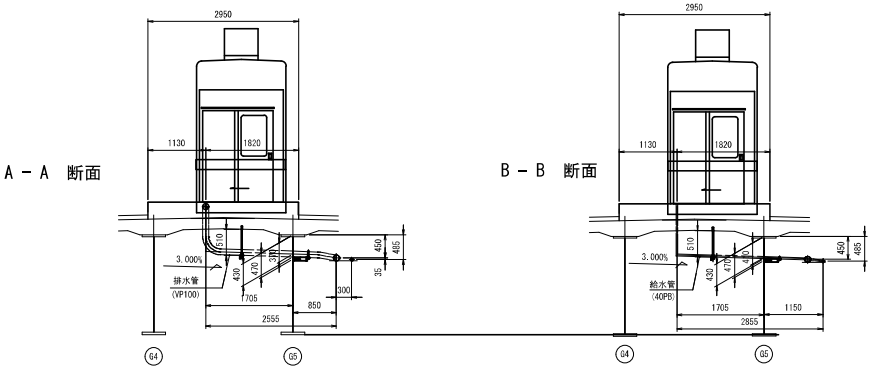
注記1.排水管の勾配は原則1/50以上とする。
2.地盤高、会所深さは参考値とし、現場にて調整する。
3.将来車道部の埋設配管は土被り600mmを確保する。
4.屋外露出部の配管保温の種別は e_s・(ハ)・1種とする。

令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	１：５０
図名	広島駅北口料金所 給排水設備　配管詳細図	番号	Ｍ－０５
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			









（注記）１.ベントキャップは深型ステンレス製とし焼付指定色仕上げとする。

令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	NON
図 名	広島駅北口料金所 空調換気設備 機器表	番号	M－０６
路 線 名	高速５号線		
広島高速道路公社			

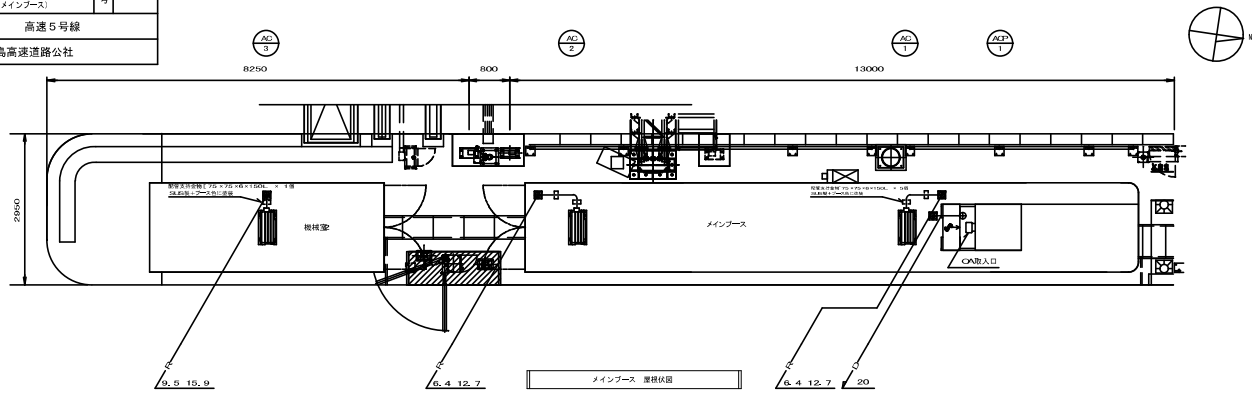
空調換気機器表

記号	名称	仕様	電源	台数	設置場所	備考
AGP 1	空冷式パッケージエアコン	型　　式：空冷HP方式（ブース屋根上設置形ダクト式） 冷房能力：4.5kW（1.6～5.0kW） 暖房能力：5.0kW（2.0～6.3kW）ヒーター以外 補助ﾋｰﾀｰ：2.0kW 圧　縮　機：1.1kW（インバータ式） 付　属　品：加圧・吸気ファン、補助ヒーター制御盤 ：防振ｺﾞﾑ、空調機架台、吸気管及び支持金物 ：コントロールボックス（ﾜｲﾔｰﾄﾞﾘﾓｺﾝ、ﾘﾓｺﾝｹｰﾌﾞﾙ）	3φ200V 冷房1.24kW 暖房1.60kW + エアカーテン0.83kW	1	1階 収受室	加圧：OA 5.0m3/min以上（300CMH）以上 吸気：循環 7.0m3/min（420CMH） 横型エアカーテン組込 型式：金属製貫流扇 能力：240m3/h以上 風速：3～6m/sec ヒーター　：800W
AC 1	壁掛エアコン	型　　式：空冷HP式 壁掛形ﾙｰﾑｴｱｺﾝ 冷房能力：4.0kW 暖房能力：5.0kW 圧　縮　機：1.1kW（インバータ式） 付　属　品：ﾘﾓｺﾝ、ﾘﾓｺﾝｹｰﾌﾞﾙ ：防振ｺﾞﾑ	1φ200V 冷房1.25kW 暖房1.29kW	1	1階 ETC監視室	
AC 2	空冷式パッケージエアコン	型　　式：空冷HP式ﾊﾟｯｹｰｼﾞｴｱｺﾝ 壁掛型 冷房専用 冷房能力：3.6kW 圧　縮　機：0.59kW（インバータ式） 付　属　品：ﾜｲﾔｰﾄﾞﾘﾓｺﾝ、ﾘﾓｺﾝｹｰﾌﾞﾙ ：防振ｺﾞﾑ	3φ200V 冷房0.85kW	1	1階 機械室1	冷房専用機 停電後自動復帰装置付 異常警報用端子付
AC 3	空冷式パッケージエアコン	型　　式：空冷HP式ﾊﾟｯｹｰｼﾞｴｱｺﾝ 壁掛型 冷房専用 冷房能力：7.1kW 圧　縮　機：1.29kW（インバータ式） 付　属　品：ﾜｲﾔｰﾄﾞﾘﾓｺﾝ、ﾘﾓｺﾝｹｰﾌﾞﾙ ：防振ｺﾞﾑ	3φ200V 冷房2.03kW	1	1階 機械室2	冷房専用機 停電後自動復帰装置付 異常警報用端子付
HEU 1	全熱交換器	型　　式：ダクト用全熱交換器（天井埋込形） 能　　力：100φ×60m3/h×100Pa 付　属　品：リモコン ：SUS製深型フード（防虫網10メッシュ付）	1φ100V 60W	1	1階 ETC監視室	
FE 1	有圧扇	型　　式：排気用 低騒音形 能　　力：200φ×50m3/h×30Pa 付　属　品：SUS製ｳｪｻﾞｰｶﾊﾞｰ（防虫網10メッシュ付）、保護ｶﾞｰﾄﾞ、 ：取付枠（不燃材）、SUS製風圧ｼｬｯﾀｰ	1φ100V 19.5W	1	1階 機械室1	
FE 2	有圧扇	型　　式：排気用 低騒音形 能　　力：200φ×110m3/h×30Pa 付　属　品：SUS製ｳｪｻﾞｰｶﾊﾞｰ（防虫網10メッシュ付）、保護ｶﾞｰﾄﾞ、 ：取付枠（不燃材）、SUS製風圧ｼｬｯﾀｰ	1φ100V 19.5W	1	1階 機械室2	
FE 3	天井扇	型　　式：低騒音形 能　　力：100φ×70m3/h×50Pa 付　属　品：SUS製深型フード（防虫網10メッシュ付）	1φ100V 15.5W	2	1階 便所	
FH 1	床ヒーター	型　　式：床置き式（煙床上） 直貼りフローリング用 ヒーター　：155W、寸法：750×900×12 付　属　品：制御盤、サーミスタ	1φ200V 155W	1	1階 収受室	
	温度スイッチ	型　　式：埋込形（温度調整範囲0°～40°）	－	2	1階 機械室1 1階 機械室2	

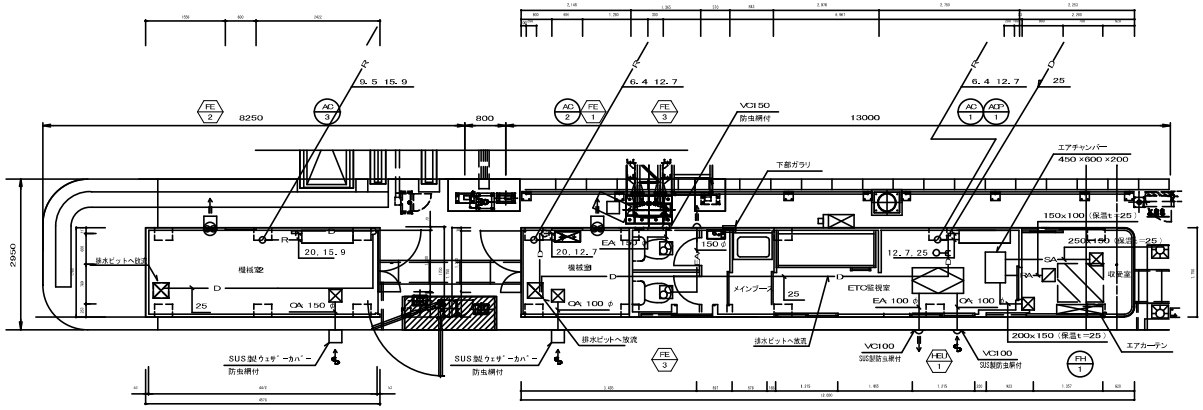
特記仕様

1. 機器は製造者の標準仕様とする。
2. 予備フィルターは100%とする。
3. 空調機室外機及び架台等は指定色仕上げとする。
4. 性能・電気特性および運転音はJIS　B8616に基づく。
5. 保温仕様　スパイラルダクト：屋内隠蔽・機械室内はN・（ロ）・XI　とする。
6. 保温仕様　長方形ダクト・チャンバー：屋内隠蔽はI・（ロ）・XI　とする。
7. 電気容量は参考値とする。

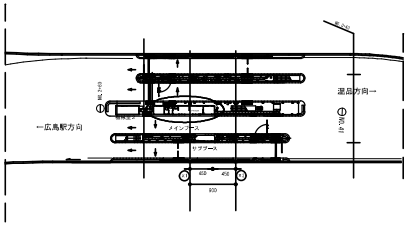
令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	１：５０
図 名	広島駅北ロ料金所 空調換気設備詳細図 （メインブース）	番号	Ｍ－０７
路 線 名	高速５号線		
広島高速道路公社			



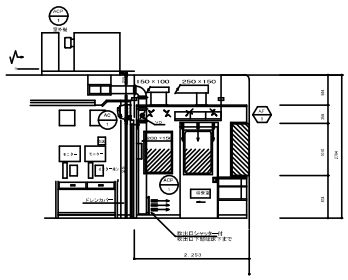
メインブース　屋根伏図

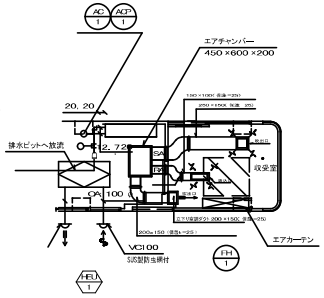


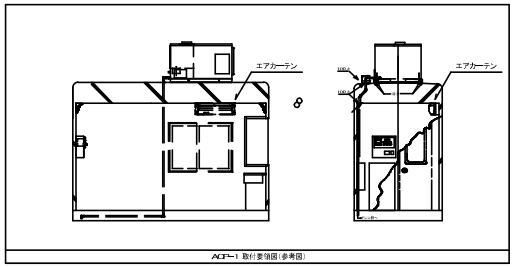
メインブース　詳細図



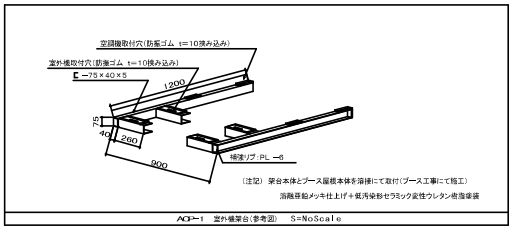
料金所　配置図



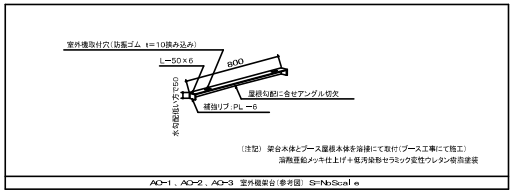




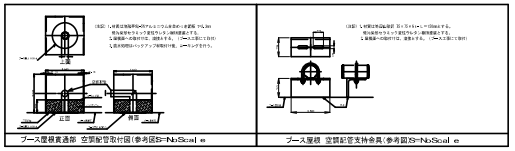
ACP－1 取付要領図（参考図）

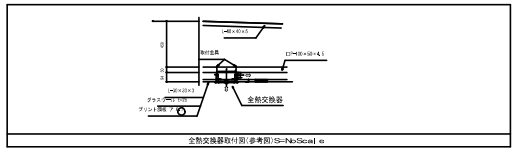


ACP－1　室外機架台（参考図）　S=NoScale



AC－1、AC－2、AC－3　室外機架台（参考図）S=NoScale





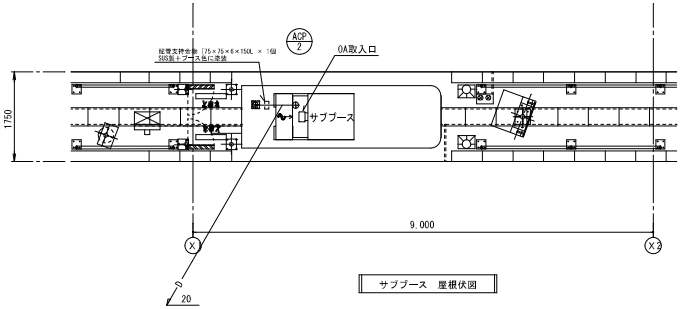
全熱交換器取付図（参考図）S=NoScale

制気口リスト

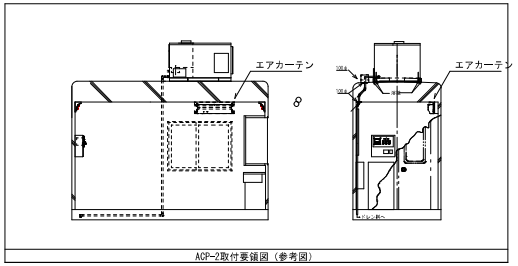
室名	系統	制気口								個	備考
		種類	寸法		ボックス			ボックス内張			
			L	W	L	W	H	無	GVF25t		
1階　収受室	空調給気	VH5	200	200	－	－	－	－	－	1	
1階　収受室	空調給気	VH5	100	300	－	－	－	－	－	1	
1階　収受室	空調還気	GVS	150	250	－	－	－	－	－	1	
1階　機械室	外気	VH5	150	150	350	350	300	－	○	1	
1階　機械室	外気	VH5	150	150	350	350	350	－	○	1	

（注記１．　エアコン屋内外機の温熱配管は本工事とし共巻きとする。
２．　露出冷媒管の外装材は樹脂製化粧カバーとする。
３．　ベントキャップは深型ステンレス製とし供付指定色仕上げとする。
４．　外気取入れダクトは防露(GW25mm)施工のこと。
５．　排気ダクトは外壁より内まで防露(GW25mm)施工のこと。
６．　防虫網は0メッシュとする。
７．　屋根・壁等の貫通部はコーキングにて防水処理とする。

令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	１：５０
図 名	広島駅北口料金所 空調換気設備詳細図・機器表 （サブブース）	番号	Ｍ－０８
路 線 名	高速５号線		
広島高速道路公社			

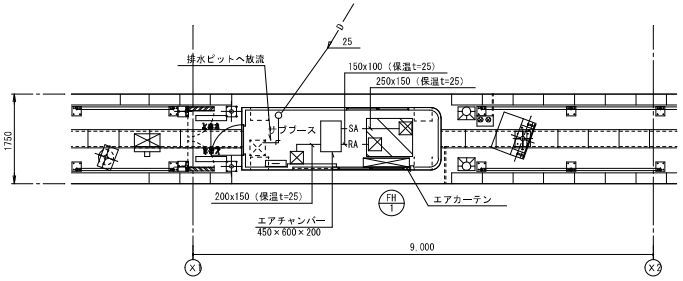


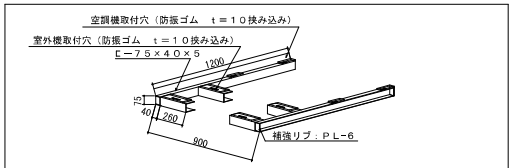
サブブース　屋根伏図



ACP-2取付要領図（参考図）

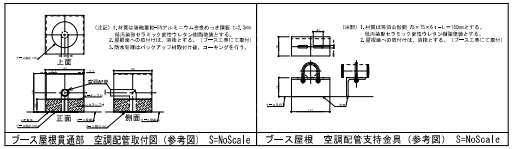
サブブース　詳細図



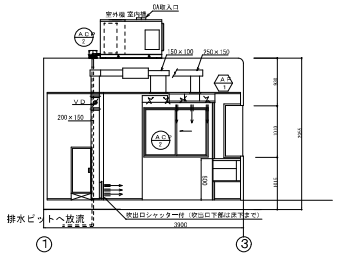


（注記）　架台本体とブース屋根本体を溶接にて取付（ブース工事にて施工）
溶融亜鉛メッキ仕上げ＋低汚染形セラミック変性ウレタン樹脂塗装

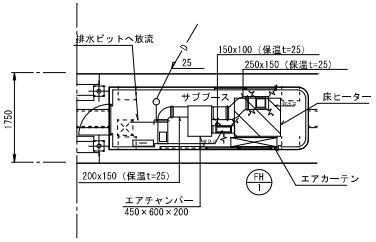
ACP-1 室外機架台（参考図）　S=NoScale



ブース屋根貫通部　空調配管取付図（参考図）　S=NoScale　　ブース屋根　空調配管支持金具（参考図）　S=NoScale



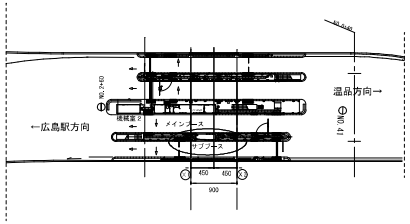
サブブース内観図　S=1:30



空調換気機器表

記号	名称	仕様	電源	台数	設置場所	備考
ACP 2	空冷式パッケージエアコン	型　　式：空冷HP方式（ブース屋根上設置形ダクト式） 冷房能力：4.5kW（1.6～5.0kW） 暖房能力：5.0kW（2.0～6.3kW）ヒーター以外 補助ヒーター：2.0kW 圧　縮　機：1.1kW（インバータ式） 付　属　品：加圧・吸気ファン、補助ヒーター制御盤 ：防振ｺﾞﾑ、空調機架台、吸気管及び支持金物 ：コントロールボックス（ﾜｲﾔｰﾄﾞﾘﾓｺﾝ、ﾘﾓｺﾝｹｰﾌﾞﾙ）	3φ200V 冷房1.24kW 暖房1.60kW ＋ エアカーテン0.83kW	1	1階 収受室	OA 5.0m3/min以上（300CMH）以上 循環 7.0m3/min（420CMH） エアカーテン組込 型式：金属製貫流扇 能力：240m3/h以上 風速：3～6m/sec ヒーター　：800W
FH 1	床ヒーター	型　　式：床置き式（荒床上） 直貼りフローリング用 ヒーター　：155W、寸法：750×900×12 付　属　品：制御盤、サーミスタ	1φ200V 155W	1	1階 収受室	制御盤は電気工事で取付

特記仕様
1.機器は製造者の標準仕様とする2.電気容量は参考値とする。
2.予備フィルターは100%とする。



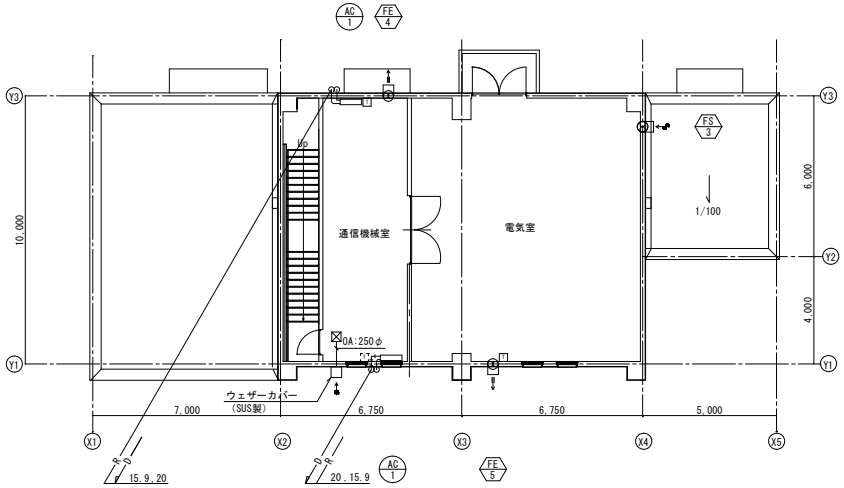
料金所　配置図

制気口リスト

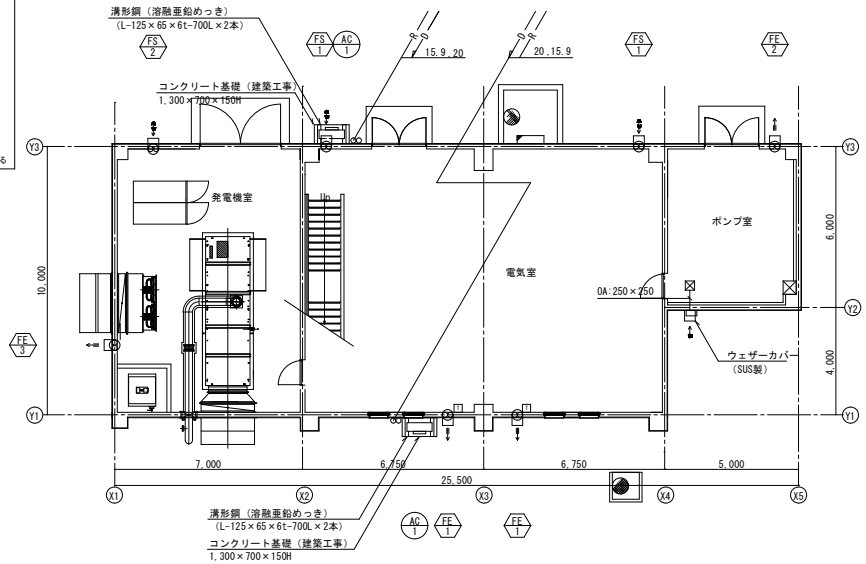
室名	系統	制気口								個	備考
		種類	寸法		ボックス			ボックス内貼			
			L	W	L	W	H	無	GW25t		
1階 サブブース	空調給気	VHS	200	200	－	－	－	－	－	1	
1階 サブブース	空調給気	VHS	100	300	－	－	－	－	－	1	
1階 サブブース	空調還気	GHS	150	250	－	－	－	－	－	1	

NO.14回答

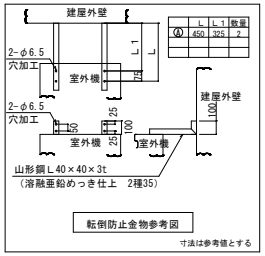
令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	１：１００
図 名	二葉の里電気室 空調換気設備詳細図・機器表	番号	M－０９
路 線 名	高速５号線		
広島高速道路公社			

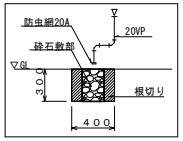


二葉の里電気室　空調・換気設備図（２階）



二葉の里電気室　空調・換気設備図（１階）





ドレン管末処理要領図　S=1:50

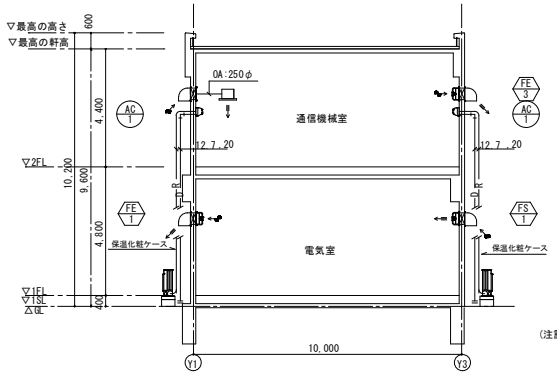
空調換気機器表

記号	名称	仕様	電源	台数	設置場所	備考
AC 1	空冷式パッケージエアコン	型　　式：空冷式ﾊﾟｯｹｰｼﾞｴｱｺﾝ 壁掛型　冷房専用 冷房能力：7.1kW 圧 縮 機：1.29kW（インバータ式） 付 属 品：ﾜｲﾔｰﾄﾞﾘﾓｺﾝ、ﾘﾓｺﾝｹｰﾌﾞﾙ、 ：防振ｺﾞﾑ、遠隔操作ｱﾀﾞﾌﾟﾀｰ、ｻｰﾓｽﾀｯﾄﾞ	3φ200V 冷房2.03kW	2	2階 通信機械室	異常警報用端子付 停電後自動復帰装置付 コンクリート基礎（建築工事）
FE 1	有圧扇	型　　式：排気用 低騒音形 能　　力：450φ×1,760m3/h×30Pa 付 属 品：SUS製ｳｪｻﾞｰｶﾊﾞｰ（防虫網付）、保護ｶﾞｰﾄﾞ、 ：取付枠（不燃）、SUS製風圧ｼｬｯﾀｰ、ｻｰﾓｽﾀｯﾄﾞ	1φ100V 390W	2	1階 電気室	FS-1と連動運転
FE 2	有圧扇	型　　式：排気用 低騒音形 能　　力：250φ×810m3/h×30Pa 付 属 品：SUS製ｳｪｻﾞｰｶﾊﾞｰ（防虫網付）、保護ｶﾞｰﾄﾞ、 ：取付枠（不燃）、SUS製風圧ｼｬｯﾀｰ	1φ100V 40W	1	1階 ポンプ室	
FE 3	有圧扇	型　　式：排気用 低騒音形 能　　力：300φ×1,530m3/h×30Pa 付 属 品：SUS製ｳｪｻﾞｰｶﾊﾞｰ（防虫網付）、保護ｶﾞｰﾄﾞ、 ：取付枠（不燃）、SUS製風圧ｼｬｯﾀｰ	1φ100V 65W	1	1階 発電機室	FS-2と連動運転
FE 4	有圧扇	型　　式：排気用 低騒音形 能　　力：250φ×700m3/h×30Pa 付 属 品：SUS製ｳｪｻﾞｰｶﾊﾞｰ（防虫網付）、保護ｶﾞｰﾄﾞ、 ：取付枠（不燃）、SUS製風圧ｼｬｯﾀｰ	1φ100V 40W	1	2階 通信機械室	
FE 5	有圧扇	型　　式：排気用 低騒音形 能　　力：350φ×1,830m3/h×30Pa 付 属 品：SUS製ｳｪｻﾞｰｶﾊﾞｰ（防虫網付）、保護ｶﾞｰﾄﾞ、 ：取付枠（不燃）、SUS製風圧ｼｬｯﾀｰ、ｻｰﾓｽﾀｯﾄﾞ	1φ100V 113W	1	2階 電気室	FS-3と連動運転
FS 1	有圧扇	型　　式：給気用 低騒音形 能　　力：450φ×1,760m3/h×30Pa 付 属 品：SUS製ｳｪｻﾞｰｶﾊﾞｰ（防虫網付）、保護ｶﾞｰﾄﾞ、 ：取付枠（不燃）、SUS製電動ｼｬｯﾀｰ	1φ100V 360W	2	1階 電気室	FE-1と連動運転
FS 2	有圧扇	型　　式：給気用 低騒音形 能　　力：300φ×1,530m3/h×30Pa 付 属 品：SUS製ｳｪｻﾞｰｶﾊﾞｰ（防虫網付）、保護ｶﾞｰﾄﾞ、 ：取付枠（不燃）、SUS製電動ｼｬｯﾀｰ	1φ100V 80W	1	1階 発電機室	FE-3と連動運転
FS 3	有圧扇	型　　式：給気用 低騒音形 能　　力：350φ×1,830m3/h×30Pa 付 属 品：SUS製ｳｪｻﾞｰｶﾊﾞｰ（防虫網付）、保護ｶﾞｰﾄﾞ、 ：取付枠（不燃）、SUS製電動ｼｬｯﾀｰ	1φ100V 115W	1	2階 電気室	FE-5と連動運転
	温度スイッチ	型　　式：埋込形（温度調整範囲0°～40°）	－	5	1階 電気室×2 2階 通信機械室×2 2階 電気室×1	電気工事で施工

特記仕様
1. 機器は製造者の標準仕様とする。
2. 機器基礎は建築工事著する。
3. 予備フィルターは100%とする。
4. 電力容量は参考値とする。

制気口リスト

室名	系統	風量 SA m3/h	風量 RA m3/h	風量 OA m3/h	風量 EA m3/h	制気口 種類	寸法 L	寸法 W	ボックス L	ボックス W	ボックス H	ボックス内貼 無	ボックス内貼 GW25t	個	備考
1階 ポンプ室	外気	－	－	810	－	VHS	350	350	550	550	450	－	○	1	
2階 通信機械室	外気	－	－	700	－	VHS	350	350	550	550	450	－	○	1	



B－B断面図　S＝1/100

(注記) 1. エアコン屋内外機の連絡配線は本工事とし共巻きとする。
2. 露出冷媒管の外装材は樹脂製化粧カバーとする。
3. 外気取入れダクトは防露（GW25mm）施工のこと。
4. 排気ダクトは外壁より1mまで防露（GW25mm）施工のこと。

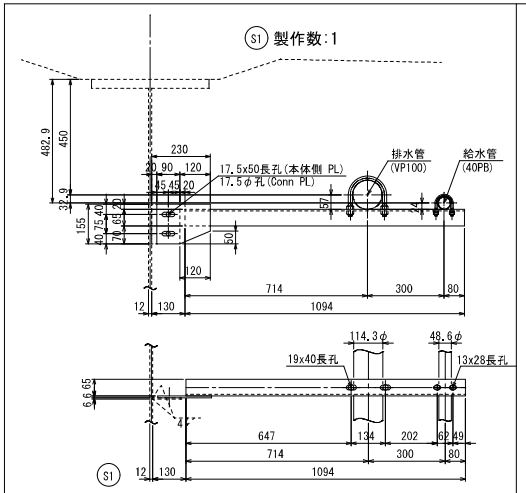
令和 6 年度			
工 事 名	広島高速5号料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1：10
図 名	二業の里地区橋梁 配管支持金具参考図	番号	M－10
路 線 名	高速5号線		
広島高速道路公社			

支持金具詳細　S＝1：10

(注記)1．構梁上部及び※印は既設とし、他は本工事とする。
2．特記なき材質は全てSS400とする。
3．部材は溶融亜鉛メッキとする。(JIS H8641 HDZ55)
但し、ボルト・ナット・ワッシャーはJIS H8641 HDZ35同等以上とする。
4．ボルトナットは地み止めのものを使用する。

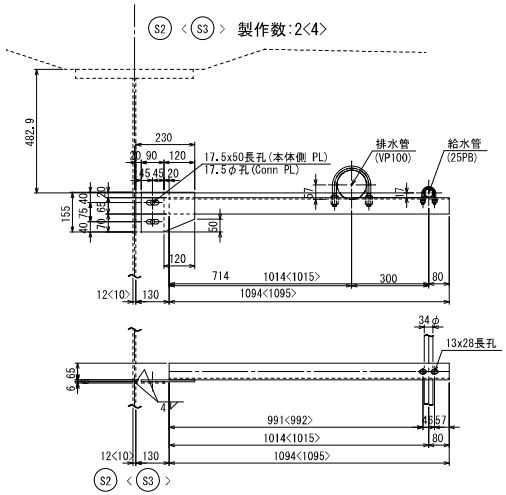
種別	S1	S2	S3	S4	S5	S6	S7	S8	S9
数量	1	2	4	1	1	1	1	1	1

(S1) 製作数:1



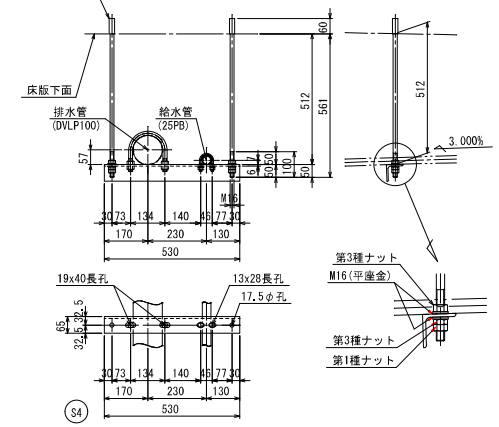
(S1)
1－ L　65 x 65 x 6 x 1094
※既設 1－ PL　155 x 6 x 110(SM400A)
1－ PL　155 x 6 x 210
1－ Uボルト　呼び 100A形 (4-1種NUT付き)
1－ Uボルト　呼び 40C形 (2-1種NUT,2-3種NUT付き)
2－ B.N　M16 x 40(2-W付)

(S2)〈(S3)〉 製作数:2<4>



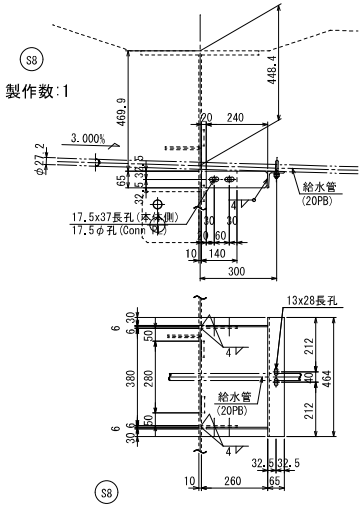
(S2)〈(S3)〉
1－ L　65 x 65 x 6 x 1094<1095>
※既設 1－ PL　155 x 6 x 110(SM400A)
1－ PL　155 x 6 x 210
1－ Uボルト　呼び 25C形 (2-1種NUT,2-3種NUT付き)
2－ B.N　M16 x 40(2-W付)

(S4) 製作数:1



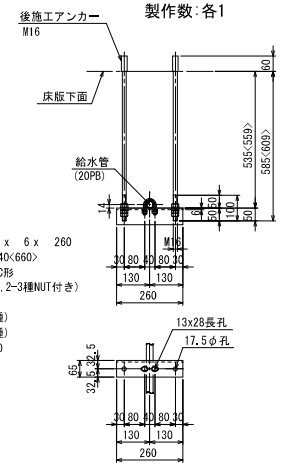
(S4)
1－ L　65 x 65 x 6 x 530
2－ R.B　φ16 x 620
1－ Uボルト　呼び 100A形 (4-1種NUT付き)
1－ Uボルト　呼び 25C形 (2-1種NUT,2-3種NUT付き)
4－Washer　M16
2－Nut　M16(第1種)
4－Nut　M16(第3種)
2－後施工ｱﾝｶｰ　M16 x 60

(S8) 製作数:1



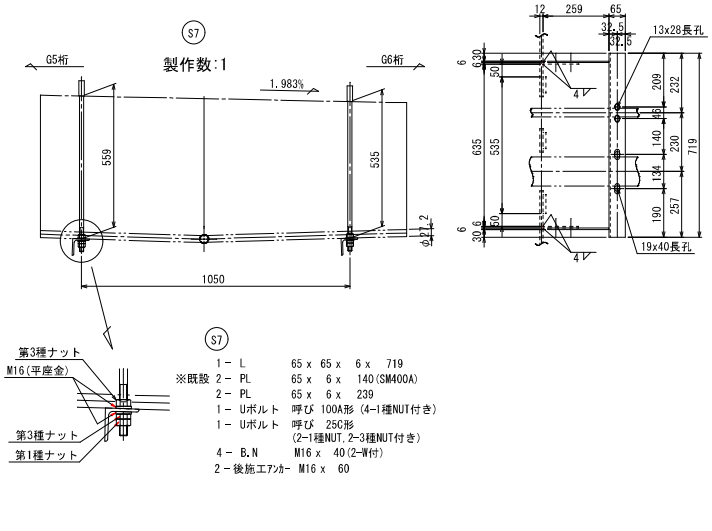
(S8)
1－ L　65 x 65 x 6 x 464
※既設 2－ PL　65 x 6 x 140(SM400A)
2－ PL　65 x 6 x 240
1－ Uボルト　呼び 20C形 (2-1種NUT,2-3種NUT付き)
4－ B.N　M16 x 40(2-W付)

(S5)〈(S6)〉 製作数:各1



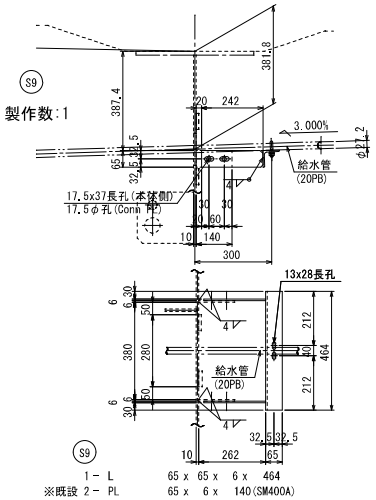
(S5)〈(S6)〉
1－ L　65 x 65 x 6 x 260
2－ R.B　φ16 x 640<660>
1－ Uボルト　呼び 20C形
(2-1種NUT,2-3種NUT付き)
4－Washer　M16
2－Nut　M16(第1種)
4－Nut　M16(第3種)
2－後施工ｱﾝｶｰ　M16 x 60

(S7) 製作数:1



(S7)
1－ L　65 x 65 x 6 x 719
※既設 2－ PL　65 x 6 x 140(SM400A)
2－ PL　65 x 6 x 239
1－ Uボルト　呼び 100A形 (4-1種NUT付き)
1－ Uボルト　呼び 25C形
(2-1種NUT,2-3種NUT付き)
4－ B.N　M16 x 40(2-W付)
2－後施工ｱﾝｶｰ　M16 x 60

(S9) 製作数:1

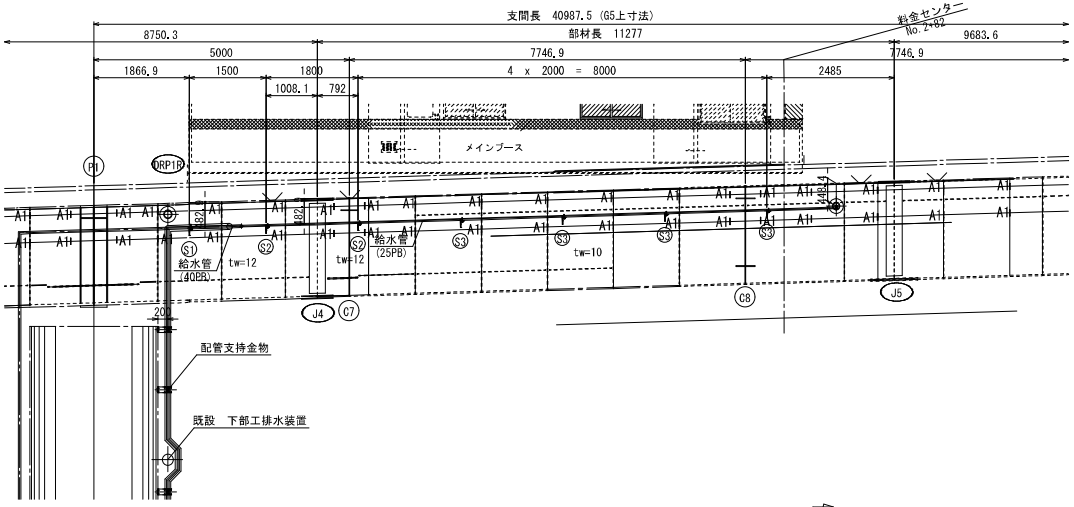


(S9)
1－ L　65 x 65 x 6 x 464
※既設 2－ PL　65 x 6 x 140(SM400A)
2－ PL　65 x 6 x 242
1－ Uボルト　呼び 20C形 (2-1種NUT,2-3種NUT付き)
4－ B.N　M16 x 40(2-W付)

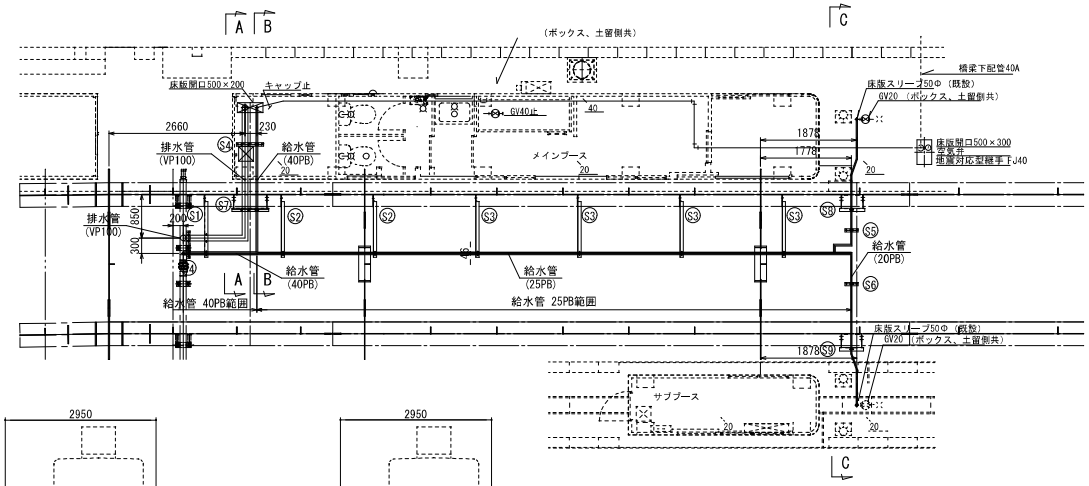
令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	１：５０
図 名	二葉の里地区橋梁 給水・排水設備 立面図・平面図・断面図	番号	M－１１
路 線 名	高速5号線		
広島高速道路公社			

料金所給水・排水設備　　S = 1 : 50

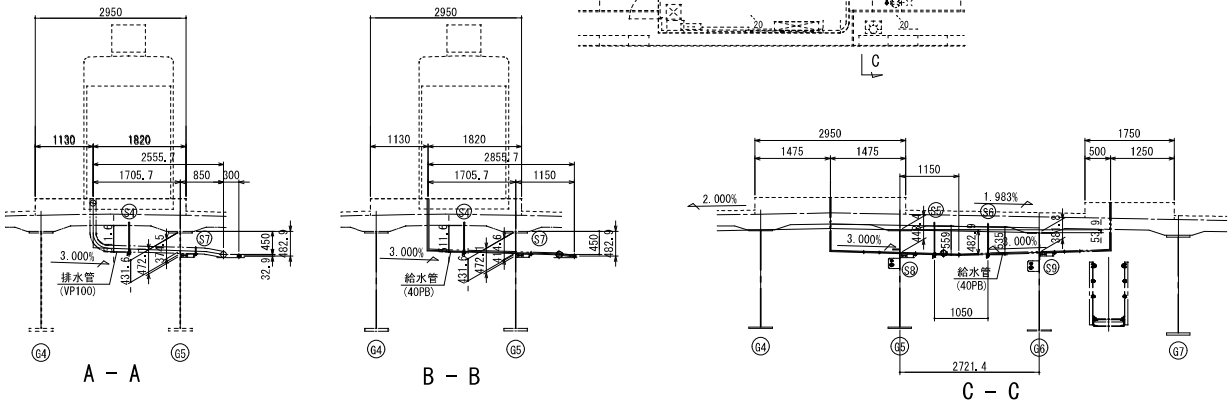
立面図



平面図

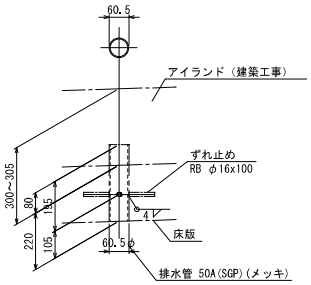


断面図



給水管　床版貫通部詳細図（参考図）

製作数:2

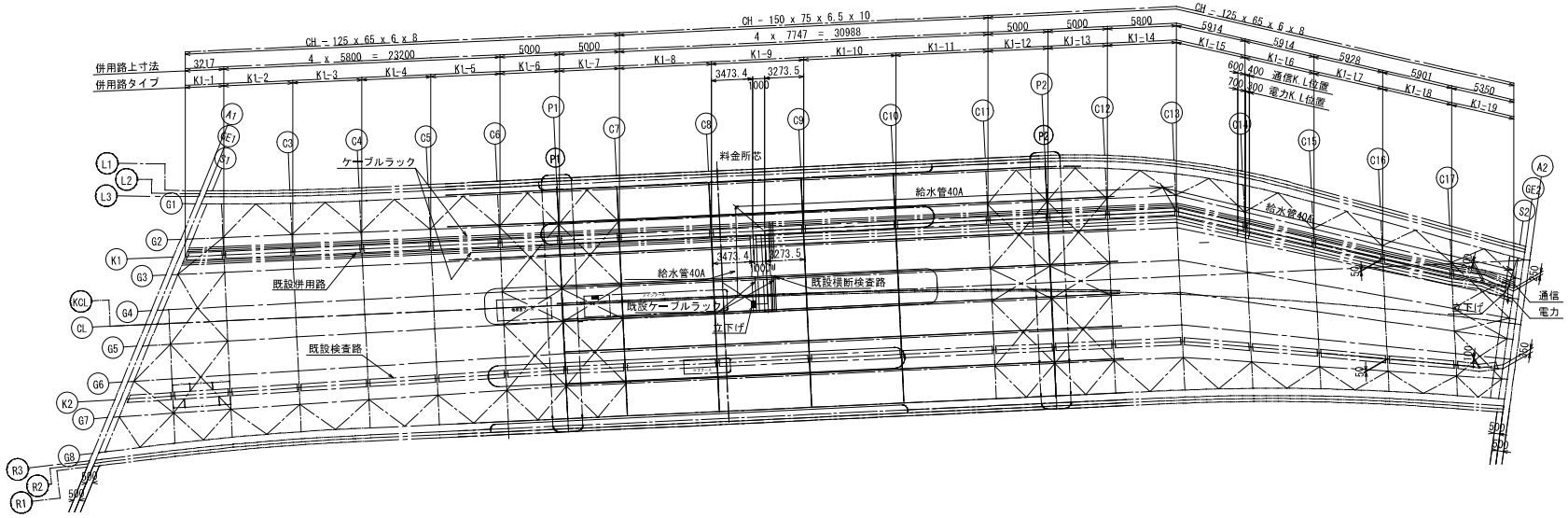


1－Pipe　50A x　300(S.G.P.メッキ)
4－R.B　φ16 x　100(SS400,メッキ)

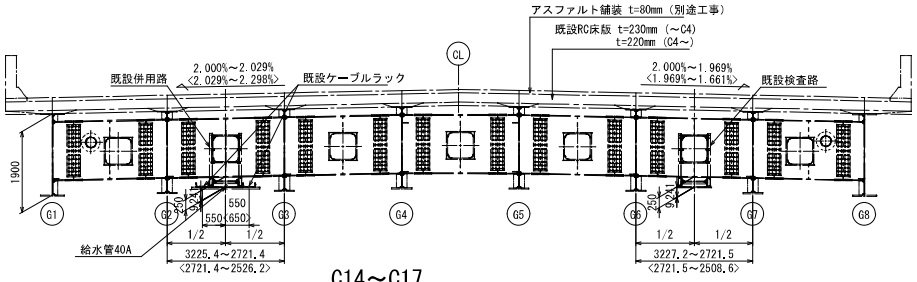
令和 6 年度			
工事名	広島高速5号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	1：200
図名	二葉の里地区橋梁 上部工検査路　配管図	番号	M－12
路線名	高速5号線		
広島高速道路公社			

上部工検査路　配管図 S＝1：200

平面図

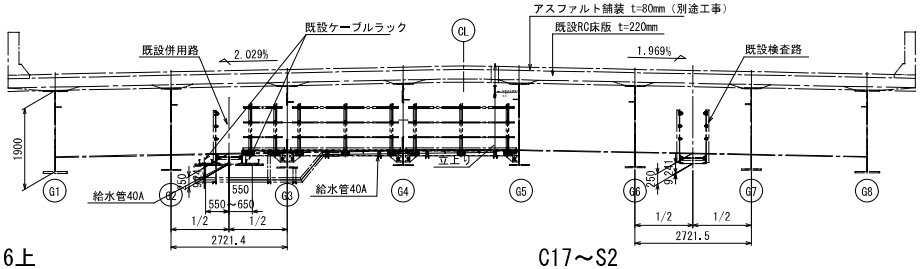


C9～横断検査路〈横断検査路～C14〉

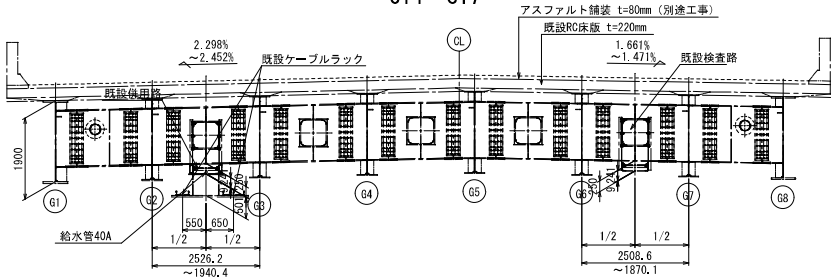


標準断面図 S＝1：60

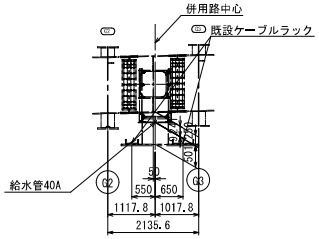
横断検査路部



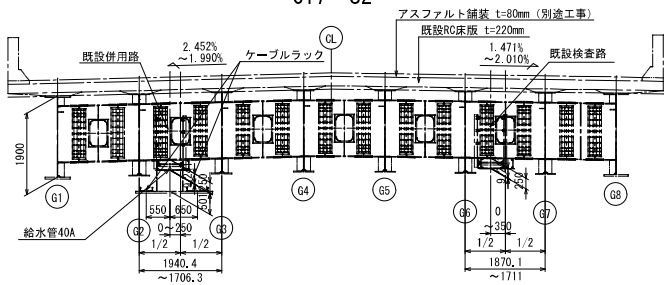
C14～C17



C16上



C17～S2



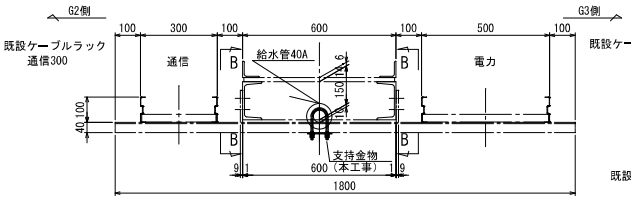
令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	１：１０
図 名	二葉の里地区橋梁 配管詳細図	番号	M－１３
路 線 名	高速５号線		
広島高速道路公社			

注記
1. 特記なき材質は、全てSUS304とする。
2. ボルト・ナットは全て弛み止めのものを使用する。

配管詳細図

S3

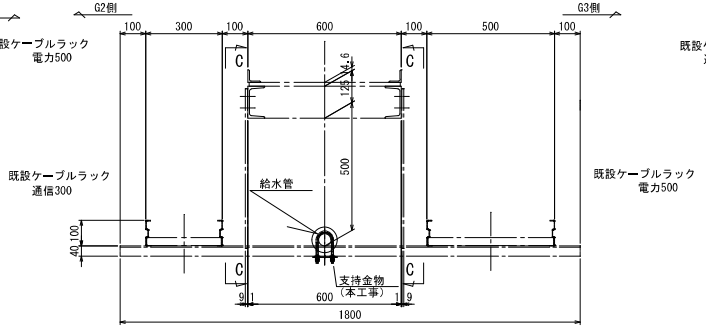
※既設 K1-9～K1-11
(CH-150x75x6.5x10 部)



※既設 1 － [75 x 40 x 5 x 7 x 1800
2 － PI 65 x 9 x 125 (SM400A)
4 － B.N M16 x 45 (2-W付)

S5

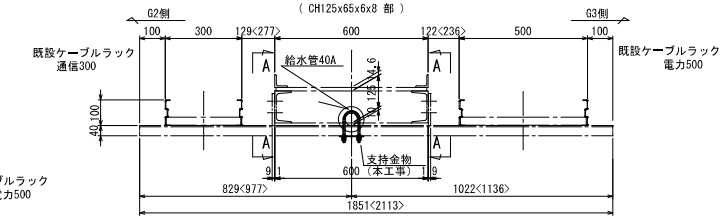
※既設 K1-16～19
(CH125x65x6x8 部)



※既設 1 － [75 x 40 x 5 x 7 x 1800
2 － PI 65 x 9 x 615 (SM400A)
4 － B.N M16 x 45 (2-W付)

S8 , <S9>

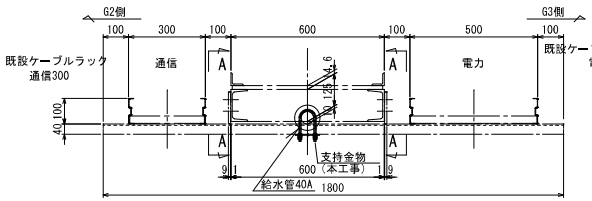
※既設 K1-14
(CH125x65x6x8 部)



※既設 1 － [75 x 40 x 5 x 7 x 1851<2113>
2 － PI 65 x 9 x 125 (SM400A)
4 － B.N M16 x 45 (2-W付)

S4

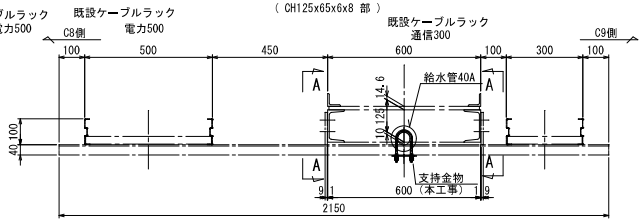
※既設 K1-12～K1-13
(CH125x65x6x8 部)



※既設 1 － [75 x 40 x 5 x 7 x 1800
2 － PI 65 x 9 x 125 (SM400A)
4 － B.N M16 x 45 (2-W付)

S6

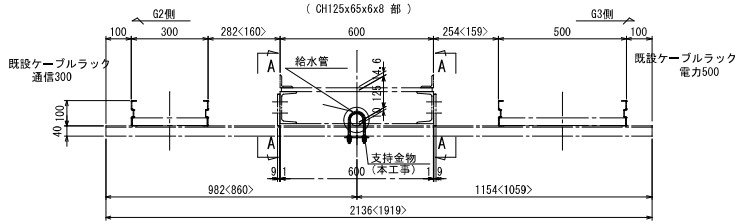
※既設 横断検査路(G3～G5)
(CH125x65x6x8 部)



※既設 1 － [75 x 40 x 5 x 7 x 2150
2 － PI 65 x 9 x 125 (SM400A)
4 － B.N M16 x 45 (2-W付)

S10 , <S11>

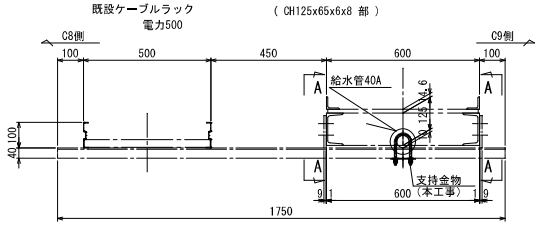
※既設 K1-15
(CH125x65x6x8 部)



※既設 1 － [75 x 40 x 5 x 7 x 2136 <1919>
2 － PI 65 x 9 x 125 (SM400A)
4 － B.N M16 x 45 (2-W付)

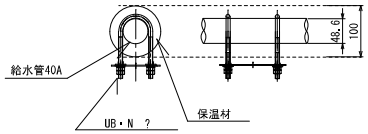
S7

※既設 横断検査路(併用路～G3)
(CH125x65x6x8 部)



※既設 1 － [75 x 40 x 5 x 7 x 1750
2 － PI 65 x 9 x 125 (SM400A)
4 － B.N M16 x 45 (2-W付)

配管取付金具 S = 1 : 5

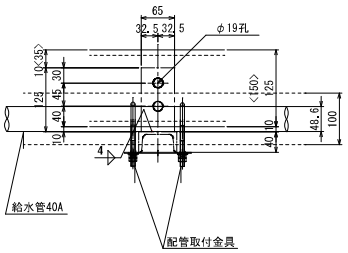


1 － B.N M8 x 45 (2-W付)
2 － UB・P 260 x 190 x 4 (SUS304)

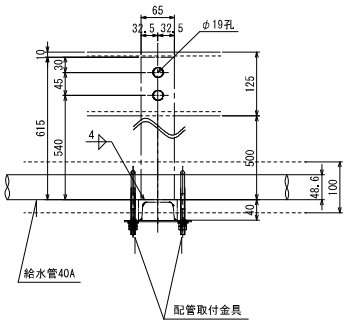
配管支持金物

区 間	数 量 (組)
K1-9	3
K1-10	1
K1-11	1
K1-12	1
K1-13	－
K1-14	1
K1-15	1
K1-16	1
K1-17	－
K1-18	1
K1-19	3
合 計	13

A － A <B － B> S = 1 : 5



C － C S = 1 : 5

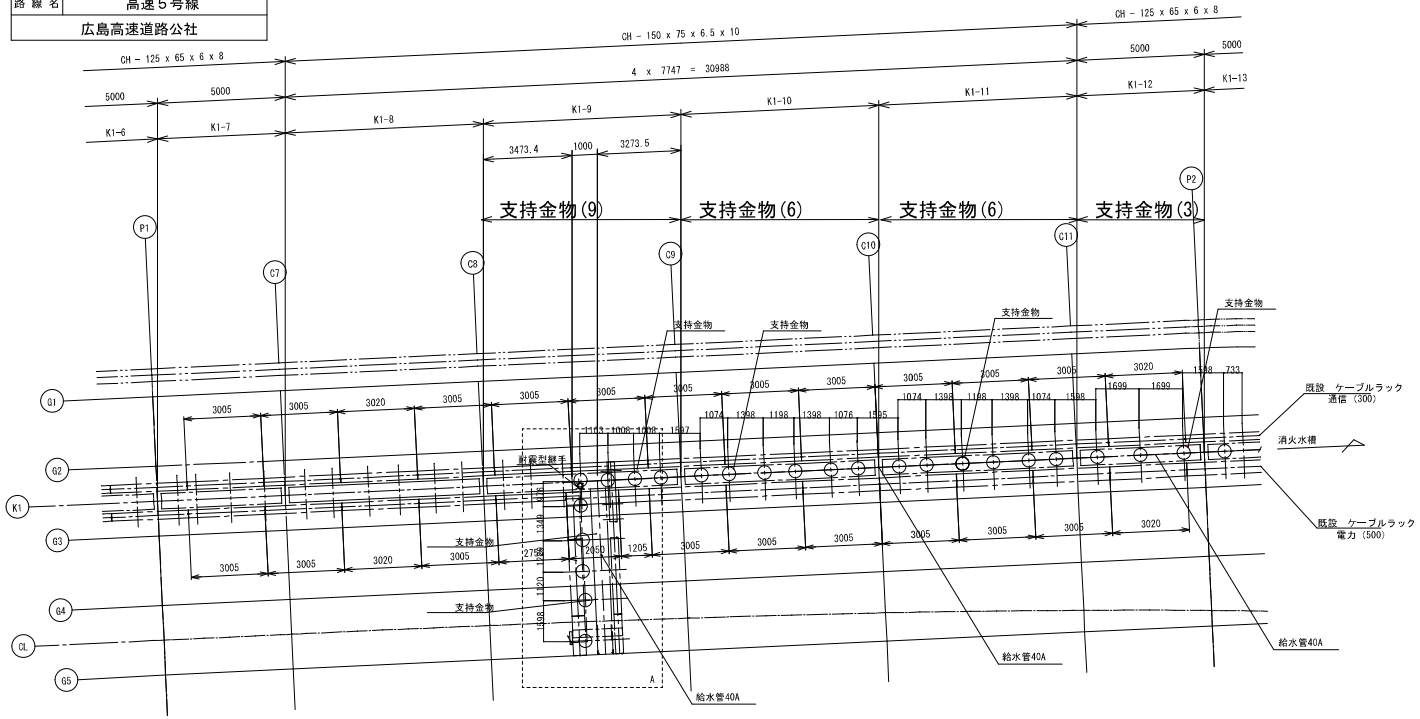


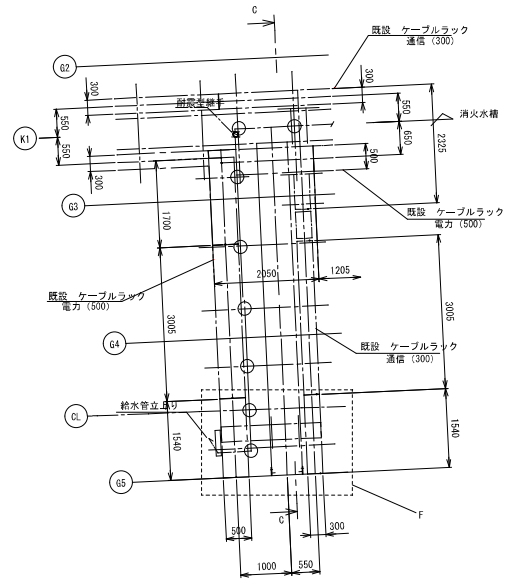
令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	１：１００
図 名	二葉の里地区橋梁 給水管敷設図 ケーブルラック（1）	番号	M－１４
路 線 名	高速５号線		
広島高速道路公社			

給水管敷設図　S = 1 : 100

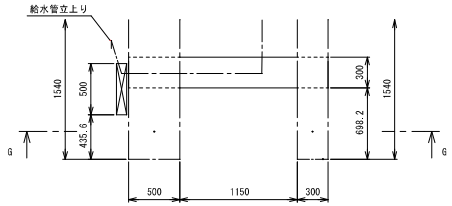
（ケーブルラック(1)）

平　面　図





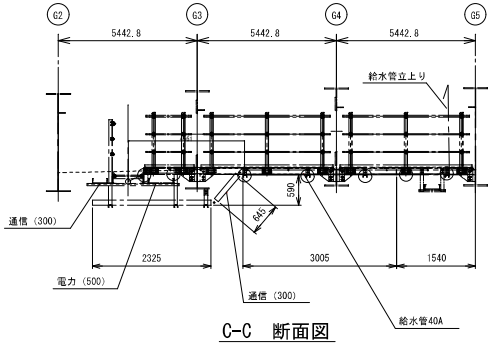
A部　拡大図



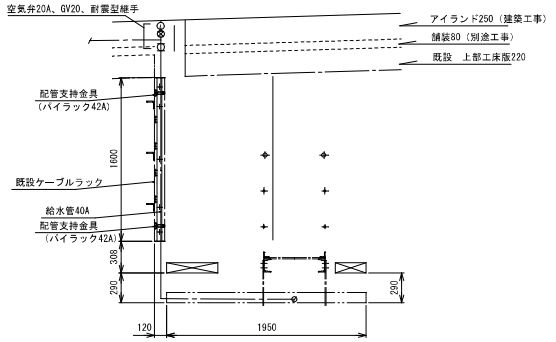
F部　拡大図

配管支持金物 数量表

区　間	数　量（組）
K1-9	9
K1-10	6
K1-11	6
K1-12	3
K1-13	4
K1-14	4
K1-15	4
K1-16	4
K1-17	4
K1-18	4
K1-19	4
合　計	52



C-C　断面図

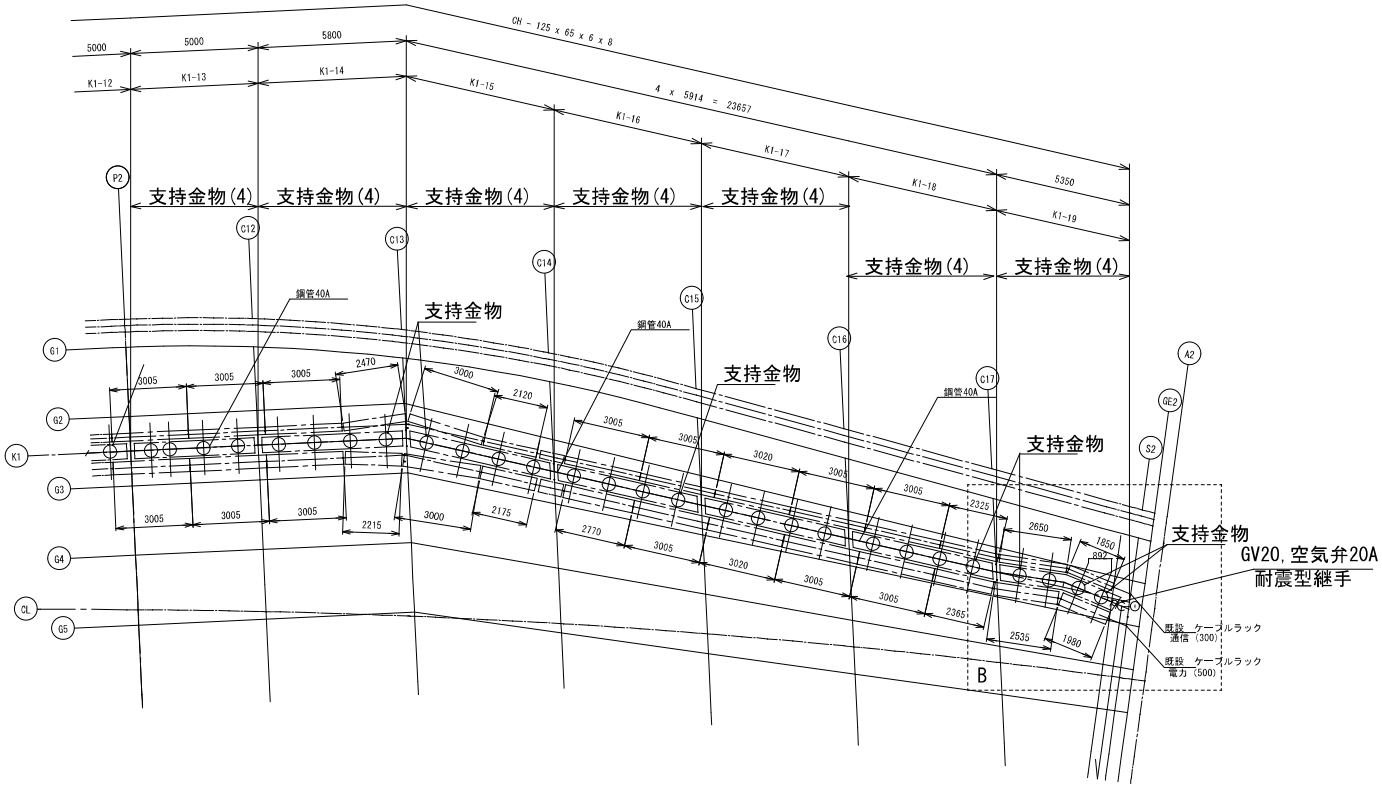


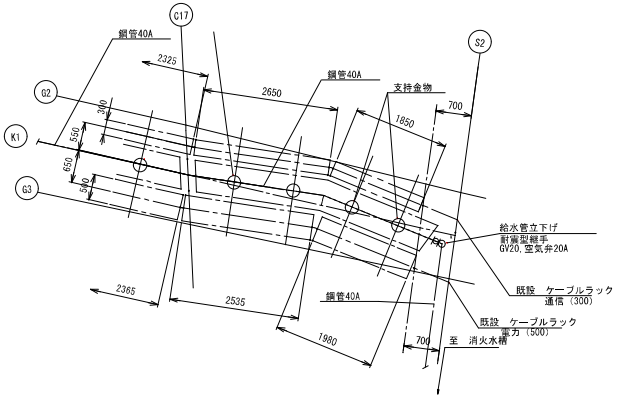
G-G　断面図

令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	１：１００
図名	二葉の里地区橋梁 給水管敷設図　ケーブルラック（２）	番号	Ｍ－１５
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			

ケーブルラック（その2）

平　面　図





B部　拡大図

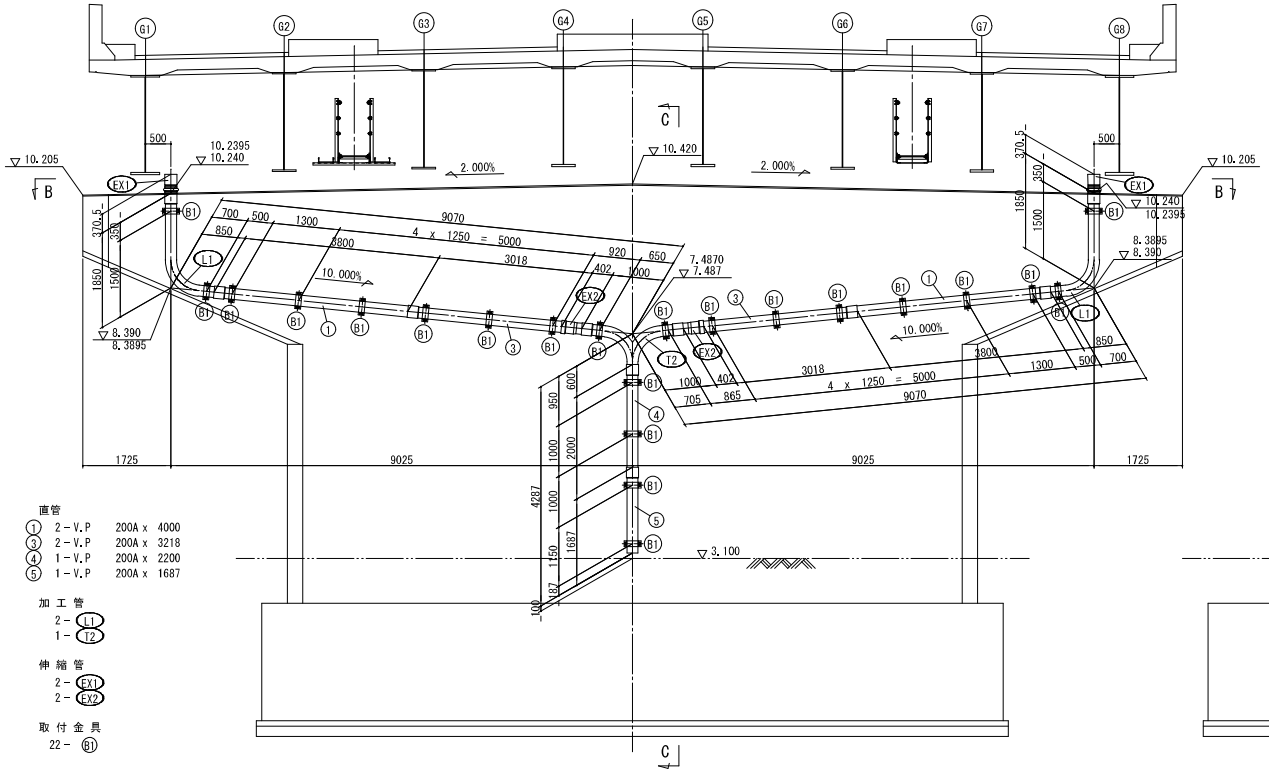
令和 6 年度			
工 事 名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮 尺	1:50
図 名	参考図 二葉G7橋 下部工排水装置	番号	M－１６
路 線 名	高速５号線		
広島高速道路公社			

下部工排水装置　S = 1 : 50

P1橋脚

注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. ※印部材以外は、全て溶融亜鉛めっきを施す。
   溶融亜鉛めっきは、JIS H 8641 HDZ55(550g/m2)とする。
   但し、ﾊﾞｲﾌﾞ･ﾎﾞﾙﾄ･ﾅｯﾄ･ﾜｯｼｬｰはHDZ35(350g/m2)とする。
3. ボルト・ナットは全てゆるみ止めのものを使用する。

A － A



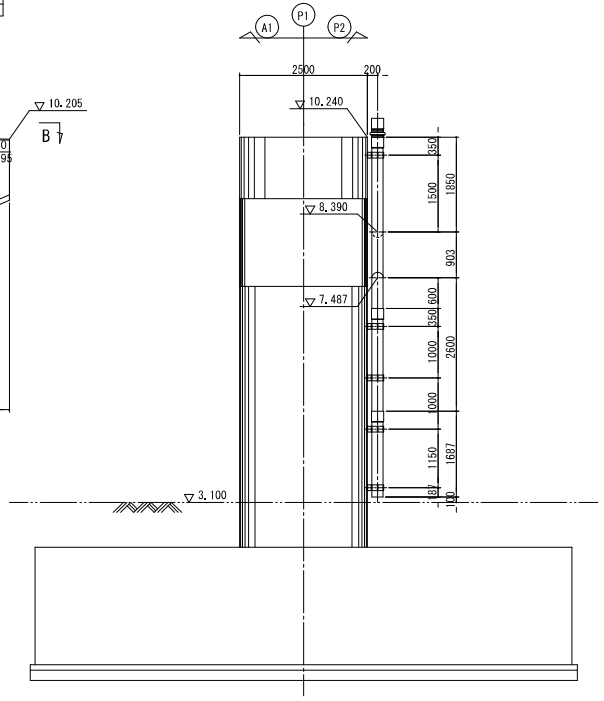
直管
① 2－V.P　200A x 4000
③ 2－V.P　200A x 3218
④ 1－V.P　200A x 2200
⑤ 1－V.P　200A x 1687

加工管
2－ L1
1－ T2

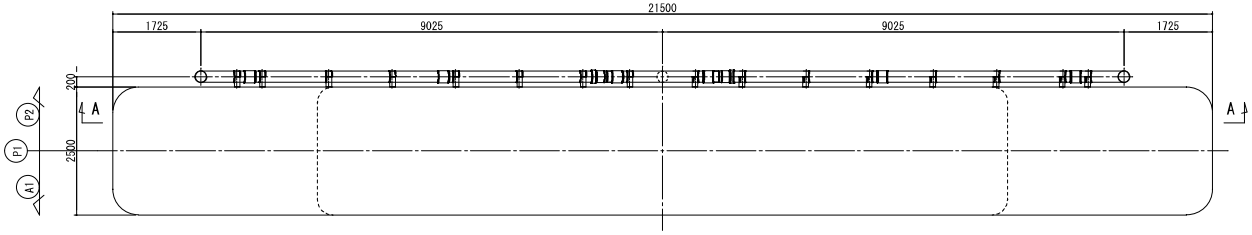
伸縮管
2－ EX1
2－ EX2

取付金具
22－ B1

C － C



B － B



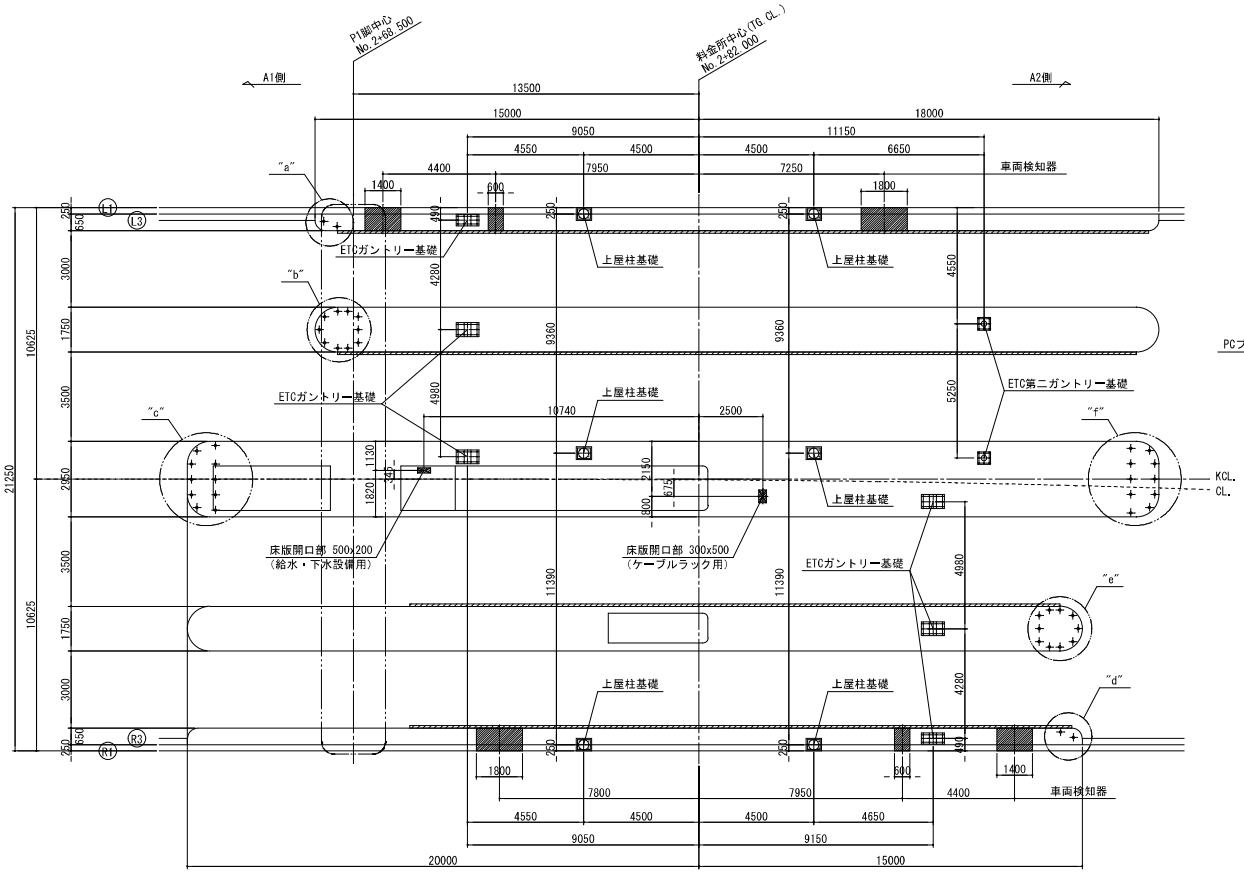
令和 6 年度			
工事名	広島高速５号線料金所等新築その他工事		
図面番号		縮尺	1:40
図名	参考図 二葉G7橋 床版配筋図	番号	M－１７
路線名	高速５号線		
広島高速道路公社			

床版配筋図

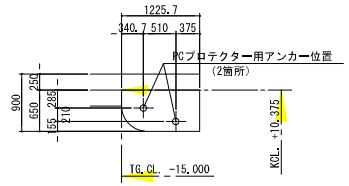
PCプロテクター用アンカー詳細

S = 1 : 40

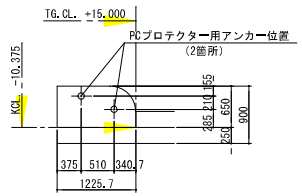
平　面　図　S = 1 : 100



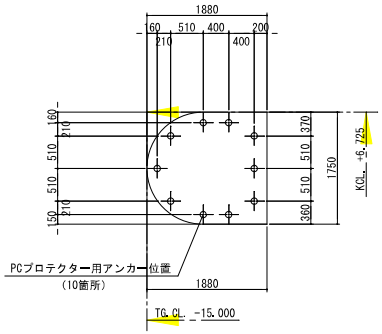
"a"部詳細



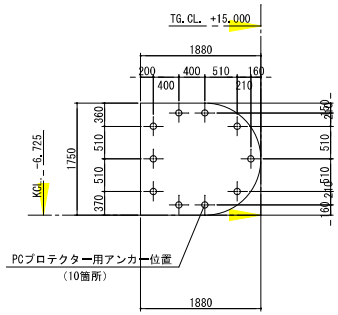
"d"部詳細



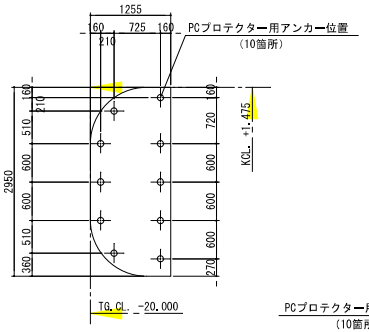
"b"部詳細



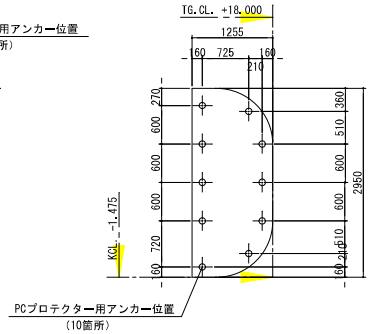
"e"部詳細



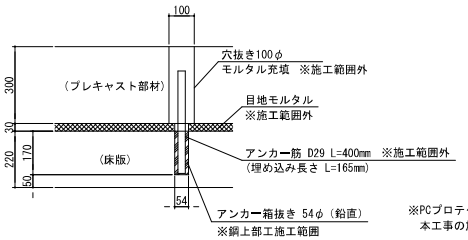
"c"部詳細



"f"部詳細



PCプロテクター固定部詳細図　S = 1 : 10



※PCプロテクター固定部は、床版への箱抜き(54φ)のみ、本工事の施工範囲とする。